

---

平成22年度  
県民アンケート調査  
報告書

---

平成22年11月

奈良県



# — 目 次 —

<b>第1章 調査の実施概要</b> -----	<b>1</b>
1 調査の目的	1
2 調査の設計	1
3 調査票の配付・回収の状況	1
4 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項	1
5 回答者の状況	4
6 本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて	8
<b>第2章 調査結果の分析</b> -----	<b>9</b>
1 県民の生活全般について	9
1-1 現在の暮らし向きの実感	9
1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感	14
1-3 1年前と比較して暮らし向きが苦しくなった理由	19
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無	22
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容	27
1-6 奈良県の住みやすさの評価	30
1-7 将来の奈良県での定住意向	35
1-8 将来的に奈良県に定住したくない理由	40
1-9 インターネットの利用状況	44
2 県民の身近な生活に関する項目の重要度・満足度について	46
2-1 県全体の重要度・満足度・ニーズ得点の順位	46
2-2 県全体の重要度と満足度の関係	49
2-3 地域別の重要度と満足度の経年比較	54
2-4 県全体と属性別の重要度・満足度の傾向の比較	60
3 買物やサービスの利用に関する意識やニーズについて	78
3-1 日常の食料品・日用品の買物	78
3-2 通信販売	90
3-3 奈良県産の農畜産物	100
3-4 県内の観光・レクリエーション	112
4 健康づくりに関する意識やニーズについて	122
4-1 現在の健康状態	122
4-2 健康のために実施している運動の頻度	124
4-3 運動の種類	126
4-4 運動をしない理由	129
4-5 県民の健康づくりや病気の予防に関する重要度・満足度	131
4-6 内科的な健康診断やがん検診の受診状況	135
4-7 受診しなかった理由	138
4-8 高齢期等への不安	140

5	生涯にわたる学びに関する意識やニーズについて	142
5-1	学習活動の実施状況	142
5-2	学習環境の充実状況	145
5-3	学習活動について行政に求めること	148

資料	使用した調査票	151
----	---------	-----

## 第 1 章 調査の実施概要

---



## 1 調査の目的

県民にとって身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「買物やサービスの利用」や「健康づくり」、「生涯にわたる学び」に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

## 2 調査の設計

- 調査地域 奈良県全域
- 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女・個人
- 調査標本数 5,000人
- 標本抽出法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 郵送配付・郵送回収。調査期間内に、はがきによるお礼状兼督促状の配付1回
- 調査時期 平成22年5月20日～6月9日

## 3 調査票の配付・回収の状況

- 調査票配付件数 5,000件 →  $\left\{ \begin{array}{l} \text{回収数(率)} \quad 3,057\text{件 (61.1\%)} \\ \text{有効回答数(率)}^{*1} \quad 2,848\text{件 (57.0\%)} \end{array} \right.$

## 4 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項

### (1) 標本抽出計画と集計母数（集計対象数）

今回の調査では、標本数（アンケート送付数）を県下39市町村の母集団構成比（人口比率）に応じて配分しました。ただし、人口が少ない町村については「目標精度15%、信頼度85%」を確保するための最低必要数を考慮して標本抽出数を決定しました。このような標本抽出方法を行ったため、各地域（地域の区分は次項「(2) 地域別、ライフステージ別、職業別の集計区分について」参照）における母集団構成比と標本抽出率の乖離は小さくなっています。そのため、平成21年度の集計方法とは異なり、有効回答数の補正は行わずに結果を集計しています。

	標本抽出計画				有効回答	
	母集団 <sup>*2</sup>	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比
地域1(北部)	566,871	49.2%	2,291	45.8%	1,345	47.2%
地域2(西部)	120,418	10.4%	489	9.8%	287	10.1%
地域3(中部)	307,937	26.7%	1,250	25.0%	709	24.9%
地域4(東部)	84,149	7.3%	397	7.9%	216	7.6%
地域5(南東部)	38,988	3.4%	376	7.5%	202	7.1%
地域6(南西部)	34,120	3.0%	197	3.9%	89	3.1%
合計	1,152,483	100.0%	5,000	100.0%	2,848	100.0%

\*1「有効回答数」は、「回収数」から白票、調査期間中に県外へ転居された方の回答票、居住市町村不明・無回答の回答票など無効票209件を除いた集計母数対象件数。「有効回答率」は、調査票配付件数に対する「有効回答数」の比率。

\*2平成21年3月31日現在の住民基本台帳登録人口（20歳以上）

## (2) 地域別、ライフステージ別、職業別の集計区分について

調査結果の集計・分析は、県民にとって身近な生活に関する事柄の重要度と満足度のほか、「買物やサービスの利用」や「健康づくり」、「生涯にわたる学び」について、「地域別」での傾向、回答者の年代や家族構成等の要素に基づく「ライフステージ別」での傾向、県民の働き方に基づく「職業別」での傾向を明らかにすることを特に重視しています。

地域別の集計については、39市町村個々の結果を39市町村間で比較することは困難なため、標本抽出計画で設定した6地域ごとに比較を行っています。また、ライフステージ別や職業別の集計についても、以下のように集計区分を整理・集約して行っています。

### 地域の区分

地域1(北部)……奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町  
地域2(西部)……平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町  
地域3(中部)……大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町  
地域4(東部)……桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村  
地域5(南東部)……吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村  
地域6(南西部)……五條市・野迫川村・十津川村

### ライフステージの区分と区分の設定条件

若者…20～29歳で、夫婦のみの世帯以外の世帯の回答者  
夫婦…20～64歳で、夫婦のみの世帯の回答者  
育児期…小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者  
教育期前期…小・中学生、高校生の子どもがいる世帯の回答者  
教育期後期…専門学校生・短大生・大学生(院生)の子どもがいる世帯の回答者  
単身高齢者…65歳以上の単身世帯の回答者  
高齢者夫婦…65歳以上の夫婦のみの世帯の回答者

### 職業の区分と区分の設定条件

農林漁業…「農林漁業の自営業・家族従業員」の回答者  
自営業…「商工・サービス業の自営業・家族従業員」と「その他自営業」の回答者  
正規社員等…「正規の職員・従業員」の回答者  
非正規社員等…「契約社員・嘱託」「派遣社員」「パート・アルバイト」の回答者  
企業などの役員…「企業などの役員」の回答者  
家事専業・無職…「家事専業・家事手伝い」と「無職」の回答者  
学生・その他…「学生」「その他」の回答者  
ただし、「学生・その他」については、経年比較を行う設問の集計では「企業などの役員」を含めている。



【県内地域区分図】



### (3) 調査結果の精度

今回の調査は標本調査のため、調査結果（標本測定値）から母集団の意識や課題、要望を推定することができます。ただ、標本（調査対象）抽出の際に生じる標本誤差を考慮したうえで調査結果を分析し、また母集団の意識や課題、要望を推定する必要があります。

世論調査では、信頼度95%（同じ調査を標本（調査対象）を変えて行った場合、100回中95回までは同様の結果が得られる（5回程度は異なる結果が出ることは許容される）と考えてもよい）の水準を求めるのが一般的とされています。

これに基づき、今回の調査における標本測定値の標本誤差は以下の数式で求められます。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$\varepsilon$  : 標本誤差  
 $\pm 1.96$  : 信頼度95%の時の信頼係数  
 $N$  : 母集団数（本調査では1,152,483人）  
 $n$  : 標本数（回収数。本調査では有効回答2,848件）  
 $P$  : 標本測定値（50%のときに最大）

上記の式に必要な数値をあてはめて計算すると、「 $\varepsilon$ （標本誤差）=1.83」（小数第3位四捨五入）という数値が得られます。このことから、今回と同じ調査を調査対象を変えて行った場合、ある設問のある選択肢の回答比率が50%であった場合、その回答比率の誤差は±1.83%（48.2%～51.8%）の範囲内であると考えても間違いはないといえます。

## 5 回答者の状況

属性ごとの有効回答者数と構成比は以下の通りです。なお、平成21年度については「(1) 地域」以外の属性については集計に使用された補正後の有効回答数を記載しています。

### (1) 地域

地域名	該当市町村	H22		H21	
		有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
地域1 (北部)	奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町	1,345	47.2%	991	33.8%
地域2 (西部)	平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町	287	10.1%	402	13.7%
地域3 (中部)	大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町	709	24.9%	628	21.4%
地域4 (東部)	桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村	216	7.6%	353	12.0%
地域5 (南東部)	吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	202	7.1%	282	9.6%
地域6 (南西部)	五條市・野迫川村・十津川村	89	3.1%	278	9.5%
合計		2,848	100.0%	2,934	100.0%

## (2) 性

	H22		H21	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
男性	1,282	45.0%	4,340	46.7%
女性	1,561	54.8%	4,714	50.7%
無回答	5	0.2%	244	2.6%
合計	2,848	100.0%	9,299	100.0%

## (3) 年齢

	H22		H21	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
20歳代	224	7.9%	1,175	12.6%
30歳代	365	12.8%	1,216	13.1%
40歳代	420	14.7%	1,329	14.3%
50歳代	493	17.3%	1,561	16.8%
60歳代	649	22.8%	1,705	18.3%
70歳以上	694	24.4%	2,081	22.4%
無回答	3	0.1%	231	2.5%
合計	2,848	100.0%	9,299	100.0%

## (4) 婚姻状況

	H22		H21	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
未婚	390	13.7%	1,640	17.6%
既婚	2,094	73.5%	6,292	67.7%
離婚・死別	342	12.0%	1,023	11.0%
無回答	22	0.8%	344	3.7%
合計	2,848	100.0%	9,299	100.0%

## (5) 世帯構成

	H22		H21	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
単身	219	7.7%	595	6.4%
夫婦のみ	709	24.9%	2,168	23.3%
2世代家族	1,387	48.7%	4,482	48.2%
3世代家族	470	16.5%	1,593	17.1%
その他	43	1.5%	164	1.8%
無回答	20	0.7%	297	3.2%
合計	2,848	100.0%	9,299	100.0%

(6) 職業

	H22		H21	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
農林漁業の自営業・家族従業員	97	3.4%	280	3.0%
商工・サービス業の自営業・ 家族従業員	244	8.6%	795	8.5%
その他自営業	96	3.4%	167	1.8%
企業などの役員	45	1.6%	155	1.7%
正規の職員・従業員	611	21.5%	2,244	24.1%
契約社員・嘱託	103	3.6%	383	4.1%
派遣社員	27	0.9%	71	0.8%
パート・アルバイト(学生を除く)	270	9.5%	950	10.2%
家事専業・家事手伝い	475	16.7%	1,604	17.2%
無職	746	26.2%	1,829	19.7%
学生	51	1.8%	251	2.7%
その他	20	0.7%	231	2.5%
無回答	63	2.2%	338	3.6%
合計	2,848	100.0%	9,299	100.0%

(7) 勤め先の所在地

	H22		H21	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
現在お住まいの市町村	637	42.7%	1,878	37.2%
県内の他の市町村	378	25.3%	1,364	27.0%
県外	432	28.9%	1,475	29.2%
無回答	46	3.1%	329	6.5%
合計	1,493	100.0%	5,046	100.0%

(8) 子どもの成長段階(複数回答)\*

	H22		H21	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
3歳以下	167	5.9%	573	6.2%
4歳以上で小学校入学前	118	4.1%	500	5.4%
小学生	244	8.6%	989	10.6%
中学生	184	6.5%	634	6.8%
高校生	177	6.2%	703	7.6%
専門学校生・短大生・大学生 (院生)	209	7.3%	758	8.2%
その他	31	1.1%	632	6.8%
対象者数	2,848	100.0%	9,299	100.0%

\*就学前・就学中の子どもの有無を確認する設問構成としなかったため、「その他」の回答には、「成人した」など、選択肢に該当する年齢の子どもがいないことを示す回答となっている。

(9) ライフステージ（複数回答）\*

	H22		H21	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
若者	221	7.8%	1,096	11.8%
夫婦	280	9.8%	887	9.5%
育児期	163	5.7%	888	9.5%
教育期前期	361	12.7%	1,756	18.9%
教育期後期	208	7.3%	758	8.2%
単身高齢者	110	3.9%	285	3.1%
高齢者夫婦	418	14.7%	1,281	13.8%
対象者数	2,848	100.0%	9,299	100.0%

(10) 居住地域の状況

	H22		H21	
	有効回答数	構成比	有効回答数	構成比
商業地域	191	6.7%	412	4.4%
住宅地域	1,717	60.3%	6,595	70.9%
農村地域	505	17.7%	1,411	15.2%
山間地域	369	13.0%	737	7.9%
その他	34	1.2%	36	0.4%
無回答	32	1.1%	107	1.2%
合計	2,848	100.0%	9,299	100.0%

\*「単身高齢者」「高齢者夫婦」でいう「高齢者」とは、65歳以上の回答者を指す。65歳以上の実有効回答者数は980人、構成比は34.4%である。

## 6 本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて

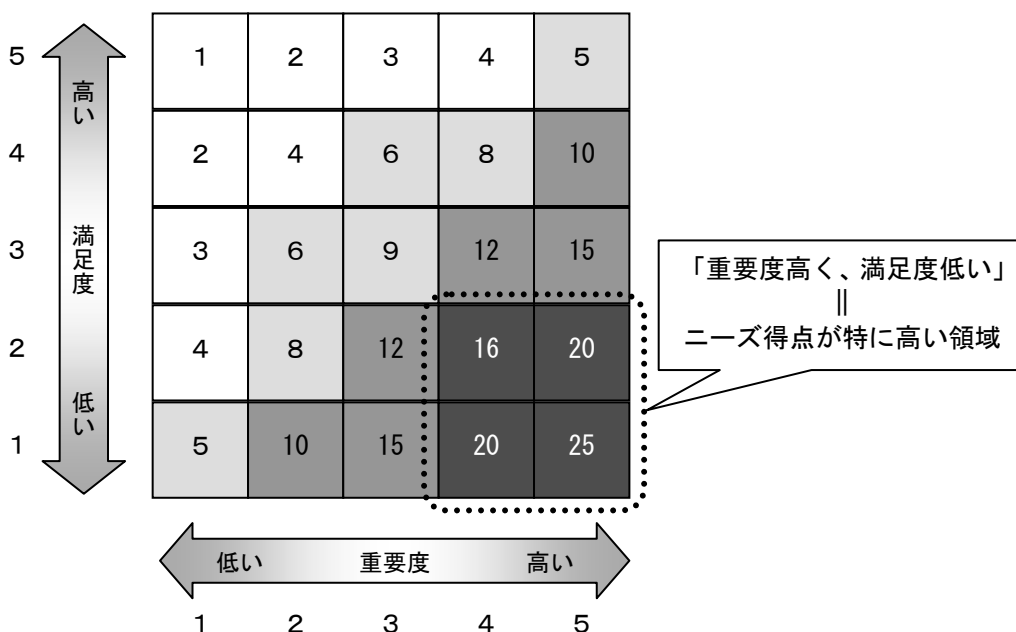
- 経年比較、前年度比較を行った図表にて、四捨五入等の関係上、本報告書に記載した数値と昨年度以前の報告書に記載した数値が一致しない場合があります。
- 問1～問8、問10～問29、問31～問46（設問番号は、巻末「参考資料 使用した調査票」参照）は百分率（%）による集計で、小数第2位を四捨五入しています。単数回答設問の回答比率の合計は、四捨五入の関係で100.0%にならない場合があります。また、複数回答設問は当該設問に回答すべき人数を集計母数としており、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- 問9、問30は加重平均（点）による集計で、小数第3位を四捨五入しています。加重平均は、「(〈選択肢の回答者数〉×〈選択肢ごとの配点(5点～1点)〉)÷〈無回答者を除く当該設問の回答者数〉」により求められます。

図表 加重平均の集計結果の見方

選択肢の配点		1点	2点	3点	4点	5点
設問番号・ 選択肢	問9-① 重要度	まったく重要 ではない	さほど重要 ではない	どちらとも いえない	かなり重要	きわめて重要
	問9-② 満足度	ほとんど 満たされていない	あまり 満たされていない	どちらとも いえない	かなり 満たされている	十分 満たされている
	問30-① 重要度	まったく重要 ではない	さほど重要 ではない	どちらとも いえない	かなり重要	きわめて重要
	問30-② 満足度	ほとんど 満たされていない	あまり 満たされていない	どちらとも いえない	かなり 満たされている	十分 満たされている

- 問9と問30の重要度と満足度の関係を指標化し分析するため、「ニーズ得点」を算出しています。ニーズ得点は、「〈重要度〉×〈6－満足度〉」により求められます。ニーズ得点は重要度が高く、満足度の低い項目ほど高くなります（色の濃いエリア）。

図表 重要度と満足度からみたニーズ得点の配点



## 第2章 調査結果の分析

---





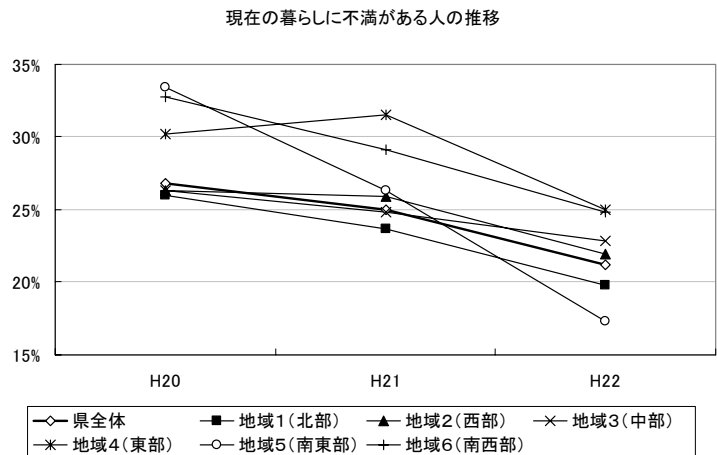
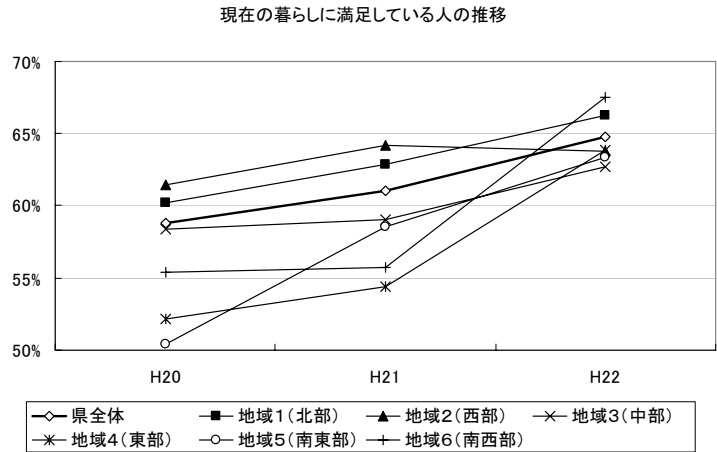
# 1 県民の生活全般について

## 1-1 現在の暮らし向きの実感

### (1) 経年比較

図表 現在の暮らし向きの実感（経年比較／県全体、地域別）

		満足している	不満である
県全体	H20	58.8%	26.8%
	H21	61.0%	25.0%
	H22	64.8%	21.2%
地域1(北部)	H20	60.2%	26.0%
	H21	62.9%	23.7%
	H22	66.3%	19.8%
地域2(西部)	H20	61.4%	26.4%
	H21	64.2%	25.9%
	H22	63.8%	22.0%
地域3(中部)	H20	58.4%	26.3%
	H21	59.1%	24.8%
	H22	62.7%	22.8%
地域4(東部)	H20	52.2%	30.2%
	H21	54.4%	31.5%
	H22	63.9%	25.0%
地域5(南東部)	H20	50.4%	33.4%
	H21	58.5%	26.3%
	H22	63.4%	17.3%
地域6(南西部)	H20	55.4%	32.8%
	H21	55.8%	29.1%
	H22	67.5%	24.8%



(注) 上記図表は、問1を「満足している」(「満足している」+「十分とはいえないが一応満足している」と「不満である」(「やや不満である」+「不満である」)に再集計した結果である。  
母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

### ■ 県全体

現在の暮らし向きの実感について3ヶ年の調査結果を比較すると、「満足」している人は毎年増加しており、「不満」を抱いている人も減少しています。

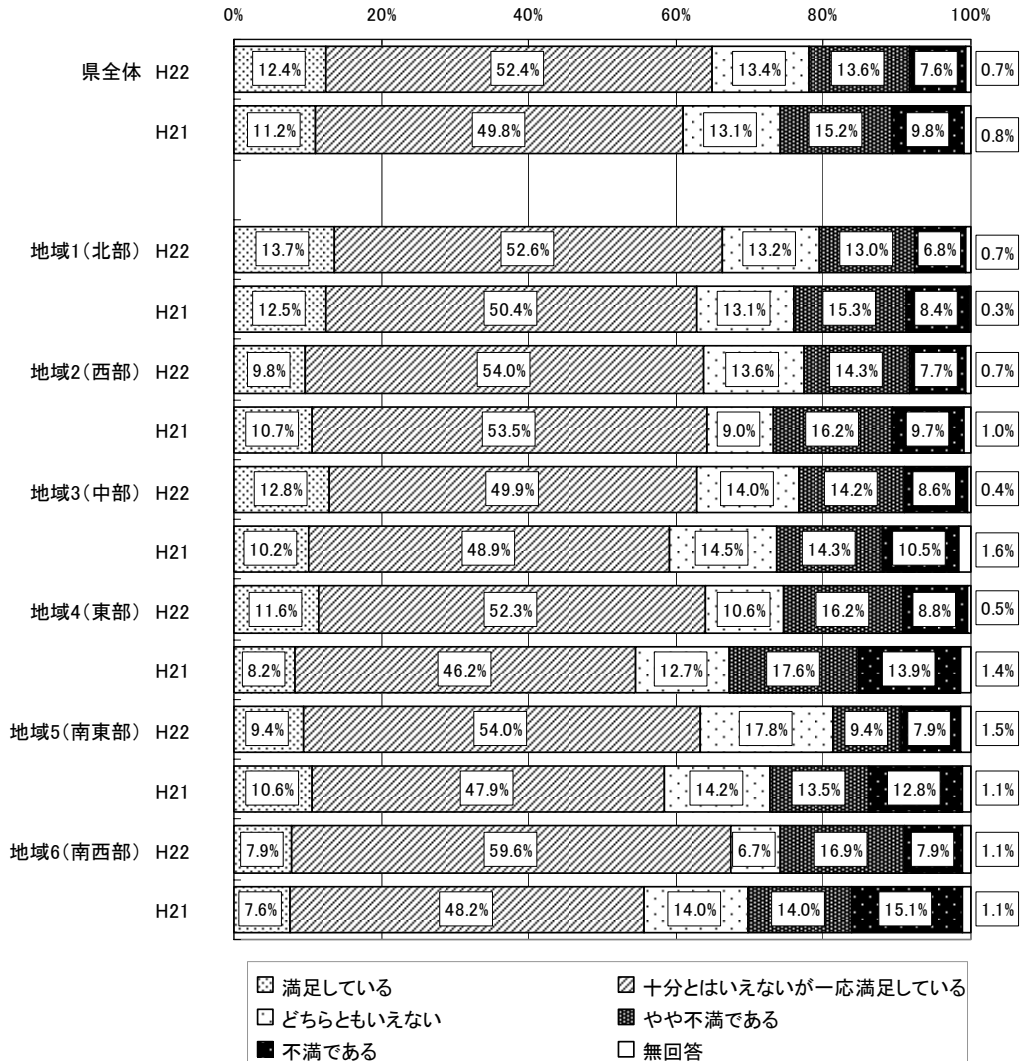
### ■ 地域別

「地域2(西部)」以外の全ての地域で「満足」している人は毎年増加しています。

「不満」を抱いている人も全ての地域で減少傾向にあり、唯一、平成20年度から平成21年度にかけて「不満」を抱いている人が増加していた「地域4(東部)」も平成22年度では6.5ポイント減少しています。

## (2) 今年度調査結果

図表 現在の暮らし向きの実感（単数回答／県全体、地域別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

### ■県全体

現在の暮らし向きについて、64.8%の人が「満足」（「満足している」＋「十分とはいえないが一応満足している」）をしています。その一方で、21.2%の人が「不満」（「不満である」＋「やや不満である」）を抱えています。

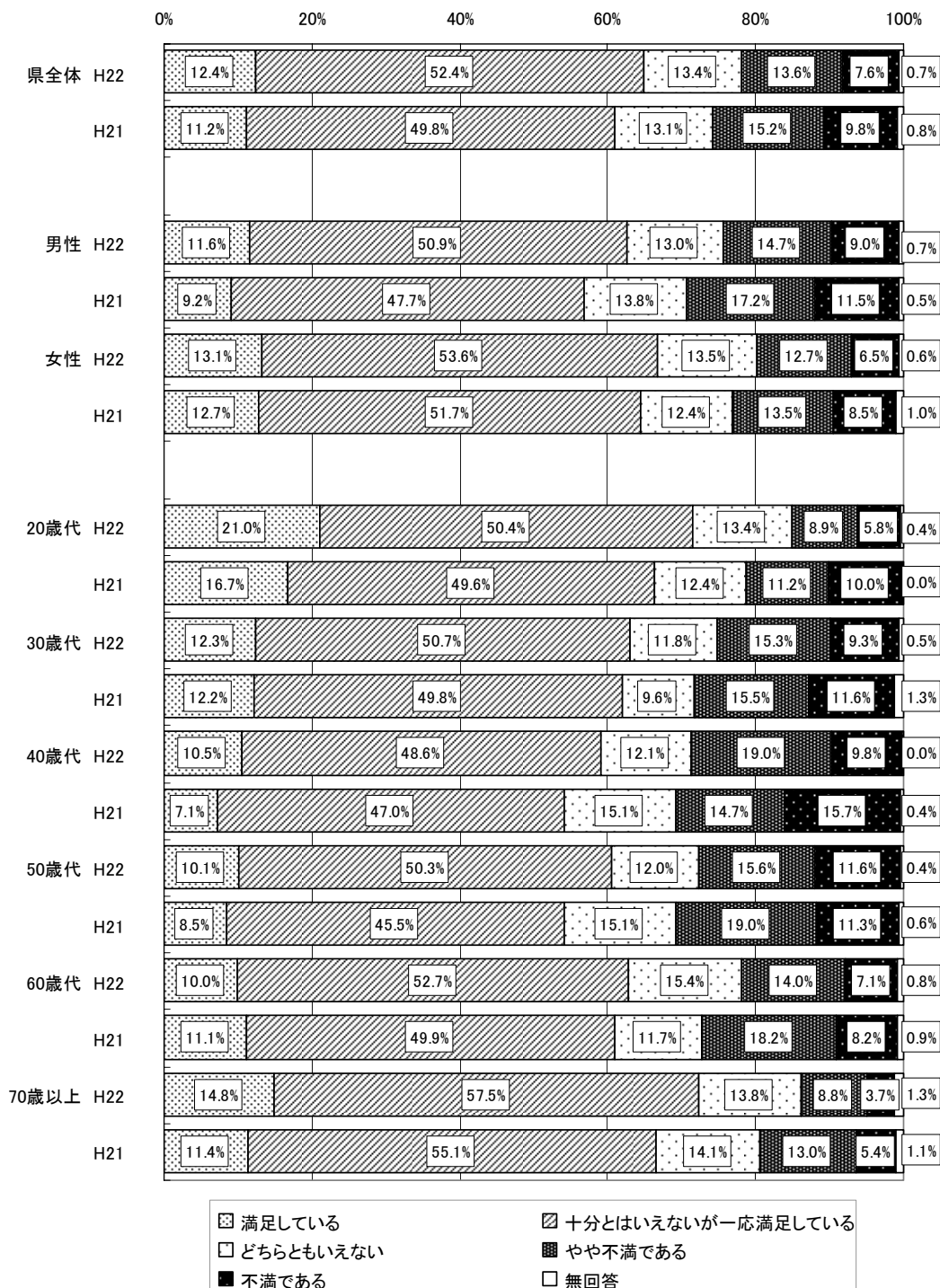
平成21年度と比較すると、「満足」している人が3.8ポイント増加し、「不満」を抱えている人が3.8ポイント減少しています。

### ■地域別

「満足」している人が最も多いのは「地域6(南西部)」(67.5%)で、逆に「不満」を抱えている人が最も多いのは「地域4(東部)」(25.0%)となっています。

平成21年度と比較すると、「地域2(西部)」以外は「満足」している人が増加しており、減少している「地域2(西部)」も0.4ポイントのみの減少となっています。

図表 現在の暮らし向きの実感（単数回答／県全体、性別、年齢別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

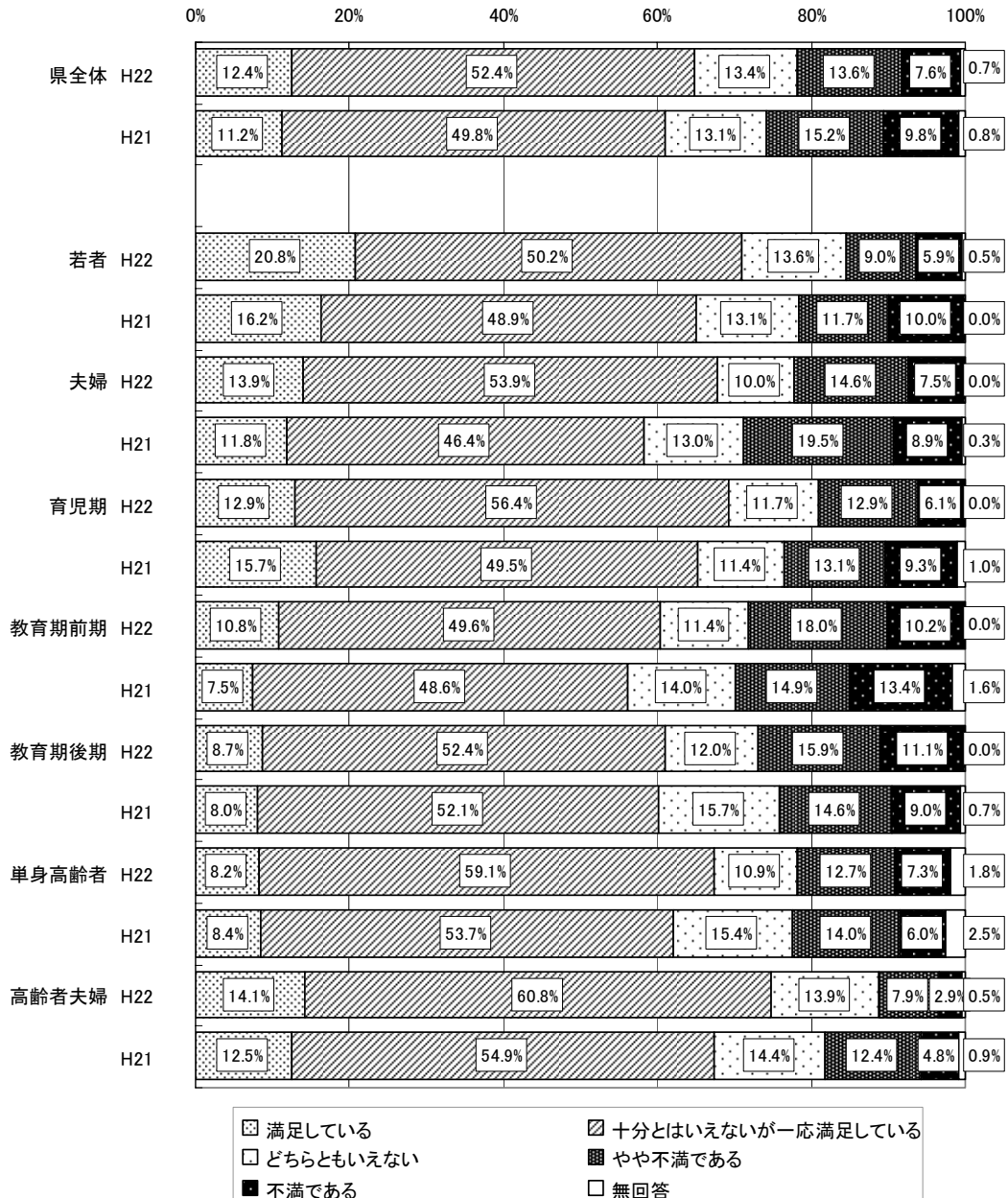
「満足」している人は、「女性」(66.7%)が「男性」(62.5%)に比べ多くなっています。平成21年度と比較すると、「満足」している男女間の差は3.3ポイント減少しています。

■年齢別

「不満」を抱えている人は「40歳代」(28.8%)と「50歳代」(27.2%)で、他の年齢層よりも多くなっています。

平成21年度と比較すると、全ての年齢層で「満足」している人が増加しています。

図表 現在の暮らし向きの実感（単数回答／県全体、ライフステージ別）



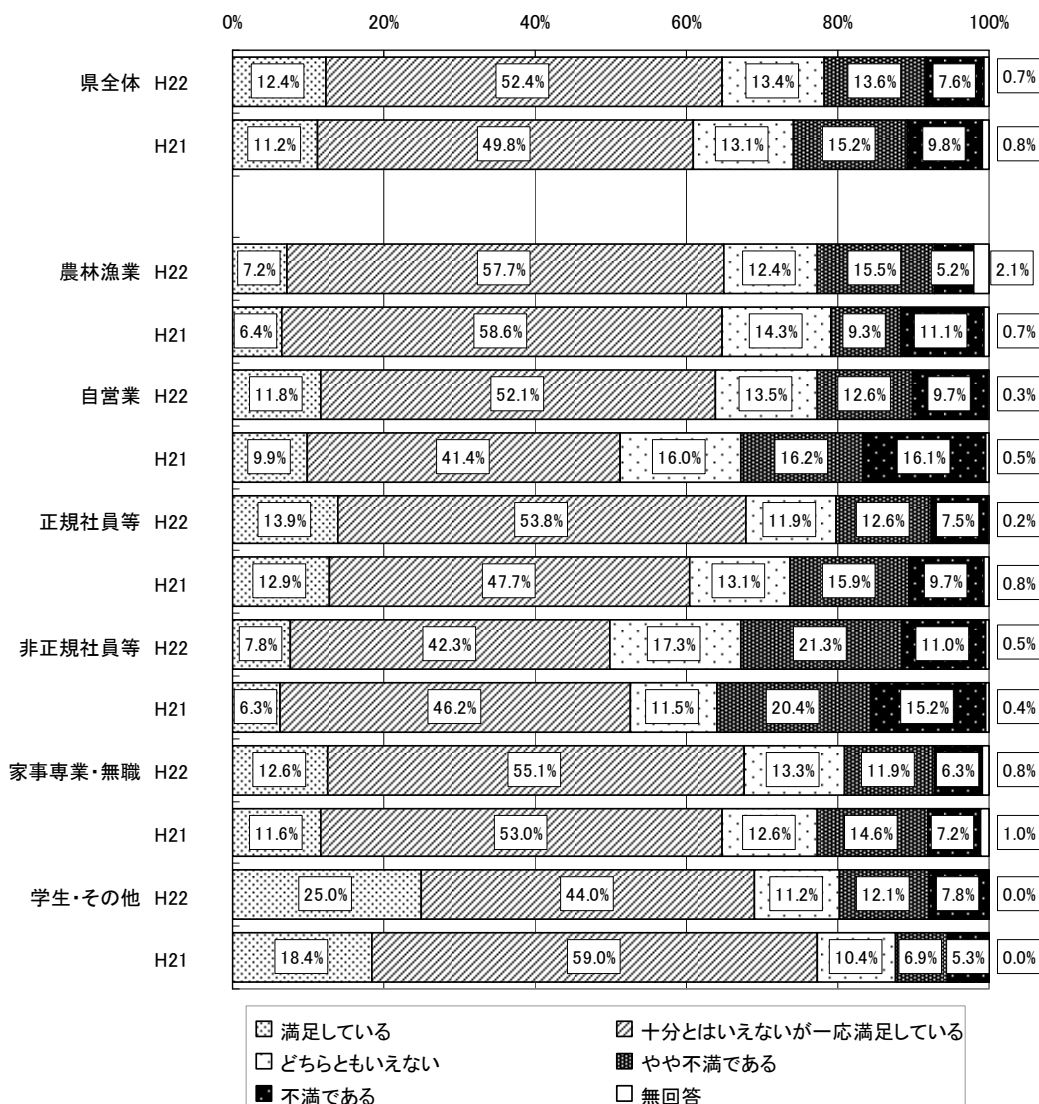
(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■ライフステージ別

他のライフステージに比べ、「教育期前期」(28.2%)、「教育期後期」(27.0%)で現在の暮らし向きに対し「不満」を抱いている人が多くなっています。

平成21年度と比較すると、全てのライフステージで「満足」している人が増加しています。

図表 現在の暮らし向きの実感（単数回答／県全体、職業別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■職業別

全ての職業で50%以上の方が現在の暮らし向きに「満足」しています。一方、「不満」を抱いている人は「非正規社員等」(32.3%)で最も多くなっています。

平成21年度と比較すると、「満足」している人は「非正規社員等」と「学生・その他」を除いて増加しており、「自営業」では12.6ポイント増加しています。

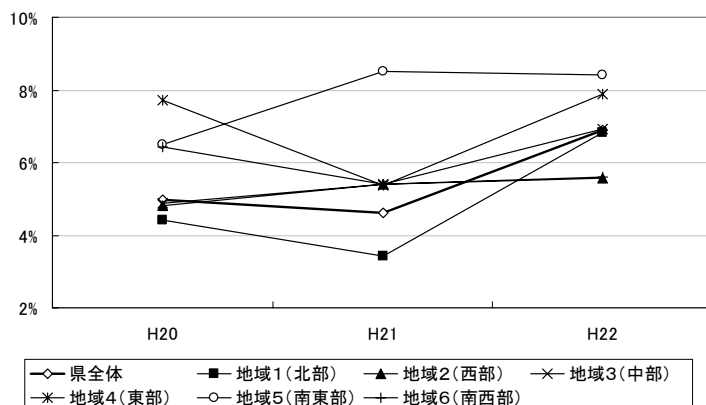
## 1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感

### (1) 経年比較

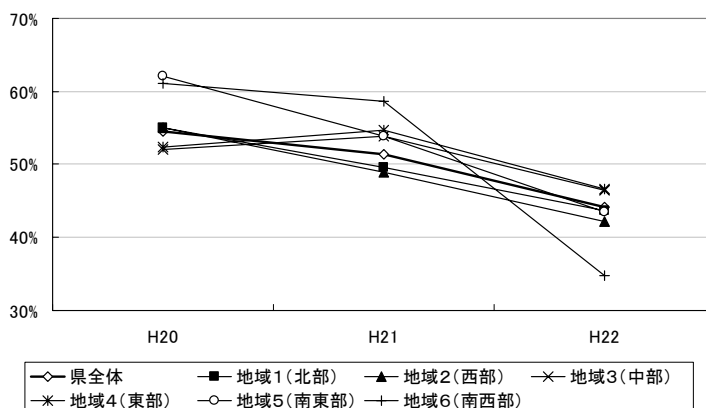
図表 1年前と比較した暮らし向きの実感（経年比較／県全体、地域別）

		楽になった	苦しくなった
県全体	H20	5.0%	54.5%
	H21	4.6%	51.4%
	H22	6.9%	44.2%
地域1(北部)	H20	4.4%	55.1%
	H21	3.4%	49.6%
	H22	6.8%	43.7%
地域2(西部)	H20	4.8%	55.1%
	H21	5.4%	49.0%
	H22	5.6%	42.1%
地域3(中部)	H20	4.9%	52.1%
	H21	5.4%	53.8%
	H22	6.9%	46.4%
地域4(東部)	H20	7.7%	52.4%
	H21	5.4%	54.7%
	H22	7.9%	46.7%
地域5(南東部)	H20	6.5%	62.1%
	H21	8.5%	53.9%
	H22	8.4%	43.5%
地域6(南西部)	H20	6.4%	61.1%
	H21	5.4%	58.6%
	H22	5.6%	34.8%

暮らし向きが楽になった人の推移



暮らし向きが苦しくなった人の推移



(注) 上記図表は、問2を「楽になった」（「とても楽になった」＋「少し楽になった」）と「苦しくなった」（「少し苦しくなった」＋「とても苦しくなった」）に再集計した結果である。  
母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

#### ■ 県全体

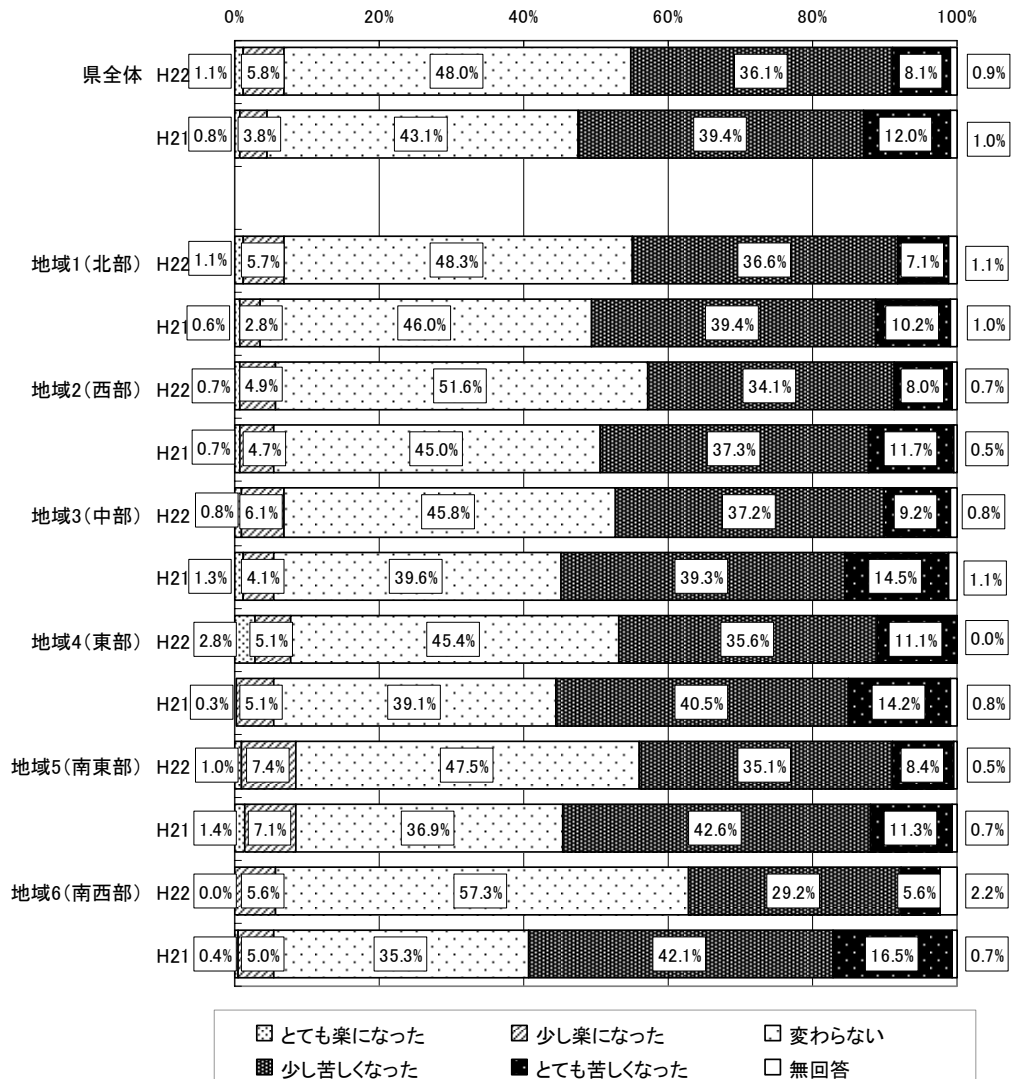
「楽になった」と感じている人は、平成20年度から平成21年度にかけて減少していましたが、平成22年度では平成20年度のプラス1.9ポイントまで回復・増加しています。一方で、「苦しくなった」と感じている人は毎年減少しています。

#### ■ 地域別

「地域2(西部)」、「地域3(中部)」では「楽になった」と感じている人が毎年増加しています。平成20年度から平成21年度にかけて「苦しくなった」と感じている人の増減は各地域で異なっていますが、平成21年度から平成22年度にかけては全ての地域で減少しています。

## (2) 今年度調査結果

図表 1年前と比較した暮らし向きの実感（単数回答／県全体、地域別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

### ■県全体

1年前と比較した暮らし向きの実感については、44.2%の人が「苦しくなった」（「とても苦しくなった」＋「少し苦しくなった」）と感じています。

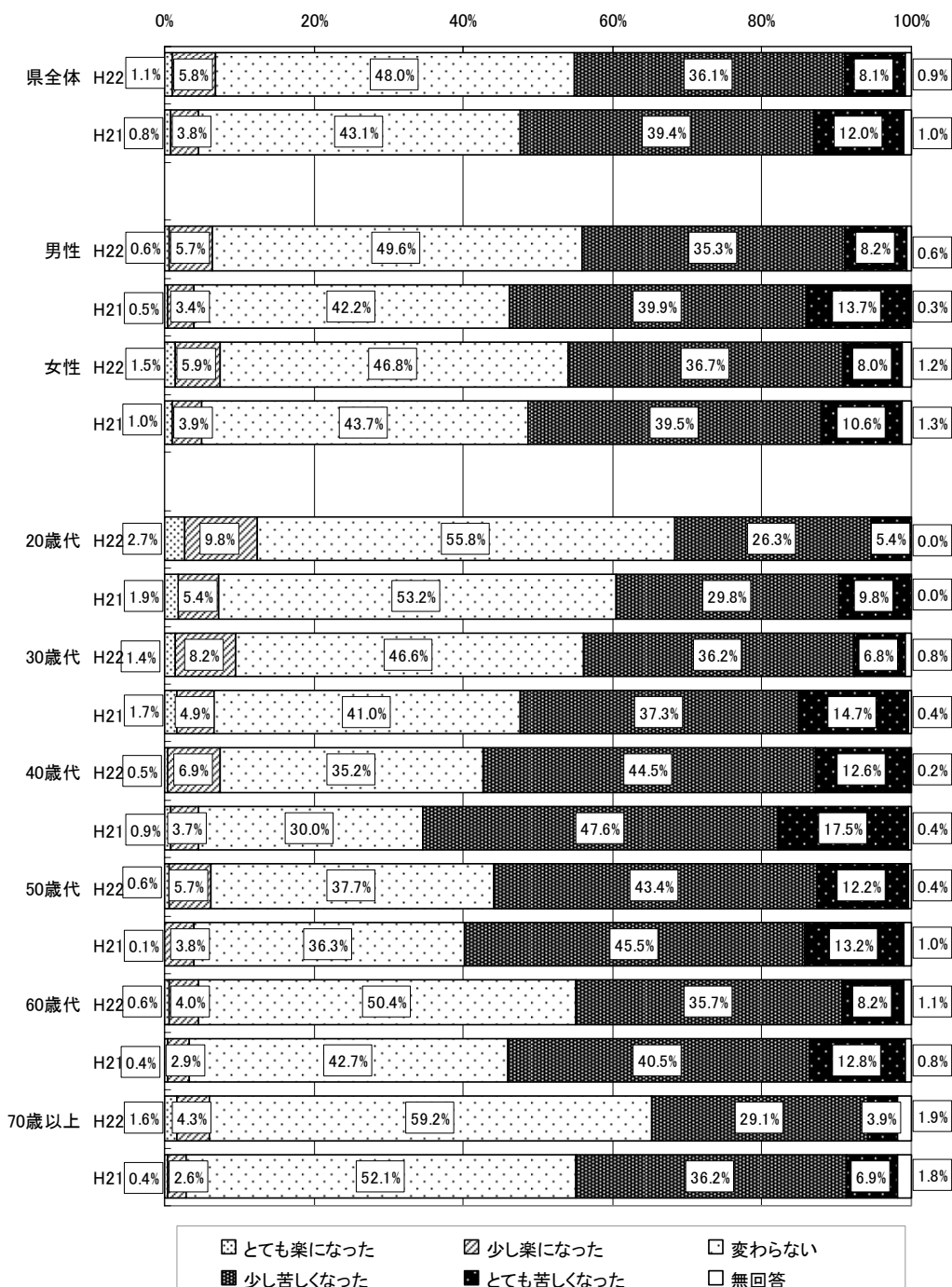
平成21年度と比較すると、「苦しくなった」と感じている人は51.4%から7.2ポイント減少しています。また、「変わらない」は4.9ポイント増加しています。

### ■地域別

「苦しくなった」と感じている人は、「地域3(中部)」(46.4%)と「地域4(東部)」(46.7%)で他の地域に比べて多くなっています。

平成21年度と比較すると、全ての地域で「苦しくなった」と感じている人は減少しており、特に「地域6(南西部)」(23.8ポイント減)と「地域5(南東部)」(10.4ポイント減)で減少幅が大きくなっています。

図表 1年前と比較した暮らし向きの実感（単数回答／県全体、性別、年齢別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

「苦しくなった」と感じている人は、「男性」(43.5%)よりも「女性」(44.7%)が多くなっています。

平成21年度と比較すると、「苦しくなった」と感じている人は男女ともに減少し、特に男性は10.1ポイント減少しています。

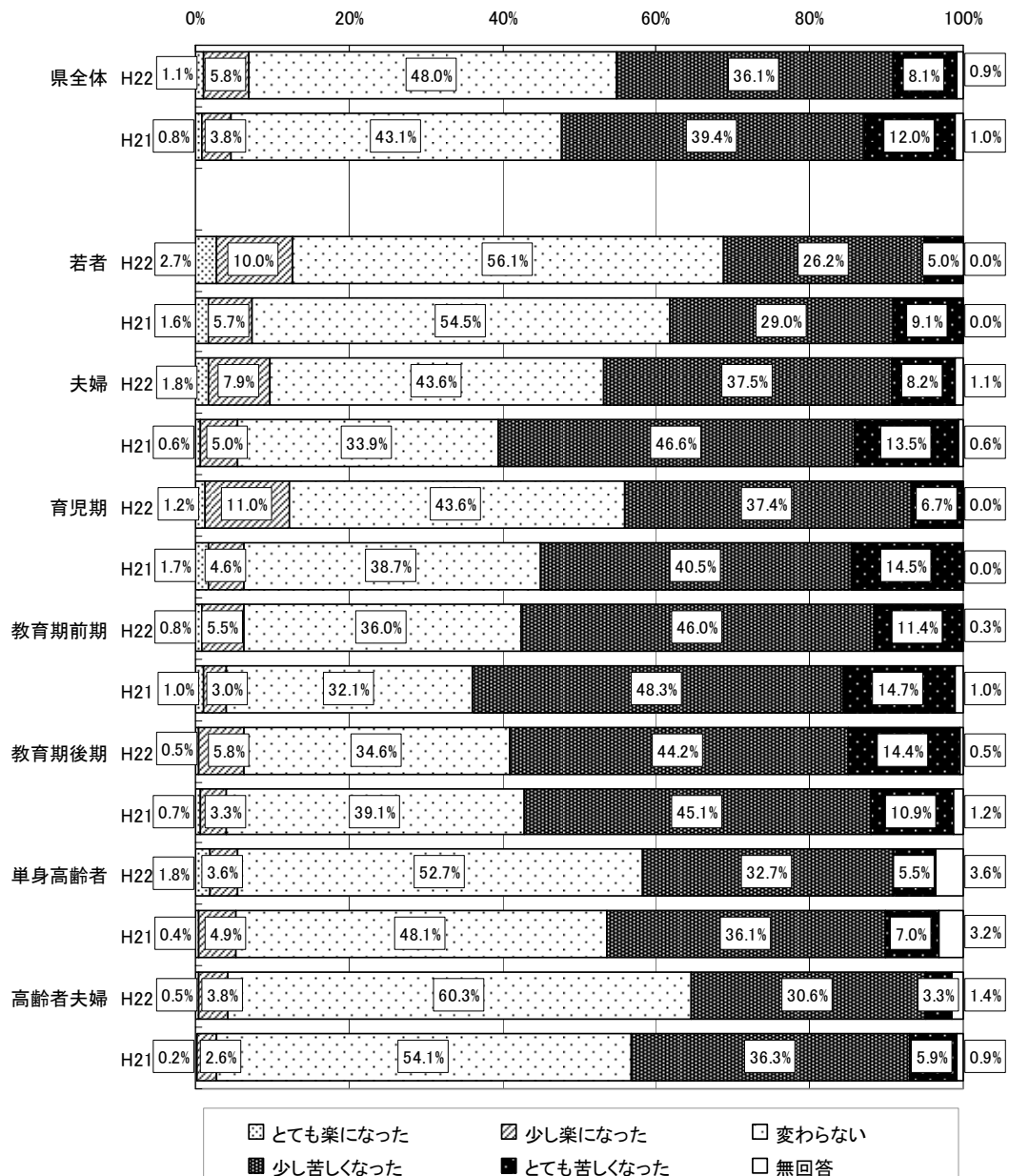
■年齢別

「苦しくなった」と感じている人は、「40歳代」(57.1%)と「50歳代」(55.6%)で他の年齢層に比べて多くなっています。

平成21年度と比較すると、「苦しくなった」と感じている人は全ての年齢層で減少しており、「50歳代」を除いて7ポイント以上減少しています。



図表 1年前と比較した暮らし向きの実感（単数回答／県全体、ライフステージ別）



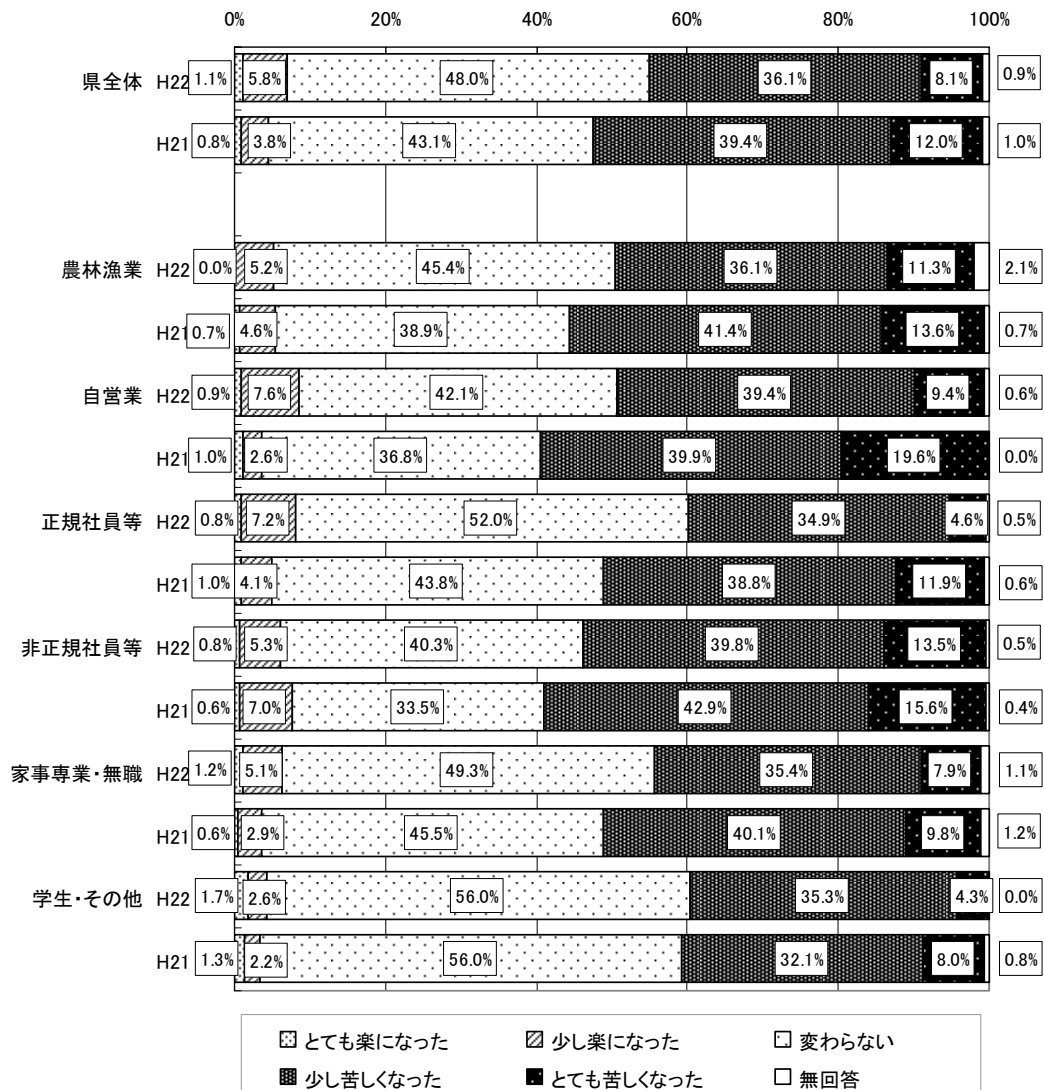
(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

### ■ライフステージ別

「教育期前期」(57.4%)と「教育期後期」(58.6%)の50%以上の人「苦しくなった」と感じています。

平成21年度と比較すると、「教育期後期」(2.6ポイント増)を除く全てのライフステージで「苦しくなった」と感じている人が減少しています。

図表 1年前と比較した暮らし向きの実感（単数回答／県全体、職業別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■職業別

「非正規社員等」(53.3%)の50%以上の人「苦しくなった」と感じていますが、その他の職業では「苦しくなった」と感じている人は50%を下回っています。

平成21年度と比較すると、「苦しくなった」と感じている人は全ての職業で減少しており、「正規社員等」(11.2ポイント減)と「自営業」(10.7ポイント減)で減少幅が大きくなっています。

# 1-3 1年前と比較して暮らし向きが苦しくなった理由

## (1) 今年度調査結果

図表 暮らし向きが苦しくなった理由（複数回答／県全体、地域別、性別、年齢別、ライフステージ別、職業別）

（上段：平成22年度結果、下段：前年度からの増減値）

	減給 少料 や 収 益 が 増 え な い 、 ま た は	税 金 や 保 険 料 の 支 払 い が 増 え た	家 や 自 動 車 、 家 電 な ど に か か る 支 出 が 増 え た	家 族 の 増 加 や 物 価 の 上 昇 な ど で 毎 日 の 生 活 費 が 増 え た	目 利 率 の 低 下 な ど に よ り 預 貯 金 が 目 減 り し た	教 育 に か か る 費 用 が 増 え た	失 業 、 退 職 、 病 気 な ど で 働 き 手 が 減 っ た	結 婚 、 出 産 、 病 気 な ど 特 別 な 出 費 が あ っ た	家 業 や 商 売 な ど に か か る 営 業 経 費 が 増 え た	そ の 他
県全体	67.2%	37.2%	26.2%	24.4%	21.9%	21.0%	18.5%	16.9%	7.4%	7.2%
	▲2.4	▲2.9	▲1.0	▲6.9	▲2.5	▲0.7	▲2.0	0.4	▲1.8	▲0.0
地域別	67.9%	39.5%	25.7%	24.8%	23.6%	19.4%	17.7%	17.0%	6.0%	7.0%
地域1(北部)	▲0.8	▲2.3	▲3.9	▲7.8	▲2.8	▲5.3	▲0.6	0.5	▲3.0	0.0
地域2(西部)	67.8%	38.0%	28.9%	23.1%	24.0%	22.3%	16.5%	17.4%	3.3%	9.1%
	▲9.9	▲5.0	▲4.1	▲7.3	▲2.9	0.5	▲5.3	▲0.9	▲2.8	2.5
地域3(中部)	67.8%	37.4%	27.4%	27.4%	18.5%	26.1%	21.6%	17.0%	7.6%	3.6%
	0.3	▲0.8	3.4	▲2.2	▲2.2	8.4	▲2.4	0.5	▲1.3	▲5.8
地域4(東部)	68.3%	34.7%	31.7%	21.8%	20.8%	23.8%	15.8%	18.8%	9.9%	10.9%
	▲2.7	▲13.5	2.7	▲8.3	▲2.5	5.1	▲5.4	3.3	▲2.5	7.8
地域5(南東部)	60.2%	26.1%	15.9%	18.2%	21.6%	11.4%	18.2%	12.5%	17.0%	14.8%
	▲10.2	▲14.1	▲8.4	▲14.1	▲0.1	▲9.0	0.4	▲1.3	7.8	10.2
地域6(南西部)	61.3%	29.0%	25.8%	16.1%	19.4%	9.7%	19.4%	19.4%	12.9%	9.7%
	▲11.7	▲6.6	▲2.4	▲16.4	▲3.3	▲11.8	▲0.3	3.4	▲3.0	2.3
性別	70.6%	37.2%	26.0%	19.9%	20.1%	19.6%	16.7%	14.9%	9.0%	7.0%
男性	▲3.3	▲5.1	▲2.5	▲8.7	▲6.5	0.7	▲3.7	0.9	▲0.8	0.7
女性	64.6%	37.4%	26.4%	27.9%	23.4%	22.1%	19.9%	18.5%	6.2%	7.4%
	▲1.0	▲0.8	0.4	▲6.3	1.4	▲2.6	▲0.9	▲0.5	▲1.8	▲0.8
年齢別	73.2%	35.2%	42.3%	22.5%	9.9%	22.5%	21.1%	25.4%	1.4%	5.6%
20歳代	▲2.0	▲3.7	14.1	▲3.5	▲0.0	9.8	7.4	11.4	▲2.2	▲4.3
30歳代	73.9%	36.3%	25.5%	38.2%	11.5%	29.9%	14.6%	15.9%	5.7%	1.9%
	▲8.1	▲6.4	▲7.1	▲11.6	▲1.4	▲3.9	▲4.7	▲1.2	▲1.2	▲3.8
40歳代	82.9%	31.7%	25.8%	28.8%	10.0%	55.4%	12.1%	10.4%	7.1%	4.2%
	▲2.6	▲0.4	▲4.0	▲4.9	▲6.7	▲1.6	0.6	1.9	▲2.1	1.7
50歳代	79.6%	32.1%	27.4%	21.2%	28.8%	21.2%	21.5%	18.6%	9.5%	5.5%
	1.5	▲5.0	0.1	▲4.9	3.5	▲0.4	▲1.9	▲2.1	▲0.3	2.2
60歳代	61.8%	42.1%	26.0%	19.6%	24.6%	1.8%	24.9%	18.6%	9.1%	9.1%
	▲3.5	▲0.0	0.3	▲6.4	▲7.8	▲0.9	▲9.5	1.8	▲2.6	1.3
70歳以上	36.2%	44.1%	21.0%	21.0%	33.6%	2.2%	15.3%	17.9%	5.7%	14.4%
	▲4.7	▲4.2	▲1.1	▲9.3	▲4.5	▲1.7	▲1.3	▲2.8	▲3.8	▲1.0
ライフステージ別	73.9%	34.8%	42.0%	23.2%	10.1%	23.2%	21.7%	24.6%	1.4%	5.8%
若者	▲4.3	▲5.2	18.6	▲0.7	▲0.9	10.0	8.3	15.9	▲2.6	▲4.3
夫婦	77.3%	38.3%	25.8%	23.4%	28.9%	1.6%	14.8%	19.5%	11.7%	6.3%
	5.7	▲0.1	▲6.0	▲2.9	3.2	▲2.2	▲15.2	▲5.3	2.9	3.4
育児期	73.6%	43.7%	34.7%	68.1%	6.9%	31.9%	11.1%	43.7%	9.7%	1.4%
	▲3.2	▲1.4	▲1.5	3.3	▲7.0	▲12.3	▲6.5	20.1	4.6	▲2.5
教育期前期	80.7%	28.0%	29.5%	33.3%	11.1%	68.1%	6.3%	8.2%	3.4%	3.4%
	1.5	▲2.6	▲3.4	▲5.3	▲6.3	▲0.1	▲6.5	▲0.6	▲3.1	▲0.2
教育期後期	84.4%	23.0%	28.7%	20.5%	14.8%	65.6%	18.0%	5.7%	6.6%	1.6%
	9.6	▲13.0	▲4.7	▲7.5	▲8.5	4.2	5.3	▲4.6	▲5.9	▲3.8
単身高齢者	35.7%	37.0%	19.0%	26.2%	37.0%	0.0%	16.7%	16.7%	4.8%	23.8%
	2.4	▲9.7	2.8	9.1	0.1	▲4.1	4.5	▲2.8	4.8	1.9
高齢者夫婦	41.5%	50.7%	24.6%	16.9%	31.0%	1.4%	10.6%	21.1%	4.2%	14.8%
	0.3	▲2.2	4.9	▲11.6	▲7.8	1.2	▲6.8	0.8	0.2	0.4
職業別	60.9%	34.8%	23.9%	21.7%	32.6%	10.9%	19.6%	19.6%	30.4%	6.5%
農林漁業	▲5.4	▲12.0	▲11.2	▲0.3	8.6	1.1	▲9.7	8.5	▲11.8	▲8.4
自営業	60.7%	28.9%	18.1%	18.1%	18.1%	11.4%	7.2%	11.4%	33.7%	4.8%
	▲2.5	▲10.9	▲4.3	▲6.4	0.4	▲3.0	▲4.3	▲1.5	▲5.7	▲3.0
正規社員等	87.6%	36.1%	31.1%	22.8%	19.9%	35.7%	7.9%	18.7%	0.4%	2.9%
	2.0	▲5.8	2.5	▲9.9	▲0.4	3.1	▲2.5	7.1	▲1.7	0.2
非正規社員等	85.0%	38.0%	30.0%	25.8%	15.0%	31.0%	18.8%	10.3%	0.9%	6.1%
	▲1.2	▲3.4	▲1.6	▲1.7	▲7.7	6.3	▲3.7	▲8.9	▲2.2	1.4
家事専業・無職	47.7%	40.3%	25.8%	26.9%	25.9%	13.4%	27.8%	20.6%	2.7%	9.8%
	▲0.5	▲2.5	▲0.2	▲9.8	▲4.5	▲3.6	▲1.5	0.0	▲1.0	1.3
学生・その他	69.6%	32.6%	28.3%	23.9%	15.2%	32.6%	6.5%	17.4%	8.7%	10.9%
	▲5.3	0.5	3.6	▲2.8	▲8.7	6.7	▲4.1	5.2	▲1.9	▲4.8

(注) 集計結果は「県全体」の平成22年度の結果が多い項目順に並べている。

太字は「その他」を除いた平成22年度の結果の各属性区分の上位3項目（斜体は同率）を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。また、網かけは平成21年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。

母数は「苦しくなった」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

## ■県全体

1年前と比較して暮らし向きが「苦しくなった」と感じている人に対して、その理由をたずねたところ、「給料や収益の減少」(67.2%)が最も多く、次いで、「税金等の支払いの増加」(37.2%)、「家や自動車等の支出の増加」(26.2%)が多く挙げられています。

平成21年度と比較すると、「毎日の生活費の増加」で6.9ポイント減少するなど、「結婚、病気などの特別な出費」を除く全ての項目で減少し、全体的に暮らし向きが改善されているといえます。

## ■地域別

上位2項目には、全ての地域で第1位に「給料や収益の減少」、第2位に「税金等の支払いの増加」が挙げられています。

平成21年度と比較すると、「地域3(中部)」で「教育にかかる費用の増加」が8.4ポイントと増加の幅が最も大きくなっています。それ以外に、5ポイント以上増加した項目は「地域2(西部)」の「税金等の支払いの増加」、「地域4(東部)」の「教育にかかる費用の増加」、「地域5(南東部)」の「営業経費の増加」となっています。

## ■性別

男女ともに「給料や収益の減少」を理由に挙げている人が最も多く60%を越えています。

平成21年度と比較すると、男女ともに全体的に減少傾向にあり、ポイントが増加した項目でも1.5ポイント以下の増加に留まっています。

## ■年齢別

「40歳代」では、「給料や収益の減少」と「教育にかかる費用の増加」を理由に暮らし向きが「苦しくなった」と感じている人が他の年齢層に比べて多くなっています。

平成21年度と比較すると、「20歳代」で5ポイント以上増加した項目が4項目あり、特に、「家や自動車等の支出の増加」(14.1ポイント)、「結婚、病気などの特別な出費」(11.4ポイント)で増加の幅が大きくなっています。

## ■ライフステージ別

「高齢者夫婦」以外では「給料や収益の減少」が最も多くなっており、「高齢者夫婦」は「税金等の支払いの増加」が最も多くなっています。また、「育児期」では「毎日の生活費の増加」、「教育期前期」、「教育期後期」では「教育にかかる費用の増加」、「単身高齢者」では「預貯金の目減り」を理由に挙げた人が多く、ライフステージ毎に特徴が見られます。

平成21年度と比較すると、年齢別の結果と同様に「若者」で5ポイント以上増加した項目が4項目あり、特に「家や自動車等の支出の増加」(18.6ポイント)の増加の幅が大きくなっています。また、「育児期」の「結婚、病気などの特別な出費」では20.1ポイントと他の項目に比べ大きく増加しています。

## ■職業別

全ての職業で「給料や収益の減少」を理由に挙げた人が最も多くなっています。特に、「自営業」、「正規社員等」、「非正規社員等」の80%以上の人々が「給料や収益の減少」を理由に挙げています。

平成21年度と比較すると、「農林漁業」での「預貯金の目減り」と「結婚、病気などの特別な出費」、「正規社員等」での「結婚、病気などの特別な出費」、「非正規社員等」での「教育にかかる費用の増加」、「学生・その他」での「教育にかかる費用の増加」、「結婚、病気などの特別な出費」で5ポイント以上の増加が見られます。

## (2) 暮らし向きが悪化する程度とその理由

図表 暮らし向きが悪化する程度とその理由（設問間クロス／県全体）

			問2 暮らし向きの変化		
順位	項目番号	問3 暮らし向き悪化の理由	計	少し苦しくなった	とても苦しくなった
1	1	給料や収益が増えない、または減少したから	845 67.2%	683 66.4%	162 70.4%
2	8	税金や保険料の支払いが増えたから	468 37.2%	371 36.1%	97 42.2%
3	7	家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから	330 26.2%	271 26.4%	59 25.7%
4	4	家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから	307 24.4%	249 24.2%	58 25.2%
5	3	利率の低下などにより預貯金が目減りしたから	275 21.9%	234 22.8%	41 17.8%
6	6	教育にかかる費用が増えたから	264 21.0%	210 20.4%	54 23.5%
7	2	失業、退職、病気などで働き手が減ったから	233 18.5%	160 15.6%	73 31.7%
8	5	結婚、出産、病気など特別な出費があったから	213 16.9%	173 16.8%	40 17.4%
9	9	家業や商売などにかかる営業経費が増えたから	93 7.4%	70 6.8%	23 10.0%
10	10	その他	91 7.2%	67 6.5%	24 10.4%
対象者数			1,258 100.0%	1,028 100.0%	230 100.0%

(注) 上記図表は暮らし向きが「少し苦しくなった」または「とても苦しくなった」と感じている回答者がどのような理由で暮らし向きが悪化したのかを把握するため、問2と問3のクロス集計を行った結果である。  
 なお、対象者数は、問2で現在の暮らし向きが「少し苦しくなった」、「とても苦しくなった」と回答した人数である。

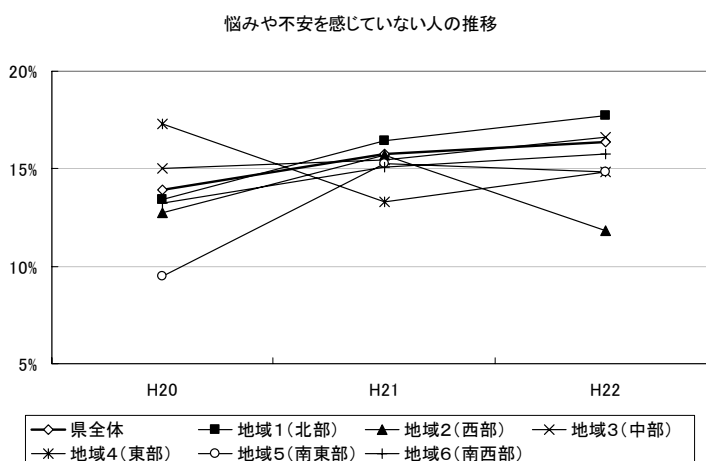
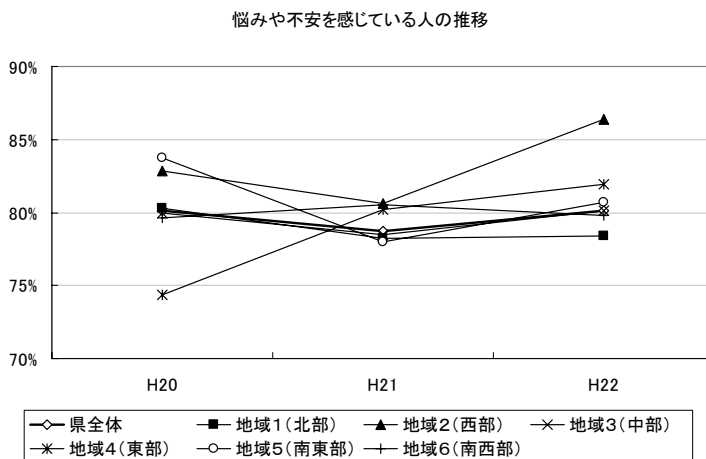
暮らし向きが「とても苦しくなった」と答えた人は、「少し苦しくなった」と答えた人に比べて、「失業、退職、病気などで働き手が減ったから」(16.1ポイント)、「税金や保険料の支払いが増えたから」(6.1ポイント)を理由に挙げた人が5ポイント以上多くなっています。

# 1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無

## (1) 経年比較

図表 日頃の生活での悩みや不安の有無（経年比較／県全体、地域別）

		悩みや不安を感じている		悩みや不安を感じていない	
県全体	H20	80.1%	13.9%		
	H21	78.7%	15.8%		
	H22	80.1%	16.4%		
地域1(北部)	H20	80.3%	13.4%		
	H21	78.2%	16.4%		
	H22	78.4%	17.7%		
地域2(西部)	H20	82.9%	12.8%		
	H21	80.6%	15.7%		
	H22	86.4%	11.8%		
地域3(中部)	H20	79.9%	15.0%		
	H21	78.5%	15.4%		
	H22	80.1%	16.6%		
地域4(東部)	H20	74.4%	17.3%		
	H21	80.2%	13.3%		
	H22	81.9%	14.8%		
地域5(南東部)	H20	83.7%	9.5%		
	H21	78.0%	15.2%		
	H22	80.7%	14.9%		
地域6(南西部)	H20	79.6%	13.2%		
	H21	80.6%	15.1%		
	H22	79.8%	15.7%		



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

### ■県全体

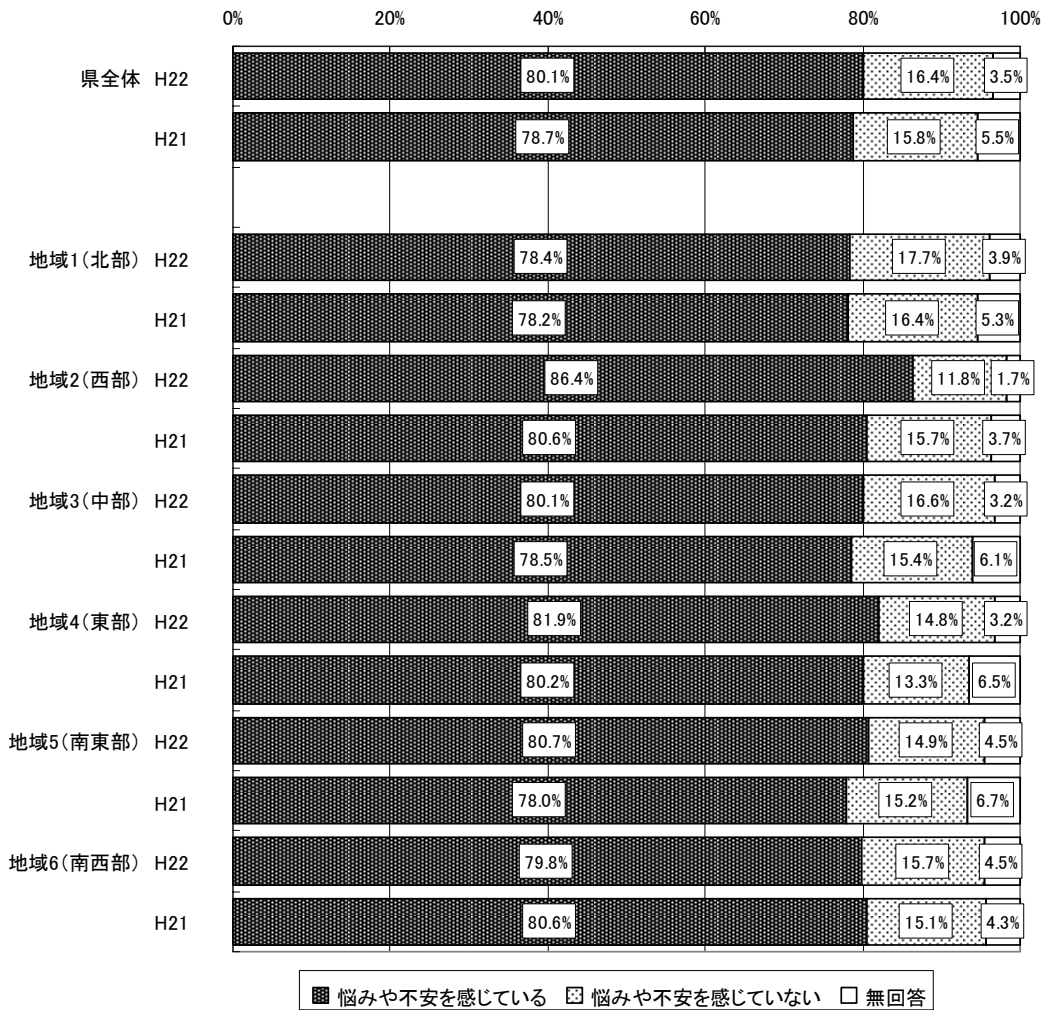
平成20年から平成22年にかけて約80%の人が日頃の生活に対して悩みや不安を感じている一方で、悩みや不安を感じていない人が毎年1ポイント程度増加しています。

### ■地域別

「地域4(東部)」では日頃の生活での悩みや不安を感じている人が毎年増加しています。一方で、「地域1(北部)」、「地域3(中部)」、「地域6(南西部)」では、日頃の生活で悩みや不安を感じていない人が毎年増加しています。

## (2) 今年度調査結果

図表 日頃の生活での悩みや不安の有無（単数回答／県全体、地域別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

### ■県全体

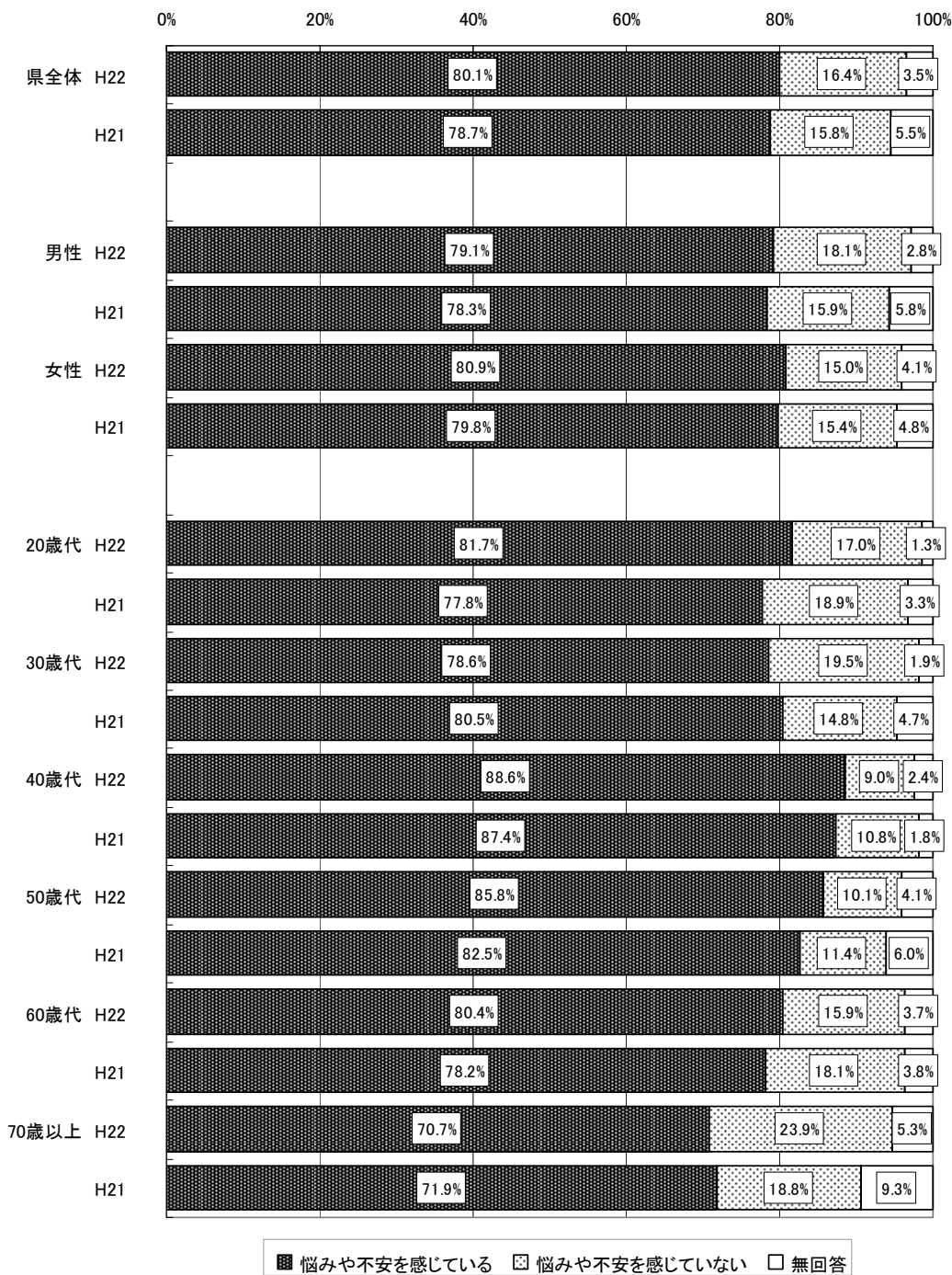
日頃の生活での悩みや不安の有無については、80.1%が「悩みや不安を感じている」と回答しており、平成21年度より1.4ポイント増加しています。

### ■地域別

「悩みや不安を感じている」人は、「地域2(西部)」、「地域3(中部)」、「地域4(東部)」、「地域5(南東部)」で80%を上回っており、他の地域に比べてやや多くなっています。

平成21年度と比較すると、「悩みや不安を感じている」人は「地域2(西部)」(5.8ポイント増)で最も増加しています。

図表 日頃の生活での悩みや不安の有無（単数回答／県全体、性別、年齢別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■ 性別

「悩みや不安を感じている」人は、「女性」が「男性」より僅かに多くなっています。  
平成21年度と比較すると、男女ともに「悩みや不安を感じている」人が増加しています。

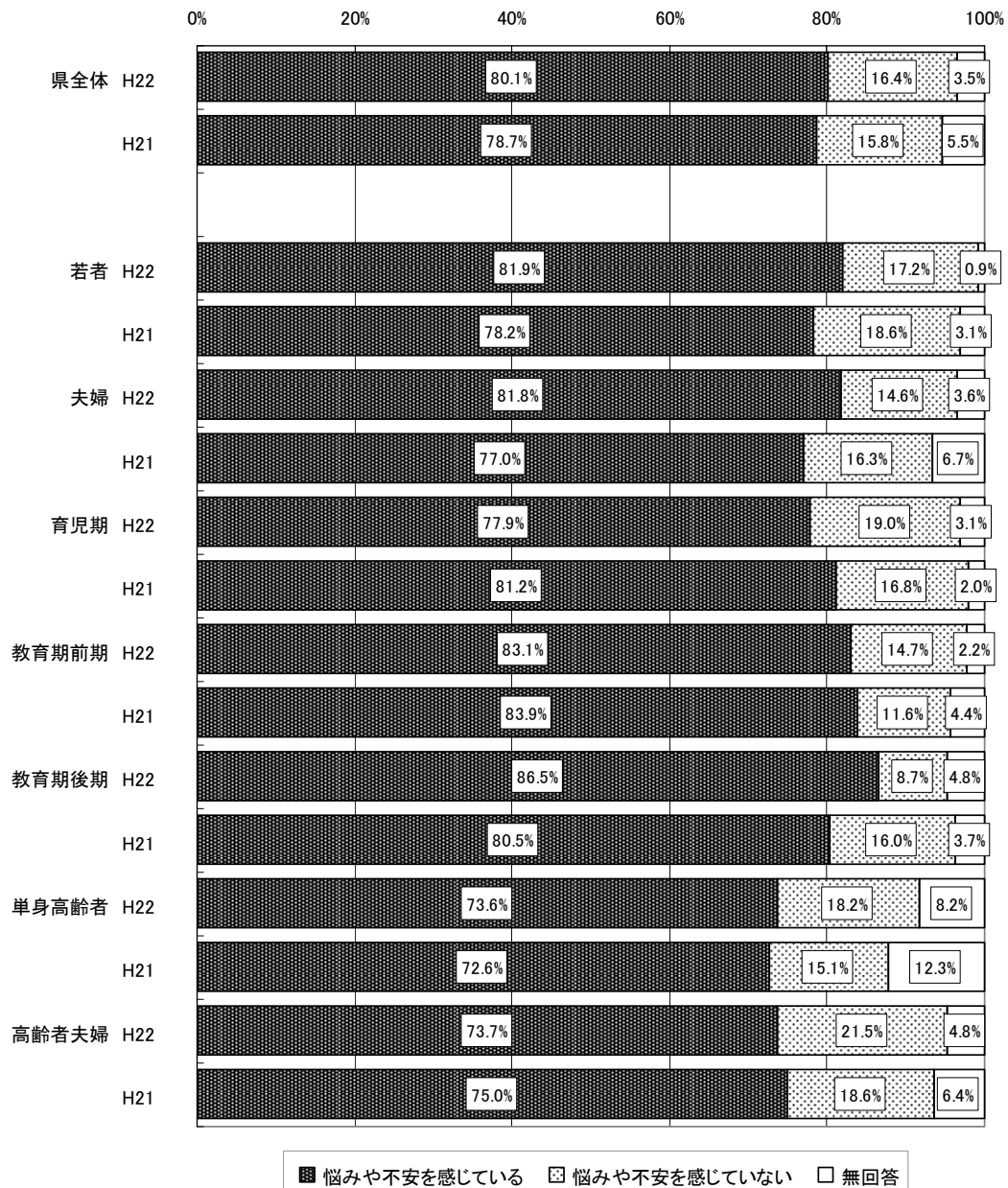
■ 年齢別

「20歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「60歳代」では「悩みや不安を感じている」人が80%以上を占めています。

平成21年度と比較すると、「20歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「60歳代」で「悩みや不安を感じている」人が増加しています。



図表 日頃の生活での悩みや不安の有無（単数回答／県全体、ライフステージ別）



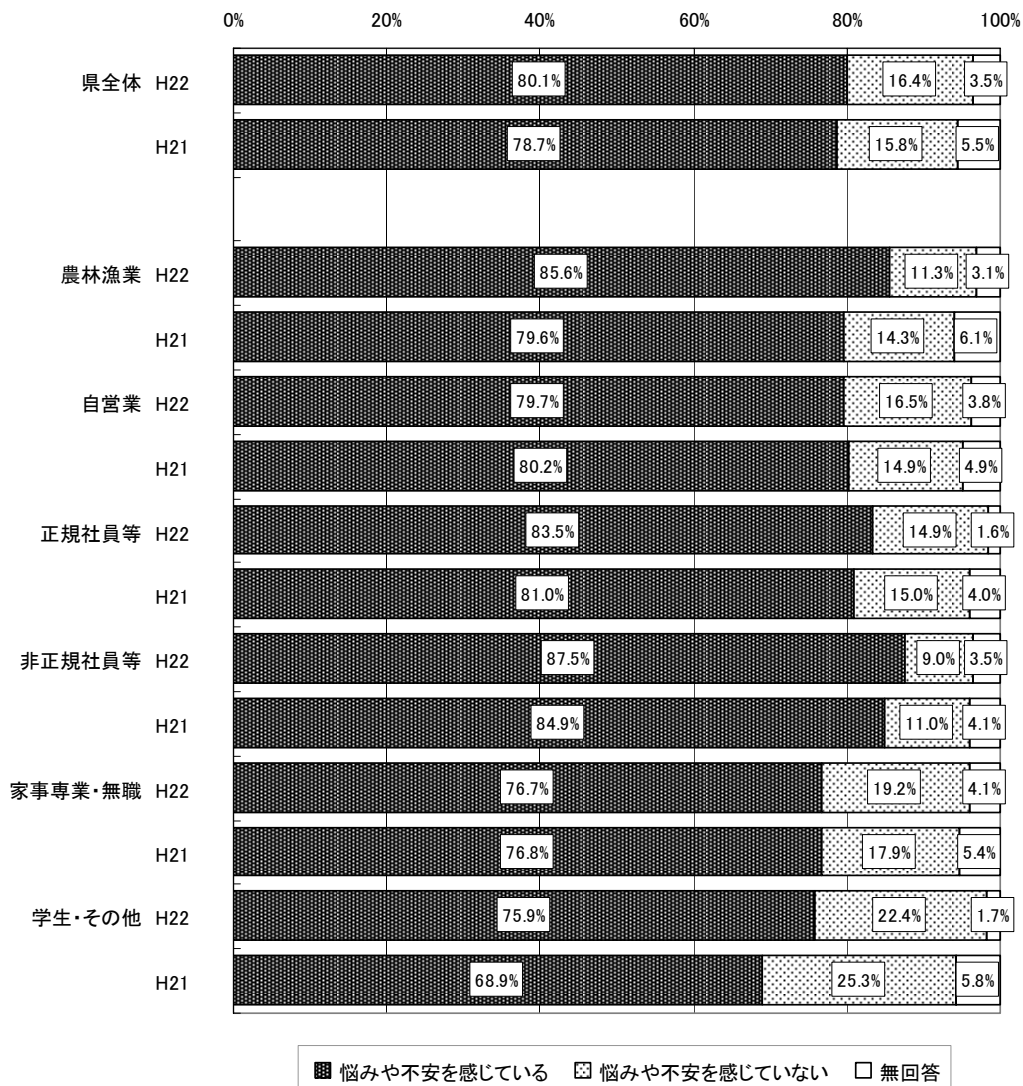
(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

### ■ライフステージ別

「若者」、「夫婦」、「教育期前期」、「教育期後期」では「悩みや不安を感じている」人が80%以上を占めており、他のライフステージに比べてやや多くなっています。

平成21年度と比較すると、「教育期後期」(6.0ポイント増)では「悩みや不安を感じている」人の増加幅が大きくなっています。

図表 日頃の生活での悩みや不安の有無（単数回答／県全体、職業別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

### ■職業別

「悩みや不安を感じている」人は「非正規社員等」で最も多くなっています。  
 平成21年度と比較すると、「農林漁業」などで「悩みや不安を感じている」人が増加しています。

# 1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容

図表 日頃の生活での悩みや不安の内容（複数回答／県全体、地域別、性別、年齢別、ライフステージ別、職業別）

（上段：平成22年度結果、下段：前年度からの増減値）

		老後の生活設計について	自分の健康について	家族の健康について	今後の収入や資産の見通しについて	現在の収入や資産について	家族の生活上（進学、就職、結婚など）の問題について	自分の生活上（進学、就職、結婚など）の問題について	家族・親族間の人間関係について	勤務先での仕事や人間関係について	事業や家業の経営上の問題について	近隣・地域との関係について	その他
県全体		57.7%	56.5%	51.7%	51.0%	32.4%	27.7%	13.3%	12.6%	11.1%	10.9%	9.3%	3.6%
		▲0.3	▲0.3	▲1.9	▲3.1	▲5.6	▲1.5	▲4.3	1.6	▲1.1	0.1	2.9	1.9
地域別	地域1(北部)	56.5%	58.3%	53.2%	51.6%	32.4%	26.2%	14.0%	13.5%	11.3%	10.3%	10.2%	3.1%
		▲2.4	▲1.0	▲2.1	▲3.0	▲6.1	▲4.3	▲1.6	2.1	▲0.3	0.5	4.1	1.8
	地域2(西部)	60.1%	56.9%	54.0%	57.3%	33.9%	30.2%	13.3%	11.3%	9.7%	5.2%	6.5%	4.4%
		1.7	1.0	3.1	4.3	5.6	▲4.4	▲7.7	2.3	▲2.4	▲2.5	1.5	2.3
	地域3(中部)	57.6%	53.2%	49.5%	53.3%	33.5%	32.9%	12.0%	12.0%	13.7%	12.0%	8.1%	3.2%
		▲1.5	▲2.0	▲3.1	▲2.0	▲3.1	2.5	▲6.7	1.0	1.2	▲0.2	1.8	1.5
	地域4(東部)	60.5%	56.5%	45.2%	45.2%	34.5%	23.7%	14.7%	13.6%	14.7%	9.0%	10.7%	9.6%
	8.2	4.9	▲8.9	▲9.2	▲6.5	▲0.3	▲8.6	3.3	▲5.8	▲1.6	2.5	0.8	
地域5(南東部)	59.5%	57.7%	54.6%	40.5%	30.1%	20.2%	11.0%	14.1%	6.7%	18.4%	11.0%	1.2%	
	8.6	1.3	2.8	▲12.7	▲9.5	▲6.6	▲7.6	1.8	▲6.0	3.0	0.1	▲2.0	
地域6(南西部)	56.3%	53.5%	47.9%	39.4%	19.7%	25.4%	15.5%	4.2%	8.5%	12.7%	11.3%	14.1%	
	3.2	4.0	4.6	▲20.8	▲20.9	▲3.7	1.7	▲8.3	▲5.8	▲2.9	0.1	12.3	
性別	男性	56.1%	57.4%	49.8%	51.5%	32.5%	24.3%	14.4%	10.3%	14.3%	13.5%	7.9%	3.1%
		▲1.6	2.5	0.6	▲6.4	▲9.5	▲2.9	▲4.4	2.6	0.5	0.9	2.5	1.5
	女性	58.9%	55.9%	53.3%	50.6%	32.2%	30.4%	12.4%	14.4%	8.6%	8.8%	10.5%	4.0%
		1.3	▲1.4	▲4.1	▲2.2	▲3.0	▲0.7	▲4.9	0.3	▲2.5	▲0.2	3.0	2.2
年齢別	20歳代	22.4%	31.7%	36.1%	56.8%	38.3%	17.5%	66.7%	10.9%	29.0%	4.9%	6.0%	2.7%
		1.7	3.2	0.3	0.3	▲8.0	1.2	▲6.6	1.3	1.8	1.2	2.3	1.9
	30歳代	40.8%	33.4%	41.5%	66.2%	44.6%	24.7%	34.1%	11.8%	26.5%	7.7%	8.0%	3.5%
		▲0.4	2.4	▲0.7	▲5.9	▲5.3	▲1.6	6.8	▲3.4	4.7	▲3.5	0.0	1.7
	40歳代	56.7%	47.0%	45.7%	65.9%	40.3%	40.1%	11.8%	11.8%	17.7%	14.0%	6.5%	3.0%
		▲4.5	1.2	▲11.9	▲1.4	▲8.7	▲8.6	▲2.7	2.2	▲1.1	0.2	0.8	1.1
	50歳代	69.5%	57.7%	52.2%	59.1%	32.6%	42.6%	6.1%	12.5%	9.2%	14.9%	7.8%	3.5%
	7.5	▲1.2	▲6.4	▲2.2	▲0.5	0.5	▲0.5	1.7	▲4.1	1.5	4.7	2.3	
60歳代	71.1%	64.8%	61.5%	43.5%	26.2%	24.1%	2.1%	12.5%	3.1%	10.9%	11.9%	3.8%	
	▲4.2	▲5.0	4.0	▲4.9	▲7.7	▲2.5	▲2.0	2.6	1.0	▲2.7	4.5	1.8	
70歳以上	57.0%	77.0%	57.2%	29.5%	23.2%	14.9%	0.4%	14.3%	0.8%	9.0%	12.0%	4.1%	
	1.0	▲7.0	▲3.2	▲5.6	▲3.6	0.2	▲2.1	2.2	0.3	1.7	2.3	1.7	
ライフステージ別	若者	22.7%	31.5%	35.9%	56.9%	38.1%	17.1%	66.9%	11.0%	29.3%	5.0%	6.1%	2.8%
		2.8	2.3	0.2	0.5	▲7.4	0.5	▲9.7	1.2	1.5	1.6	2.1	2.2
	夫婦	76.9%	56.3%	58.1%	58.5%	28.4%	15.3%	5.7%	12.2%	7.0%	12.7%	8.7%	4.4%
		2.3	1.4	0.5	▲6.5	▲17.0	▲1.7	0.7	1.4	▲3.1	▲0.4	3.3	3.8
	育児期	34.6%	36.2%	44.9%	74.8%	49.6%	25.2%	11.8%	12.6%	21.3%	11.0%	7.1%	5.5%
		▲10.7	2.2	▲1.4	3.7	▲4.9	▲6.1	1.7	▲5.7	6.9	2.0	▲4.1	3.0
	教育期前期	48.3%	42.0%	44.7%	64.3%	44.0%	50.0%	7.3%	14.3%	18.7%	12.0%	7.7%	1.3%
	▲7.8	0.5	▲5.1	▲4.1	▲0.3	▲1.9	0.9	1.0	2.8	▲0.2	▲0.1	▲0.3	
教育期後期	62.2%	46.7%	47.8%	62.2%	36.1%	53.9%	6.7%	10.0%	15.0%	14.4%	10.0%	3.9%	
	▲6.3	▲10.1	▲12.1	▲1.5	1.0	▲4.8	▲0.4	0.2	1.6	▲1.3	6.1	2.4	
単身高齢者	61.7%	79.0%	21.0%	24.7%	29.6%	8.6%	2.5%	17.3%	1.2%	6.2%	16.0%	2.5%	
	1.8	▲5.5	3.1	▲5.3	6.4	2.4	▲4.3	12.0	1.2	5.2	2.5	▲0.9	
高齢者夫婦	62.0%	73.1%	72.7%	33.1%	22.7%	11.7%	0.6%	10.1%	0.6%	7.1%	10.1%	3.9%	
	▲2.0	▲6.1	5.8	▲0.9	▲3.9	3.9	▲0.3	▲2.4	0.4	1.1	▲1.8	1.9	
職業別	農林漁業	73.5%	61.4%	50.6%	45.8%	34.9%	14.5%	3.6%	14.5%	1.2%	31.3%	12.0%	1.2%
		9.4	▲0.4	▲1.0	▲14.8	▲10.4	▲3.5	▲5.8	3.7	0.3	▲0.1	0.8	1.2
	自営業	59.0%	45.8%	41.3%	53.9%	36.2%	25.8%	8.1%	8.9%	4.4%	50.6%	6.6%	3.0%
		▲1.8	▲5.0	▲11.4	▲8.3	▲11.6	3.0	▲5.0	0.6	▲2.6	▲4.5	2.5	0.7
	正規社員等	50.2%	50.4%	47.3%	60.4%	30.6%	31.0%	22.9%	9.8%	32.0%	4.3%	6.5%	2.9%
		▲1.1	9.2	0.1	▲2.5	▲8.9	▲5.4	▲2.5	1.7	1.3	2.0	3.1	2.1
非正規社員等	65.4%	45.7%	47.7%	64.9%	47.1%	37.4%	20.0%	12.0%	15.1%	2.9%	6.0%	2.6%	
	▲4.3	▲7.7	▲5.5	2.3	0.6	3.3	▲3.1	0.9	0.5	▲2.6	0.1	0.9	
家事専業・無職	59.0%	67.3%	59.3%	41.1%	27.4%	25.7%	5.8%	15.4%	1.4%	3.7%	12.9%	4.2%	
	▲0.2	▲2.7	▲2.9	▲5.9	▲6.8	▲0.3	▲3.2	1.8	▲0.1	▲0.6	4.2	2.1	
学生・その他	37.5%	39.8%	44.3%	51.1%	30.7%	14.8%	42.0%	13.6%	12.5%	14.8%	4.5%	9.1%	
	▲1.5	▲12.7	7.3	5.5	6.0	▲12.9	0.0	1.5	▲2.3	1.8	▲1.6	5.4	

（注）集計結果は「県全体」の平成22年度の結果が多い項目順に並べている。

太字は「その他」を除いた平成22年度の結果の各属性区分の上位3項目（斜体は同率）を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。また、網かけは平成21年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。

母数は「悩みや不安を感じている」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

## ■県全体

日頃の生活で「悩みや不安を感じている」人に対して、その内容をたずねたところ、「老後の生活設計について」(57.7%)が最も多く、以下、「自分の健康について」(56.5%)、「家族の健康について」(51.7%)と続いています。上位2項目は前回と同じ項目となっており、その他の項目についても大きな順位変動はありません。

平成21年度と比較すると、12項目中8項目で減少しており、特に「現在の収入や資産について」は5.8ポイント減少しています。

## ■地域別

「地域1(北部)」を除く地域で「老後の生活設計について」が最も多くなっています。「地域1(北部)」では「自分の健康について」が最も多くなっています。

平成21年度と比較すると、「地域5(南東部)」の「老後の生活設計について」の増加の幅が8.6ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は「地域2(西部)」の「家族の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について」、「地域4(東部)」の「老後の生活設計について」となっています。

## ■性別

上位3項目については、「県全体」の傾向と大差はありませんが、「男性」では「自分の健康について」、「女性」では「老後の生活設計について」がそれぞれ最も多くなっています。

平成21年度と比較すると、「男性」の「現在の収入や資産について」が9.5ポイントと最も減少しています。

## ■年齢別

「20歳代」では「自分の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について」、「30歳代」と「40歳代」では「今後の収入や資産の見通しについて」、「50歳代」と「60歳代」では「老後の生活設計について」、「70歳以上」では「自分の健康について」がそれぞれ最も多くなっています。

平成21年度と比較すると、「30歳代」の「自分の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について」が6.8ポイントと最も増加しています。

## ■ライフステージ別

「若者」では「自分の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について」、「夫婦」では「老後の生活設計について」、「育児期」と「教育期前期」では「今後の収入や資産の見通しについて」、「教育期後期」では「老後の生活設計について」と「今後の収入や資産の見通しについて」、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」では「自分の健康について」がそれぞれ最も多くなっており、ライフステージによって悩みや不安の違いが見られます。

平成21年度と比較すると、「単身高齢者」の「家族・親族間の人間関係について」の増加の幅が12.0ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は「育児期」の「勤務先での仕事や人間関係について」、「教育期後期」の「近隣・地域との関係について」、「単身高齢者」の「現在の収入や資産について」と「事業や家業の経営上の問題について」、「高齢者夫婦」の「家族の健康について」となっています。

## ■職業別

「農林漁業」、「自営業」、「非正規社員等」では「老後の生活設計について」、「正規社員等」と「学生・その他」では「今後の収入や資産の見通しについて」、「家事専業・無職」では「自分の健康について」がそれぞれ最も多くなっています。

平成21年度と比較すると、「農林漁業」の「老後の生活設計について」の増加の幅が9.4ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は、「正規社員等」の「自分の健康について」、「学生・その他」の「家族の健康について」、「今後の収入や資産の見通しについて」、「現在の収入や資産について」となっています。

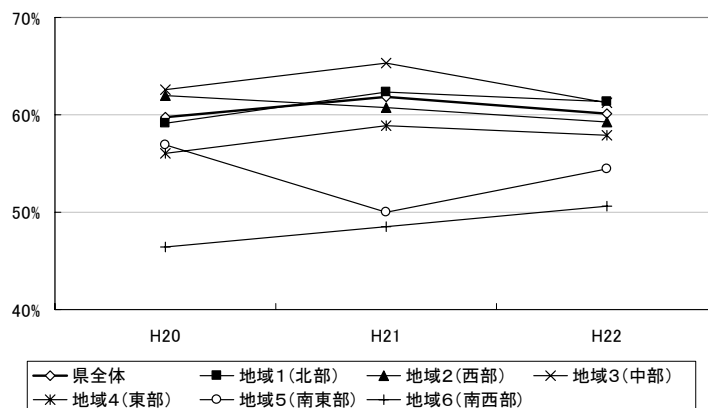
## 1-6 奈良県の住みやすさの評価

### (1) 経年比較

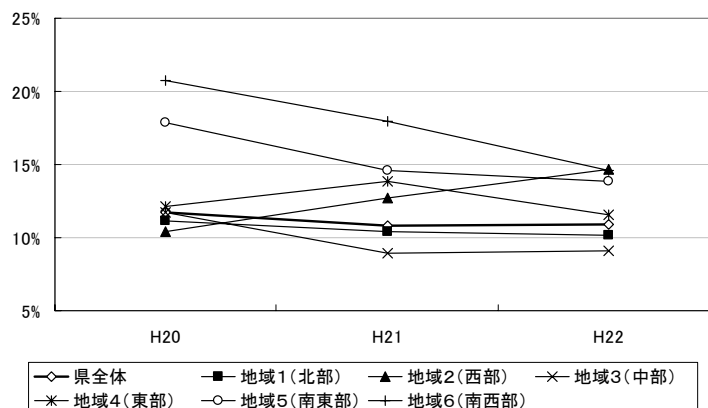
図表 奈良県の住みやすさの評価（経年比較／県全体、地域別）

		住みやすい	住みにくい
県全体	H20	59.7%	11.7%
	H21	61.9%	10.8%
	H22	60.1%	10.9%
地域1(北部)	H20	59.1%	11.1%
	H21	62.4%	10.4%
	H22	61.4%	10.2%
地域2(西部)	H20	62.0%	10.4%
	H21	60.7%	12.7%
	H22	59.3%	14.6%
地域3(中部)	H20	62.6%	11.7%
	H21	65.3%	8.9%
	H22	61.2%	9.1%
地域4(東部)	H20	56.1%	12.1%
	H21	58.9%	13.9%
	H22	57.9%	11.6%
地域5(南東部)	H20	56.9%	17.9%
	H21	50.0%	14.6%
	H22	54.4%	13.9%
地域6(南西部)	H20	46.4%	20.7%
	H21	48.6%	18.0%
	H22	50.6%	14.6%

住みやすいと感じている人の推移



住みにくいとと感じている人の推移



(注) 上記図表は、問6を「住みやすい」（「とても住みやすい」＋「どちらかといえば住みやすい」）と「住みにくい」（「どちらかといえば住みにくい」＋「とても住みにくい」）に再集計した結果である。  
母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

#### ■ 県全体

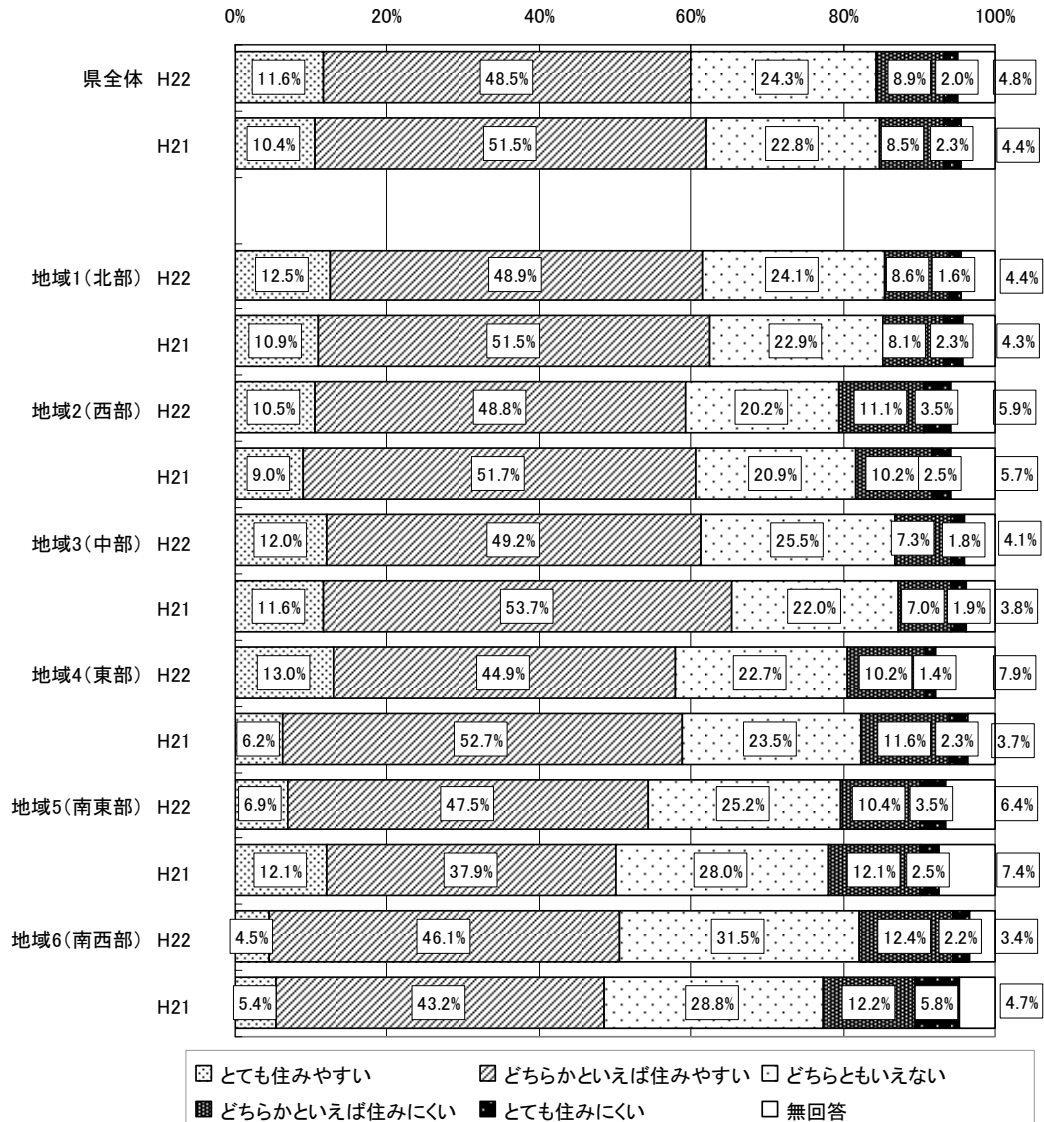
平成20年から平成22年にかけて奈良県が「住みやすい」と感じている人は60%前後で推移しています。一方、「住みにくい」と感じている人は僅かに減少しています。

#### ■ 地域別

「地域5（南東部）」と「地域6（南西部）」では、奈良県が「住みやすい」と感じている人が他地域より少なく、「住みにくい」と感じている人が多くなっています。

## (2) 今年度調査結果

図表 奈良県の住みやすさの評価（単数回答／県全体、地域別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

### ■県全体

奈良県の住みやすさの評価については、60.1%の人が「住みやすい」（「とても住みやすい」＋「どちらかといえば住みやすい」）と感じており、「住みにくい」（「とても住みにくい」＋「どちらかといえば住みにくい」）と感じている人は10.9%となっています。

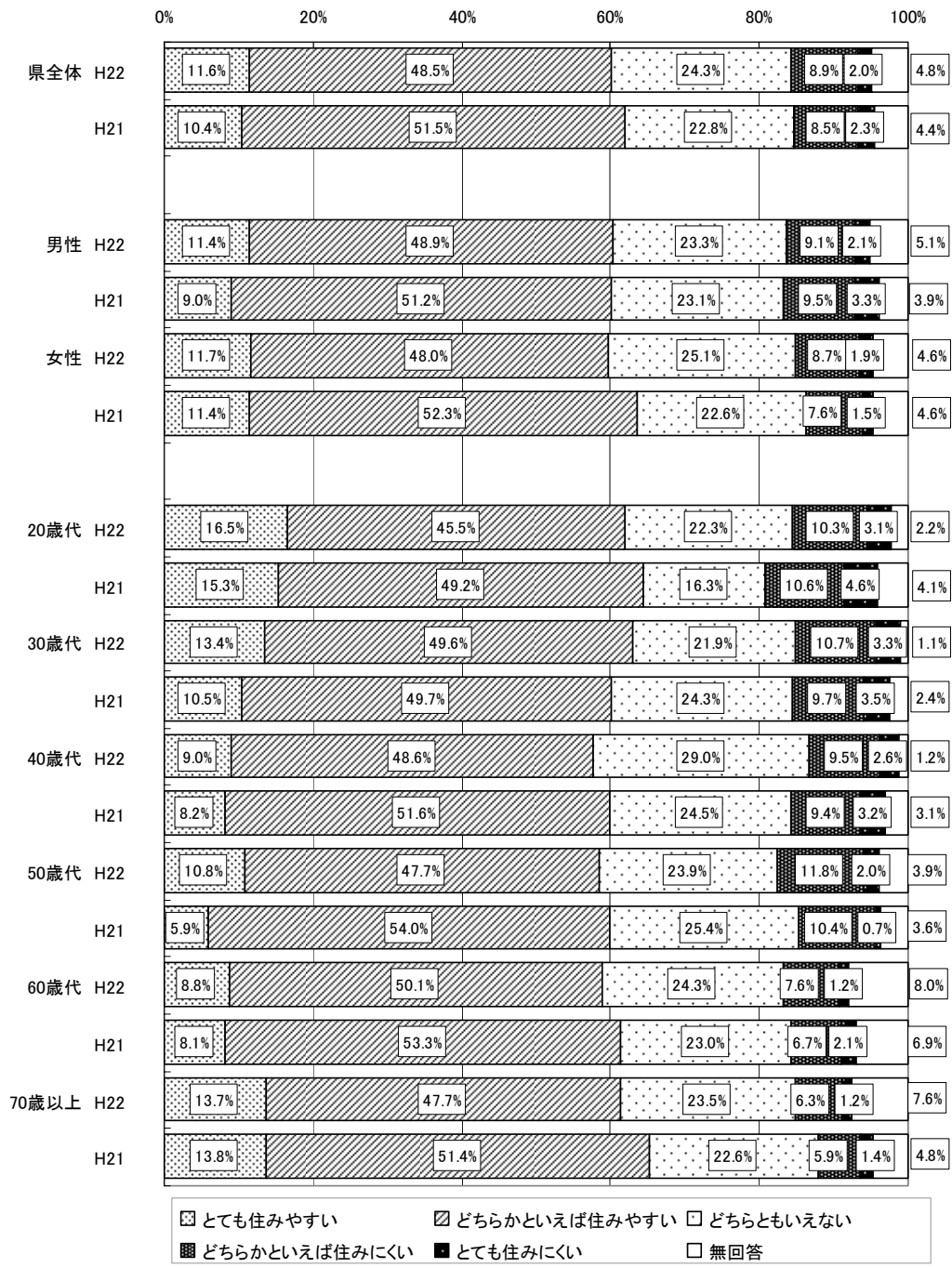
平成21年度と比較すると、「住みやすい」と感じている人は61.9%から1.8ポイント減少し、「住みにくい」と感じている人は10.8%から0.1ポイント増加しました。

### ■地域別

「住みやすい」と感じている人は、「地域1(北部)」(61.4%)と「地域3(中部)」(61.2%)で「県全体」よりも多くなっています。一方、「住みにくい」と感じている人は「地域2(西部)」(14.6%)と「地域6(南西部)」(14.6%)で最も多くなっています。

平成21年度と比較すると、「住みやすい」と感じている人は「地域3(中部)」(4.1ポイント)で最も減少しており、「地域5(南東部)」(4.4ポイント)で最も増加しています。

図表 奈良県の住みやすさの評価（単数回答／県全体、性別、年齢別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

「住みやすい」と感じている人は、「男性」(60.3%)が「女性」(59.7%)に比べて多くなっています。

平成21年度と比較すると、「男性」では「住みやすい」と感じている人が0.1ポイント増加しましたが、「女性」では4.0ポイント減少しています。

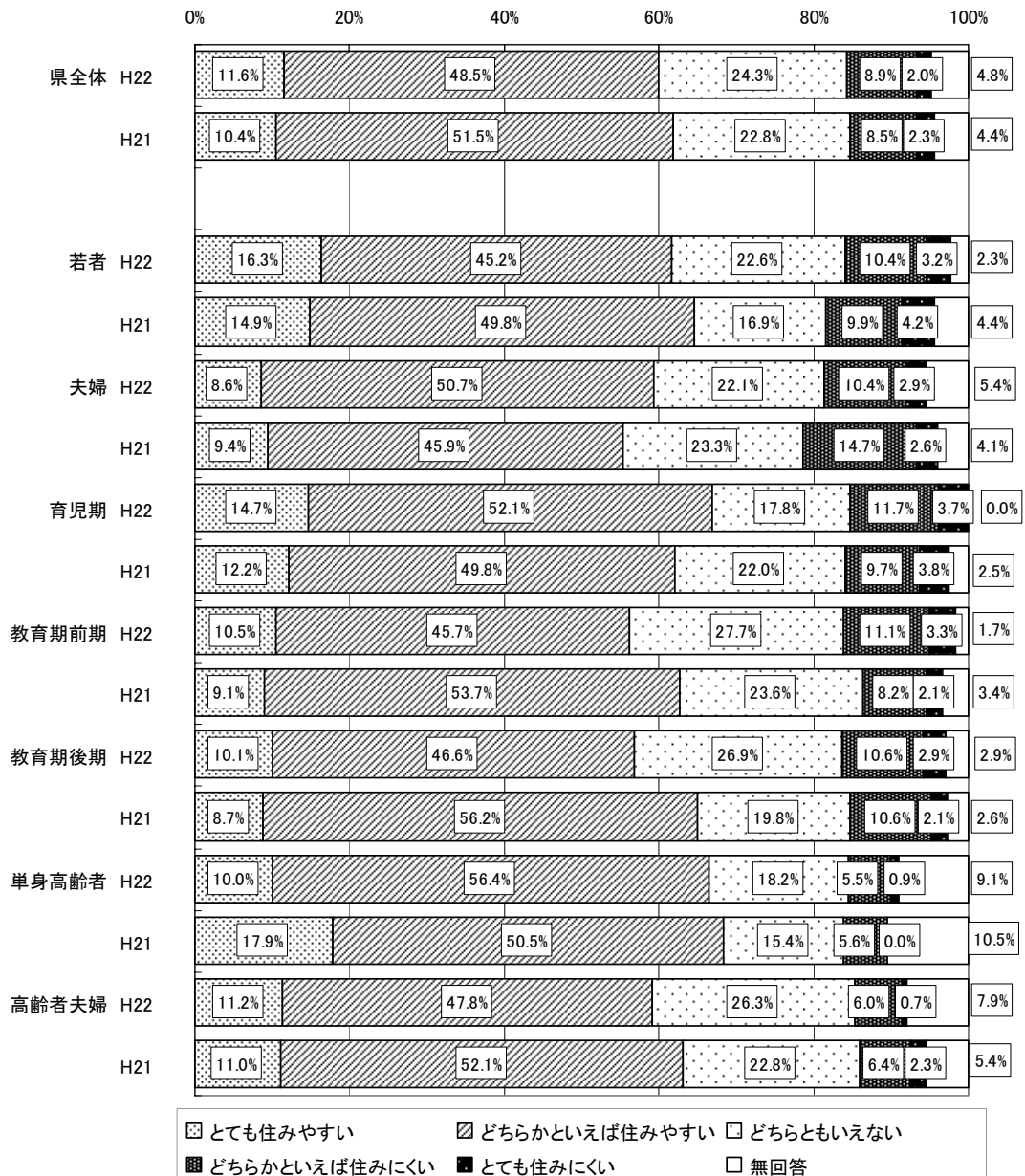
■年齢別

「住みやすい」と感じている人は「40歳代」(57.6%)、「50歳代」(58.5%)、「60歳代」(58.9%)で少なくなっています。一方、「住みにくい」と感じている人は、「60歳代」以上(60歳代：8.8%、70歳以上：7.5%)で少なく、「50歳代」以下(20歳代：13.4%、30歳代：14.0%、40歳代：12.1%、50歳代：13.8%)で多くなっています。

平成21年度と比較すると、「住みやすい」と感じている人は「30歳代」を除く全ての年齢層で減少しており、特に「70歳以上」では3.8ポイントと減少幅が大きくなっています。



図表 奈良県の住みやすさの評価（単数回答／県全体、ライフステージ別）



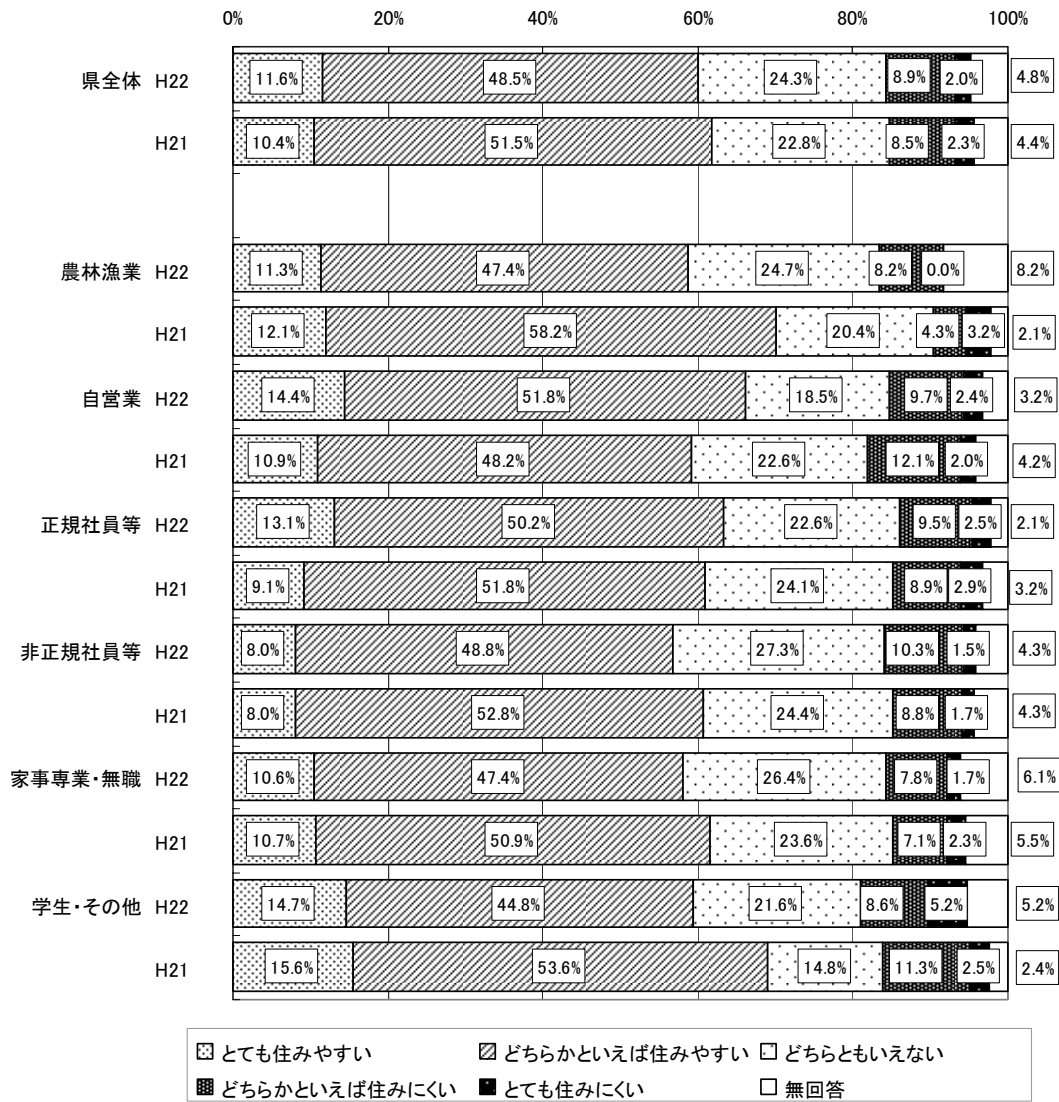
(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■ライフステージ別

「住みやすい」と感じている人は「育児期」(66.8%)で最も多くなっていますが、その一方で「住みにくい」と感じている人も「育児期」(15.4%)で最も多くなっています。

平成21年度と比較すると、「夫婦」と「育児期」を除く全てのライフステージで「住みやすい」と感じている人が減少しています。

図表 奈良県の住みやすさの評価（単数回答／県全体、職業別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■職業別

「住みやすい」と感じている人は「自営業」(66.2%)で最も多く、次いで「正規社員等」(63.3%)となっていますが、その他の職業では県全体よりも少なくなっています。

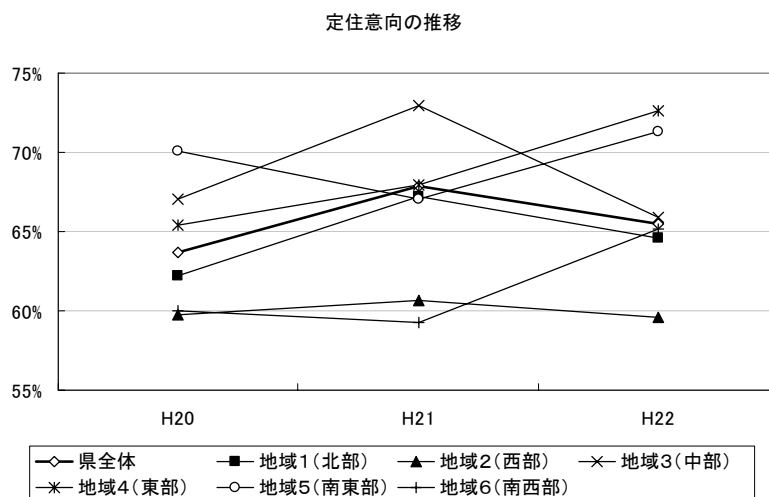
平成21年度と比較すると、「住みやすい」と感じている人は「自営業」と「正規社員等」で増加していますが、その他の職業では減少しており、特に「農林漁業」(11.6ポイント減)や「学生・その他」(9.7ポイント減)で減少幅が大きくなっています。

## 1-7 将来の奈良県での定住意向

### (1) 経年比較

図表 将来の奈良県での定住意向（単数回答／県全体、地域別）

		住 み た い
県全体	H20	63.7%
	H21	67.9%
	H22	65.5%
地域1(北部)	H20	62.2%
	H21	67.2%
	H22	64.6%
地域2(西部)	H20	59.8%
	H21	60.7%
	H22	59.6%
地域3(中部)	H20	67.1%
	H21	72.9%
	H22	65.9%
地域4(東部)	H20	65.4%
	H21	68.0%
	H22	72.6%
地域5(南東部)	H20	70.1%
	H21	67.0%
	H22	71.3%
地域6(南西部)	H20	60.0%
	H21	59.3%
	H22	65.2%



(注) 上記図表は、問7を「住みたい」（「ずっと住みたい」＋「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」）に再集計した結果である。

母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

#### ■県全体

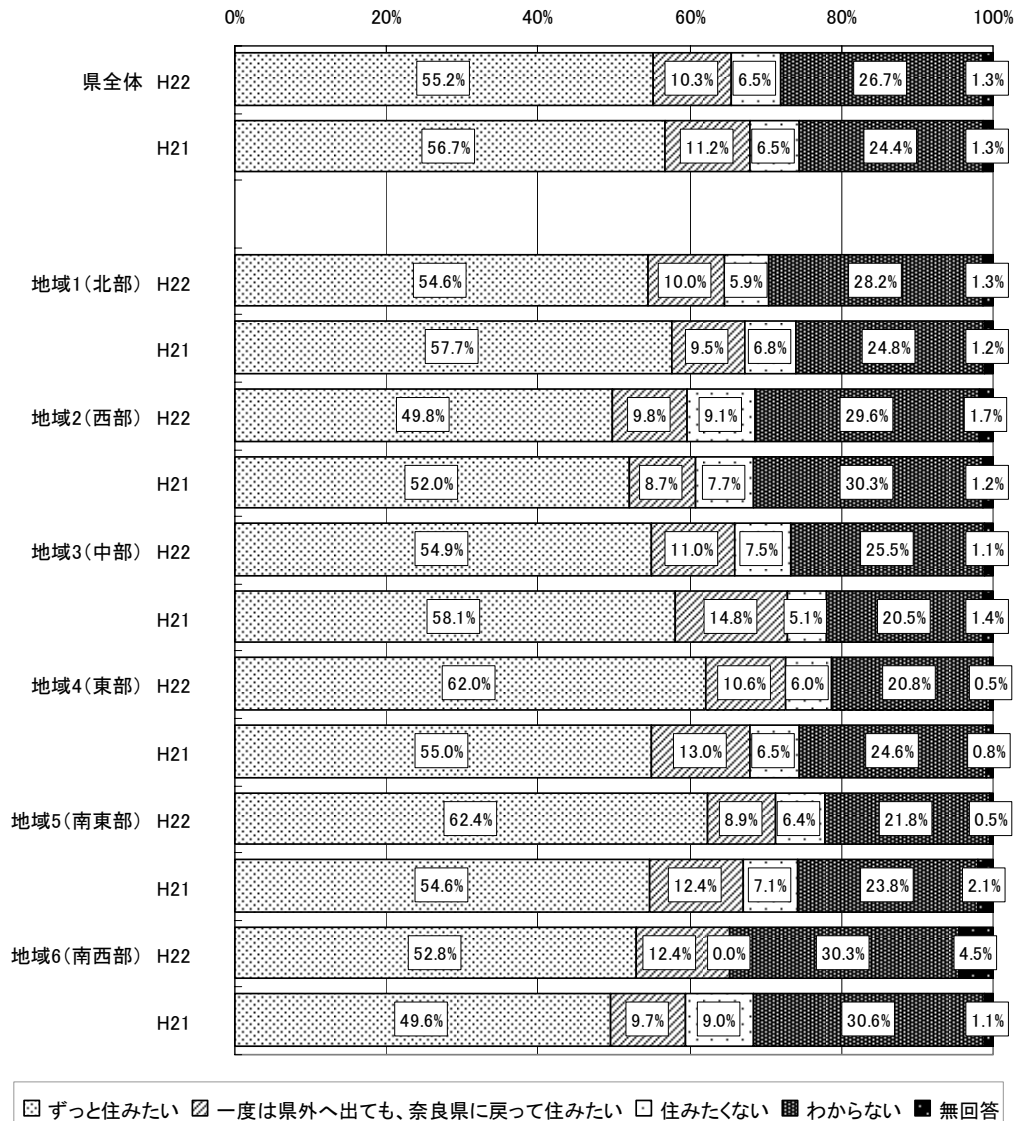
奈良県に「住みたい」と思っている人は65%前後で推移しています。

#### ■地域別

平成20年度から平成22年度にかけて、「地域2(西部)」と「地域6(南西部)」を除く地域で60%以上の人が定住意向を持っており、特に、「地域4(東部)」では毎年定住意向が高まっています。

## (2) 今年度調査結果

図表 将来の奈良県での定住意向（単数回答／県全体、地域別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

### ■県全体

将来の奈良県での定住意向については、55.2%の人が「ずっと住みたい」と考えています。「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と考えている人を合わせると、65.5%の人が奈良県に「住みたい」（「ずっと住みたい」＋「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」）と考えています。

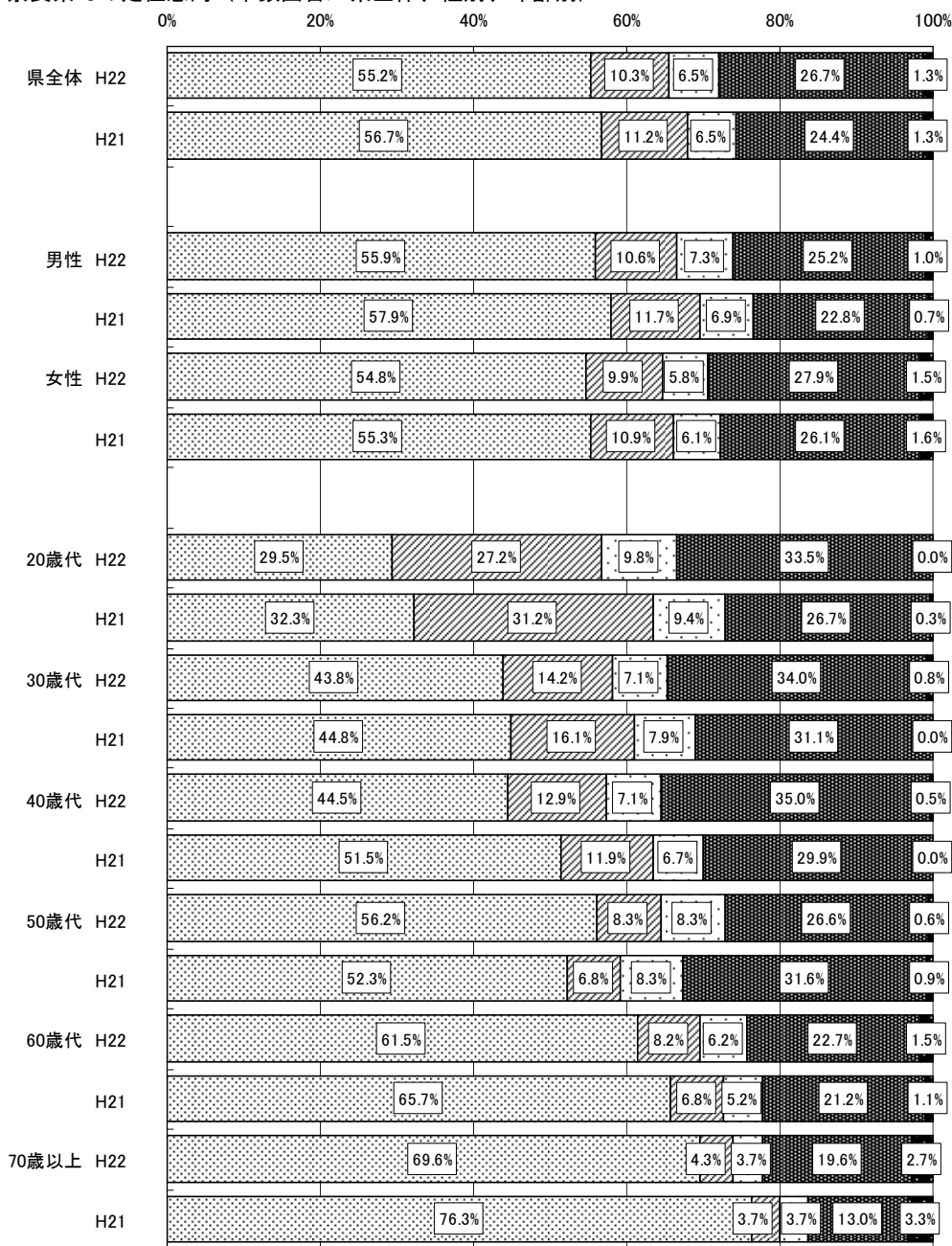
平成21年度と比較すると、「ずっと住みたい」が1.5ポイント、「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」が0.9ポイント減少しており、「住みたい」は2.4ポイント減少しています。

### ■地域別

「ずっと住みたい」と考えている人は「地域5(南東部)」で最も多くなっています。また、「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」を含めて「住みたい」と考えている人は「地域4(東部)」(72.6%)で最も多くなっています。

平成21年度と比較すると、「住みたい」と考えている人は、「地域3(中部)」で7.0ポイント減少しており、他地域に比べて減少幅が大きくなっています。

図表 将来の奈良県での定住意向（単数回答／県全体、性別、年齢別）



ずっと住みたい
  一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい
  住みたくない
  わからない
  無回答

(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

奈良県に「住みたい」と考えている人は、「男性」(66.5%)が「女性」(64.7%)に比べて多くなっています。

平成21年度と比較すると、男女ともに「住みたい」と考えている人が減少しています。

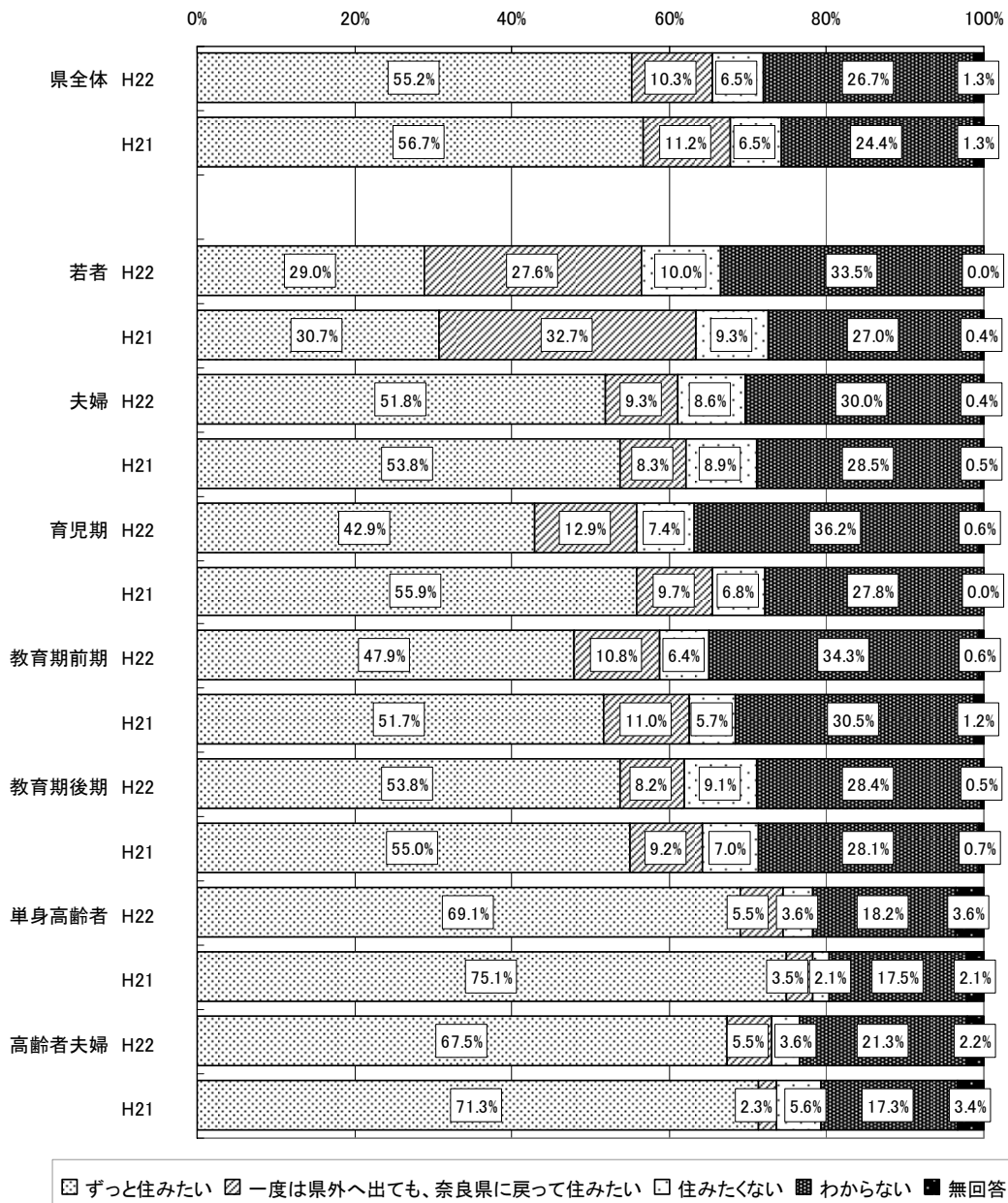
■年齢別

「ずっと住みたい」と考えている人は年齢層が高いほど多く、「50歳代」以上では半数以上を占めています。

「ずっと住みたい」と考えている人は「20歳代」で最も少なくなっています。一方で、「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と考えている人は「20歳代」で最も多く、将来的に奈良県で「住みたい」と考えている「20歳代」は56.7%となっています。

平成21年度と比較すると、「50歳代」を除く全ての年齢層で「住みたい」と考えている人が減少しています。

図表 将来の奈良県での定住意向（単数回答／県全体、ライフステージ別）



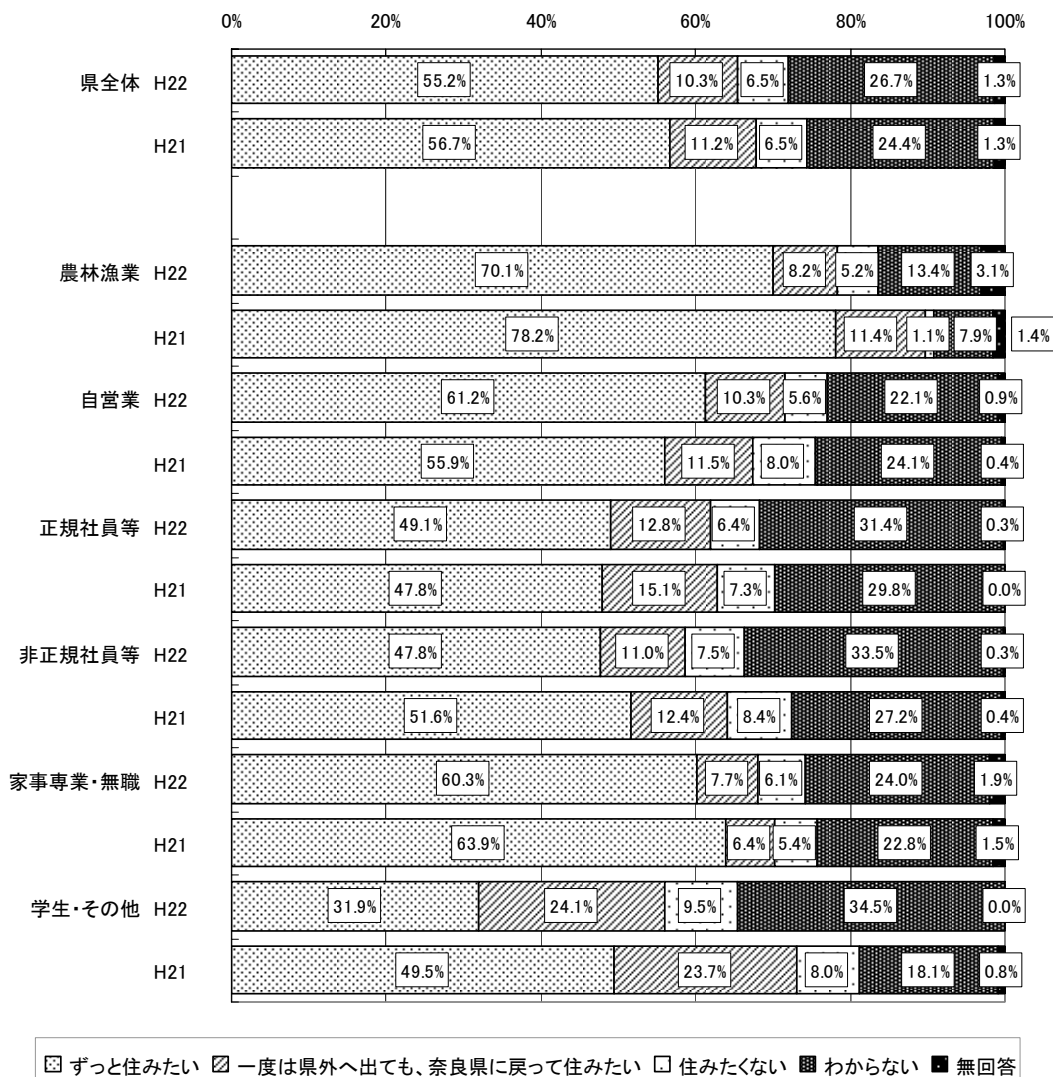
(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■ライフステージ別

「若者」では「ずっと住みたい」と考えている人が最も少ない一方で、「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と考えている人は最も多く、将来的に奈良県で「住みたい」と考えている人は56.6%となっています。

平成21年度と比較すると、全てのライフステージで「住みたい」と考えている人は減少しており、「育児期」（9.8ポイント減）や「若者」（6.8ポイント減）で減少幅が大きくなっています。

図表 将来の奈良県での定住意向（単数回答／県全体、職業別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■職業別

「ずっと住みたい」と考えている人は「農林漁業」で最も多く、「正規社員等」、「非正規社員等」、「学生・その他」で少なくなっています。ただし、「学生・その他」では、「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と考えている人が多く、将来的に奈良県で「住みたい」と考えている人は56.0%となっています。

平成21年度と比較すると、「自営業」を除く全ての職業で「住みたい」と考えている人は減少しており、「農林漁業」(11.3ポイント減)や「学生・その他」(17.2ポイント減)で減少幅が大きくなっています。

# 1-8 将来的に奈良県に定住したくない理由

## (1) 今年度調査結果

図表 将来的に奈良県に定住したくない理由

(複数回答/県全体、地域別、性別、年齢別、ライフステージ別、職業別)

(上段：平成22年度結果、下段：前年度からの増減値)

	医療が充実していないから	買物など日常生活環境が整っていないから	福祉サービスが充実していないから	通勤・通学に不便だから	身近に文化やスポーツに親しめる場が少ないから	奈良県や身近な地域に愛着を感じないから	教育環境が充実していないから	災害を防ぐための対策が不十分だから	治安を守るための対策が不十分だから	家賃など住居費が高いから	騒音・振動・大気汚染など周辺環境がよくないから	緑などの自然環境がよくないから	その他
県全体	45.5%	39.2%	32.1%	30.3%	23.2%	20.7%	13.5%	12.4%	10.5%	8.1%	7.2%	3.5%	22.4%
地域別													
地域1(北部)	42.0%	35.1%	29.4%	23.3%	24.0%	23.3%	11.8%	11.8%	11.5%	7.4%	9.2%	4.8%	23.5%
地域2(西部)	47.7%	41.4%	33.3%	29.7%	21.6%	18.0%	15.3%	14.4%	12.6%	6.3%	6.3%	4.5%	26.1%
地域3(中部)	44.8%	35.5%	38.0%	33.3%	23.1%	21.4%	13.7%	8.5%	10.7%	9.0%	5.1%	2.6%	24.4%
地域4(東部)	39.7%	50.0%	24.1%	46.6%	25.9%	17.2%	20.7%	13.8%	6.9%	12.1%	6.9%	0.0%	13.8%
地域5(南東部)	59.6%	61.4%	33.3%	38.6%	15.8%	12.3%	14.0%	26.3%	3.5%	5.3%	1.8%	0.0%	12.3%
地域6(南西部)	81.5%	63.0%	37.0%	74.1%	25.9%	7.4%	18.5%	14.8%	3.7%	18.5%	7.4%	0.0%	11.1%
性別													
男性	46.3%	38.1%	34.5%	28.1%	22.3%	23.3%	10.1%	12.2%	12.0%	8.2%	9.1%	4.1%	24.5%
女性	45.0%	40.2%	30.2%	32.1%	23.9%	18.8%	16.3%	12.3%	9.3%	8.2%	5.7%	3.0%	20.9%
年齢別													
20歳代	38.1%	45.4%	22.7%	45.4%	23.7%	15.5%	19.6%	6.2%	6.2%	7.2%	3.1%	1.0%	24.7%
30歳代	44.7%	32.7%	22.0%	36.0%	28.0%	20.7%	24.0%	11.3%	12.0%	8.7%	3.3%	4.0%	24.7%
40歳代	46.8%	29.9%	27.1%	35.0%	19.8%	20.3%	18.6%	8.5%	7.3%	7.9%	6.2%	1.7%	25.4%
50歳代	51.7%	36.6%	36.6%	34.3%	23.3%	22.7%	7.6%	12.8%	11.6%	9.9%	10.5%	4.7%	22.1%
60歳代	44.9%	44.4%	40.6%	25.7%	22.5%	25.1%	11.2%	13.9%	8.6%	7.0%	9.6%	3.2%	26.2%
70歳以上	43.2%	48.8%	38.3%	12.3%	22.8%	17.3%	3.7%	18.5%	16.0%	8.0%	8.0%	5.6%	11.7%
ライフステージ別													
若者	37.5%	45.6%	21.9%	45.6%	24.0%	15.6%	19.8%	6.3%	6.3%	7.3%	3.1%	1.0%	25.0%
夫婦	50.9%	34.3%	38.0%	25.0%	21.3%	22.2%	7.4%	12.0%	7.4%	8.3%	7.4%	2.8%	28.7%
育児期	43.7%	33.8%	22.5%	32.4%	25.4%	23.9%	32.4%	9.9%	7.0%	5.6%	5.6%	7.0%	19.7%
教育期前期	49.0%	29.3%	28.6%	32.7%	23.1%	21.1%	29.3%	10.9%	9.5%	7.5%	2.7%	2.0%	23.8%
教育期後期	51.3%	32.1%	37.2%	34.6%	15.4%	26.9%	12.8%	9.0%	3.8%	6.4%	7.7%	1.3%	26.9%
単身高齢者	25.0%	33.3%	33.3%	4.2%	25.0%	8.3%	8.3%	20.8%	8.3%	4.2%	4.2%	4.2%	29.2%
高齢者夫婦	49.0%	47.1%	45.2%	8.7%	24.0%	29.8%	4.8%	20.2%	21.2%	10.6%	7.7%	5.8%	12.5%
職業別													
農林漁業	38.9%	61.1%	16.7%	50.0%	22.2%	33.3%	16.7%	11.1%	11.1%	5.6%	11.1%	11.1%	11.1%
自営業	42.6%	37.2%	35.1%	21.3%	17.0%	26.6%	13.8%	10.6%	16.0%	7.4%	7.4%	2.1%	26.6%
正規社員等	47.6%	31.6%	30.3%	34.6%	23.8%	16.9%	13.9%	7.4%	10.4%	5.6%	7.8%	2.2%	24.7%
非正規社員等	46.3%	40.2%	28.7%	37.2%	20.1%	24.4%	14.6%	11.6%	7.3%	13.4%	4.3%	2.4%	22.6%
家事専業・無職	46.7%	42.9%	34.8%	25.5%	23.6%	19.8%	12.8%	16.3%	9.8%	6.8%	8.2%	4.9%	19.6%
学生・その他	35.3%	41.2%	31.4%	41.2%	31.4%	21.6%	15.7%	7.8%	9.8%	5.9%	3.9%	0.0%	31.4%

(注) 集計結果は「県全体」の平成22年度の結果が多い項目順に並べている。

太字は「その他」を除いた平成22年度の結果の各属性区分の上位3項目(斜体は同率)を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。また、網かけは平成21年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。母数は「住みたくない」もしくは「わからない」と回答した人数であり、4~7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。



## ■県全体

将来的に奈良県に「住みたくない」人と「わからない」人に対して、その理由をたずねたところ、「医療が充実していないから」（45.5%）が最も多く、以下、「買物など日常の生活環境が整っていないから」（39.2%）、「福祉サービスが充実していないから」（32.1%）と続いています。

平成21年度と比較すると、上位4項目は同じ項目であり、その他の項目についても大きな順位変動はありません。

「その他」の意見としては、住みたくない理由として「道路整備の遅れなどの道路問題」、「将来のビジョンが見えないといった県政への不満」、「公共交通の便が悪い、料金が安い」などが、分からない理由として「出身地や親元、子供のところに引っ越すかもしれない」、「情報や住んだことがなく他県と比較できない」などが多く挙げられています。

## ■地域別

「地域1（北部）」、「地域2（西部）」、「地域3（中部）」、「地域6（南西部）」では「医療が充実していないから」が、「地域4（東部）」、「地域5（南東部）」では「買物など日常の生活環境が整っていないから」がそれぞれ最も多い理由となっています。

平成21年度と比較すると、「地域6（南西部）」の「医療が充実していないから」の増加の幅が19.7ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は「地域2（西部）」の「医療が充実していないから」および「買物など日常の生活環境が整っていないから」、「地域3（中部）」の「医療が充実していないから」および「通勤・通学に不便だから」、「地域4（東部）」の「家賃など住居費が高いから」、「地域5（南東部）」の「災害を防ぐための対策が不十分だから」、「地域6（南西部）」の「買物など日常の生活環境が整っていないから」、「通勤・通学に不便だから」および「家賃など住居費が高いから」となっています。

## ■性別

男女ともに「医療が充実していないから」が最も多くなっており、平成21年度と比較しても、男女ともに大幅に増減した項目はみられません。

## ■年齢別

「20歳代」では「買物など日常の生活環境が整っていないから」と「通勤・通学に不便だから」が同率で、「70歳以上」では「買物など日常の生活環境が整っていないから」が、その他の年齢層では「医療が充実していないから」が最も多くなっています。顕著な傾向ではありませんが、「福祉サービスが充実していないから」や「災害を防ぐための対策が不十分だから」は年齢層が高いほど多い傾向となっています。

平成21年度と比較すると、「70歳以上」の「買物など日常の生活環境が整っていないから」の増加の幅が10.5ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は「20歳代」の「医療が充実していないから」および「教育環境が充実していないから」、「30歳代」の「災害を防ぐための対策が不十分だから」、「50歳代」の「通勤・通学に不便だから」、「60歳代」の「買物など日常の生活環境が整っていないから」および「教育環境が充実していないから」、「70歳以上」の「医療が充実していないから」となっています。

## ■ライフステージ別

「若者」では「買物など日常の生活環境が整っていないから」と「通勤・通学に不便だから」が同率で、「単身高齢者」では「買物など日常の生活環境が整っていないから」と「福祉サービスが充実していないから」が同率で、その他のライフステージでは「医療が充実していないから」が最も

多くなっています。

平成21年度と比較すると、「高齢者夫婦」の「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」の増加の幅が15.2ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は「若者」の「医療が充実していないから」および「教育環境が充実していないから」、「育児期」の「通勤・通学に不便だから」、「教育期後期」の「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」、「単身高齢者」の「買物など日常の生活環境が整っていないから」および「教育環境が充実していないから」、「高齢者夫婦」の「買物など日常の生活環境が整っていないから」となっています。

#### ■職業別

「農林漁業」では「買物など日常の生活環境が整っていないから」が、「学生・その他」では「買物など日常の生活環境が整っていないから」と「通勤・通学に不便だから」が同率で、その他の職業では「医療が充実していないから」が最も多くなっています。

平成21年度と比較すると、「農林漁業」の「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」の増加の幅が33.3ポイントと最も大きくなっています。それ以外に5ポイント以上増加した項目は「農林漁業」の「買物など日常の生活環境が整っていないから」および「緑などの自然環境がよくないから」、「自営業」の「買物など日常の生活環境が整っていないから」、「非正規社員等」の「医療が充実していないから」、「家事専業・無職」の「買物など日常の生活環境が整っていないから」および「通勤・通学に不便だから」、「学生・その他」の「福祉サービスが充実していないから」および「身近に文化やスポーツに親しめる場が少ないから」となっています。

## (2) 住みにくく移住したいと考えている人の理由

図表 住みにくく移住したいと考えている人の理由（設問間クロス／県全体）

順位	設問番号	問8 定住しない理由	件数
1	9	医療が充実していないから	74 63.2%
2	1	買物など日常の生活環境が整っていないから	61 52.1%
3	3	通勤・通学に不便だから	43 36.8%
3	10	福祉サービスが充実していないから	43 36.8%
5	2	奈良県や身近な地域に愛着を感じないから	42 35.9%
6	5	教育環境が充実していないから	28 23.9%
7	13	その他	27 23.1%
8	6	身近に文化やスポーツに親しめる場が少ないから	23 19.7%
9	8	治安を守るための対策が不十分だから	20 17.1%
10	7	災害を防ぐための対策が不十分だから	18 15.4%
11	4	家賃など住居費が高いから	15 12.8%
11	11	騒音・振動・大気汚染など周辺環境がよくないから	15 12.8%
13	12	緑などの自然環境がよくないから	3 2.6%
対象者数			117 100.0%

(注) 上記図表は奈良県が「住みにくい」ため「移住したい」と考えている回答者がどのような理由で移住したいのかを把握するため、問6、問7、問8のクロス集計を行った結果である。

なお、順位は少数第2位以下も考慮し決定している。

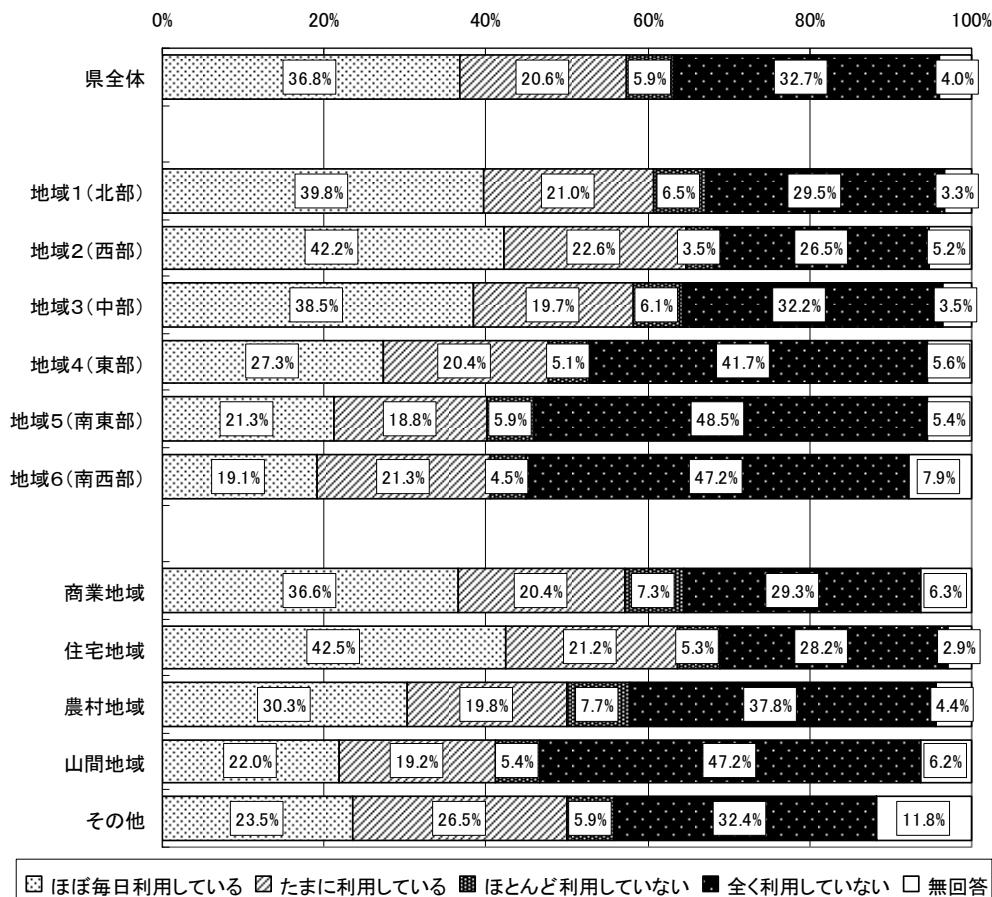
対象者数は、問6「住みにくい」（「どちらかといえば住みにくい」＋「とても住みにくい」）と回答し、なおかつ、問7で「住みたくない」と回答した人の人数である。

奈良県から移住したい理由として、医療や買物などの生活環境が充実していないことを挙げる回答者が50%以上となっています。

また、「奈良県や身近な地域に愛着を感じない」ということも35.9%と5番目に多い理由として挙げられています。

## 1-9 インターネットの利用状況

図表 インターネットの利用状況（単数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

### ■県全体

県全体でインターネットを「利用している」（「ほぼ毎日利用している」＋「たまに利用している」）人は57.4%で、「利用していない」（「ほとんど利用していない」＋「全く利用していない」）人は38.6%となっています。

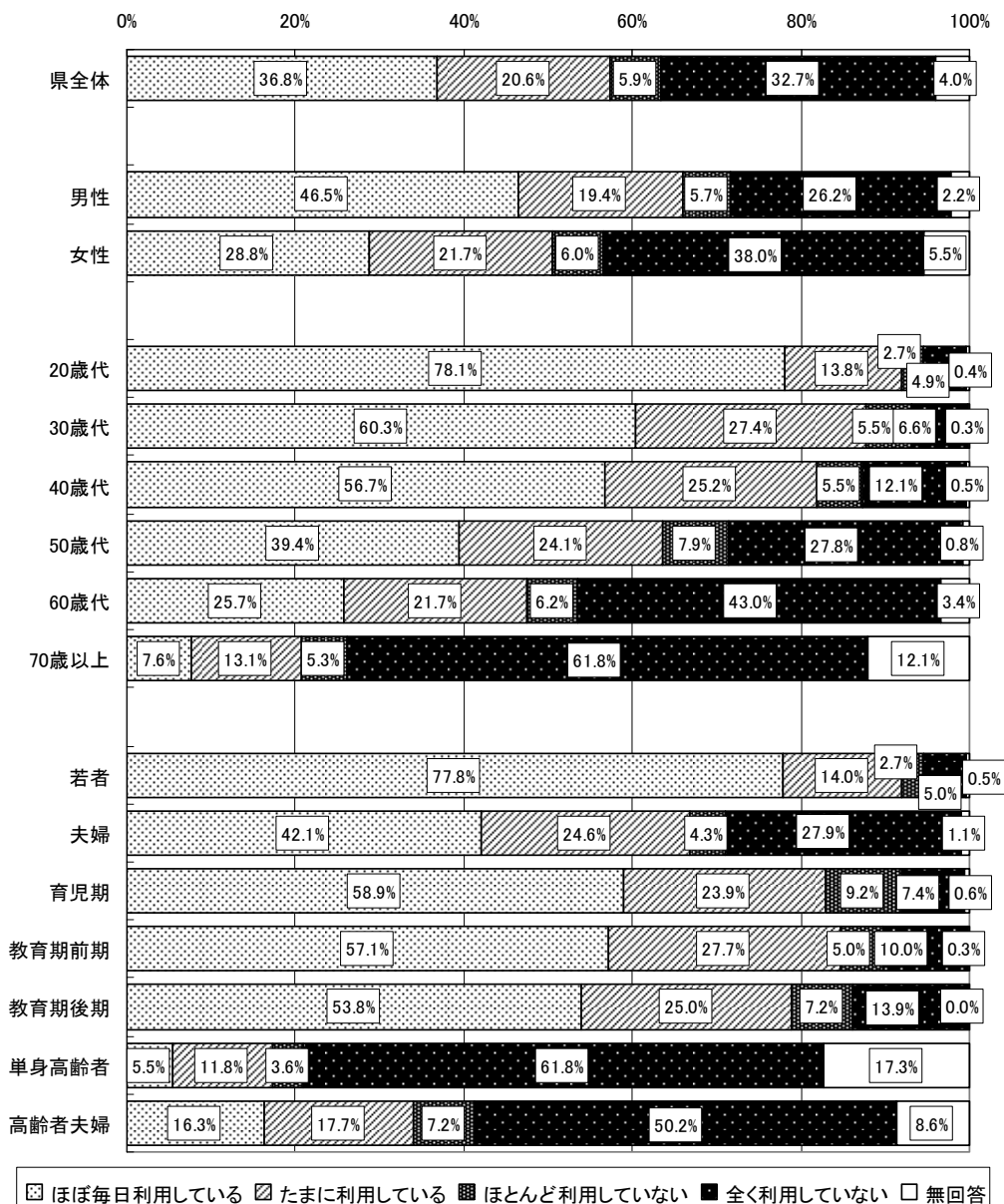
### ■地域別

「利用している」人は「地域1(北部)」(60.8%)、「地域2(西部)」(64.8%)、「地域3(中部)」(58.2%)で多く、「地域4(東部)」(47.7%)、「地域5(南東部)」(40.1%)、「地域6(南西部)」(40.4%)で少なくなっています。

### ■居住地域の状況別

「利用している」人は「住宅地域」(63.7%)で最も多く、「山間地域」(41.2%)で最も少なくなっています。

図表 インターネットの利用状況（単数回答／県全体、性別、年齢別、ライフステージ別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

「利用している」人は、「男性」(65.9%)が「女性」(50.5%)に比べ15.4ポイント多くなっています。

■年齢別

「利用している」人は「20歳代」(91.9%)が最も多く、「30歳代」(87.7%)と「40歳代」(81.9%)でも80%を超えています。年齢層が高くなるにつれて利用率は低下し、「70歳以上」では20.7%となっています。

■ライフステージ別

「利用している」人は「若者」(91.8%)で最も多く、「夫婦」(66.7%)、「育児期」(82.8%)、「教育期前期」(84.8%)、「教育期後期」(78.8%)でも多くなっていますが、「単身高齢者」(17.3%)と「高齢者夫婦」(34.0%)では少なく、特に「単身高齢者」で少なくなっています。

## 2 県民の身近な生活に関する項目の重要度・満足度について

### 2-1 県全体の重要度・満足度・ニーズ得点の順位

#### (1) 重要度の順位

図表 県全体の重要度の順位（平成22年度調査の重要度の高い順）

順位	項目番号	項目	重要度		
			H22	H21	H20
1	19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.61	4.66	4.66
2	14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.51	4.56	4.65
3	7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.41	4.45	4.60
4	20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.40	4.46	4.58
5	22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.39	4.43	4.35
6	29	失業の不安がなく働けること	4.36	4.41	4.40
7	11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.36	4.39	4.55
8	12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.33	4.34	4.46
9	24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.23	4.25	4.29
10	23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.22	4.23	4.25
11	21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.18	4.19	4.17
12	13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	4.13	4.14	4.31
13	2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.12	4.08	4.09
14	18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	4.07	4.13	4.18
15	31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	4.05	4.09	3.90
16	8	文化遺産や史跡が大事にされること	4.01	3.99	3.97
17	25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.01	4.00	4.18
18	5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	3.97	3.97	4.22
19	26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.94	3.96	3.98
20	28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.93	4.01	4.28
21	1	品揃えの豊富な店が近くにあること	3.91	3.85	3.73
22	15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.85	3.84	3.69
23	9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.84	3.86	3.97
24	6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.81	3.82	3.94
25	27	一人ひとりが普通の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.80	3.93	4.15
26	30	県内で買いたいものが販売されていること	3.79	3.82	3.80
27	17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.68	3.73	4.02
28	10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.51	3.55	3.64
29	4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.34	3.33	3.38
30	3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.34	3.35	3.35
31	16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.10	3.10	3.22
項目全体の平均			4.01	4.03	4.10

(注) 集計結果は「県全体」の平成22年度の結果が大きい項目順に並べている。

点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

下線は前年度より重要度が上昇したこと、網かけは2年間連続で重要度が上昇したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、前年度と点数が同じ場合にも下線を付していることがある。

「県民の身近な項目」は、平成21年度と平成22年度の項目数は31項目であるのに対し、平成20年度は82項目設定されていた。昨年度報告書では平成20年度には82項目の平均が記載されていたが31項目で再集計したため、昨年度報告書とは平均値が異なる。

医療・介護、暮らしの安全にかかわる項目の重要度が高くなっています。

平成21年度に比べて重要度が増加したのは7項目で、その他24項目では重要度は低下しています。

## (2) 満足度の順位

図表 県全体の満足度の順位（平成22年度調査の満足度の高い順）

順位	項目番号	項目	満足度		
			H22	H21	H20
1	8	文化遺産や史跡が大事にされること	3.51	3.49	3.40
2	12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	3.25	3.18	2.76
3	26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.16	<u>3.14</u>	3.25
4	28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.11	<u>3.05</u>	3.08
5	1	品揃えの豊富な店が近くにあること	3.10	3.01	3.01
6	4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.09	3.08	2.95
7	2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	3.09	3.03	2.95
8	14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	3.03	3.02	2.62
9	9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	2.99	<u>2.98</u>	2.99
10	30	県内で買いたいものが販売されていること	2.98	2.95	2.95
11	25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	2.94	2.87	2.70
12	3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	<u>2.94</u>	2.95	2.87
13	24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	<u>2.92</u>	2.93	2.90
14	7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	2.90	2.89	2.64
15	5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	2.89	2.88	2.83
16	10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	2.88	2.85	2.84
17	6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	<u>2.87</u>	2.87	2.80
18	16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	2.85	2.83	2.75
19	22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	2.82	2.78	2.73
20	27	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	2.80	2.74	2.64
21	11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	2.79	2.76	2.52
22	17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	2.78	<u>2.76</u>	2.84
23	13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	2.76	2.72	2.52
24	21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	2.75	2.74	2.69
25	23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	2.71	2.67	2.60
26	19	急病時に診てもらえる医療機関があること	2.70	2.68	2.62
27	15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	<u>2.65</u>	2.66	2.63
28	18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	2.52	2.45	2.39
29	20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	2.51	2.43	2.35
30	29	失業の不安がなく働けること	2.51	<u>2.47</u>	2.62
31	31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	2.48	<u>2.47</u>	2.47
項目全体の平均			2.88	2.85	2.77

(注) 集計結果は「県全体」の平成22年度の結果が大きい項目順に並べている。

点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

下線は前年度より満足度が低下したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、前年度と点数が同じ場合にも下線を付していることがある。

「県民の身近な項目」は、平成21年度と平成22年度の項目数は31項目であるのに対し、平成20年度は82項目設定されていた。昨年度報告書では平成20年度には82項目の平均が記載されていたが31項目で再集計したため、昨年度報告書とは平均値が異なる。

職業や医療、政治への住民意向の反映、地域の活気や魅力などに関する満足度が低くなっています。

平成21年度に比べて満足度が減少したのは4項目で、その他27項目では満足度は増加しています。

### (3) ニーズ得点の順位

図表 県全体のニーズ得点の順位（平成22年度調査のニーズ得点の高い順）

順位	項目番号	項目	ニーズ得点		
			H22	H21	H20
1	20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	15.38	15.93	16.75
2	29	失業の不安がなく働けること	15.25	<u>15.56</u>	14.87
3	19	急病時に診てもらえる医療機関があること	15.22	15.47	15.77
4	31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	14.23	<u>14.45</u>	13.76
5	18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	14.16	14.66	15.08
6	11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	14.02	14.22	15.81
7	22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	13.95	<u>14.26</u>	14.24
8	23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	13.90	14.09	14.45
9	7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	13.69	13.85	15.43
10	21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	13.57	13.65	13.83
11	13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	13.40	13.59	15.00
12	14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	13.39	13.60	15.74
13	24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	13.03	13.05	13.28
14	15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	<u>12.89</u>	<u>12.85</u>	12.45
15	5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	12.34	12.38	13.37
16	25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	12.26	12.49	13.79
17	27	一人ひとりが普通の生活においてCO2削減に取り組むこと	12.18	12.81	13.93
18	2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	12.00	12.13	12.46
19	6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	11.94	11.96	12.62
20	12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	11.90	12.24	14.43
21	17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	11.85	12.09	12.69
22	9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	11.58	11.64	11.95
23	30	県内で買いたいものが販売されていること	11.44	<u>11.64</u>	11.61
24	1	品揃えの豊富な店が近くにあること	11.37	<u>11.52</u>	11.18
25	28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	11.36	11.82	12.50
26	26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	11.18	<u>11.34</u>	10.94
27	10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	10.96	11.16	11.52
28	3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	10.22	10.22	10.48
29	8	文化遺産や史跡が大事にされること	10.00	10.02	10.31
30	16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	9.76	9.81	10.46
31	4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	<u>9.72</u>	9.72	10.32

(注) 集計結果は「県全体」の平成22年度の結果が大きい項目順に並べている。

点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。

下線は前年度よりニーズ得点が増加したこと、網かけは2年間連続でニーズ得点が増加したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、前年度と点数が同じ場合にも下線を付していることがある。

職業や医療、政治への住民意向の反映などに関するニーズ得点が高くなっています。

平成21年度に比べてニーズ得点が増加したのは2項目で、その他29項目ではニーズ得点は低下しています。



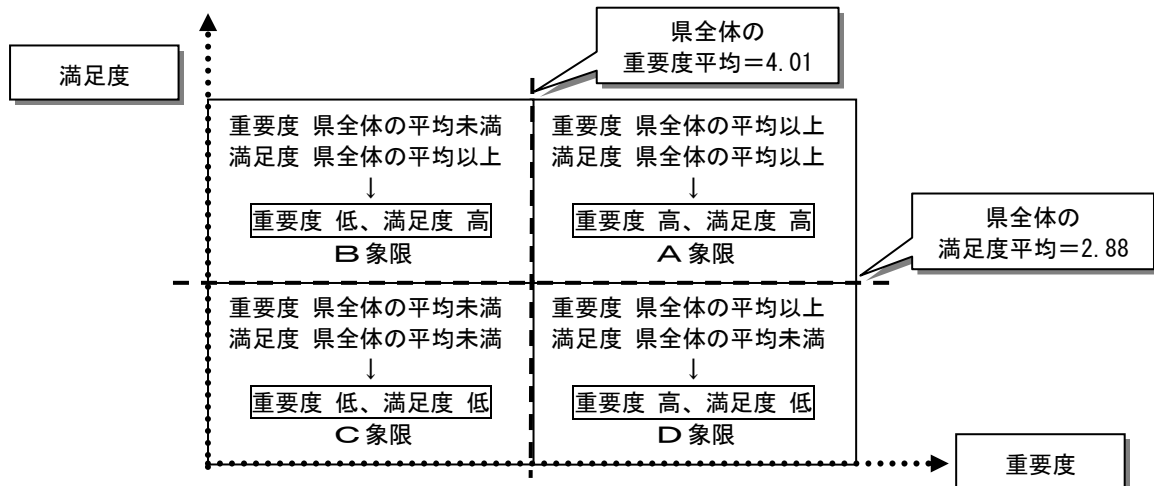
## 2-2 県全体の重要度と満足度の関係

### (1) 重要度と満足度の関係についての考え方

「県民の身近な生活に関する項目」31項目全体での重要度と満足度の平均点を県全体で求め、各平均点と31項目それぞれの重要度・満足度の対応を分析します。

31項目それぞれの重要度・満足度の評価は、「重要度が高く、満足度が高い (A象限)」「重要度が低く、満足度が高い (B象限)」「重要度が低く、満足度が低い (C象限)」「重要度が高く、満足度が低い (D象限)」という4つの象限でその関係を整理することができます。

図表 県全体の重要度と満足度の平均点及び31項目の重要度と満足度の関係図



31項目それぞれがどの象限に位置し、県全体の重要度と満足度の平均点に対して重要度あるいは満足度が高いのか、低いのかを検討する際には、以下の点に留意する必要があります。

今回の調査の重要度・満足度それぞれの評価の中間は「どちらともいえない=3.00」ですが、県全体の31項目全体での重要度の平均点は4.01、満足度の平均点は2.88です。重要度は「かなり重要」、満足度は「あまり満たされていない」という評価だといえます。

このことから、重要度については、県全体の重要度の平均点 (4.01) が「どちらともいえない」よりも高いことから、県全体の重要度の平均点と「どちらともいえない」の間に属する項目は、県全体の重要度に比べて低い評価になりますが、今回の調査では31項目すべてが3.01以上であり、すべての項目が「重要である」という評価だということになります。

また、満足度については、県全体の満足度の平均点 (2.88) が「どちらともいえない」よりも低いことから、県全体の満足度の平均点と2.99 (「どちらともいえない」未満) の間に属する項目は、県全体の満足度に比べて高い評価になりますが、厳密には、「あまり満たされていないが、県全体の満足度の平均点からみると満足度は高いほうだ」という解釈ができることとなります。

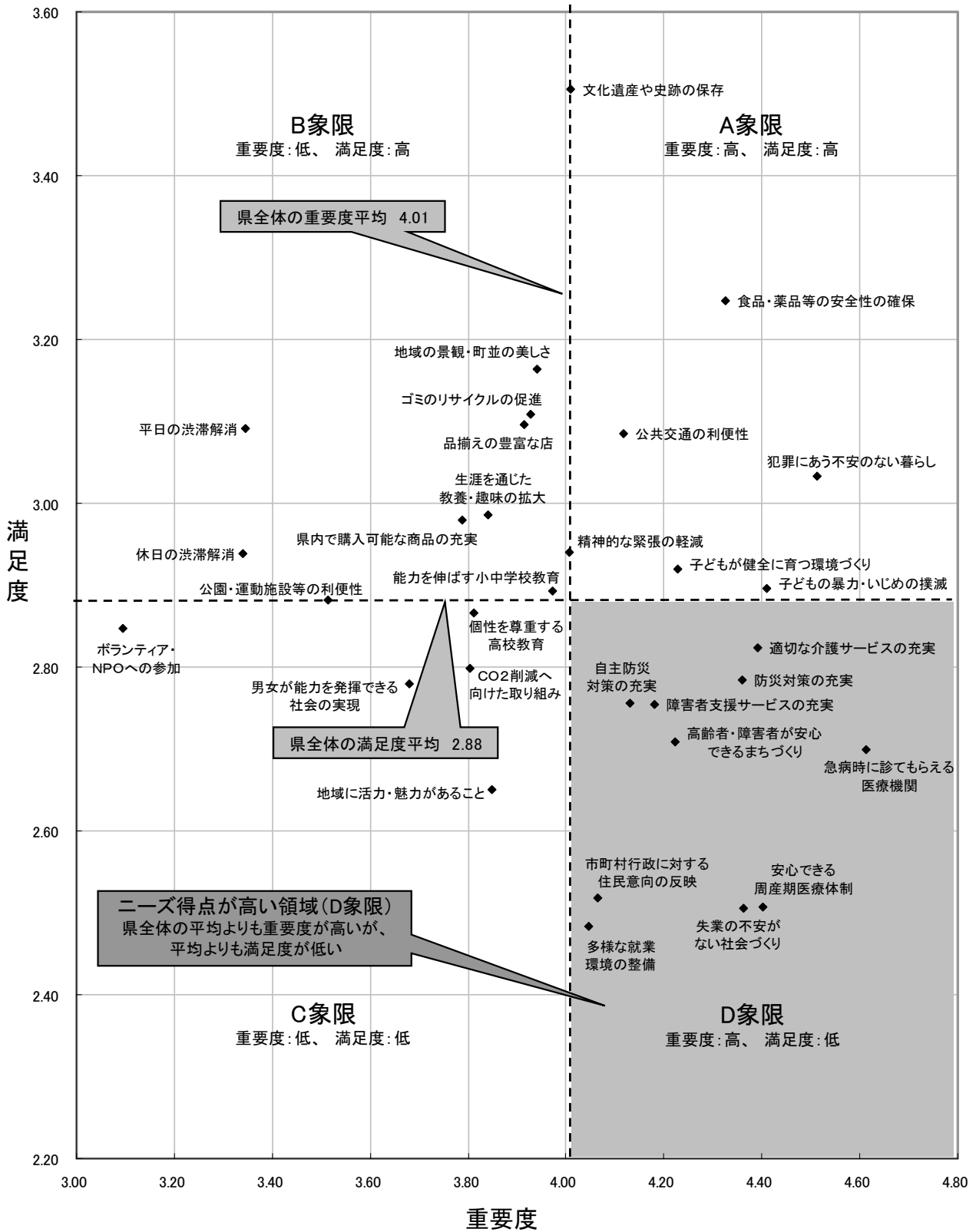
(2) 県民の身近な生活に関する31項目の重要度と満足度の関係

項目と項目の略称との対応及び重要度・満足度・ニーズ得点の一覧（ニーズ得点の高い順）

順位	項目番号	項目	項目の略称	重要度	満足度	ニーズ得点
1	20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	安心してできる周産期医療体制	4.40	2.51	15.38
2	29	失業の不安がなく働けること	失業の不安がない社会づくり	4.36	2.51	15.25
3	19	急病時に診てもらえる医療機関があること	急病時に診てもらえる医療機関	4.61	2.70	15.22
4	31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	多様な就業環境の整備	4.05	2.48	14.23
5	18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	市町村行政に対する住民意向の反映	4.07	2.52	14.16
6	11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	防災対策の充実	4.36	2.79	14.02
7	22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	適切な介護サービスの充実	4.39	2.82	13.95
8	23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.22	2.71	13.90
9	7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.41	2.90	13.69
10	21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	障害者支援サービスの充実	4.18	2.75	13.57
11	13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	自主防災対策の充実	4.13	2.76	13.40
12	14	住民が犯罪に遭うことなく、その不安も感じることなく暮らせること	犯罪にあう不安のない暮らし	4.51	3.03	13.39
13	24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	子どもが健全に育つ環境づくり	4.23	2.92	13.03
14	15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	地域に活力・魅力があること	3.85	2.65	12.89
15	5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	能力を伸ばす小中学校教育	3.97	2.89	12.34
16	25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	精神的な緊張の軽減	4.01	2.94	12.26
17	27	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	CO2削減へ向けた取り組み	3.80	2.80	12.18
18	2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	公共交通の利便性	4.12	3.09	12.00
19	6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	個性を尊重する高校教育	3.81	2.87	11.94
20	12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	食品・薬品等の安全性の確保	4.33	3.25	11.90
21	17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.68	2.78	11.85
22	9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.84	2.99	11.58
23	30	県内で買いたいものが販売されていること	県内で購入可能な商品の充実	3.79	2.98	11.44
24	1	品揃えの豊富な店が近くにあること	品揃えの豊富な店	3.91	3.10	11.37
25	28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	ゴミのリサイクルの促進	3.93	3.11	11.36
26	26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	地域の景観・町並の美しさ	3.94	3.16	11.18
27	10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	公園・運動施設等の利便性	3.51	2.88	10.96
28	3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	休日の渋滞解消	3.34	2.94	10.22
29	8	文化遺産や史跡が大事にされること	文化遺産や史跡の保存	4.01	3.51	10.00
30	16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	ボランティア・NPOへの参加	3.10	2.85	9.76
31	4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	平日の渋滞解消	3.34	3.09	9.72

(注) 点数表記は小数第2位までだが、順位決定には小数第3位以下も考慮している。

### 今回調査の重要度と満足度の関係図



「安心できる周産期医療体制」や「失業の不安がない社会づくり」、「救急医療の充実」などのニーズ得点が高いことが図から読み取れます。

(3) 県民の身近な生活に関する31項目の重要度と満足度の前回調査との比較

重要度と満足度の関係の前回調査との比較

項目番号	項目	重要度			満足度			ニーズ得点			重要度と満足度の関係		
		H22	H21	H20	H22	H21	H20	H22	H21	H20	H22	H21	H20
1	品揃えの豊富な店が近くにあること	3.91	3.85	3.73	3.10	3.01	3.01	11.37	11.52	11.18	B	B	B
2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.12	4.08	4.09	3.09	3.03	2.95	12.00	12.13	12.46	A	A	B
3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.34	3.35	3.35	2.94	2.95	2.87	10.22	10.22	10.48	B	B	B
4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.34	3.33	3.38	3.09	3.08	2.95	9.72	9.72	10.32	B	B	B
5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	3.97	3.97	4.22	2.89	2.88	2.83	12.34	12.38	13.37	B	B	A
6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.81	3.82	3.94	2.87	2.87	2.80	11.94	11.96	12.62	C	B	B
7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.41	4.45	4.60	2.90	2.89	2.64	13.69	13.85	15.43	A	A	D
8	文化遺産や史跡が大事にされること	4.01	3.99	3.97	3.51	3.49	3.40	10.00	10.02	10.31	A	B	B
9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.84	3.86	3.97	2.99	2.98	2.99	11.58	11.64	11.95	B	B	B
10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.51	3.55	3.64	2.88	2.85	2.84	10.96	11.16	11.52	B	B	B
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.36	4.39	4.55	2.79	2.76	2.52	14.02	14.22	15.81	D	D	D
12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.33	4.34	4.46	3.25	3.18	2.76	11.90	12.24	14.43	A	A	D
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていること	4.13	4.14	4.31	2.76	2.72	2.52	13.40	13.59	15.00	D	D	D
14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.51	4.56	4.65	3.03	3.02	2.62	13.39	13.60	15.74	A	A	D
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.85	3.84	3.69	2.65	2.66	2.63	12.89	12.85	12.45	C	C	C
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.10	3.10	3.22	2.85	2.83	2.75	9.76	9.81	10.46	C	C	C
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.68	3.73	4.02	2.78	2.76	2.84	11.85	12.09	12.69	C	C	B
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	4.07	4.13	4.18	2.52	2.45	2.39	14.16	14.66	15.08	D	D	D
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.61	4.66	4.66	2.70	2.68	2.62	15.22	15.47	15.77	D	D	D
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.40	4.46	4.58	2.51	2.43	2.35	15.38	15.93	16.75	D	D	D
21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.18	4.19	4.17	2.75	2.74	2.69	13.57	13.65	13.83	D	D	D
22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.39	4.43	4.35	2.82	2.78	2.73	13.95	14.26	14.24	D	D	D
23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.22	4.23	4.25	2.71	2.67	2.60	13.90	14.09	14.45	D	D	D
24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.23	4.25	4.29	2.92	2.93	2.90	13.03	13.05	13.28	A	A	A
25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.01	4.00	4.18	2.94	2.87	2.70	12.26	12.49	13.79	A	B	D
26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.94	3.96	3.98	3.16	3.14	3.25	11.18	11.34	10.94	B	B	B
27	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.80	3.93	4.15	2.80	2.74	2.64	12.18	12.81	13.93	C	C	D
28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.93	4.01	4.28	3.11	3.05	3.08	11.36	11.82	12.50	B	B	A
29	失業の不安がなく働けること	4.36	4.41	4.40	2.51	2.47	2.62	15.25	15.56	14.87	D	D	D
30	県内で買いたいものが販売されていること	3.79	3.82	3.80	2.98	2.95	2.95	11.44	11.64	11.61	B	B	B
31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	4.05	4.09	3.90	2.48	2.47	2.47	14.23	14.45	13.76	D	D	C

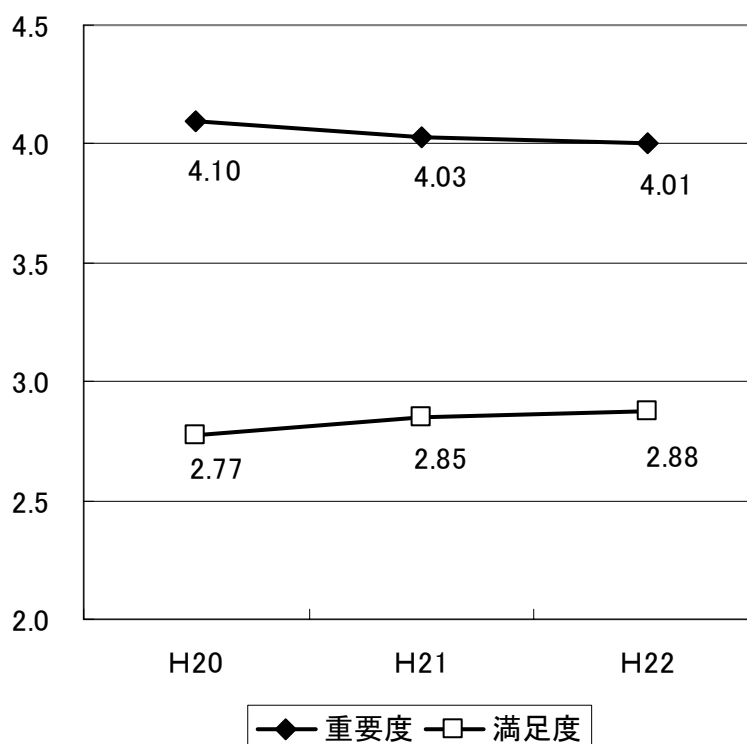
(注) 「重要度と満足度の関係」の前回と今回のA～Dの記号の対応については、49ページ「図表 県全体の重要度と満足度の平均点及び31項目の重要度と満足度の関係図」のA～Dの象限に対応している。網かけをした項目は満足度が31項目の平均値を下回るものであり、濃い網掛けはそのうち重要度が平均値を上回るもの、すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目である。

県民の身近な生活に関する31項目の重要度と満足度の関係を平成20年度から平成22年度の3年間について見ると、3年間を通じて、重要度が平均値以上であるにもかかわらず、満足度が平均値を下まわった（D象限にある）ものが9項目ありました。

項目番号	内容
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていること
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること
19	急病時に診てもらえる医療機関があること
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること
21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること
22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること
23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること
29	失業の不安がなく働けること

#### （4）県民の身近な生活に関する31項目の重要度と満足度の県平均値の推移

図表 重要度と満足度の県平均値の推移



県民の身近な生活に関する31項目の重要度と満足度の県平均値の推移を見ると、重要度の平均値は年々低下し、満足度の平均値は年々増加しています。このことから県民の身近な生活にかかわる状況は改善傾向にあると考えられます。

## 2-3 地域別の重要度と満足度の経年比較

### (1) 地域1(北部)

図表 「地域1(北部)」における重要度と満足度の経年比較(平成22年度調査の重要度の高い順)

順位	項目番号	項目の略称	重要度			満足度		
			H22	H21	H22-H21	H22	H21	H22-H21
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.62	4.65	▲ 0.03	2.73	2.72	0.01
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.57	4.56	0.01	3.04	3.04	▲ 0.00
3	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.43	4.50	▲ 0.07	2.88	2.89	▲ 0.01
4	20	安心できる周産期医療体制	4.40	4.46	▲ 0.05	2.60	2.49	0.11
5	22	適切な介護サービスの充実	4.39	4.46	▲ 0.07	2.82	2.80	0.02
6	29	失業の不安がない社会づくり	4.37	4.40	▲ 0.03	2.53	2.51	0.02
7	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.37	4.35	0.01	3.29	3.20	0.09
8	11	防災対策の充実	4.37	4.37	▲ 0.00	2.82	2.79	0.03
9	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.25	4.29	▲ 0.03	2.94	2.94	▲ 0.00
10	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.25	4.27	▲ 0.02	2.75	2.70	0.04
11	2	公共交通の利便性	4.20	4.14	0.06	3.33	3.22	0.11
12	21	障害者支援サービスの充実	4.18	4.21	▲ 0.03	2.80	2.78	0.02
13	13	自主防災対策の充実	4.12	4.14	▲ 0.02	2.76	2.73	0.04
14	18	市町村行政に対する住民意向の反映	4.08	4.13	▲ 0.05	2.57	2.51	0.06
15	8	文化遺産や史跡の保存	4.06	4.03	0.03	3.54	3.51	0.03
16	31	多様な就業環境の整備	4.04	4.06	▲ 0.03	2.56	2.53	0.03
17	25	精神的な緊張の軽減	4.04	3.99	0.05	2.95	2.90	0.05
18	26	地域の景観・町並の美しさ	4.01	4.00	0.01	3.21	3.19	0.02
19	5	能力を伸ばす小中学校教育	4.00	4.01	▲ 0.01	2.95	2.93	0.02
20	1	品揃えの豊富な店	3.96	3.87	0.09	3.16	3.04	0.12
21	28	ゴミのリサイクルの促進	3.92	4.02	▲ 0.09	3.06	3.08	▲ 0.02
22	15	地域に活力・魅力があること	3.86	3.82	0.04	2.73	2.73	▲ 0.01
23	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.86	3.87	▲ 0.00	3.04	3.04	0.00
24	6	個性を尊重する高校教育	3.83	3.85	▲ 0.01	2.90	2.89	0.02
25	27	CO2削減へ向けた取り組み	3.82	3.96	▲ 0.14	2.80	2.77	0.03
26	30	県内で購入可能な商品の充実	3.79	3.80	▲ 0.01	3.00	2.96	0.04
27	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.69	3.76	▲ 0.07	2.80	2.79	0.02
28	10	公園・運動施設等の利便性	3.54	3.56	▲ 0.02	2.86	2.84	0.02
29	3	休日の渋滞解消	3.39	3.37	0.03	2.87	2.92	▲ 0.05
30	4	平日の渋滞解消	3.37	3.34	0.04	3.05	3.05	▲ 0.00
31	16	ボランティア・NPOへの参加	3.07	3.09	▲ 0.02	2.85	2.84	0.01
項目全体の平均			4.03	4.04		2.91	2.88	

(注) 網かけは、重要度では平成22年度の点数が21年度に比べて上昇したことを示し、満足度では平成22年度の点数が平成21年度に比べて低下したことを示している。なお、点数の比較の際には、小数第3位以下も考慮している。

重要度が上昇したにもかかわらず「満足度」が低下した項目は「犯罪にあう不安のない暮らし」、「地域に活力・魅力があること」、「休日の渋滞解消」、「平日の渋滞解消」の4項目となっています。

(2) 地域2(西部)

図表 「地域2(西部)」における重要度と満足度の経年比較(平成22年度調査の重要度の高い順)

順位	項目番号	項目の略称	重要度			満足度		
			H22	H21	H22-H21	H22	H21	H22-H21
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.66	4.68	▲ 0.01	2.78	2.80	▲ 0.02
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.57	4.61	▲ 0.04	3.00	2.92	0.08
3	22	適切な介護サービスの充実	4.49	4.45	0.04	2.86	2.80	0.06
4	20	安心できる周産期医療体制	4.40	4.37	0.03	2.54	2.50	0.04
5	11	防災対策の充実	4.37	4.39	▲ 0.02	2.84	2.82	0.03
6	29	失業の不安がない社会づくり	4.35	4.37	▲ 0.02	2.59	2.59	▲ 0.00
7	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.35	4.39	▲ 0.04	2.89	2.95	▲ 0.06
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.35	4.36	▲ 0.01	3.27	3.15	0.12
9	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.34	4.25	0.09	2.78	2.71	0.07
10	21	障害者支援サービスの充実	4.26	4.15	0.11	2.78	2.81	▲ 0.03
11	2	公共交通の利便性	4.24	4.10	0.14	3.00	3.05	▲ 0.05
12	13	自主防災対策の充実	4.23	4.15	0.08	2.82	2.70	0.12
13	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.22	4.26	▲ 0.03	2.94	2.98	▲ 0.05
14	18	市町村行政に対する住民意向の反映	4.09	4.21	▲ 0.12	2.48	2.45	0.03
15	25	精神的な緊張の軽減	4.08	4.01	0.08	2.99	2.92	0.08
16	8	文化遺産や史跡の保存	4.00	3.97	0.03	3.58	3.53	0.06
17	26	地域の景観・町並の美しさ	3.97	3.96	0.02	3.18	3.15	0.04
18	31	多様な就業環境の整備	3.96	4.06	▲ 0.10	2.50	2.48	0.02
19	28	ゴミのリサイクルの促進	3.93	4.00	▲ 0.06	3.13	2.98	0.15
20	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.90	3.88	0.02	3.02	2.99	0.03
21	5	能力を伸ばす小中学校教育	3.89	3.89	0.00	2.86	2.90	▲ 0.04
22	1	品揃えの豊富な店	3.86	3.88	▲ 0.02	3.06	2.92	0.14
23	15	地域に活力・魅力があること	3.77	3.88	▲ 0.11	2.68	2.73	▲ 0.05
24	27	CO2削減へ向けた取り組み	3.76	3.99	▲ 0.23	2.82	2.72	0.10
25	6	個性を尊重する高校教育	3.75	3.73	0.01	2.83	2.90	▲ 0.06
26	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.74	3.71	0.03	2.80	2.78	0.02
27	30	県内で購入可能な商品の充実	3.72	3.75	▲ 0.03	2.92	2.88	0.04
28	10	公園・運動施設等の利便性	3.56	3.55	0.01	3.06	2.96	0.10
29	4	平日の渋滞解消	3.34	3.26	0.08	3.12	3.09	0.03
30	3	休日の渋滞解消	3.27	3.34	▲ 0.07	2.98	2.96	0.01
31	16	ボランティア・NPOへの参加	3.10	3.10	▲ 0.00	2.95	2.85	0.10
項目全体の平均			4.02	4.02		2.90	2.87	

(注) 網かけは、重要度では平成22年度の点数が21年度に比べて上昇したことを示し、満足度では平成22年度の点数が平成21年度に比べて低下したことを示している。なお、点数の比較の際には、小数第3位以下も考慮している。

重要度が上昇したにもかかわらず「満足度」が低下した項目は「障害者支援サービスの充実」、「公共交通の利便性」、「能力を伸ばす小中学校教育」、「個性を尊重する高校教育」の4項目となっています。

(3) 地域3(中部)

図表 「地域3(中部)」における重要度と満足度の経年比較(平成22年度調査の重要度の高い順)

順位	項目番号	項目の略称	重要度			満足度		
			H22	H21	H22-H21	H22	H21	H22-H21
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.63	4.66	▲ 0.03	2.77	2.72	0.05
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.49	4.57	▲ 0.08	3.00	2.96	0.04
3	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.46	4.39	0.06	2.89	2.89	0.01
4	20	安心できる周産期医療体制	4.44	4.50	▲ 0.06	2.58	2.45	0.13
5	22	適切な介護サービスの充実	4.38	4.41	▲ 0.03	2.81	2.80	0.02
6	29	失業の不安がない社会づくり	4.38	4.43	▲ 0.06	2.50	2.43	0.07
7	11	防災対策の充実	4.36	4.43	▲ 0.07	2.83	2.76	0.07
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.33	4.32	0.00	3.27	3.24	0.03
9	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.24	4.23	0.01	2.88	2.93	▲ 0.05
10	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.23	4.22	0.02	2.70	2.67	0.03
11	21	障害者支援サービスの充実	4.17	4.19	▲ 0.02	2.75	2.73	0.02
12	13	自主防災対策の充実	4.11	4.14	▲ 0.03	2.78	2.74	0.03
13	31	多様な就業環境の整備	4.07	4.11	▲ 0.04	2.46	2.44	0.02
14	18	市町村行政に対する住民意向の反映	4.06	4.13	▲ 0.08	2.49	2.44	0.05
15	2	公共交通の利便性	4.04	4.07	▲ 0.03	3.13	3.08	0.05
16	5	能力を伸ばす小中学校教育	3.98	3.92	0.06	2.87	2.87	0.00
17	25	精神的な緊張の軽減	3.97	4.00	▲ 0.03	2.94	2.85	0.09
18	8	文化遺産や史跡の保存	3.96	4.01	▲ 0.04	3.45	3.48	▲ 0.04
19	1	品揃えの豊富な店	3.92	3.87	0.05	3.34	3.27	0.07
20	28	ゴミのリサイクルの促進	3.90	4.01	▲ 0.11	3.12	3.01	0.11
21	26	地域の景観・町並の美しさ	3.87	3.93	▲ 0.06	3.09	3.06	0.04
22	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.83	3.88	▲ 0.05	2.97	2.95	0.02
23	15	地域に活力・魅力があること	3.82	3.84	▲ 0.01	2.70	2.67	0.02
24	6	個性を尊重する高校教育	3.80	3.80	0.00	2.87	2.86	0.01
25	30	県内で購入可能な商品の充実	3.78	3.84	▲ 0.06	3.06	3.07	▲ 0.01
26	27	CO2削減へ向けた取り組み	3.78	3.89	▲ 0.11	2.80	2.70	0.10
27	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.65	3.71	▲ 0.06	2.77	2.77	0.00
28	10	公園・運動施設等の利便性	3.52	3.58	▲ 0.06	2.87	2.89	▲ 0.02
29	3	休日の渋滞解消	3.42	3.37	0.05	2.98	2.95	0.03
30	4	平日の渋滞解消	3.39	3.35	0.04	3.11	3.11	0.00
31	16	ボランティア・NPOへの参加	3.08	3.12	▲ 0.03	2.84	2.83	0.01
項目全体の平均			4.00	4.03		2.89	2.86	

(注) 網かけは、重要度では平成22年度の点数が21年度に比べて上昇したことを示し、満足度では平成22年度の点数が平成21年度に比べて低下したことを示している。なお、点数の比較の際には、小数第3位以下も考慮している。

重要度が上昇したにもかかわらず「満足度」が低下した項目は「子どもが健全に育つ環境づくり」のみとなっています。



(4) 地域4(東部)

図表 「地域4(東部)」における重要度と満足度の経年比較(平成22年度調査の重要度の高い順)

順位	項目番号	項目の略称	重要度			満足度		
			H22	H21	H22-H21	H22	H21	H22-H21
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.54	4.64	▲ 0.09	2.55	2.44	0.11
2	29	失業の不安がない社会づくり	4.43	4.44	▲ 0.01	2.33	2.32	0.00
3	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.40	4.43	▲ 0.03	2.82	2.82	0.00
4	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.37	4.49	▲ 0.13	3.05	3.10	▲ 0.06
5	20	安心できる周産期医療体制	4.36	4.46	▲ 0.09	2.43	2.39	0.03
6	11	防災対策の充実	4.36	4.40	▲ 0.04	2.63	2.69	▲ 0.05
7	22	適切な介護サービスの充実	4.36	4.38	▲ 0.02	2.87	2.69	0.18
8	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.23	4.15	0.07	2.90	2.82	0.07
9	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.21	4.32	▲ 0.12	3.19	3.03	0.17
10	31	多様な就業環境の整備	4.16	4.15	0.01	2.35	2.29	0.06
11	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.12	4.16	▲ 0.04	2.53	2.56	▲ 0.04
12	13	自主防災対策の充実	4.10	4.10	▲ 0.00	2.61	2.68	▲ 0.06
13	21	障害者支援サービスの充実	4.10	4.15	▲ 0.05	2.71	2.67	0.04
14	18	市町村行政に対する住民意向の反映	4.05	4.04	0.01	2.45	2.32	0.13
15	25	精神的な緊張の軽減	4.00	4.05	▲ 0.06	2.82	2.78	0.05
16	8	文化遺産や史跡の保存	3.98	3.90	0.08	3.46	3.44	0.02
17	2	公共交通の利便性	3.97	3.96	0.01	2.65	2.51	0.15
18	15	地域に活力・魅力があること	3.95	3.88	0.07	2.49	2.36	0.13
19	5	能力を伸ばす小中学校教育	3.94	3.95	▲ 0.01	2.81	2.77	0.03
20	28	ゴミのリサイクルの促進	3.94	3.92	0.02	3.16	3.09	0.07
21	26	地域の景観・町並の美しさ	3.89	3.90	▲ 0.00	3.12	3.07	0.05
22	30	県内で購入可能な商品の充実	3.87	3.90	▲ 0.03	2.93	2.75	0.17
23	6	個性を尊重する高校教育	3.86	3.81	0.05	2.75	2.85	▲ 0.11
24	1	品揃えの豊富な店	3.84	3.75	0.09	2.87	2.57	0.30
25	27	CO2削減へ向けた取り組み	3.82	3.83	▲ 0.02	2.72	2.74	▲ 0.02
26	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.80	3.77	0.03	2.84	2.88	▲ 0.05
27	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.71	3.66	0.05	2.78	2.67	0.10
28	10	公園・運動施設等の利便性	3.45	3.46	▲ 0.01	2.86	2.74	0.12
29	4	平日の渋滞解消	3.32	3.32	▲ 0.01	3.21	3.23	▲ 0.02
30	16	ボランティア・NPOへの参加	3.22	3.05	0.17	2.79	2.80	▲ 0.01
31	3	休日の渋滞解消	3.18	3.25	▲ 0.07	3.04	3.13	▲ 0.10
項目全体の平均			3.98	3.99		2.80	2.75	

(注) 網かけは、重要度では平成22年度の点数が21年度に比べて上昇したことを示し、満足度では平成22年度の点数が平成21年度に比べて低下したことを示している。なお、点数の比較の際には、小数第3位以下も考慮している。

重要度が上昇したにもかかわらず「満足度」が低下した項目は「個性を尊重する高校教育」、「生涯を通じた教養・趣味の拡大」、「ボランティア・NPOへの参加」の3項目となっています。

(5) 地域5(南東部)

図表 「地域5(南東部)」における重要度と満足度の経年比較(平成22年度調査の重要度の高い順)

順位	項目番号	項目の略称	重要度			満足度		
			H22	H21	H22-H21	H22	H21	H22-H21
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.51	4.64	▲ 0.13	2.40	2.31	0.09
2	22	適切な介護サービスの充実	4.40	4.34	0.06	2.91	2.78	0.13
3	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.35	4.38	▲ 0.03	3.18	3.12	0.05
4	11	防災対策の充実	4.31	4.45	▲ 0.14	2.67	2.60	0.07
5	20	安心できる周産期医療体制	4.31	4.49	▲ 0.18	1.90	1.85	0.05
6	29	失業の不安がない社会づくり	4.24	4.46	▲ 0.22	2.49	2.44	0.06
7	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.24	4.44	▲ 0.21	3.08	3.03	0.05
8	13	自主防災対策の充実	4.21	4.11	0.09	2.80	2.59	0.21
9	21	障害者支援サービスの充実	4.18	4.17	0.02	2.56	2.47	0.08
10	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.18	4.20	▲ 0.02	3.07	2.95	0.12
11	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.06	4.13	▲ 0.07	3.04	3.05	▲ 0.01
12	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.03	4.07	▲ 0.04	2.62	2.54	0.08
13	28	ゴミのリサイクルの促進	4.01	4.02	▲ 0.01	3.34	3.19	0.15
14	18	市町村行政に対する住民意向の反映	4.00	4.09	▲ 0.09	2.58	2.37	0.21
15	31	多様な就業環境の整備	3.98	4.11	▲ 0.13	2.24	2.28	▲ 0.04
16	5	能力を伸ばす小中学校教育	3.93	4.03	▲ 0.10	2.82	2.77	0.05
17	8	文化遺産や史跡の保存	3.92	3.77	0.15	3.49	3.37	0.12
18	15	地域に活力・魅力があること	3.85	3.94	▲ 0.09	2.24	2.22	0.02
19	2	公共交通の利便性	3.84	3.80	0.04	2.31	2.12	0.19
20	25	精神的な緊張の軽減	3.82	3.93	▲ 0.11	2.99	2.82	0.18
21	30	県内で購入可能な商品の充実	3.80	3.90	▲ 0.10	2.83	2.87	▲ 0.03
22	27	CO2削減へ向けた取り組み	3.78	3.83	▲ 0.04	2.92	2.70	0.22
23	1	品揃えの豊富な店	3.76	3.69	0.07	2.36	2.29	0.07
24	6	個性を尊重する高校教育	3.76	3.83	▲ 0.07	2.83	2.74	0.09
25	26	地域の景観・町並の美しさ	3.76	3.90	▲ 0.14	3.23	3.21	0.02
26	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.75	3.79	▲ 0.04	2.91	2.82	0.09
27	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.62	3.71	▲ 0.09	2.73	2.64	0.09
28	10	公園・運動施設等の利便性	3.35	3.32	0.03	2.87	2.77	0.09
29	4	平日の渋滞解消	3.14	3.20	▲ 0.06	3.13	3.00	0.13
30	16	ボランティア・NPOへの参加	3.12	3.08	0.04	2.80	2.75	0.04
31	3	休日の渋滞解消	3.09	3.18	▲ 0.09	3.10	2.94	0.16
項目全体の平均			3.91	3.97		2.79	2.70	

(注) 網かけは、重要度では平成22年度の点数が21年度に比べて上昇したことを示し、満足度では平成22年度の点数が平成21年度に比べて低下したことを示している。なお、点数の比較の際には、小数第3位以下も考慮している。

重要度が上昇したにもかかわらず「満足度」が低下した項目はありませんでした。

(6) 地域6(南西部)

図表 「地域6(南西部)」における重要度と満足度の経年比較(平成22年度調査の重要度の高い順)

順位	項目番号	項目の略称	重要度			満足度		
			H22	H21	H22-H21	H22	H21	H22-H21
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.56	4.71	▲ 0.15	2.29	2.26	0.02
2	20	安心できる周産期医療体制	4.44	4.61	▲ 0.17	1.82	1.74	0.08
3	11	防災対策の充実	4.36	4.45	▲ 0.09	2.40	2.54	▲ 0.14
4	22	適切な介護サービスの充実	4.30	4.35	▲ 0.06	2.57	2.61	▲ 0.04
5	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.29	4.58	▲ 0.29	2.99	3.01	▲ 0.02
6	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.27	4.45	▲ 0.18	2.93	2.74	0.20
7	29	失業の不安がない社会づくり	4.25	4.46	▲ 0.21	2.34	2.27	0.07
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.19	4.32	▲ 0.14	2.91	3.00	▲ 0.09
9	31	多様な就業環境の整備	4.13	4.18	▲ 0.04	2.21	2.28	▲ 0.07
10	21	障害者支援サービスの充実	4.12	4.19	▲ 0.07	2.55	2.48	0.07
11	13	自主防災対策の充実	4.11	4.17	▲ 0.06	2.53	2.54	▲ 0.02
12	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.11	4.23	▲ 0.12	2.71	2.72	▲ 0.01
13	18	市町村行政に対する住民意向の反映	4.08	4.23	▲ 0.15	2.09	2.11	▲ 0.02
14	28	ゴミのリサイクルの促進	4.04	4.07	▲ 0.03	3.07	2.93	0.13
15	2	公共交通の利便性	4.03	3.95	0.08	1.95	1.73	0.22
16	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.01	4.12	▲ 0.11	2.51	2.42	0.09
17	25	精神的な緊張の軽減	4.00	3.93	0.07	2.79	2.76	0.03
18	5	能力を伸ばす小中学校教育	3.95	4.04	▲ 0.10	2.65	2.56	0.09
19	27	CO2削減へ向けた取り組み	3.92	3.92	▲ 0.00	2.65	2.67	▲ 0.02
20	8	文化遺産や史跡の保存	3.90	3.72	0.18	3.31	3.33	▲ 0.02
21	26	地域の景観・町並の美しさ	3.85	3.84	0.02	3.01	3.08	▲ 0.07
22	30	県内で購入可能な商品の充実	3.84	3.79	0.05	2.69	2.67	0.03
23	15	地域に活力・魅力があること	3.84	3.96	▲ 0.12	2.21	2.24	▲ 0.02
24	1	品揃えの豊富な店	3.80	3.79	0.01	2.32	2.31	0.02
25	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	3.73	3.75	▲ 0.01	2.61	2.70	▲ 0.08
26	6	個性を尊重する高校教育	3.72	3.83	▲ 0.11	2.73	2.70	0.04
27	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	3.68	3.83	▲ 0.15	2.53	2.57	▲ 0.04
28	10	公園・運動施設等の利便性	3.35	3.42	▲ 0.08	2.77	2.74	0.03
29	16	ボランティア・NPOへの参加	3.20	3.11	0.10	2.68	2.72	▲ 0.04
30	4	平日の渋滞解消	3.01	3.37	▲ 0.36	3.17	3.03	0.14
31	3	休日の渋滞解消	2.93	3.31	▲ 0.38	3.00	2.98	0.02
項目全体の平均			3.94	4.02		2.61	2.59	

(注) 網かけは、重要度では平成22年度の点数が21年度に比べて上昇したことを示し、満足度では平成22年度の点数が平成21年度に比べて低下したことを示している。なお、点数の比較の際には、小数第3位以下も考慮している。

重要度が上昇したにもかかわらず「満足度」が低下した項目は「文化遺産や史跡の保存」、「地域の景観・町並の美しさ」、「ボランティア・NPOへの参加」の3項目となっています。

## 2-4 県全体と属性別の重要度・満足度の傾向の比較

### (1) 地域別の重要度・満足度の比較

#### ① 「県全体」の重要度上位10項目及び地域別での比較

図表 「県全体」の重要度上位10項目及び地域別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	地域1 (北部)	地域2 (西部)	地域3 (中部)	地域4 (東部)	地域5 (南東部)	地域6 (南西部)
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.61	4.62	4.66	4.63	4.54	4.51	4.56
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.51	4.57	4.57	4.49	4.37	4.35	4.29
3	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.41	4.43	4.35	4.46	4.40	4.24	4.27
4	20	安心できる周産期医療体制	4.40	4.40	4.40	4.44	4.36	4.31	4.44
5	22	適切な介護サービスの充実	4.39	4.39	4.49	4.38	4.36	4.40	4.30
6	29	失業の不安がない社会づくり	4.36	4.37	4.35	4.38	4.43	4.24	4.25
7	11	防災対策の充実	4.36	4.37	4.37	4.36	4.36	4.31	4.36
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.33	4.37	4.35	4.33	4.21	4.18	4.19
9	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.23	4.25	4.22	4.24	4.23	4.06	4.11
10	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.22	4.25	4.34	4.23	4.12	4.03	4.01

(注) 網かけは、地域での重要度が「県全体」よりも高いことを意味する。ただし、「県全体」と地域との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の上位10項目を地域別にみると、「地域1(北部)」、「地域2(西部)」、「地域3(中部)」では「県全体」よりも重要度が高い項目が多く、その他の地域では少なくなっています。

## ②地域別の重要度上位5項目の傾向

図表 地域別の重要度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	急病時に診て もらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.51	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.41	安心できる 周産期医療体制 4.40	適切な介護 サービスの充実 4.39
地域1 (北部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.62	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.57	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.43	安心できる 周産期医療体制 4.40	適切な介護 サービスの充実 4.39
地域2 (西部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.66	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.57	適切な介護 サービスの充実 4.49	安心できる 周産期医療体制 4.40	防災対策の充実 4.37
地域3 (中部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.63	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.49	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.46	安心できる 周産期医療体制 4.44	適切な介護 サービスの充実 4.38
地域4 (東部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.54	失業の不安が ない社会づくり 4.43	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.40	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.37	安心できる 周産期医療体制 4.36
地域5 (南東部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.51	適切な介護 サービスの充実 4.40	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.35	防災対策の充実 4.31	安心できる 周産期医療体制 4.31
地域6 (南西部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.56	安心できる 周産期医療体制 4.44	防災対策の充実 4.36	適切な介護 サービスの充実 4.30	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.29

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の決定には小数第3位以下も考慮している。

重要度上位5項目で、個別の地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「失業の不安がない社会づくり」(「地域4(東部)」の第2位)と、「防災対策の充実」(「地域2(西部)」の第5位、「地域5(南東部)」の第4位、「地域6(南西部)」の第3位)となっています。

### ③ 「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及び地域別での比較

図表 「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及び地域別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	地域1 (北部)	地域2 (西部)	地域3 (中部)	地域4 (東部)	地域5 (南東部)	地域6 (南西部)
1	8	文化遺産や史跡の保存	3.51	3.54	3.58	3.45	3.46	3.49	3.31
2	12	食品・薬品等の安全性の確保	3.25	3.29	3.27	3.27	3.19	3.07	2.91
3	26	地域の景観・町並の美しさ	3.16	3.21	3.18	3.09	3.12	3.23	3.01
4	28	ゴミのリサイクルの促進	3.11	3.06	3.13	3.12	3.16	3.34	3.07
5	1	品揃えの豊富な店	3.10	3.16	3.06	3.34	2.87	2.36	2.32
6	4	平日の渋滞解消	3.09	3.05	3.12	3.11	3.21	3.13	3.17
7	2	公共交通の利便性	3.09	3.33	3.00	3.13	2.65	2.31	1.95
8	14	犯罪にあう不安のない暮らし	3.03	3.04	3.00	3.00	3.05	3.18	2.99
9	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	2.99	3.04	3.02	2.97	2.84	2.91	2.61
10	30	県内で購入可能な商品の充実	2.98	3.00	2.92	3.06	2.93	2.83	2.69
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
22	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	2.78	2.80	2.80	2.77	2.78	2.73	2.53
23	13	自主防災対策の充実	2.76	2.76	2.82	2.78	2.61	2.80	2.53
24	21	障害者支援サービスの充実	2.75	2.80	2.78	2.75	2.71	2.56	2.55
25	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	2.71	2.75	2.78	2.70	2.53	2.62	2.51
26	19	急病時に診てもらえる医療機関	2.70	2.73	2.78	2.77	2.55	2.40	2.29
27	15	地域に活力・魅力があること	2.65	2.73	2.68	2.70	2.49	2.24	2.21
28	18	市町村行政に対する住民意向の反映	2.52	2.57	2.48	2.49	2.45	2.58	2.09
29	20	安心できる周産期医療体制	2.51	2.60	2.54	2.58	2.43	1.90	1.82
30	29	失業の不安がない社会づくり	2.51	2.53	2.59	2.50	2.33	2.49	2.34
31	31	多様な就業環境の整備	2.48	2.56	2.50	2.46	2.35	2.24	2.21

(注) 網かけ・白抜きは、地域での満足度が「県全体」よりも低いことを意味する。ただし、「県全体」と地域との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の満足度の上位・下位10項目について地域別にみると、「地域1（北部）」や「地域2（西部）」では「県全体」を下回る項目が少ないのに比べ、その他の地域では「県全体」を下回る項目が多くなっています。

#### ④地域別の満足度上位5項目の傾向

図表 地域別の満足度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	文化遺産や 史跡の保存 3.51	食品・薬品等の 安全性の確保 3.25	地域の景観・ 町並の美しさ 3.16	ゴミのリサイクル の促進 3.11	品揃えの豊富な店 3.10
地域1 (北部)	文化遺産や 史跡の保存 3.54	公共交通の利便性 3.33	食品・薬品等の 安全性の確保 3.29	地域の景観・ 町並の美しさ 3.21	品揃えの豊富な店 3.16
地域2 (西部)	文化遺産や 史跡の保存 3.58	食品・薬品等の 安全性の確保 3.27	地域の景観・ 町並の美しさ 3.18	ゴミのリサイクル の促進 3.13	平日の渋滞解消 3.12
地域3 (中部)	文化遺産や 史跡の保存 3.45	品揃えの豊富な店 3.34	食品・薬品等の 安全性の確保 3.27	公共交通の利便性 3.13	ゴミのリサイクル の促進 3.12
地域4 (東部)	文化遺産や 史跡の保存 3.46	平日の渋滞解消 3.21	食品・薬品等の 安全性の確保 3.19	ゴミのリサイクル の促進 3.16	地域の景観・ 町並の美しさ 3.12
地域5 (南東部)	文化遺産や 史跡の保存 3.49	ゴミのリサイクル の促進 3.34	地域の景観・ 町並の美しさ 3.23	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.18	平日の渋滞解消 3.13
地域6 (南西部)	文化遺産や 史跡の保存 3.31	平日の渋滞解消 3.17	ゴミのリサイクル の促進 3.07	地域の景観・ 町並の美しさ 3.01	休日の渋滞解消 3.00

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

満足度上位5項目で、個別の地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「公共交通の利便性」（「地域1（北部）」の第2位、「地域3（中部）」の第4位）、「平日の渋滞解消」（「地域2（西部）」の第5位、「地域4（東部）」の第2位、「地域5（南東部）」の第5位、「地域6（南西部）」の第2位）、「犯罪にあう不安のない暮らし」（「地域5（南東部）」の第4位）、「休日の渋滞解消」（「地域6（南西部）」の第5位）となっています。

## ⑤地域別の満足度下位5項目の傾向

図表 地域別の満足度下位5項目の傾向

	第31位	第30位	第29位	第28位	第27位
県全体	多様な就業環境の整備 2.48	失業の不安がない社会づくり 2.51	安心できる周産期医療体制 2.51	市町村行政に対する住民意向の反映 2.52	地域に活力・魅力があること 2.65
地域1(北部)	失業の不安がない社会づくり 2.53	多様な就業環境の整備 2.56	市町村行政に対する住民意向の反映 2.57	安心できる周産期医療体制 2.60	地域に活力・魅力があること 2.73
地域2(西部)	市町村行政に対する住民意向の反映 2.48	多様な就業環境の整備 2.50	安心できる周産期医療体制 2.54	失業の不安がない社会づくり 2.59	地域に活力・魅力があること 2.68
地域3(中部)	多様な就業環境の整備 2.46	市町村行政に対する住民意向の反映 2.49	失業の不安がない社会づくり 2.50	安心できる周産期医療体制 2.58	地域に活力・魅力があること 2.70
地域4(東部)	失業の不安がない社会づくり 2.33	多様な就業環境の整備 2.35	安心できる周産期医療体制 2.43	市町村行政に対する住民意向の反映 2.45	地域に活力・魅力があること 2.49
地域5(南東部)	安心できる周産期医療体制 1.90	多様な就業環境の整備 2.24	地域に活力・魅力があること 2.24	公共交通の利便性 2.31	品揃えの豊富な店 2.36
地域6(南西部)	安心できる周産期医療体制 1.82	公共交通の利便性 1.95	市町村行政に対する住民意向の反映 2.09	多様な就業環境の整備 2.21	地域に活力・魅力があること 2.21

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

満足度下位5項目で、個別の地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「公共交通の利便性」（「地域5(南東部)」の第28位、「地域6(南西部)」の第30位)、「品揃えの豊富な店」（「地域5(南東部)」の第27位)となっています。



## (2) ライフステージ別の重要度・満足度の比較

### ①「県全体」の重要度上位10項目及びライフステージ別での比較

図表 「県全体」の重要度上位10項目及びライフステージ別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	若者	夫婦	育児期	教育期前期	教育期後期	単身高齢者	高齢者夫婦
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.61	4.70	4.66	4.72	4.70	4.64	4.45	4.49
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.51	4.67	4.51	4.73	4.66	4.53	4.27	4.40
3	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.41	4.36	4.36	4.66	4.69	4.44	4.19	4.30
4	20	安心できる周産期医療体制	4.40	4.67	4.48	4.59	4.50	4.40	4.30	4.29
5	22	適切な介護サービスの充実	4.39	4.38	4.44	4.29	4.39	4.43	4.38	4.33
6	29	失業の不安がない社会づくり	4.36	4.60	4.31	4.43	4.50	4.40	4.20	4.15
7	11	防災対策の充実	4.36	4.48	4.37	4.45	4.37	4.40	4.17	4.21
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.33	4.42	4.39	4.45	4.33	4.38	4.06	4.26
9	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.23	4.29	4.21	4.59	4.44	4.16	4.03	4.15
10	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.22	4.31	4.26	4.26	4.29	4.20	4.20	4.14

(注) 網かけは、ライフステージでの重要度が「県全体」よりも高いことを意味する。ただし、「県全体」とライフステージとの比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の上位10項目をライフステージ別にみると、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」では10項目すべてが「県全体」の重要度を下回っていますが、その他のライフステージでは多くの項目が「県全体」を上回っています。

## ②ライフステージ別の重要度上位5項目の傾向

図表 ライフステージ別の重要度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	急病時に診て もらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.51	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.41	安心できる 周産期医療体制 4.40	適切な介護 サービスの充実 4.39
若者	急病時に診て もらえる医療機関 4.70	安心できる 周産期医療体制 4.67	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.67	失業の不安が ない社会づくり 4.60	防災対策の充実 4.48
夫婦	急病時に診て もらえる医療機関 4.66	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.51	安心できる 周産期医療体制 4.48	適切な介護 サービスの充実 4.44	食品・薬品等の 安全性の確保 4.39
育児期	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.73	急病時に診て もらえる医療機関 4.72	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.66	安心できる 周産期医療体制 4.59	子どもが健全に 育つ環境づくり 4.59
教育期 前期	急病時に診て もらえる医療機関 4.70	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.69	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.66	失業の不安が ない社会づくり 4.50	安心できる 周産期医療体制 4.50
教育期 後期	急病時に診て もらえる医療機関 4.64	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.53	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.44	適切な介護 サービスの充実 4.43	防災対策の充実 4.40
単身 高齢者	急病時に診て もらえる医療機関 4.45	適切な介護 サービスの充実 4.38	安心できる 周産期医療体制 4.30	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.27	障害者支援 サービスの充実 4.20
高齢者 夫婦	急病時に診て もらえる医療機関 4.49	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.40	適切な介護 サービスの充実 4.33	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.30	安心できる 周産期医療体制 4.29

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

重要度上位5項目で、個別のライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「失業の不安がない社会づくり」（「若者」、「教育期前期」の第4位）、「防災対策の充実」（「若者」、「教育期後期」の第5位）、「食品・薬品等の安全性の確保」（「夫婦」の第5位）、「子どもが健全に育つ環境づくり」（「育児期」の第5位）、「障害者支援サービスの充実」（「単身高齢者」の第5位）となっています。

### ③「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及びライフステージ別での比較

図表 「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及びライフステージ別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	若者	夫婦	育児期	教育期前期	教育期後期	単身高齢者	高齢者夫婦
1	8	文化遺産や史跡の保存	3.51	3.54	3.42	3.44	3.54	3.38	3.49	3.65
2	12	食品・薬品等の安全性の確保	3.25	3.34	3.13	3.28	3.31	3.18	3.24	3.28
3	26	地域の景観・町並の美しさ	3.16	3.18	3.11	3.15	3.12	3.05	3.28	3.31
4	28	ゴミのリサイクルの促進	3.11	2.96	3.09	2.85	3.02	2.96	3.35	3.40
5	1	品揃えの豊富な店	3.10	2.92	3.15	3.15	3.22	3.05	2.90	3.18
6	4	平日の渋滞解消	3.09	3.10	3.12	2.86	3.03	3.05	3.10	3.20
7	2	公共交通の利便性	3.09	2.91	3.02	3.06	3.03	2.98	3.21	3.35
8	14	犯罪にあう不安のない暮らし	3.03	3.07	2.97	2.90	2.91	2.97	3.15	3.21
9	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	2.99	2.90	2.95	2.95	2.85	2.96	3.19	3.25
10	30	県内で購入可能な商品の充実	2.98	2.62	2.91	2.86	2.99	2.95	3.28	3.20
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮		⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
22	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	2.78	2.82	2.71	2.81	2.77	2.75	2.76	2.95
23	13	自主防災対策の充実	2.76	2.71	2.69	2.76	2.75	2.70	2.83	2.88
24	21	障害者支援サービスの充実	2.75	2.83	2.64	2.79	2.77	2.69	2.91	2.89
25	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	2.71	2.69	2.62	2.77	2.71	2.68	2.97	2.86
26	19	急病時に診てもらえる医療機関	2.70	2.63	2.60	2.60	2.52	2.63	3.04	3.02
27	15	地域に活力・魅力があること	2.65	2.64	2.63	2.69	2.65	2.50	2.69	2.76
28	18	市町村行政に対する住民意向の反映	2.52	2.54	2.40	2.49	2.45	2.38	2.75	2.77
29	20	安心できる周産期医療体制	2.51	2.42	2.43	2.62	2.44	2.44	2.63	2.76
30	29	失業の不安がない社会づくり	2.51	2.36	2.51	2.57	2.47	2.43	2.66	2.74
31	31	多様な就業環境の整備	2.48	2.33	2.43	2.50	2.36	2.43	2.68	2.74

(注) 網かけ・白抜きは、ライフステージでの満足度が「県全体」よりも低いことを意味する。ただし、「県全体」とライフステージとの比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の満足度の上位・下位10項目についてライフステージ別にみると、「高齢者夫婦」や「単身高齢者」では「県全体」を下回る項目が少ないのに比べ、その他のライフステージでは「県全体」を下回る項目が多くなっており、「教育期後期」では全ての項目が「県全体」を下回っています。

#### ④ライフステージ別の満足度上位5項目の傾向

図表 ライフステージ別の満足度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	文化遺産や 史跡の保存 3.51	食品・薬品等の 安全性の確保 3.25	地域の景観・ 町並の美しさ 3.16	ゴミのリサイクル の促進 3.11	品揃えの豊富な店 3.10
若者	文化遺産や 史跡の保存 3.54	食品・薬品等の 安全性の確保 3.34	地域の景観・ 町並の美しさ 3.18	平日の渋滞解消 3.10	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.07
夫婦	文化遺産や 史跡の保存 3.42	品揃えの豊富な店 3.15	食品・薬品等の 安全性の確保 3.13	平日の渋滞解消 3.12	地域の景観・ 町並の美しさ 3.11
育児期	文化遺産や 史跡の保存 3.44	食品・薬品等の 安全性の確保 3.28	品揃えの豊富な店 3.15	地域の景観・ 町並の美しさ 3.15	公共交通の利便性 3.06
教育期 前期	文化遺産や 史跡の保存 3.54	食品・薬品等の 安全性の確保 3.31	品揃えの豊富な店 3.22	地域の景観・ 町並の美しさ 3.12	平日の渋滞解消 3.03
教育期 後期	文化遺産や 史跡の保存 3.38	食品・薬品等の 安全性の確保 3.18	品揃えの豊富な店 3.05	地域の景観・ 町並の美しさ 3.05	平日の渋滞解消 3.05
単身 高齢者	文化遺産や 史跡の保存 3.49	ゴミのリサイクル の促進 3.35	地域の景観・ 町並の美しさ 3.28	県内で購入可能な 商品の充実 3.28	食品・薬品等の 安全性の確保 3.24
高齢者 夫婦	文化遺産や 史跡の保存 3.65	ゴミのリサイクル の促進 3.40	公共交通の利便性 3.35	地域の景観・ 町並の美しさ 3.31	食品・薬品等の 安全性の確保 3.28

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

満足度上位5項目で、個別のライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「平日の渋滞解消」（「若者」、「夫婦」の第4位、「教育期前期」、「教育期後期」の第5位）、「犯罪にあう不安のない暮らし」（「若者」の第5位）、「公共交通の利便性」（「育児期」の第5位、「高齢者夫婦」の第3位）、「県内で購入可能な商品の充実」（「単身高齢者」の第4位）となっています。

## ⑤ライフステージ別の満足度下位5項目の傾向

図表 ライフステージ別の満足度下位5項目の傾向

	第31位	第30位	第29位	第28位	第27位
県全体	多様な就業環境の整備 2.48	失業の不安がない社会づくり 2.51	安心できる周産期医療体制 2.51	市町村行政に対する住民意向の反映 2.52	地域に活力・魅力があること 2.65
若者	多様な就業環境の整備 2.33	失業の不安がない社会づくり 2.36	安心できる周産期医療体制 2.42	市町村行政に対する住民意向の反映 2.54	県内で購入可能な商品の充実 2.62
夫婦	市町村行政に対する住民意向の反映 2.40	安心できる周産期医療体制 2.43	多様な就業環境の整備 2.43	失業の不安がない社会づくり 2.51	急病時に診てもらえる医療機関 2.60
育児期	市町村行政に対する住民意向の反映 2.49	多様な就業環境の整備 2.50	失業の不安がない社会づくり 2.57	急病時に診てもらえる医療機関 2.60	安心できる周産期医療体制 2.62
教育期前期	多様な就業環境の整備 2.36	安心できる周産期医療体制 2.44	市町村行政に対する住民意向の反映 2.45	失業の不安がない社会づくり 2.47	急病時に診てもらえる医療機関 2.52
教育期後期	市町村行政に対する住民意向の反映 2.38	失業の不安がない社会づくり 2.43	多様な就業環境の整備 2.43	安心できる周産期医療体制 2.44	地域に活力・魅力があること 2.50
単身高齢者	安心できる周産期医療体制 2.63	失業の不安がない社会づくり 2.66	多様な就業環境の整備 2.68	地域に活力・魅力があること 2.69	市町村行政に対する住民意向の反映 2.75
高齢者夫婦	失業の不安がない社会づくり 2.74	多様な就業環境の整備 2.74	地域に活力・魅力があること 2.76	安心できる周産期医療体制 2.76	市町村行政に対する住民意向の反映 2.77

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。  
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

満足度下位5項目で、個別のライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「県内で購入可能な商品の充実」（「若者」の第27位）、「急病時に診てもらえる医療機関」（「夫婦」、「教育期前期」の第27位、「育児期」の第28位）となっています。

### (3) 性別の重要度・満足度の比較

#### ①「県全体」の重要度上位10項目及び性別での比較

図表 「県全体」の重要度上位10項目及び性別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	男性	女性
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.61	4.58	4.64
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.51	4.48	4.54
3	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.41	4.32	4.48
4	20	安心できる周産期医療体制	4.40	4.34	4.45
5	22	適切な介護サービスの充実	4.39	4.29	4.48
6	29	失業の不安がない社会づくり	4.36	4.28	4.44
7	11	防災対策の充実	4.36	4.25	4.45
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.33	4.24	4.40
9	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.23	4.17	4.28
10	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.22	4.13	4.30

(注) 網かけは、性別での重要度が「県全体」よりも高いことを意味する。ただし、「県全体」と性別との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の上位10項目を性別にみると、「女性」では、10項目すべての重要度が「県全体」と「男性」に比べて高くなっています。

#### ②性別の重要度上位5項目の傾向

図表 性別の重要度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	急病時に診てもらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安のない暮らし 4.51	子どもの暴力・いじめの撲滅 4.41	安心できる周産期医療体制 4.40	適切な介護サービスの充実 4.39
男性	急病時に診てもらえる医療機関 4.58	犯罪にあう不安のない暮らし 4.48	安心できる周産期医療体制 4.34	子どもの暴力・いじめの撲滅 4.32	適切な介護サービスの充実 4.29
女性	急病時に診てもらえる医療機関 4.64	犯罪にあう不安のない暮らし 4.54	子どもの暴力・いじめの撲滅 4.48	適切な介護サービスの充実 4.48	防災対策の充実 4.45

(注) 網かけは、性別にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。  
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

重要度上位5項目で、性別にはあるが「県全体」にはない項目は、「防災対策の充実」（「女性」の第5位）となっています。

### ③「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及び性別での比較

図表 「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及び性別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	男性	女性
1	8	文化遺産や史跡の保存	3.51	3.52	3.50
2	12	食品・薬品等の安全性の確保	3.25	3.27	3.23
3	26	地域の景観・町並の美しさ	3.16	3.16	3.17
4	28	ゴミのリサイクルの促進	3.11	3.09	3.13
5	1	品揃えの豊富な店	3.10	3.18	3.03
6	4	平日の渋滞解消	3.09	3.05	3.13
7	2	公共交通の利便性	3.09	3.17	3.02
8	14	犯罪にあう不安のない暮らし	3.03	3.09	2.98
9	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	2.99	3.02	2.96
10	30	県内で購入可能な商品の充実	2.98	2.99	2.97
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
22	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	2.78	2.83	2.74
23	13	自主防災対策の充実	2.76	2.78	2.73
24	21	障害者支援サービスの充実	2.75	2.78	2.74
25	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	2.71	2.75	2.67
26	19	急病時に診てもらえる医療機関	2.70	2.73	2.68
27	15	地域に活力・魅力があること	2.65	2.61	2.68
28	18	市町村行政に対する住民意向の反映	2.52	2.53	2.51
29	20	安心できる周産期医療体制	2.51	2.54	2.48
30	29	失業の不安がない社会づくり	2.51	2.52	2.49
31	31	多様な就業環境の整備	2.48	2.49	2.48

(注) 網かけ・白抜きは、性別での満足度が「県全体」よりも低いことを意味する。ただし、「県全体」と性別との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の満足度の上位・下位10項目について男女別にみると、「男性」では「県全体」を下回る項目が4項目と少ないのに比べ、「女性」では16もの項目で「県全体」と「男性」を下回っています。

#### ④性別の満足度上位5項目の傾向

図表 性別の満足度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	文化遺産や 史跡の保存 3.51	食品・薬品等の 安全性の確保 3.25	地域の景観・ 町並の美しさ 3.16	ゴミのリサイクル の促進 3.11	品揃えの豊富な店 3.10
男性	文化遺産や 史跡の保存 3.52	食品・薬品等の 安全性の確保 3.27	品揃えの豊富な店 3.18	公共交通の利便性 3.17	地域の景観・ 町並の美しさ 3.16
女性	文化遺産や 史跡の保存 3.50	食品・薬品等の 安全性の確保 3.23	地域の景観・ 町並の美しさ 3.17	平日の渋滞解消 3.13	ゴミのリサイクル の促進 3.13

(注) 網かけは、性別にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。  
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

満足度上位5項目で、性別にはあるが「県全体」にはない項目は、「公共交通の利便性」（「男性」の第4位）、「平日の渋滞解消」（「女性」の第4位）となっています。

#### ⑤性別の満足度下位5項目の傾向

図表 性別の満足度下位5項目の傾向

	第31位	第30位	第29位	第28位	第27位
県全体	多様な就業環境 の整備 2.48	失業の不安が ない社会づくり 2.51	安心できる 周産期医療体制 2.51	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.52	地域に活力・ 魅力があること 2.65
男性	多様な就業環境 の整備 2.49	失業の不安が ない社会づくり 2.52	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.53	安心できる 周産期医療体制 2.54	地域に活力・ 魅力があること 2.61
女性	多様な就業環境 の整備 2.48	安心できる 周産期医療体制 2.48	失業の不安が ない社会づくり 2.49	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.51	高齢者・障害者が 安心できるまちづくり 2.67

(注) 網かけは、性別にはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。  
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

満足度下位5項目で、性別にはあるが「県全体」にはない項目は、「高齢者・障害者が安心できるまちづくり」（「女性」の第5位）となっています。



#### (4) 年齢別の重要度・満足度の比較

##### ①「県全体」の重要度上位10項目及び年齢別での比較

図表 「県全体」の重要度上位10項目及び年齢別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1	19	急病時に診てもらえる医療機関	4.61	4.71	4.68	4.66	4.65	4.62	4.46
2	14	犯罪にあう不安のない暮らし	4.51	4.67	4.68	4.58	4.52	4.46	4.34
3	7	子どもの暴力・いじめの撲滅	4.41	4.36	4.59	4.50	4.39	4.38	4.29
4	20	安心できる周産期医療体制	4.40	4.68	4.54	4.37	4.40	4.40	4.23
5	22	適切な介護サービスの充実	4.39	4.38	4.36	4.37	4.44	4.44	4.35
6	29	失業の不安がない社会づくり	4.36	4.61	4.46	4.43	4.42	4.29	4.17
7	11	防災対策の充実	4.36	4.49	4.42	4.34	4.45	4.35	4.22
8	12	食品・薬品等の安全性の確保	4.33	4.43	4.45	4.33	4.36	4.30	4.20
9	24	子どもが健全に育つ環境づくり	4.23	4.29	4.38	4.28	4.19	4.21	4.12
10	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	4.22	4.32	4.29	4.22	4.24	4.20	4.15

(注) 網かけは、年齢での重要度が「県全体」よりも高いことを意味する。ただし、「県全体」と年齢との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の上位10項目を年齢別にみると、「60歳代」以上で「県全体」よりも重要度が高い項目が少なく、その他の年齢層では多くなっています。

## ②年齢別の重要度上位5項目の傾向

図表 年齢別の重要度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	急病時に診て もらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.51	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.41	安心できる 周産期医療体制 4.40	適切な介護 サービスの充実 4.39
20歳代	急病時に診て もらえる医療機関 4.71	安心できる 周産期医療体制 4.68	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.67	失業の不安が ない社会づくり 4.61	防災対策の充実 4.49
30歳代	急病時に診て もらえる医療機関 4.68	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.68	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.59	安心できる 周産期医療体制 4.54	失業の不安が ない社会づくり 4.46
40歳代	急病時に診て もらえる医療機関 4.66	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.58	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.50	失業の不安が ない社会づくり 4.43	適切な介護 サービスの充実 4.37
50歳代	急病時に診て もらえる医療機関 4.65	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.52	防災対策の充実 4.45	適切な介護 サービスの充実 4.44	失業の不安が ない社会づくり 4.42
60歳代	急病時に診て もらえる医療機関 4.62	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.46	適切な介護 サービスの充実 4.44	安心できる 周産期医療体制 4.40	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.38
70歳 以上	急病時に診て もらえる医療機関 4.46	適切な介護 サービスの充実 4.35	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.34	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.29	安心できる 周産期医療体制 4.23

(注) 網かけは、年齢にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

重要度上位5項目で、個別の年齢にはあるが「県全体」にはない項目は、「失業の不安がない社会づくり」（「20歳代」、「40歳代」の第4位、「30歳代」、「50歳代」の第5位）、「防災対策の充実」（「20歳代」の第5位、「50歳代」の第3位）となっています。

### ③「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及び年齢別での比較

図表 「県全体」の満足度上位10項目と下位10項目及び年齢別での比較

順位	項目番号	項目	県全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1	8	文化遺産や史跡の保存	3.51	3.55	3.52	3.46	3.40	3.51	3.61
2	12	食品・薬品等の安全性の確保	3.25	3.34	3.28	3.27	3.16	3.21	3.28
3	26	地域の景観・町並の美しさ	3.16	3.18	3.12	3.11	3.10	3.17	3.28
4	28	ゴミのリサイクルの促進	3.11	2.96	2.98	2.97	3.01	3.18	3.38
5	1	品揃えの豊富な店	3.10	2.93	3.17	3.12	3.03	3.12	3.14
6	4	平日の渋滞解消	3.09	3.10	3.00	2.98	3.05	3.18	3.19
7	2	公共交通の利便性	3.09	2.93	3.04	3.05	2.93	3.18	3.24
8	14	犯罪にあう不安のない暮らし	3.03	3.06	2.94	3.01	2.91	3.05	3.19
9	9	生涯を通じた教養・趣味の拡大	2.99	2.90	2.88	2.89	2.89	3.04	3.20
10	30	県内で購入可能な商品の充実	2.98	2.61	2.90	2.93	2.92	3.07	3.18
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
22	17	男女が能力を発揮できる社会の実現	2.78	2.81	2.78	2.75	2.69	2.74	2.91
23	13	自主防災対策の充実	2.76	2.71	2.74	2.74	2.68	2.72	2.90
24	21	障害者支援サービスの充実	2.75	2.83	2.73	2.70	2.66	2.72	2.91
25	23	高齢者・障害者が安心できるまちづくり	2.71	2.70	2.66	2.63	2.62	2.69	2.90
26	19	急病時に診てもらえる医療機関	2.70	2.62	2.58	2.52	2.54	2.75	3.02
27	15	地域に活力・魅力があること	2.65	2.64	2.66	2.63	2.55	2.62	2.78
28	18	市町村行政に対する住民意向の反映	2.52	2.54	2.43	2.43	2.37	2.51	2.77
29	20	安心できる周産期医療体制	2.51	2.41	2.44	2.42	2.39	2.56	2.72
30	29	失業の不安がない社会づくり	2.51	2.36	2.47	2.48	2.38	2.51	2.73
31	31	多様な就業環境の整備	2.48	2.33	2.44	2.39	2.39	2.53	2.69

(注) 網かけ・白抜きは、年齢での満足度が「県全体」よりも低いことを意味する。ただし、「県全体」と年齢との比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、点数が同じ場合に網かけをしていることがある。

「県全体」の上位10項目を年齢別にみると、「50歳代」では全ての項目が「県全体」を下回っており、「20歳代」から「40歳代」でも「県全体」を下回る項目が多くなっています。

下位10項目は、「40歳代」、「50歳代」では全ての項目が「県全体」を下回っており、「20歳代」、「30歳代」、「60歳代」でも「県全体」を下回る項目が多くなっています。

#### ④年齢別の満足度上位5項目の傾向

図表 年齢別の満足度上位5項目の傾向

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	文化遺産や 史跡の保存 3.51	食品・薬品等の 安全性の確保 3.25	地域の景観・ 町並の美しさ 3.16	ゴミのリサイクル の促進 3.11	品揃えの豊富な店 3.10
20歳代	文化遺産や 史跡の保存 3.55	食品・薬品等の 安全性の確保 3.34	地域の景観・ 町並の美しさ 3.18	平日の渋滞解消 3.10	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.06
30歳代	文化遺産や 史跡の保存 3.52	食品・薬品等の 安全性の確保 3.28	品揃えの豊富な店 3.17	地域の景観・ 町並の美しさ 3.12	公共交通の利便性 3.04
40歳代	文化遺産や 史跡の保存 3.46	食品・薬品等の 安全性の確保 3.27	品揃えの豊富な店 3.12	地域の景観・ 町並の美しさ 3.11	公共交通の利便性 3.05
50歳代	文化遺産や 史跡の保存 3.40	食品・薬品等の 安全性の確保 3.16	地域の景観・ 町並の美しさ 3.10	平日の渋滞解消 3.05	品揃えの豊富な店 3.03
60歳代	文化遺産や 史跡の保存 3.51	食品・薬品等の 安全性の確保 3.21	ゴミのリサイクル の促進 3.18	公共交通の利便性 3.18	平日の渋滞解消 3.18
70歳 以上	文化遺産や 史跡の保存 3.61	ゴミのリサイクル の促進 3.38	食品・薬品等の 安全性の確保 3.28	地域の景観・ 町並の美しさ 3.28	公共交通の利便性 3.24

(注) 網かけは、年齢にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

満足度上位5項目で、個別の年齢にはあるが「県全体」にはない項目は、「平日の渋滞解消」（「20歳代」、「50歳代」の第4位、「60歳代」の第5位）、「犯罪にあう不安のない暮らし」（「20歳代」の第5位）、「公共交通の利便性」（「30歳代」、「40歳代」、「70歳以上」の第5位、「60歳代」の第4位）となっています。

## ⑤年齢別の満足度下位5項目の傾向

図表 年齢別の満足度下位5項目の傾向

	第31位	第30位	第29位	第28位	第27位
県全体	多様な就業環境の整備 2.48	失業の不安がない社会づくり 2.51	安心できる周産期医療体制 2.51	市町村行政に対する住民意向の反映 2.52	地域に活力・魅力があること 2.65
20歳代	多様な就業環境の整備 2.33	失業の不安がない社会づくり 2.36	安心できる周産期医療体制 2.41	市町村行政に対する住民意向の反映 2.54	県内で購入可能な商品の充実 2.61
30歳代	市町村行政に対する住民意向の反映 2.43	多様な就業環境の整備 2.44	安心できる周産期医療体制 2.44	失業の不安がない社会づくり 2.47	急病時に診てもらえる医療機関 2.58
40歳代	多様な就業環境の整備 2.39	安心できる周産期医療体制 2.42	市町村行政に対する住民意向の反映 2.43	失業の不安がない社会づくり 2.48	急病時に診てもらえる医療機関 2.52
50歳代	市町村行政に対する住民意向の反映 2.37	失業の不安がない社会づくり 2.38	安心できる周産期医療体制 2.39	多様な就業環境の整備 2.39	急病時に診てもらえる医療機関 2.54
60歳代	失業の不安がない社会づくり 2.51	市町村行政に対する住民意向の反映 2.51	多様な就業環境の整備 2.53	安心できる周産期医療体制 2.56	地域に活力・魅力があること 2.62
70歳以上	多様な就業環境の整備 2.69	安心できる周産期医療体制 2.72	失業の不安がない社会づくり 2.73	市町村行政に対する住民意向の反映 2.77	地域に活力・魅力があること 2.78

(注) 網かけは、年齢にはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。

点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

満足度下位5項目で、個別の年齢にはあるが「県全体」にはない項目は、「県内で購入可能な商品の充実」（「20歳代」の第27位）、「急病時に診てもらえる医療機関」（「30歳代」から「50歳代」の第27位）となっています。

### 3 買物やサービスの利用に関する意識やニーズについて

#### 3-1 日常の食料品・日用品の買物

##### (1) よく利用する店舗等

図表 よく利用する店舗等（複数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別、性別、年齢別、ライフステージ別）

	総合・食品スーパー	大規模なショッピングセンター（モール）	コンビニエンスストア	生協等の宅配サービス	百貨店	商店街以外の一般小売店	商店街の一般小売店	その他	
県全体	<b>88.3%</b>	<b>49.5%</b>	<b>29.0%</b>	24.6%	24.5%	12.4%	10.9%	2.2%	
地域別	地域1(北部)	<b>87.8%</b>	<b>55.1%</b>	24.5%	24.8%	<b>30.2%</b>	10.6%	12.3%	1.7%
	地域2(西部)	<b>94.8%</b>	<b>43.9%</b>	<b>32.4%</b>	25.4%	19.9%	12.5%	10.5%	2.1%
	地域3(中部)	<b>90.8%</b>	<b>52.9%</b>	<b>30.3%</b>	24.4%	22.4%	9.6%	8.0%	1.1%
	地域4(東部)	<b>88.9%</b>	<b>43.5%</b>	<b>38.4%</b>	23.1%	20.4%	9.7%	10.2%	3.2%
	地域5(南東部)	<b>76.7%</b>	25.2%	<b>36.1%</b>	22.3%	10.4%	<b>33.2%</b>	13.9%	7.4%
	地域6(南西部)	<b>80.9%</b>	27.0%	<b>36.0%</b>	<b>30.3%</b>	13.5%	21.3%	10.1%	5.6%
居住地域の状況別	商業地域	<b>92.1%</b>	<b>46.1%</b>	22.0%	22.0%	26.2%	13.6%	<b>27.7%</b>	4.2%
	住宅地域	<b>89.5%</b>	<b>54.5%</b>	27.1%	25.9%	<b>29.4%</b>	9.3%	9.0%	1.4%
	農村地域	<b>90.7%</b>	<b>50.5%</b>	<b>34.9%</b>	22.4%	16.6%	13.3%	8.9%	1.4%
	山間地域	<b>77.2%</b>	<b>29.3%</b>	<b>34.7%</b>	24.1%	13.3%	24.4%	12.5%	6.2%
	その他	<b>94.1%</b>	<b>50.0%</b>	<b>29.4%</b>	20.6%	17.6%	14.7%	20.6%	5.9%
性別	男性	<b>88.8%</b>	<b>54.7%</b>	<b>35.5%</b>	20.2%	20.7%	12.3%	9.7%	1.6%
	女性	<b>88.0%</b>	<b>45.4%</b>	23.6%	<b>28.3%</b>	27.8%	12.4%	11.9%	2.8%
年齢別	20歳代	<b>76.3%</b>	<b>72.3%</b>	<b>57.6%</b>	16.1%	16.1%	11.2%	2.2%	2.7%
	30歳代	<b>90.4%</b>	<b>64.7%</b>	<b>31.5%</b>	27.7%	20.0%	10.7%	4.7%	2.7%
	40歳代	<b>93.6%</b>	<b>63.6%</b>	<b>31.9%</b>	26.0%	15.2%	8.8%	4.5%	1.9%
	50歳代	<b>93.9%</b>	<b>47.9%</b>	26.2%	<b>31.6%</b>	23.3%	11.2%	8.1%	2.0%
	60歳代	<b>89.7%</b>	<b>43.8%</b>	25.0%	25.3%	<b>30.5%</b>	12.3%	13.3%	2.0%
	70歳以上	<b>82.7%</b>	<b>32.4%</b>	22.3%	19.6%	<b>30.7%</b>	16.9%	20.7%	2.4%
ライフステージ別	若者	<b>76.0%</b>	<b>73.3%</b>	<b>57.5%</b>	16.3%	15.4%	10.9%	2.3%	2.7%
	夫婦	<b>91.8%</b>	<b>45.0%</b>	20.0%	29.6%	<b>30.7%</b>	15.0%	7.9%	3.2%
	育児期	<b>90.8%</b>	<b>74.8%</b>	22.7%	<b>33.7%</b>	17.8%	9.8%	4.9%	1.8%
	教育期前期	<b>94.7%</b>	<b>65.4%</b>	26.0%	<b>33.8%</b>	11.6%	10.8%	4.7%	0.8%
	教育期後期	<b>95.2%</b>	<b>53.8%</b>	28.4%	<b>30.8%</b>	20.7%	9.6%	8.7%	1.9%
	単身高齢者	<b>73.6%</b>	<b>24.5%</b>	<b>23.6%</b>	20.9%	20.9%	17.3%	21.8%	6.4%
	高齢者夫婦	<b>87.8%</b>	<b>40.2%</b>	23.7%	18.2%	<b>37.1%</b>	17.9%	18.7%	2.2%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

## ■県全体

日常の食料品や日用品の買物先は、「県全体」では「総合・食品スーパー」(88.3%)が最も多く、次いで「大規模なショッピングセンター(モール)」(49.5%)、「コンビニエンスストア」(29.0%)となっています。

## ■地域別

県全体の傾向と大差はありませんが、「地域1(北部)」では「百貨店」が、「地域5(南東部)」では「商店街以外の一般小売店」が、「地域6(南西部)」では「生協等の宅配サービス」が第3位となっています。

## ■居住地域の状況別

県全体の傾向と大差はありませんが、「商業地域」では「商店街の一般小売店」が、「住宅地域」では「百貨店」が第3位となっています。

## ■性別

県全体の傾向と大差はありませんが、「女性」では「生協等の宅配サービス」が第3位となっています。

## ■年齢別

県全体の傾向と大差はありませんが、「50歳代」では「生協等の宅配サービス」が、「60歳代」および「70歳以上」では「百貨店」が第3位となっています。

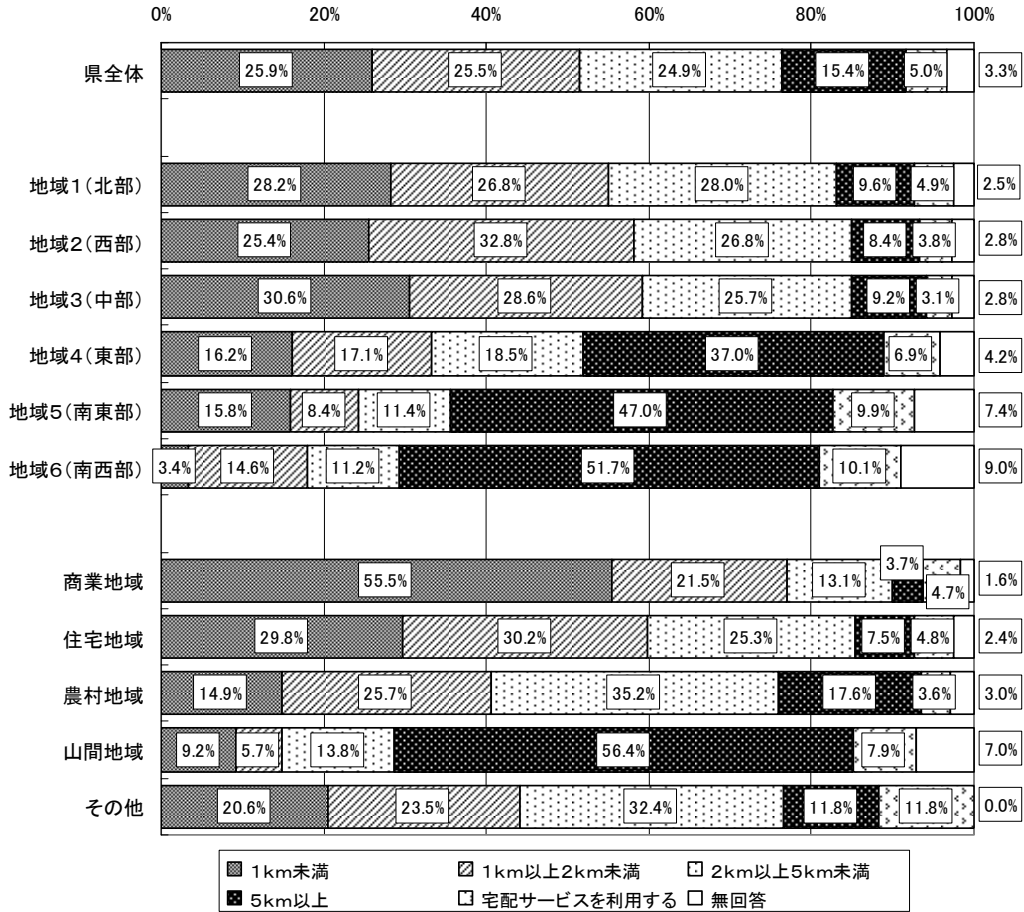
## ■ライフステージ別

県全体の傾向と大差はありませんが、「若者」と「単身高齢者」では「コンビニエンスストア」が、「夫婦」および「高齢者夫婦」では「百貨店」が、「育児期」、「教育期前期」、「教育期後期」では「生協等の宅配サービス」が第3位となっています。

## (2) 最もよく利用する店舗と自宅の距離

### ①今年度調査結果

図表 最もよく利用する店舗と自宅の距離（単数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

#### ■県全体

県全体では「1 km未満」、「1 km以上 2 km未満」、「2 km以上 5 km未満」の店舗を利用する人がおよそ25%ずつを占めており、「5 km以上」の店舗を利用する人がおよそ15%、「宅配サービスを利用する」人がおよそ5%となっています。

#### ■地域別

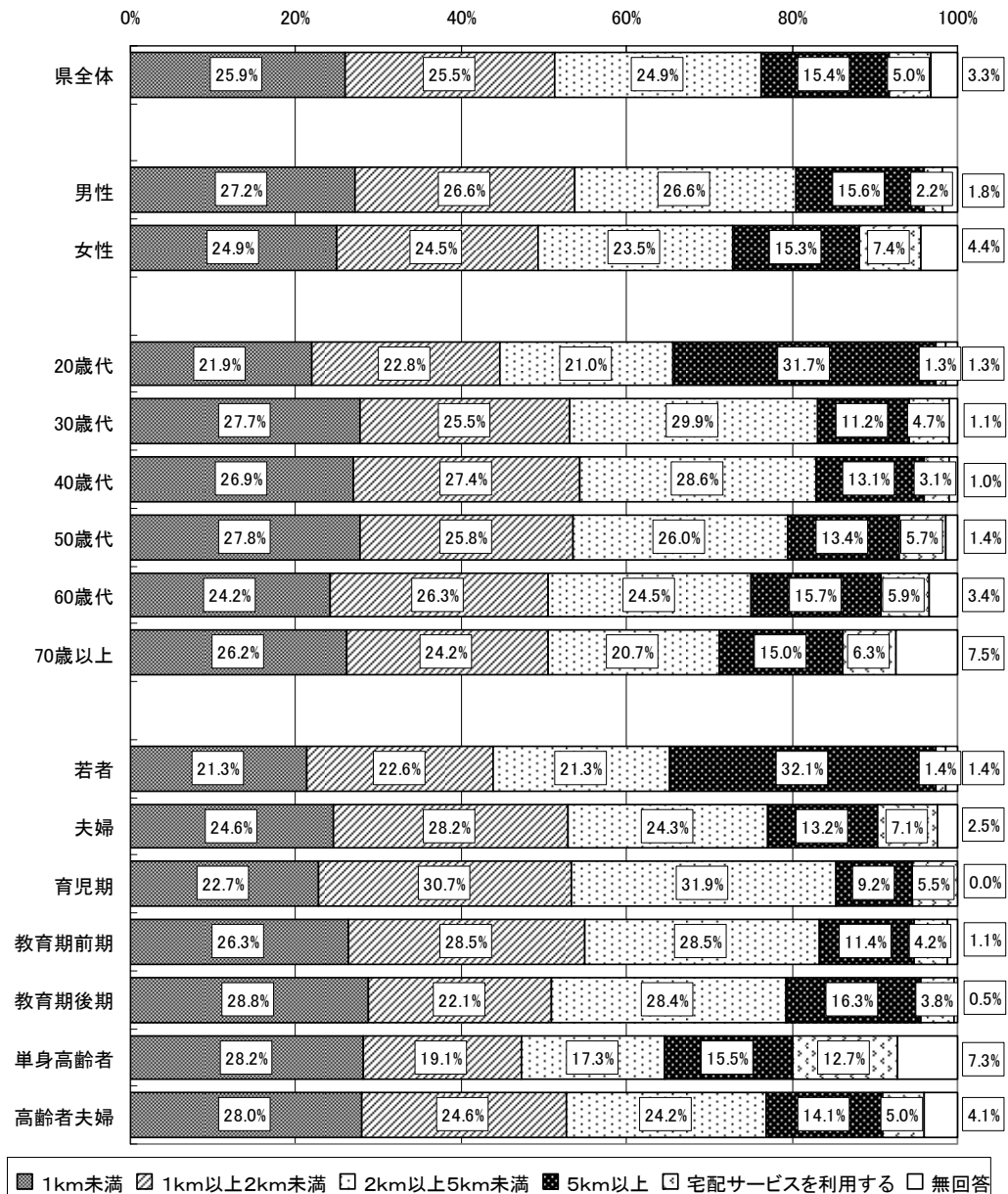
「地域1（北部）」、「地域2（西部）」、「地域3（中部）」では、5 km未満の店舗を利用する人が80%を超えています。一方で、「地域4（東部）」、「地域5（南東部）」、「地域6（南西部）」では5 km未満の店舗を利用する人は少なく、「5 km以上」の店舗を利用する人が最も多くなっています。

#### ■居住地域の状況別

「商業地域」では「1 km未満」の店舗を利用する人が50%を超えています。「農村地域」では「2 km以上 5 km未満」、「山間地域」では「5 km以上」の店舗を利用する人が最も多くなっています。



図表 最もよく利用する店舗と自宅の距離（単数回答／県全体、性別、年齢別、ライフステージ別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

「男性」より「女性」が宅配サービスをよく利用しています。

■年齢別

「20歳代」では「5 km以上」の店舗を利用する人が最も多くなっています。また、「60歳代」以上では、他の年齢層に比べ「宅配サービスを利用する」人が多くなっています。

■ライフステージ別

「若者」で「5 km以上」の店舗を利用する人が多く、「単身高齢者」で「宅配サービスを利用する」人が多くなっています。

## ②店舗の距離とその品揃えの充実度

図表 店舗の距離とその品揃えの充実度（設問間クロス／県全体）

### ■重要度

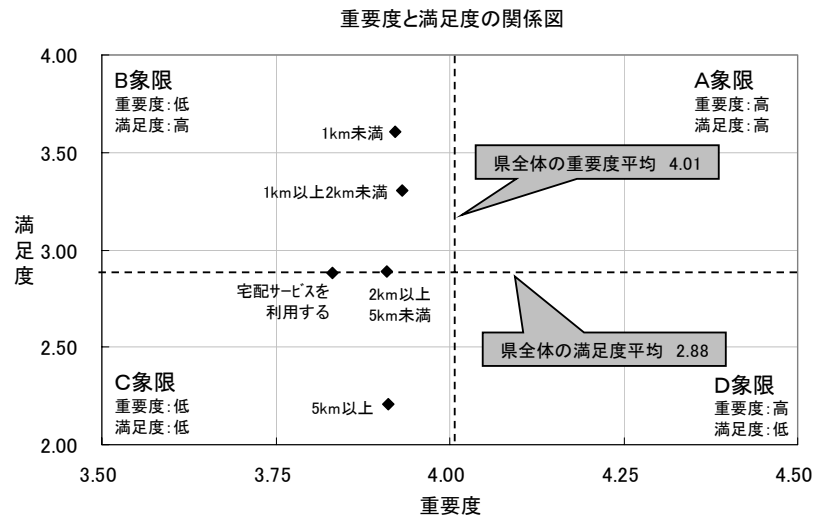
順位	項目番号	問11 店舗と自宅との距離	重要度
1	2	1km以上2km未満	3.93
2	1	1km未満	3.92
3	4	5km以上	3.91
4	3	2km以上5km未満	3.91
5	5	宅配サービスを利用する	3.83

### ■満足度

順位	項目番号	問11 店舗と自宅との距離	満足度
1	1	1km未満	3.61
2	2	1km以上2km未満	3.30
3	3	2km以上5km未満	2.89
4	5	宅配サービスを利用する	2.88
5	4	5km以上	2.21

### ■ニーズ得点

順位	項目番号	問11 店舗と自宅との距離	ニーズ得点
1	4	5km以上	14.85
2	3	2km以上5km未満	12.17
3	5	宅配サービスを利用する	11.94
4	2	1km以上2km未満	10.60
5	1	1km未満	9.38



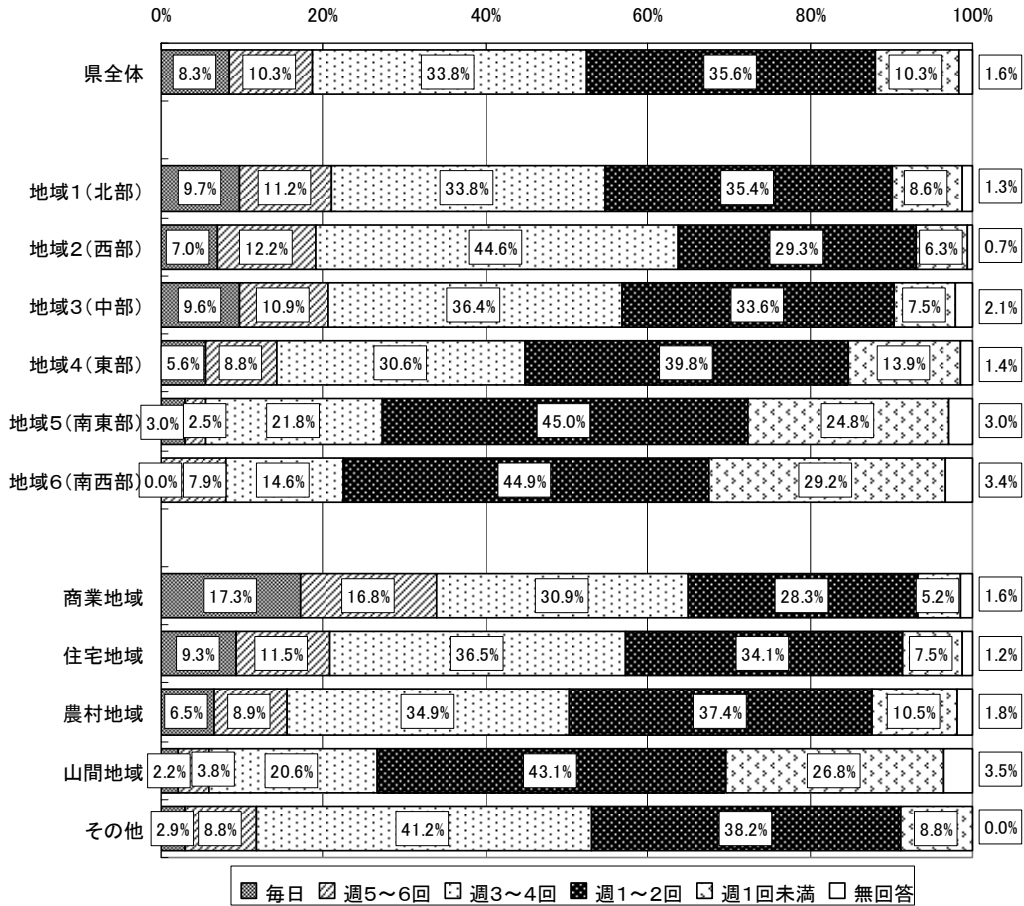
(注) 上記図表は最も利用する店舗（距離）毎の品揃えの充実度を把握するため、問9-1と問11のクロス集計を行った結果である。なお、順位は少数第3位以下も考慮し決定している。

重要度が高く、満足度が低い（D象限）に位置する店舗がないことから、各店舗共に利用者のニーズの度合に合わせて品揃えを充実させているといえます。しかしながら、「2 km 以上 5 km 未満」、「5 km 以上」、「宅配サービス」に対する満足度が低く、特に、「5 km 以上」の店舗の品揃えに対するニーズが高いといえます。

### (3) 1週間にしかける買物の回数

#### ①今年度調査結果

図表 1週間にしかける買物の回数（単数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

#### ■県全体

県全体では「週1～2回」(35.6%) 買物に出かける人が最も多く、次いで「週3～4回」(33.8%) となっています。

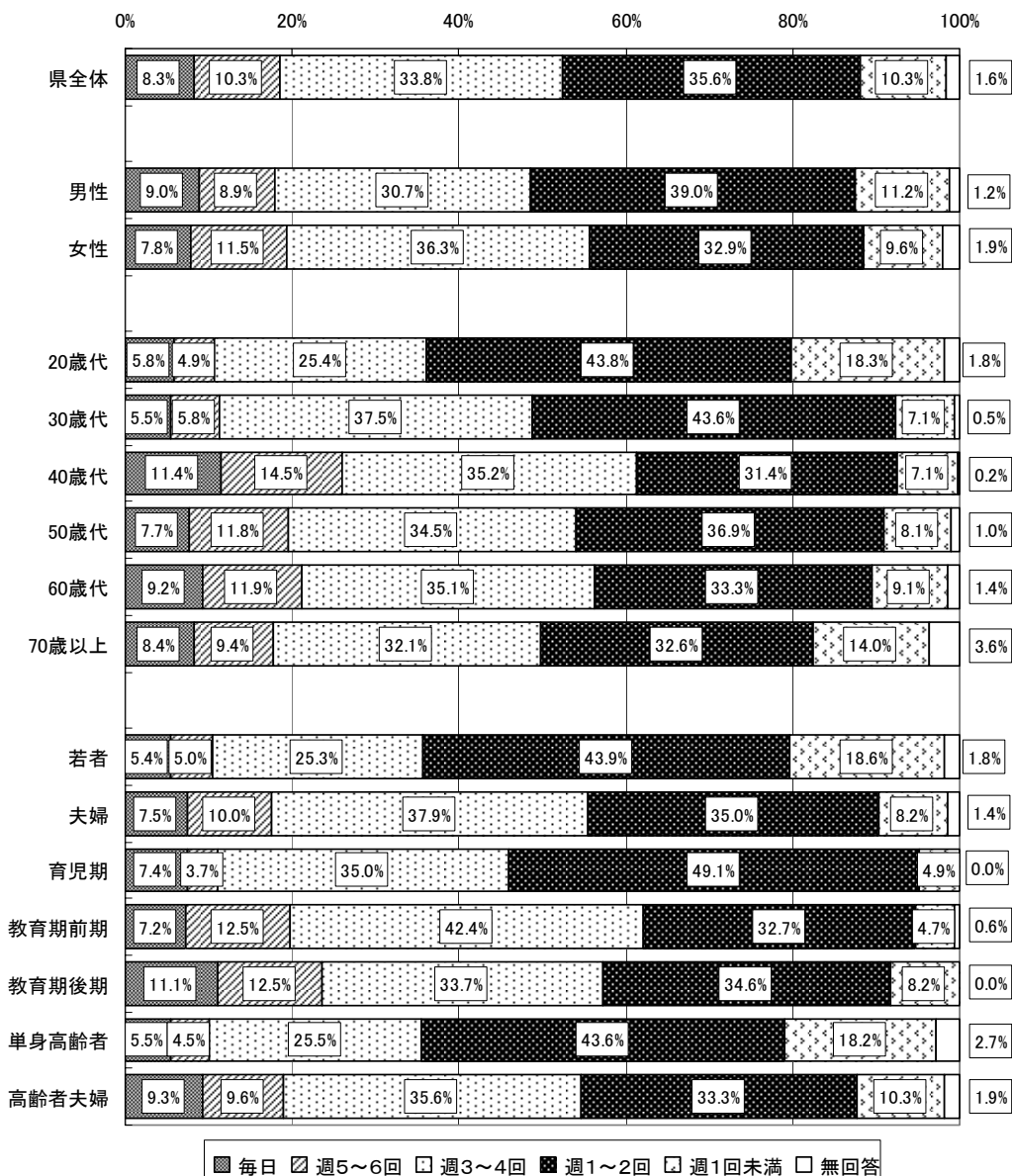
#### ■地域別

「地域1(北部)」、「地域4(東部)」、「地域5(南東部)」、「地域6(南西部)」では「週1～2回」、「地域2(西部)」、「地域3(中部)」では「週3～4回」買物に出かける人が最も多くなっています。また、「地域5(南東部)」、「地域6(南西部)」では、買物に出かける回数が「週1回未満」の人も多くなっています。

#### ■居住地域の状況別

「商業地域」と「住宅地域」では「週3～4回」、「農村地域」と「山間地域」では「週1～2回」買物に出かける人が多くなっています。

図表 1 週間に出かける買物の回数（単数回答／県全体、性別、年齢別、ライフステージ別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

「男性」では「週1～2回」、「女性」では「週3～4回」買物に出かける人が多くなっています。

■年齢別

いずれの年齢層も「週1～2回」もしくは「週3～4回」買物に出かける人が多くなっていますが、特に、「40歳代」では「週5～6回」以上、「20歳代」と「70歳以上」では買物に出かける回数が「週1回未満」の人が多い傾向にあります。

■ライフステージ別

いずれのライフステージでも「週1～2回」もしくは「週3～4回」買物に出かける人が多くなっていますが、特に、「教育期後期」では「週5～6回」以上、「若者」と「単身高齢者」では「週1回未満」買物に出かける人が多い傾向にあります。

## ②よく利用する店舗と利用頻度の関係

図表 よく利用する店舗と利用頻度の関係（設問間クロス／県全体）

問12 買物の頻度	問10 よく利用する店舗							
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位
毎日	総合・食品スーパー 92.0%	大規模なショッピングセンター 53.6%	コンビニエンスストア 32.1%	百貨店 27.8%	生協等の宅配サービス 19.0%	商店街の一般小売店 16.9%	商店街以外の一般小売店 9.7%	その他 0.4%
週5～6回	総合・食品スーパー 93.5%	大規模なショッピングセンター 51.0%	百貨店 27.6%	コンビニエンスストア 26.2%	生協等の宅配サービス 22.8%	商店街の一般小売店 14.6%	商店街以外の一般小売店 10.9%	その他 2.4%
週3～4回	総合・食品スーパー 92.7%	大規模なショッピングセンター 52.0%	コンビニエンスストア 29.1%	百貨店 28.5%	生協等の宅配サービス 24.4%	商店街の一般小売店 11.0%	商店街以外の一般小売店 10.7%	その他 1.8%
週1～2回	総合・食品スーパー 89.3%	大規模なショッピングセンター 50.3%	コンビニエンスストア 29.1%	生協等の宅配サービス 25.8%	百貨店 21.6%	商店街以外の一般小売店 14.4%	商店街の一般小売店 9.3%	その他 2.2%
週1回未満	総合・食品スーパー 73.4%	大規模なショッピングセンター 40.6%	コンビニエンスストア 31.7%	生協等の宅配サービス 30.7%	百貨店 19.1%	商店街以外の一般小売店 16.7%	商店街の一般小売店 8.5%	その他 4.4%

（注）上記図表は買物の頻度と店舗の種類の関係性を把握するため、問10と問12のクロス集計を行った結果である。なお、順位は少数第2位以下も考慮し決定している。  
母数は「毎日」から順に237人、294人、963人、1015人、293人である。

買物の頻度に関係なく、「総合・食品スーパー」が最もよく利用されており、次いで「大規模なショッピングセンター」が利用されています。

#### (4) 買物をする場合の支払い方法

図表 買物をする場合の支払い方法（単数回答／県全体、地域別、性別、年齢別）

	現金	クレジットカード	プリペイド（前払い）カード	その他	無回答
県全体	<b>89.3%</b>	7.7%	0.7%	0.4%	1.9%
地域別					
地域1(北部)	<b>86.1%</b>	<b>10.9%</b>	0.9%	0.3%	1.8%
地域2(西部)	<b>92.3%</b>	5.2%	0.7%	0.0%	1.7%
地域3(中部)	<b>91.8%</b>	4.7%	0.7%	0.3%	2.5%
地域4(東部)	<b>90.3%</b>	8.3%	0.0%	0.5%	0.9%
地域5(南東部)	<b>95.5%</b>	1.5%	0.0%	1.0%	2.0%
地域6(南西部)	<b>92.1%</b>	2.2%	1.1%	2.2%	2.2%
性別					
男性	<b>89.1%</b>	8.3%	0.8%	0.5%	1.4%
女性	<b>89.5%</b>	7.2%	0.6%	0.3%	2.4%
年齢別					
20歳代	<b>90.2%</b>	7.1%	0.4%	0.0%	2.2%
30歳代	<b>86.3%</b>	<b>10.7%</b>	1.4%	0.5%	1.1%
40歳代	<b>95.2%</b>	<b>11.9%</b>	1.2%	0.2%	1.4%
50歳代	<b>86.4%</b>	<b>11.6%</b>	0.8%	0.2%	1.0%
60歳代	<b>91.5%</b>	5.1%	0.8%	0.3%	2.3%
70歳以上	<b>93.1%</b>	3.3%	0.0%	0.7%	2.9%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。  
 太字で濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、太字で薄い網掛けは10%以上の項目を示している。  
 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

#### ■県全体

県全体では「現金」(89.3%)による支払いが最も多く、次いで「クレジットカード」(7.7%)となっています。

#### ■地域別

いずれの地域でも「現金」による支払いが最も多くなっていますが、「地域1(北部)」では「クレジットカード」を利用する人も多くなっています。

#### ■性別

男女とも「現金」による支払いが最も多くなっていますが、「クレジットカード」を利用する人は「女性」に比べ「男性」が多くなっています。

#### ■年齢別

いずれの年齢層でも「現金」による支払いが最も多くなっていますが、「30歳代」から「50歳代」にかけて「クレジットカード」を利用する人が多くなっています。

(5) 買物をする際に利用するサービス

①今年度調査結果

図表 買物をする際に利用するサービス

(複数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別、性別、年齢別)

		ポイントサービス	特売日などの安売	買った商品を届ける宅配サービス	電話注文などによる宅配サービス	送迎バス	その他
県全体		<b>79.1%</b>	<b>66.3%</b>	9.6%	8.0%	1.3%	2.0%
地域別	地域1(北部)	<b>77.7%</b>	<b>67.8%</b>	<b>10.6%</b>	7.1%	2.0%	1.9%
	地域2(西部)	<b>76.0%</b>	<b>74.9%</b>	8.7%	7.3%	0.3%	1.4%
	地域3(中部)	<b>83.2%</b>	<b>70.4%</b>	7.3%	8.0%	0.3%	1.7%
	地域4(東部)	<b>85.6%</b>	<b>62.5%</b>	8.8%	7.9%	0.5%	1.4%
	地域5(南東部)	<b>73.3%</b>	<b>43.6%</b>	<b>12.9%</b>	<b>12.9%</b>	2.5%	3.5%
	地域6(南西部)	<b>75.3%</b>	<b>43.8%</b>	<b>10.1%</b>	<b>12.4%</b>	2.2%	5.6%
居住地域の状況別	商業地域	<b>79.6%</b>	<b>68.6%</b>	<b>15.2%</b>	4.2%	2.1%	0.5%
	住宅地域	<b>80.4%</b>	<b>69.3%</b>	<b>10.1%</b>	7.3%	1.4%	2.0%
	農村地域	<b>80.0%</b>	<b>68.9%</b>	6.3%	8.5%	0.6%	1.0%
	山間地域	<b>72.9%</b>	<b>48.2%</b>	9.8%	<b>12.5%</b>	1.6%	3.8%
	その他	<b>73.5%</b>	<b>61.8%</b>	2.9%	<b>11.8%</b>	0.0%	8.8%
性別	男性	<b>75.7%</b>	<b>63.2%</b>	7.6%	6.2%	0.4%	2.6%
	女性	<b>81.9%</b>	<b>68.9%</b>	<b>11.3%</b>	9.4%	2.1%	1.5%
年齢別	20歳代	<b>79.0%</b>	<b>65.2%</b>	5.4%	4.5%	0.9%	1.3%
	30歳代	<b>84.7%</b>	<b>70.7%</b>	4.9%	7.1%	0.3%	0.5%
	40歳代	<b>85.0%</b>	<b>72.4%</b>	5.5%	5.2%	1.0%	1.2%
	50歳代	<b>87.0%</b>	<b>68.2%</b>	6.5%	<b>10.1%</b>	0.8%	0.8%
	60歳代	<b>77.5%</b>	<b>67.6%</b>	<b>10.3%</b>	6.9%	0.9%	2.9%
	70歳以上	<b>68.6%</b>	<b>58.2%</b>	<b>17.4%</b>	<b>10.7%</b>	3.0%	3.5%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。

太字で濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、太字で薄い網掛けは2番目に多い項目を、網掛けなしの太字は10%以上の項目を示している。

母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

## ■県全体

県全体では「ポイントサービス」(79.1%)を利用する人が最も多く、次いで「特売日などの安売」(66.3%)となっています。

## ■地域別

県全体の傾向と大差はありませんが、「地域1(北部)」では「買った商品を届ける宅配サービス」、「地域5(南東部)」と「地域6(南西部)」では「買った商品を届ける宅配サービス」および「電話注文などによる宅配サービス」が多くなっています。

## ■居住地域の状況別

県全体の傾向と大差はありませんが、「商業地域」と「住宅地域」では「買った商品を届ける宅配サービス」、「山間地域」では「電話注文などによる宅配サービス」を利用する人が多くなっています。

## ■性別

県全体の傾向と大差はありませんが、「女性」では「買った商品を届ける宅配サービス」を利用する人が多くなっています。

## ■年齢別

県全体の傾向と大差はありませんが、「60歳代」以上では「買った商品を届ける宅配サービス」、「50歳代」と「70歳以上」では「電話注文などによる宅配サービス」を利用する人が多くなっています。



## ②宅配サービスを利用する高齢者がよく利用する店舗

図表 宅配サービスを利用する高齢者がよく利用する店舗（設問間クロス／県全体）

順位	設問番号	問10 よく利用する店舗	度数・割合
1	3	総合・食品スーパー	203 83.5%
2	7	生協等の宅配サービス	101 41.6%
3	2	百貨店	98 40.3%
4	1	大規模なショッピングセンター	79 32.5%
5	5	商店街以外の一般小売店	54 22.2%
5	6	コンビニエンスストア	54 22.2%
7	4	商店街の一般小売店	53 21.8%
8	8	その他	5 2.1%
対象者数			243 100.0%

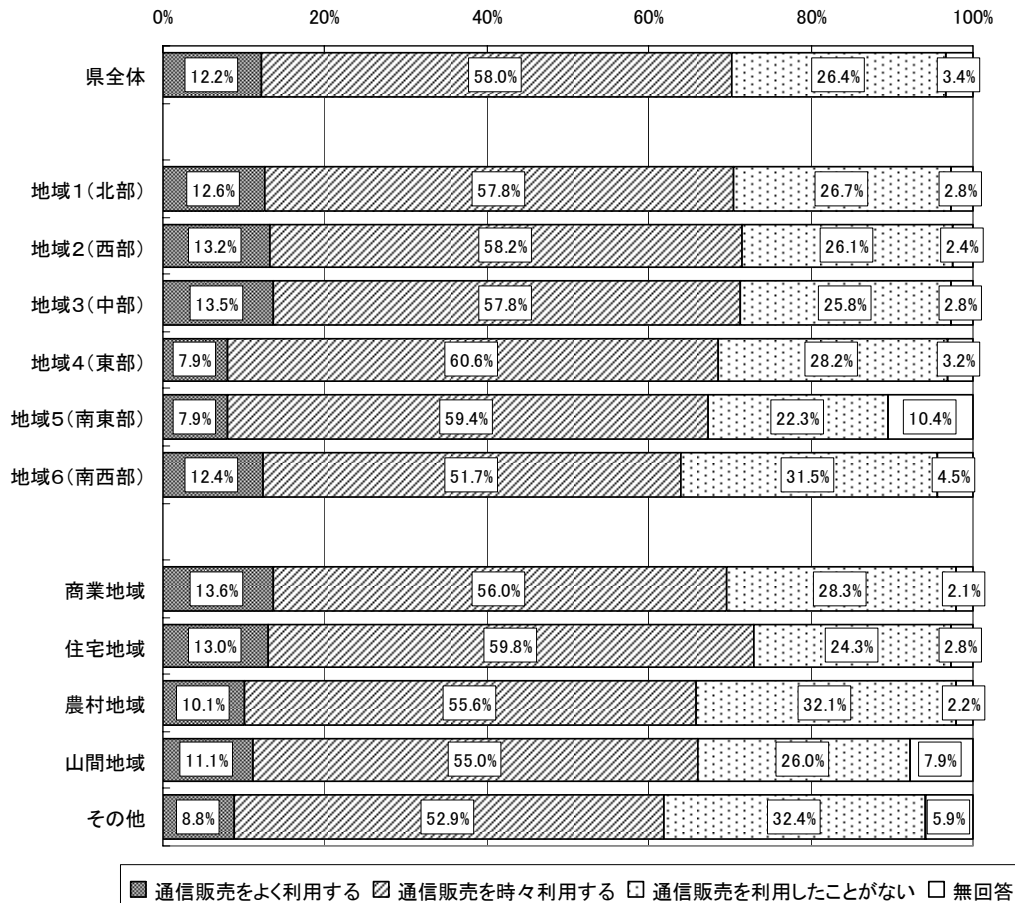
（注）上記図表は宅配サービスを利用する高齢者（65歳以上）がよく利用する店舗を把握するため、年齢層、問10、問14で「買った商品を届ける宅配サービス」もしくは「電話注文などによる宅配サービス」を利用すると回答した人についてクロス集計を行った結果である。なお、順位は少数第2位以下も考慮し決定している。  
 なお、問10・問14は複数回答であるため、設問間クロスの母数は問10に回答した高齢者（65歳以上）の人数と必ずしも一致しない。

宅配サービスを利用する高齢者（65歳以上）は、「総合・食品スーパー」、「生協等の宅配サービス」、「百貨店」をよく利用しています。

### 3-2 通信販売

#### (1) 過去1年間の利用状況

図表 過去1年間の利用状況（単数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

#### ■県全体

県全体では「通信販売を利用する」（「通信販売をよく利用する」＋「通信販売を時々利用する」）人が70.2%、「通信販売を利用したことがない」人が26.4%となっています。

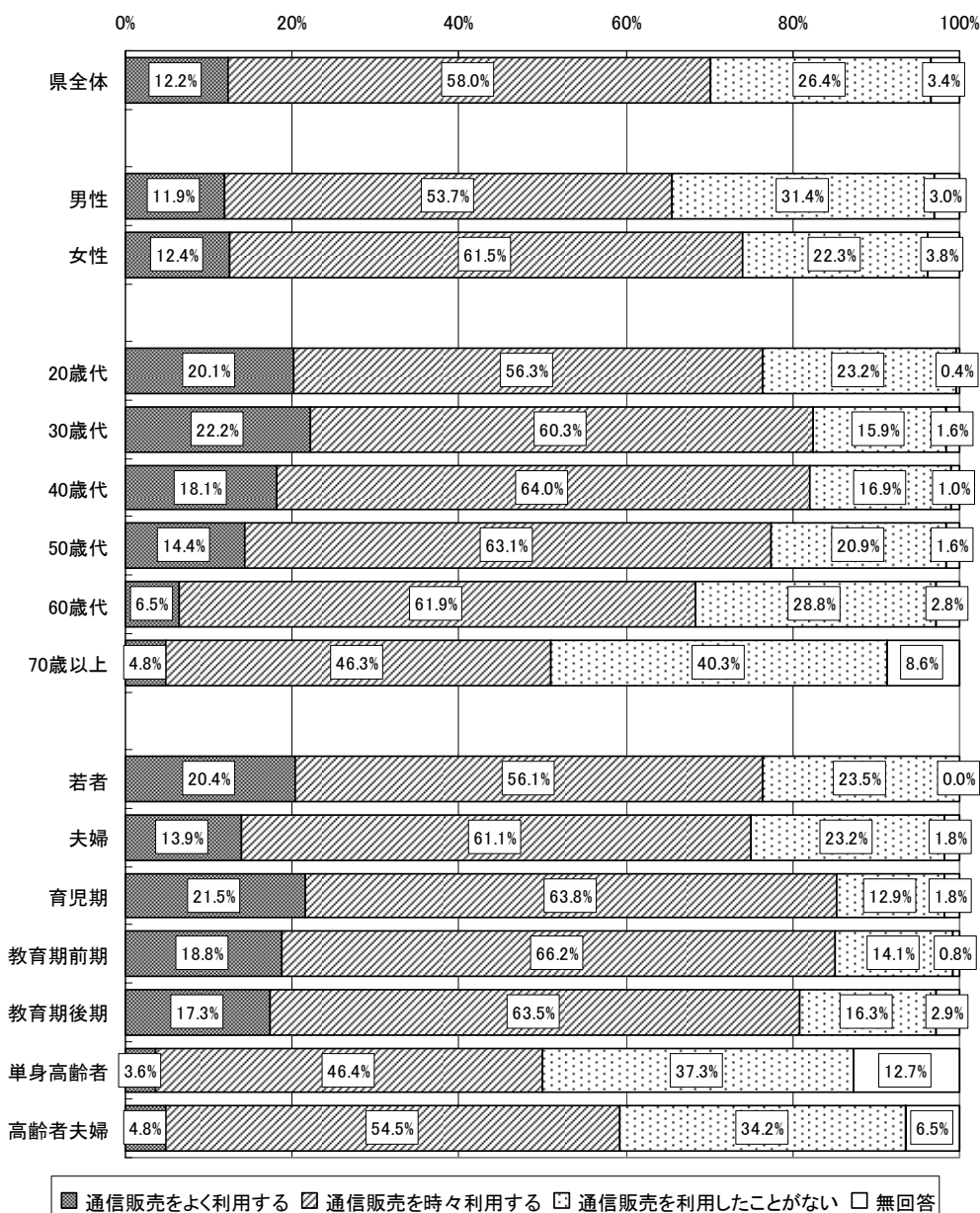
#### ■地域別

「地域4（東部）」、「地域5（南東部）」、「地域6（南西部）」では、他地域に比べて「通信販売を利用する」人（地域4（東部）：68.5%、地域5（南東部）：67.3%、地域6（南西部）：64.1%）が少なくなっています。

#### ■居住地域の状況別

「農村地域」と「山間地域」では、他地域に比べて「通信販売を利用する」人（農村地域：65.7%、山間地域：66.1%）が少なくなっています。

図表 過去1年間の利用状況（単数回答／県全体、性別、年齢別、ライフステージ別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

「男性」(65.6%)より「女性」(73.9%)が通信販売を利用しています。

■年齢別

「50歳代」以下で「通信販売を利用する」人が多い一方で、「60歳代」以上(特に「70歳以上」)では「通信販売を利用する」人(60歳代:68.4%、70歳以上:51.1%)が少なくなっています。

■ライフステージ別

「単身高齢者」と「高齢者夫婦」で「通信販売を利用する」人(単身高齢者:50.0%、高齢者夫婦:59.3%)が少なくなっています。

(2) 利用した通信販売の種類

図表 利用した通信販売の種類（複数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別、性別、年齢別、ライフステージ別）

	カタログ	インターネットショッピング	新聞や雑誌の広告・折り込みチラシ	テレビショッピング・ラジオ	ダイレクトメール	その他	
県全体	55.8%	42.6%	27.6%	20.8%	13.3%	1.2%	
地域別	地域1(北部)	53.1%	46.0%	24.6%	19.1%	13.8%	0.9%
	地域2(西部)	60.5%	46.3%	27.3%	17.6%	16.1%	2.0%
	地域3(中部)	56.1%	43.3%	31.4%	20.9%	12.1%	1.0%
	地域4(東部)	57.4%	29.1%	35.8%	25.7%	10.8%	1.4%
	地域5(南東部)	56.6%	30.1%	26.5%	26.5%	14.0%	0.7%
	地域6(南西部)	73.7%	29.8%	26.3%	33.3%	8.8%	5.3%
居住地域の状況別	商業地域	56.4%	46.6%	24.8%	22.6%	16.5%	0.8%
	住宅地域	53.2%	47.2%	25.8%	19.1%	13.8%	1.3%
	農村地域	58.7%	35.8%	31.3%	20.5%	10.8%	0.3%
	山間地域	62.3%	29.5%	32.8%	27.9%	11.9%	2.0%
	その他	61.9%	19.0%	23.8%	19.0%	9.5%	4.8%
性別	男性	42.3%	52.4%	27.2%	18.7%	14.4%	1.3%
	女性	65.6%	35.5%	27.9%	22.2%	12.5%	1.1%
年齢別	20歳代	39.8%	77.8%	6.4%	2.9%	1.8%	1.2%
	30歳代	55.8%	69.1%	12.3%	8.6%	5.3%	0.0%
	40歳代	56.5%	59.4%	19.4%	14.5%	4.9%	0.6%
	50歳代	59.7%	42.4%	31.2%	26.2%	14.4%	0.3%
	60歳代	55.0%	24.5%	41.2%	31.8%	21.2%	2.0%
	70歳以上	59.3%	9.6%	37.9%	26.0%	22.6%	2.8%
ライフステージ別	若者	40.2%	77.5%	6.5%	3.0%	1.8%	1.2%
	夫婦	54.3%	44.8%	28.6%	25.7%	18.6%	1.4%
	育児期	49.6%	71.2%	12.9%	9.4%	5.8%	0.7%
	教育期前期	60.3%	57.7%	17.3%	14.0%	5.9%	0.3%
	教育期後期	59.5%	55.4%	20.8%	23.2%	9.5%	0.6%
	単身高齢者	56.4%	5.5%	27.3%	23.6%	14.5%	1.8%
	高齢者夫婦	60.5%	13.3%	35.5%	24.6%	27.4%	3.6%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数は「利用する」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

## ■県全体

県全体では「カタログ」(55.8%)が最も多く、次いで「インターネットのオンラインショッピング」(42.6%)、「新聞や雑誌の広告・折り込みチラシ」(27.6%)の順で多く、多様な種類の通信販売が利用されています。

## ■地域別

県全体の傾向と大差はありませんが、「地域4(東部)」では「新聞や雑誌の広告・折り込みチラシ」が、「地域6(南西部)」では「テレビショッピング・ラジオショッピング」の利用が多くなっています。

## ■居住地域の状況別

県全体の傾向と大差はありませんが、「山間地域」では「新聞や雑誌の広告・折り込みチラシ」の利用が多くなっています。

## ■性別

県全体の傾向と大差はありませんが、「男性」では「インターネットのオンラインショッピング」が最も多くなっています。

## ■年齢別

「20歳代」から「40歳代」では「インターネットのオンラインショッピング」が最も多くなっています。一方、「60歳代」と「70歳以上」では「インターネットのオンラインショッピング」が少なく、「新聞や雑誌の広告・折り込みチラシ」や「テレビショッピング・ラジオショッピング」を利用する人が多くなっています。

## ■ライフステージ別

「若者」と「育児期」では「インターネットのオンラインショッピング」が、その他のライフステージでは「カタログ」が最も多くなっています。また、「教育期後期」と「単身高齢者」では「テレビショッピング・ラジオショッピング」が、「高齢者夫婦」では「ダイレクトメール」の利用が多くなっています。

### (3) 購入した商品

図表 購入した商品（複数回答／県全体、地域別、性別、年齢別、ライフステージ別）

	衣料品（普段着・下着・肌着）	衣料品（外出着・おしゃれ着）	医薬品・化粧品	食料品（生鮮食品以外）	本・ビデオ・CD・DVD	服飾雑貨品（靴・かばん等）	日用雑貨品（台所用品等）	家電製品（パソコン・テレビ等）	家具・インテリア	食料品（生鮮食品）	贈答品	スポーツ・レジャー用品	
県全体	36.9%	33.1%	32.2%	26.0%	25.8%	20.6%	20.0%	19.2%	16.8%	15.7%	15.2%	11.1%	
地域別	地域1(北部)	33.5%	31.5%	32.0%	28.0%	27.7%	20.9%	19.3%	19.5%	16.0%	15.6%	16.6%	11.8%
	地域2(西部)	39.0%	34.6%	35.1%	26.8%	26.8%	21.5%	24.9%	18.5%	21.5%	15.1%	18.5%	13.7%
	地域3(中部)	39.7%	34.8%	32.4%	24.3%	24.7%	20.8%	18.8%	20.6%	16.6%	15.8%	12.6%	11.7%
	地域4(東部)	37.2%	31.1%	29.7%	27.7%	16.2%	19.6%	20.3%	16.9%	13.5%	18.9%	12.8%	6.1%
	地域5(南東部)	41.2%	36.8%	27.9%	17.6%	27.2%	17.6%	22.8%	14.7%	16.2%	15.4%	13.2%	9.6%
	地域6(南西部)	47.4%	35.1%	38.6%	21.1%	19.3%	19.3%	15.8%	19.3%	22.8%	10.5%	14.0%	1.8%
性別	男性	25.3%	26.9%	22.9%	23.5%	33.5%	15.6%	15.1%	29.6%	15.5%	16.2%	14.0%	19.5%
	女性	45.4%	37.5%	38.9%	27.8%	20.2%	24.2%	23.5%	11.6%	17.7%	15.4%	16.0%	5.0%
年齢別	20歳代	32.2%	40.4%	26.9%	12.3%	46.8%	31.6%	14.6%	16.4%	19.9%	5.3%	12.9%	10.5%
	30歳代	44.9%	43.9%	26.2%	22.9%	35.5%	24.9%	23.3%	20.3%	21.3%	9.0%	13.6%	14.6%
	40歳代	40.9%	34.5%	33.0%	24.1%	36.2%	24.6%	16.2%	25.8%	19.1%	14.5%	16.5%	16.5%
	50歳代	37.4%	31.9%	37.7%	29.1%	23.0%	21.7%	21.2%	20.4%	17.3%	19.1%	14.1%	12.0%
	60歳代	28.6%	29.1%	32.2%	30.9%	18.5%	14.4%	20.0%	20.9%	12.2%	19.8%	14.9%	8.8%
	70歳以上	38.1%	25.7%	33.1%	28.0%	9.3%	13.6%	22.0%	9.6%	14.4%	18.9%	18.1%	5.1%
ライフステージ別	若者	32.5%	40.8%	26.6%	11.8%	46.7%	32.0%	14.2%	16.6%	20.1%	5.3%	13.0%	10.7%
	夫婦	34.3%	31.9%	37.6%	30.5%	23.8%	18.1%	23.8%	21.9%	21.4%	16.2%	17.6%	13.3%
	育児期	43.2%	38.8%	28.8%	23.0%	31.7%	22.3%	29.5%	19.4%	24.5%	10.1%	23.7%	15.1%
	教育期前期	43.0%	44.3%	27.4%	23.8%	29.6%	28.7%	17.6%	23.1%	17.9%	15.3%	15.6%	14.0%
	教育期後期	38.7%	31.5%	36.3%	29.2%	32.1%	21.4%	18.5%	28.0%	18.5%	14.3%	13.1%	15.5%
	単身高齢者	38.2%	38.2%	32.7%	16.4%	7.3%	18.2%	18.2%	9.1%	16.4%	18.2%	20.0%	1.8%
	高齢者夫婦	33.1%	23.4%	31.5%	31.0%	12.9%	12.9%	19.4%	13.3%	8.9%	16.9%	20.2%	9.3%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。

太字は各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数は「利用する」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

## ■県全体

県全体では「衣料品（普段着・下着・肌着）」（36.9%）が最も多く、次いで「衣料品（外出着・おしゃれ着）」（33.1%）、「医薬品・化粧品」（32.2%）の順で多く、多様な商品が購入されています。

## ■地域別

県全体の傾向と大差はありませんが、「地域1（北部）」、「地域2（西部）」、「地域6（南西部）」では「医薬品・化粧品」が2番目に多くなっています。

## ■性別

「女性」は県全体の傾向と大差はありませんが、「男性」では「本・ビデオ・CD・DVD」と「家電製品（パソコン・テレビ等）」が上位2項目を占めています。

## ■年齢別

「30歳代」、「40歳代」、「70歳以上」では「衣料品（普段着・下着・肌着）」が最も多くなっていますが、「20歳代」では「本・ビデオ・CD・DVD」が、「50歳代」と「60歳代」では「医薬品・化粧品」が最も多くなっています。

## ■ライフステージ別

県全体の傾向と大差はありませんが、「若者」、「育児期」、「教育期前期」、「教育期後期」では「本・ビデオ・CD・DVD」が、「高齢者夫婦」では「食料品（生鮮食品以外）」が多くなっています。

(4) 通信販売に対する印象

①今年度調査結果

図表 通信販売に対する印象（複数回答／県全体、地域別、性別、年齢別、ライフステージ別）

	確かめられない	商品を手に入れたい	どこに住んでいても、自分の希望どおりに購入できる	買い物に要する時間や手間が省ける	商品の代金以外に送料がかかる	24時間いつでも購入注文ができる	注文通りの商品が届くか不安である	商品の値段など比較購入しやすい	通信販売を利用しなくても、必要なものは購入することができる	いろいろな商品を見て歩く楽しみがない	ポイントや割引など特典がある	わからない
県全体	41.7%	41.5%	28.8%	21.5%	21.1%	20.7%	19.3%	16.4%	7.8%	6.8%	2.1%	
地域別	地域1(北部)	42.2%	41.0%	29.5%	20.8%	22.6%	19.9%	19.6%	17.8%	9.2%	7.4%	1.6%
	地域2(西部)	39.0%	37.6%	27.9%	21.6%	19.9%	22.0%	18.8%	15.3%	8.7%	7.0%	2.8%
	地域3(中部)	44.0%	40.6%	28.1%	22.7%	23.0%	21.7%	20.9%	16.1%	5.1%	6.2%	1.7%
	地域4(東部)	44.0%	44.0%	26.9%	22.2%	15.7%	24.1%	18.1%	15.3%	7.9%	7.4%	2.3%
	地域5(南東部)	36.1%	45.5%	24.3%	21.8%	16.8%	17.8%	14.9%	12.9%	5.0%	5.4%	5.0%
	地域6(南西部)	33.7%	51.7%	40.4%	19.1%	11.2%	19.1%	16.9%	12.4%	10.1%	4.5%	4.5%
性別	男性	39.4%	41.8%	27.1%	17.8%	22.4%	22.2%	22.8%	19.6%	8.3%	6.1%	2.3%
	女性	43.6%	41.2%	30.2%	24.5%	20.0%	19.4%	16.5%	13.8%	7.4%	7.5%	1.9%
年齢別	20歳代	45.5%	51.8%	32.1%	25.4%	33.5%	19.2%	17.9%	8.9%	6.7%	8.5%	1.3%
	30歳代	38.1%	49.3%	41.1%	20.0%	33.4%	14.2%	25.2%	6.6%	6.0%	11.8%	0.8%
	40歳代	41.9%	48.3%	34.8%	20.7%	32.4%	20.0%	25.2%	10.5%	3.6%	9.3%	0.7%
	50歳代	39.4%	46.9%	32.9%	21.9%	24.9%	21.7%	20.5%	11.0%	4.3%	7.9%	0.4%
	60歳代	45.0%	38.8%	23.4%	23.3%	13.9%	23.0%	19.3%	23.0%	9.7%	3.4%	2.6%
	70歳以上	40.9%	28.7%	19.5%	19.6%	7.8%	22.0%	12.2%	25.5%	12.2%	4.8%	4.6%
ライフステージ別	若者	45.7%	51.6%	32.6%	25.8%	33.5%	18.6%	18.1%	9.0%	6.3%	8.6%	1.4%
	夫婦	40.7%	42.1%	29.3%	20.0%	25.0%	22.1%	20.0%	15.7%	8.2%	2.9%	1.4%
	育児期	38.7%	47.2%	41.7%	19.6%	37.4%	17.8%	29.4%	6.7%	4.3%	15.3%	0.0%
	教育期前期	43.5%	51.0%	35.7%	23.8%	30.2%	18.0%	27.7%	7.2%	3.6%	9.4%	0.0%
	教育期後期	38.9%	47.1%	38.9%	18.8%	31.7%	16.3%	20.2%	13.0%	3.8%	8.7%	0.5%
	単身高齢者	37.3%	23.6%	15.5%	19.1%	9.1%	15.5%	10.9%	25.5%	15.5%	7.3%	7.3%
	高齢者夫婦	41.6%	31.1%	20.3%	18.7%	8.9%	23.7%	16.3%	25.4%	11.2%	3.3%	3.6%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。  
 太字は各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。  
 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。



## ■県全体

県全体では「商品を直接見たり、触れたりして確かめられない」(41.7%)が最も多く、第2位の「どこに住んでいても、自分の希望商品を手に入れる」(41.5%)を僅かに上まわっています。また、第3位は「買い物にでかける時間や手間が省ける」(28.8%)となっています。

## ■地域別

「地域1(北部)」、「地域2(西部)」、「地域3(中部)」では「商品を直接見たり、触れたりして確かめられない」が最も多くなっていますが、「地域5(南東部)」と「地域6(南西部)」では「どこに住んでいても、自分の希望商品を手に入れる」が最も多くなっています。また「地域4(東部)」では両者が同率となっています。

## ■性別

「男性」では「どこに住んでいても、自分の希望商品を手に入れる」が最も多くなっていますが、「女性」では「商品を直接見たり、触れたりして確かめられない」が最も多くなっています。

## ■年齢別

「20歳代」から「50歳代」では「どこに住んでいても、自分の希望商品を手に入れる」が最も多くなっていますが、「60歳代」と「70歳以上」では「商品を直接見たり、触れたりして確かめられない」が最も多くなっています。

## ■ライフステージ別

「若者」、「夫婦」、「育児期」、「教育期前期」、「教育期後期」では「どこに住んでいても、自分の希望商品を手に入れる」が最も多くなっていますが、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」では「商品を直接見たり、触れたりして確かめられない」が最も多くなっています。

## ②通信販売利用の有無とその理由

図表 通信販売利用の有無とその理由（設問間クロス／県全体）

項目 番号	問18 通信販売に対する意識	問15 通信販売の利用状況		
		計	通信販売を利用 する	通信販売を利用 したことがない
1	どこに住んでいても、自分の希望商品を手 入できる	1,170 42.5%	1,050 52.5%	120 16.0%
2	買い物にでかける時間や手間が省ける	811 29.5%	728 36.4%	83 11.1%
3	24時間いつでも購入注文ができる	596 21.7%	553 27.7%	43 5.7%
4	ポイントや割引など特典がある	190 6.9%	166 8.3%	24 3.2%
5	商品の値段など比較購入しやすい	545 19.8%	503 25.2%	42 5.6%
6	商品を直接見たり、触れたりして確かめられ ない	1,161 42.2%	666 33.3%	495 65.9%
7	注文通りの商品が届くか不安である	576 20.9%	281 14.1%	295 39.3%
8	商品の代金以外に送料がかかる	604 22.0%	438 21.9%	166 22.1%
9	いろいろな商品を見て歩く楽しみがない	216 7.9%	66 3.3%	150 20.0%
10	通信販売を利用しなくても、必要なものは購 入することができる	453 16.5%	83 4.2%	370 49.3%
11	わからない	58 2.1%	13 0.7%	45 6.0%
対象者数		2,751 100.0%	2,000 100.0%	751 100.0%

(注) 上記図表は通信販売利用の有無の理由を把握するため、問15を「通信販売を利用する」（「通信販売をよく利用する」＋「通信販売を時々利用する」と「通信販売を利用したことがない」に再集計し、問18とのクロス集計を行った結果である。

なお、対象者数は、問15で「通信販売を利用する」（「通信販売をよく利用する」＋「通信販売を時々利用する」と回答した人数である。

「通信販売を利用する」人は「どこに住んでいても、自分の希望商品を手入できる」（52.5%）、「買い物にでかける時間や手間が省ける」（36.4%）、「24時間いつでも購入注文ができる」（27.7%）、「商品の値段など比較購入しやすい」（25.2%）など、通信販売にメリットを感じている人が多くなっています。

一方、「通信販売を利用したことがない」人は「商品を直接見たり、触れたりして確かめられない」（65.9%）、「注文通りの商品が届くか不安である」（39.3%）など、通信販売にデメリットを感じている人が多いのに加えて、通信販売の必要性をあまり感じていない人も多く（「通信販売を利用しなくても、必要なものは購入することができる」（49.3%））なっています。

### ③通信販売に感じるメリットと通信販売の種類

図表 通信販売に感じるメリットと通信販売の種類（設問間クロス／県全体）

項目 番号	項目	問16						
		対象者数	インターネット のオンライン ショッピング	カタログ	新聞や雑誌 の広告・折 り込みチラ シ	テレビショッ ピング・ラジ オショッピン グ	ダイレクト メール	その他
1	どこに住んでいても、自分の希望 商品を手に入れる	214 100.0%	154 72.0%	109 50.9%	28 13.1%	22 10.3%	23 10.7%	2 0.9%
2	買い物にでかける時間や手間が 省ける	172 100.0%	125 72.7%	93 54.1%	23 13.4%	17 9.9%	17 9.9%	1 0.6%
3	24時間いつでも購入注文がで きる	150 100.0%	122 81.3%	70 46.7%	12 8.0%	13 8.7%	16 10.7%	0 0.0%
4	ポイントや割引など特典がある	58 100.0%	48 82.8%	24 41.4%	8 13.8%	4 6.9%	6 10.3%	0 0.0%
5	商品の値段など比較購入しやす い	114 100.0%	93 81.6%	51 44.7%	13 11.4%	11 9.6%	6 5.3%	1 0.9%

(注) 上記図表は通信販売に感じるメリットと通信販売の種類の間を把握するため、問15で「通信販売をよく利用する」と回答した人について、問18の選択肢1～5を選んだ回答者を再集計し、問16とのクロス集計を行った結果である。なお、問16・問18は複数回答であるため、設問間クロス之母数は問15で「通信販売をよく利用する」と回答した人数と必ずしも一致しない。

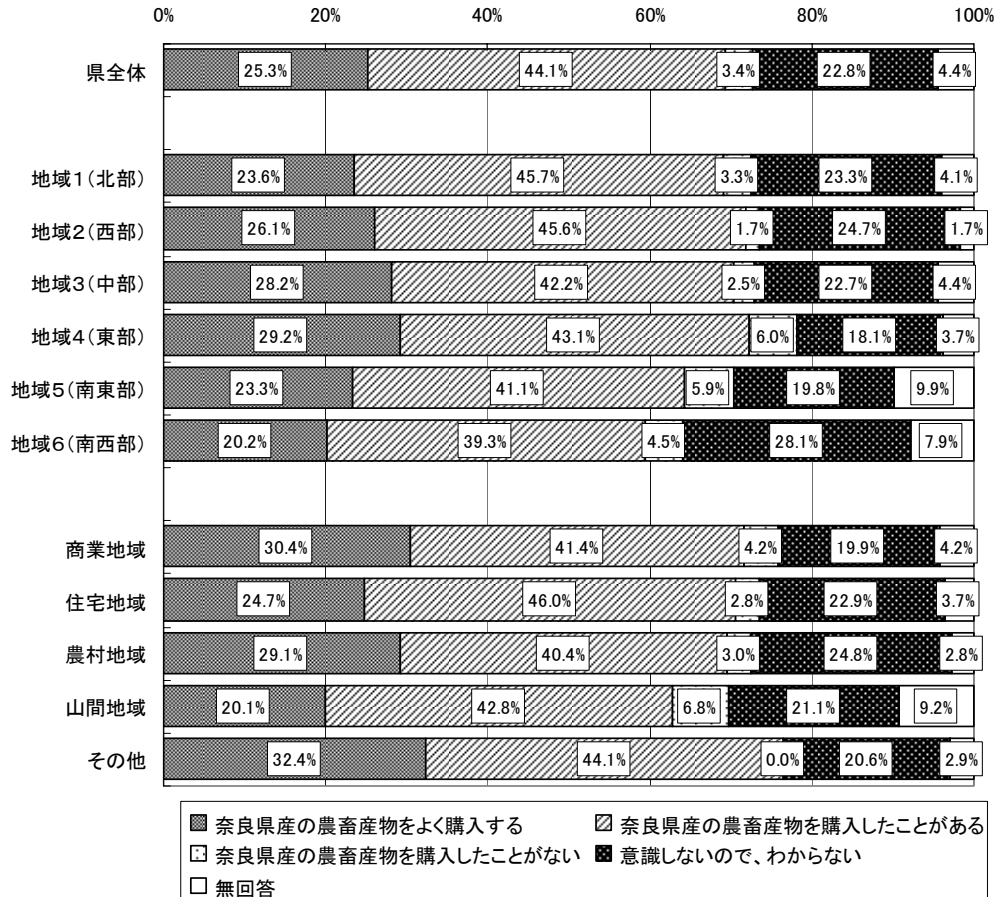
「通信販売をよく利用する」人は、通信販売に感じるメリットの内容にかかわらず、「インターネットのオンラインショッピング」を最もよく利用しています。次に利用頻度が高い通信販売は「カタログ」であり、利用者はこの2種類の通信販売にメリットを感じています。

また、「インターネットのオンラインショッピング」を利用する人は「24時間いつでも購入注文ができる」、「ポイントや割引など特典がある」、「商品の値段など比較購入しやすい」ことに、「カタログ」を利用する人は「どこに住んでいても、自分の希望商品を手に入れる」、「買い物にでかける時間や手間が省ける」ことに、よりメリットを感じています。

### 3-3 奈良県産の農畜産物

#### (1) 購入状況

図表 購入状況（単数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

#### ■県全体

奈良県産農畜産物を69.4%の人が「購入したことがある」（「よく購入する」＋「購入したことがある」）と回答しています。

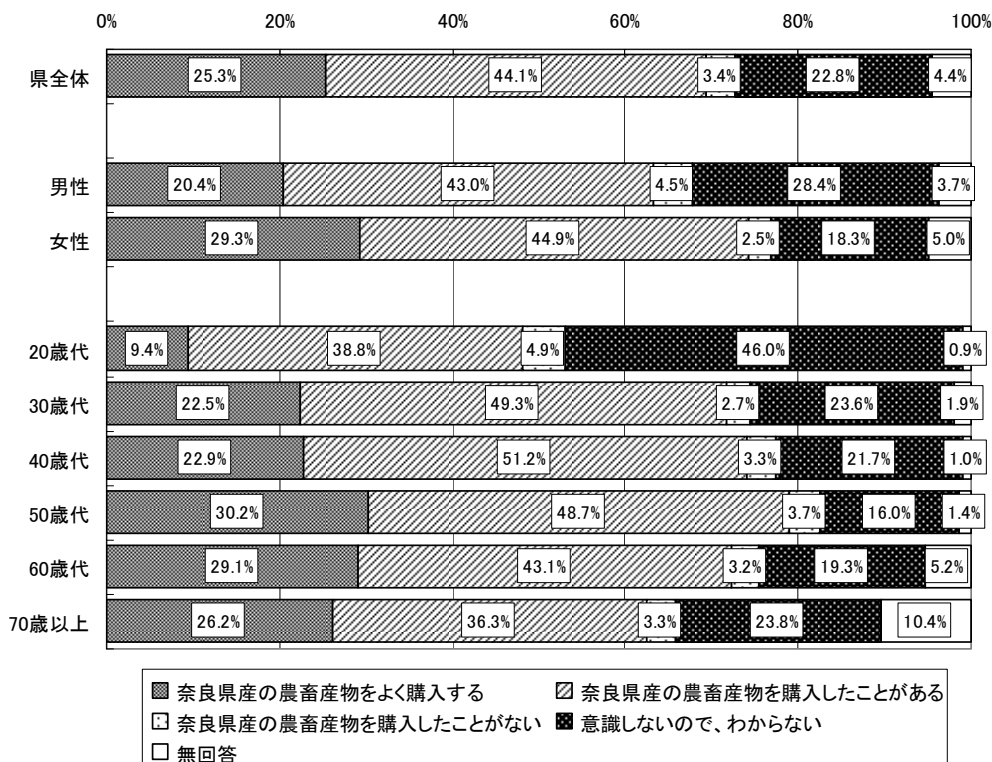
#### ■地域別

「地域5（南東部）」と「地域6（南西部）」ではその他の地域に比べて「購入したことがある」人（地域5（南東部）：64.4%、地域6（南西部）：59.5%）が少なくなっており、特に「地域6（南西部）」では「よく購入する」人（20.2%）が少なくなっています。

#### ■居住地域の状況別

「山間地域」ではその他の地域に比べて「購入したことがある」人（62.9%）が少なくなっており、特に「よく購入する」人（20.1%）が少なくなっています。

図表 購入状況（単数回答／県全体、性別、年齢別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

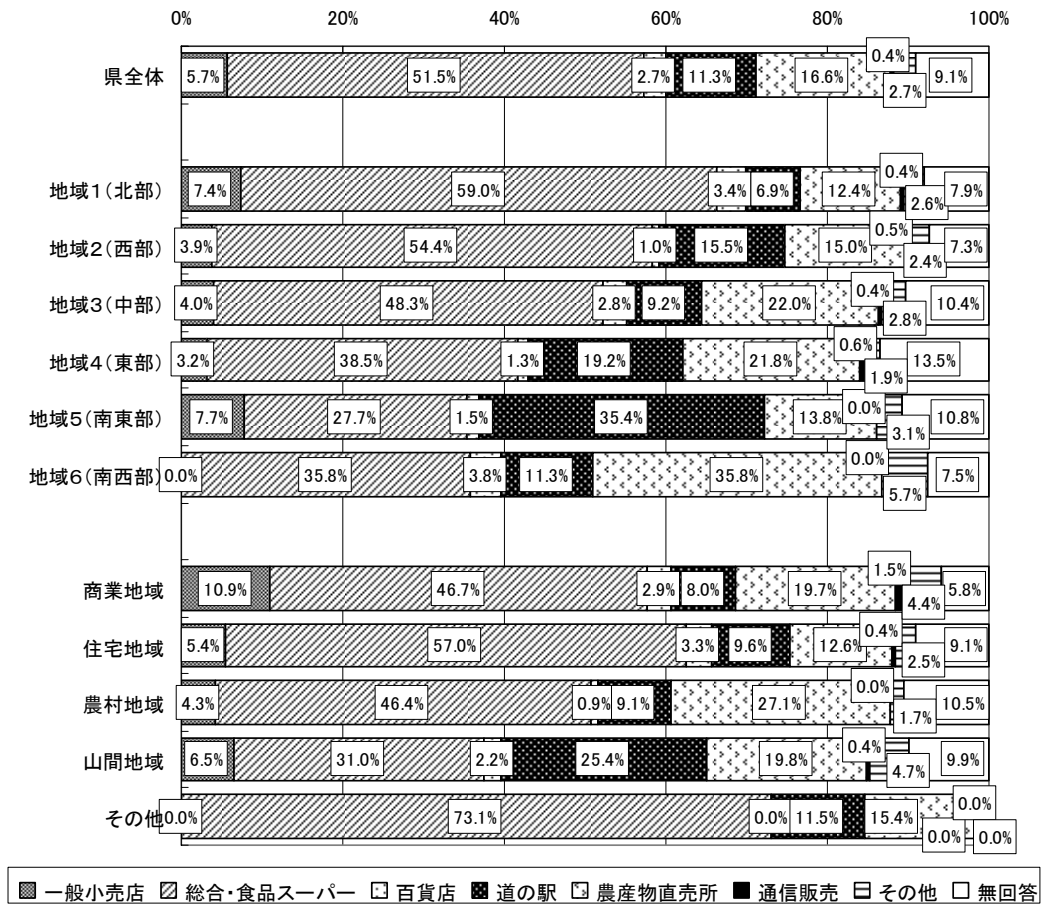
「男性」(63.4%)よりも「女性」(74.2%)に「購入したことがある」人が多くなっています。

■年齢別

「購入したことがある」人は「20歳代」(48.2%)と「70歳以上」(62.5%)で少なくなっています。

## (2) 最もよく利用する購入先

図表 購入先（単数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別）



(注) 母数は「購入したことがある」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

### ■県全体

県全体では「総合・食品スーパー」(51.5%)が最も多く、次いで「農産物直売所」(16.6%)、「道の駅」(11.3%)などとなっています。

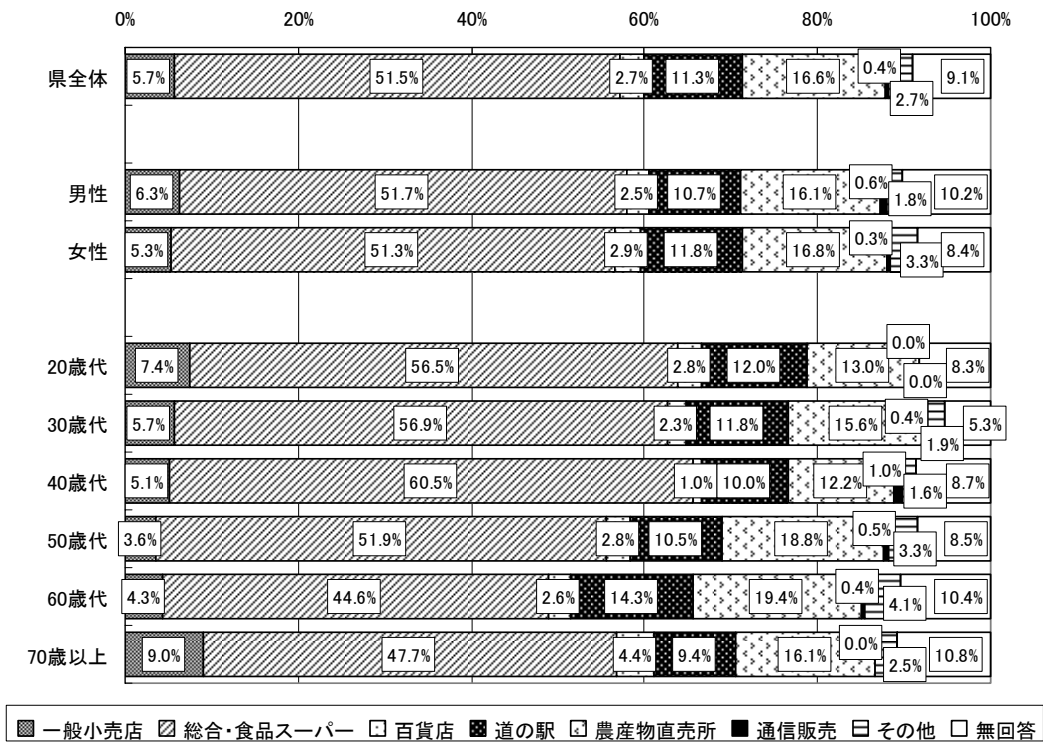
### ■地域別

「地域1(北部)」と「地域2(西部)」では県全体と同様に「総合・食品スーパー」が過半数を超えています。また、「地域3(中部)」では「農産物直売所」、「地域4(東部)」では「農産物直売所」と「道の駅」、「地域5(南東部)」では「道の駅」と「農産物直売所」、「地域6(南西部)」では「農産物直売所」が多くなっており、地域によって購入先に相違が見られます。

### ■居住地域の状況別

「商業地域」では「一般小売店」、「農村地域」では「農産物直売所」、「山間地域」では「道の駅」が多くなっています。

図表 購入先（単数回答／県全体、性別、年齢別）



(注) 母数は「購入したことがある」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

■性別

奈良県産の農畜産物の購入先は男女間で大きな差は見られません。

■年齢別

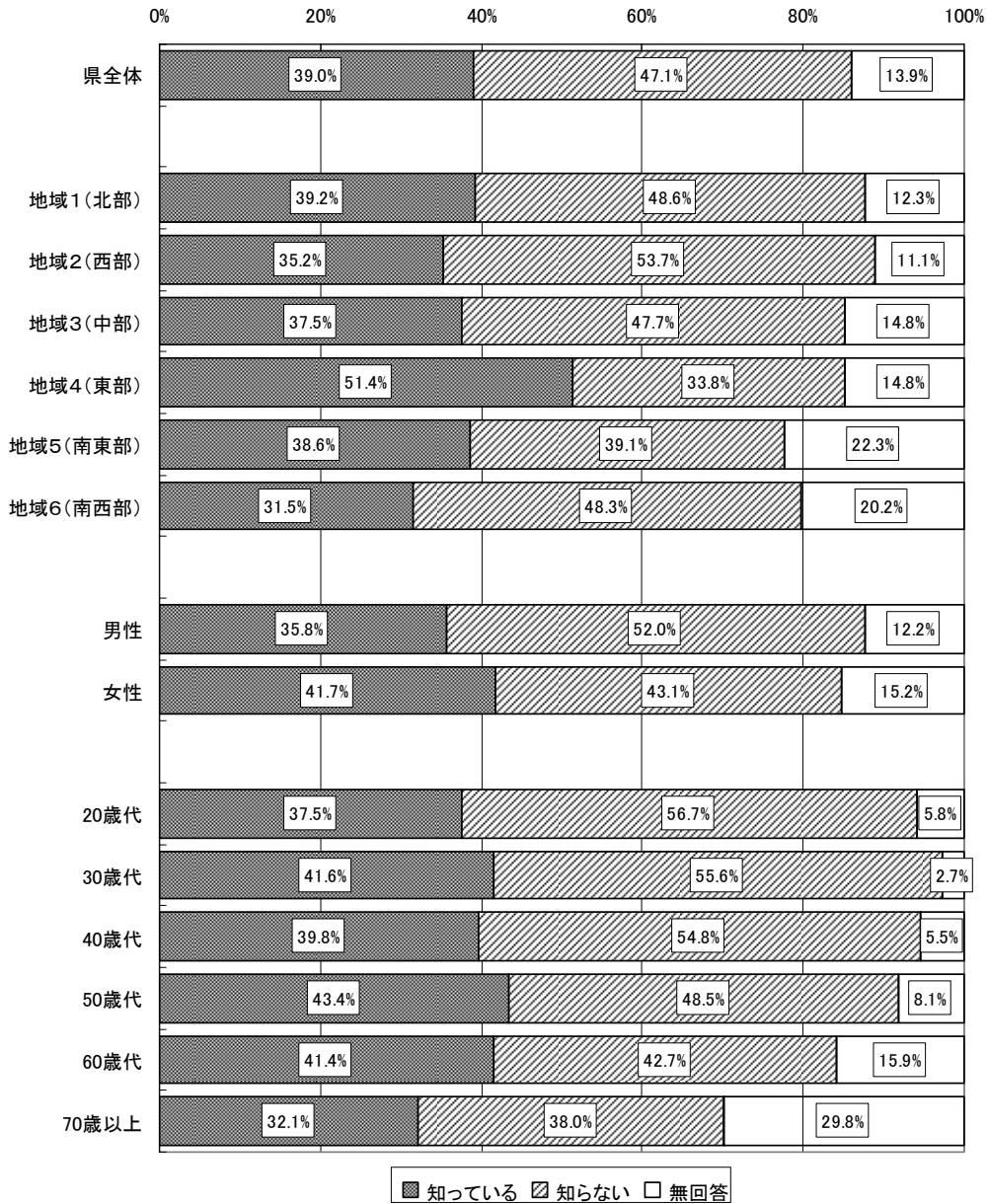
県全体の傾向と大差はありませんが、「60歳代」では「農産物直売所」と「道の駅」で購入する人が多くなっています。

### (3) 奈良県産のブランド食材

#### ① 認知度

##### (ア) 大和牛

図表 認知度：大和牛（単数回答／県全体、地域別、性別、年齢別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

#### ■ 県全体

県全体では「知らない」人（47.1%）が「知っている」人（39.0%）を上回っています。

#### ■ 地域別

「知っている」人は「地域4（東部）」で最も多く、「地域6（南西部）」で最も少なくなっています。

#### ■ 性別

「知っている」人は「男性」よりも「女性」の方が多くなっています。

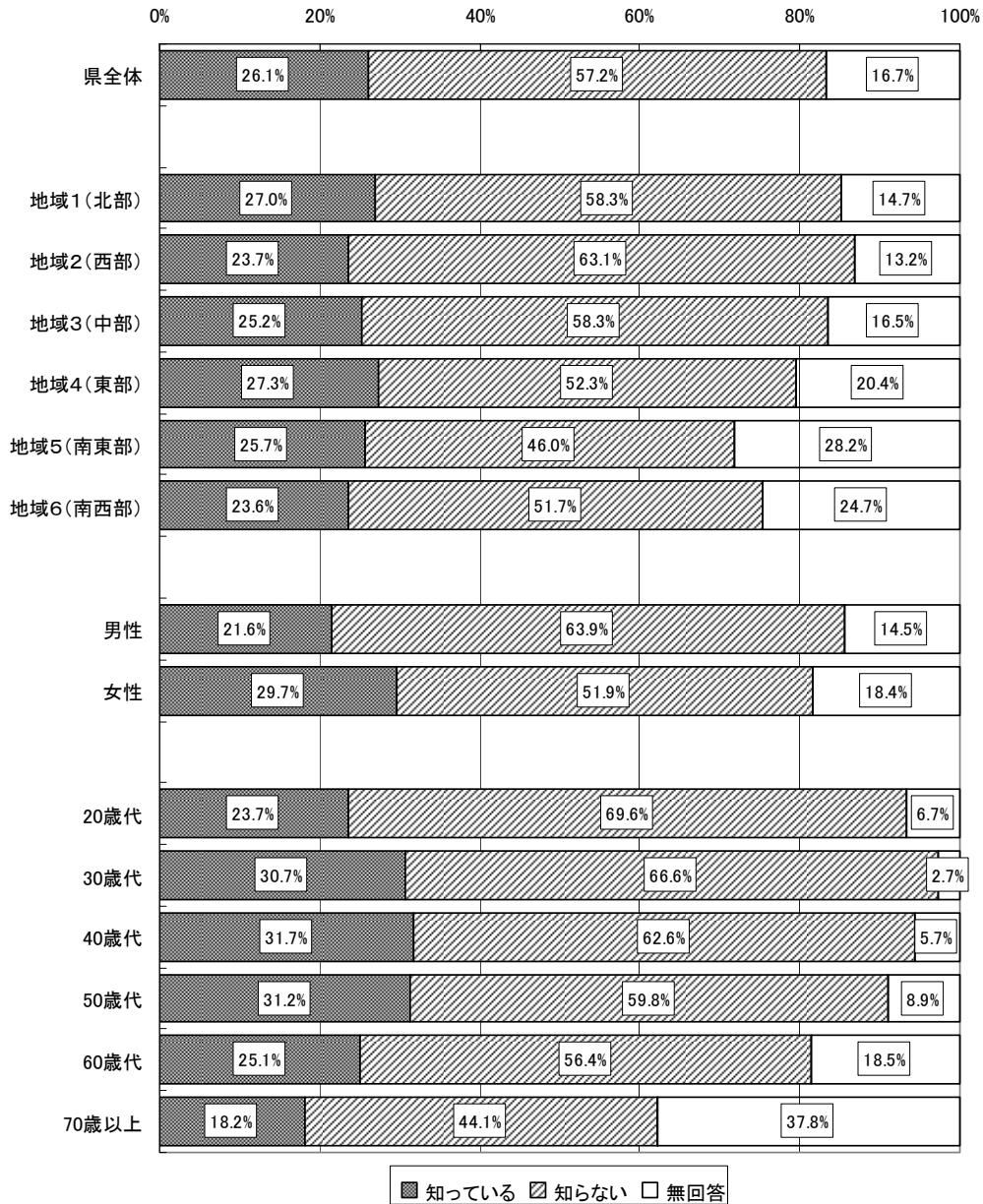
#### ■ 年齢別

「知っている」人は「50歳代」で最も多く、「70歳以上」で最も少なくなっています。



(イ) ヤマトポーク

図表 認知度：ヤマトポーク（単数回答／県全体、地域別、性別、年齢別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■ 県全体

県全体では「知らない」人（57.2%）が「知っている」人（26.1%）を大きく上回っています。

■ 地域別

「知っている」人は「地域4（東部）」で最も多く、「地域6（南西部）」で最も少なくなっています。

■ 性別

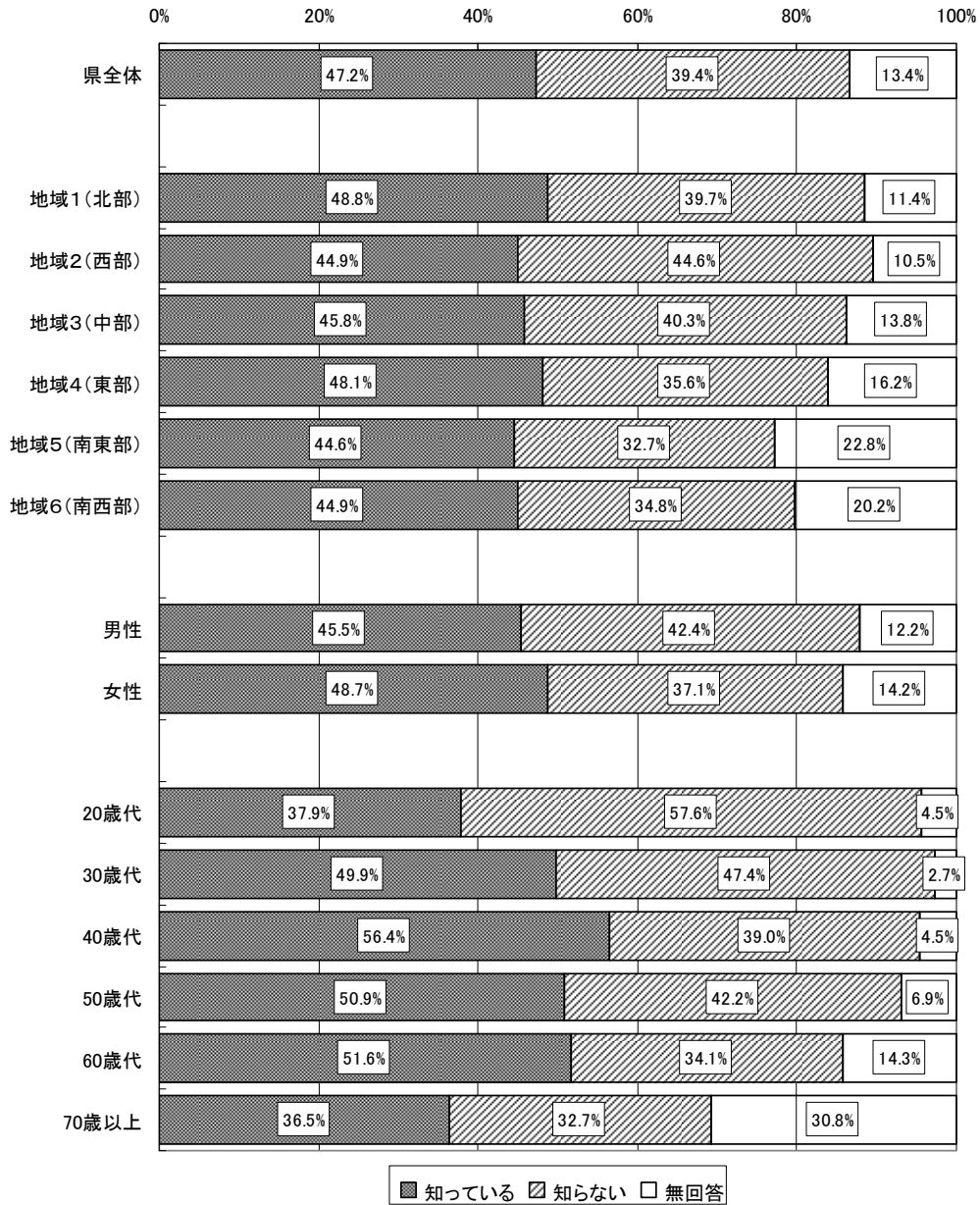
「知っている」人は「男性」よりも「女性」の方が多くなっています。

■ 年齢別

「知っている」人は「40歳代」で最も多く、「70歳以上」で最も少なくなっています。

(ウ) 大和肉鶏

図表 認知度：大和肉鶏（単数回答／県全体、地域別、性別、年齢別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■ 県全体

県全体では「知っている」人（47.2%）が「知らない」人（39.4%）を上回っています。

■ 地域別

「知っている」人は「地域1（北部）」で最も多く、「地域5（南東部）」で最も少なくなっています。

■ 性別

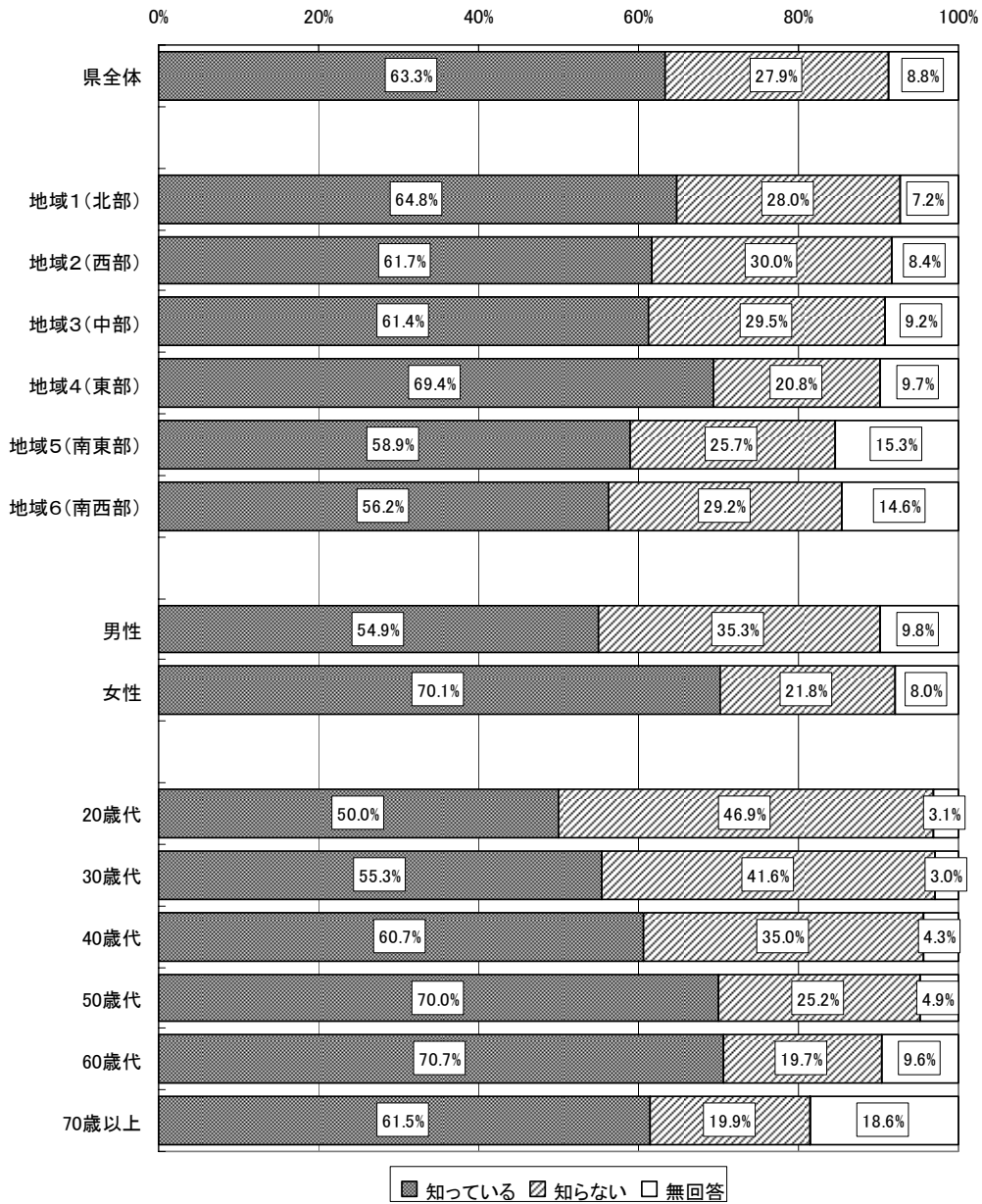
「知っている」人は「男性」よりも「女性」の方が多くなっています。

■ 年齢別

「知っている」人は「40歳代」で最も多く、「70歳以上」で最も少なくなっています。

(工) 大和野菜

図表 認知度：大和野菜（単数回答／県全体、地域別、性別、年齢別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■ 県全体

県全体では「知っている」人（63.3%）が「知らない」人（27.9%）を大きく上回っています。

■ 地域別

「知っている」人は「地域4（東部）」で最も多く、「地域6（南西部）」で最も少なくなっています。

■ 性別

「知っている」人は「男性」よりも「女性」の方が多くなっています。

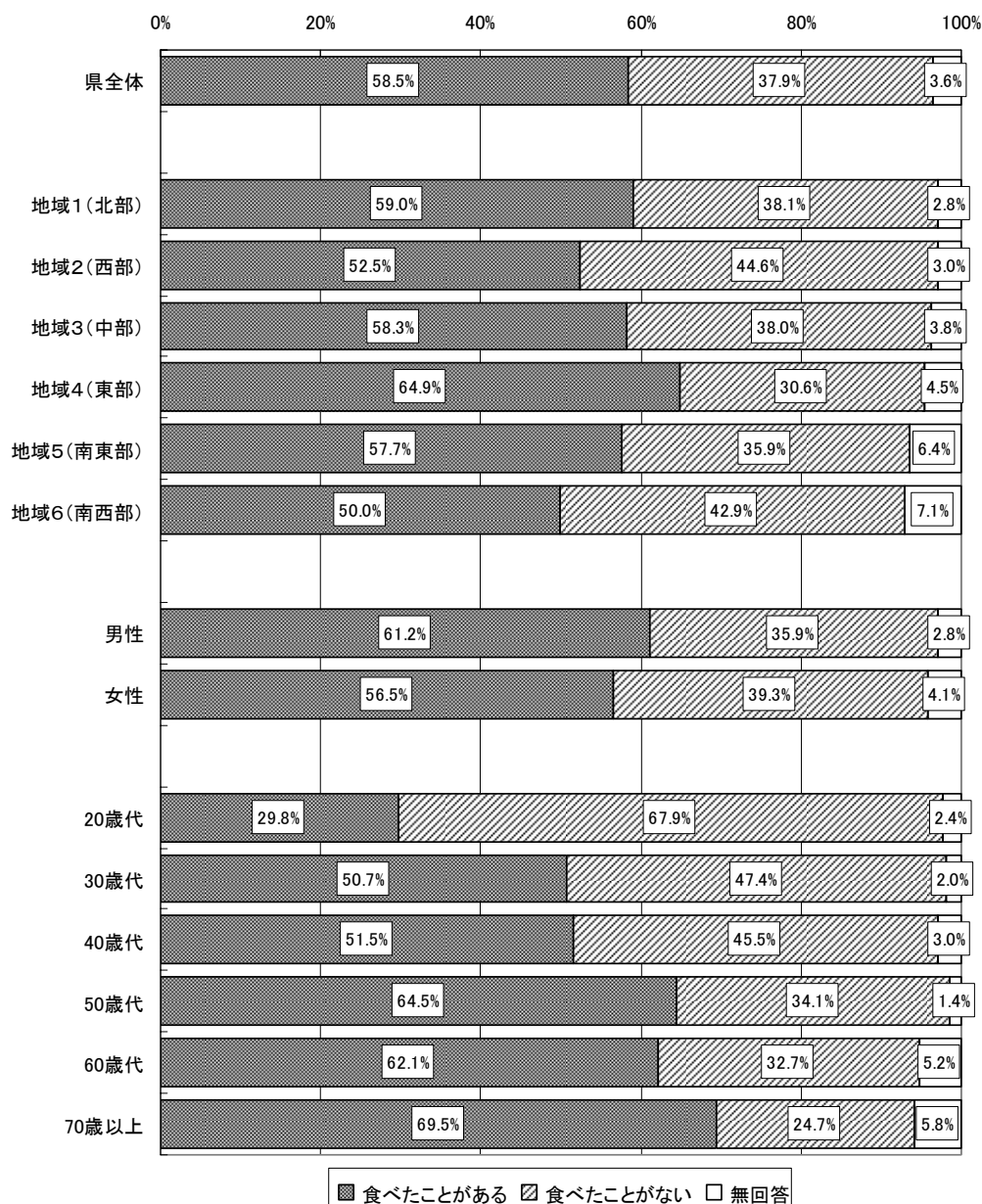
■ 年齢別

「知っている」人は「60歳代」で最も多く、「20歳代」で最も少なくなっています。

## ② 飲食経験

(ア) 大和牛（「知っている」と回答した人のみが対象）

図表 飲食経験：大和牛（単数回答／県全体、地域別、性別、年齢別）



(注) 母数は「知っている」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

### ■ 県全体

県全体では「食べたことがある」人（58.5%）が「食べたことがない」人（37.9%）を大きく上回っています。

### ■ 地域別

「食べたことがある」人は「地域4（東部）」で最も多く、「地域6（南西部）」で最も少なくなっています。

### ■ 性別

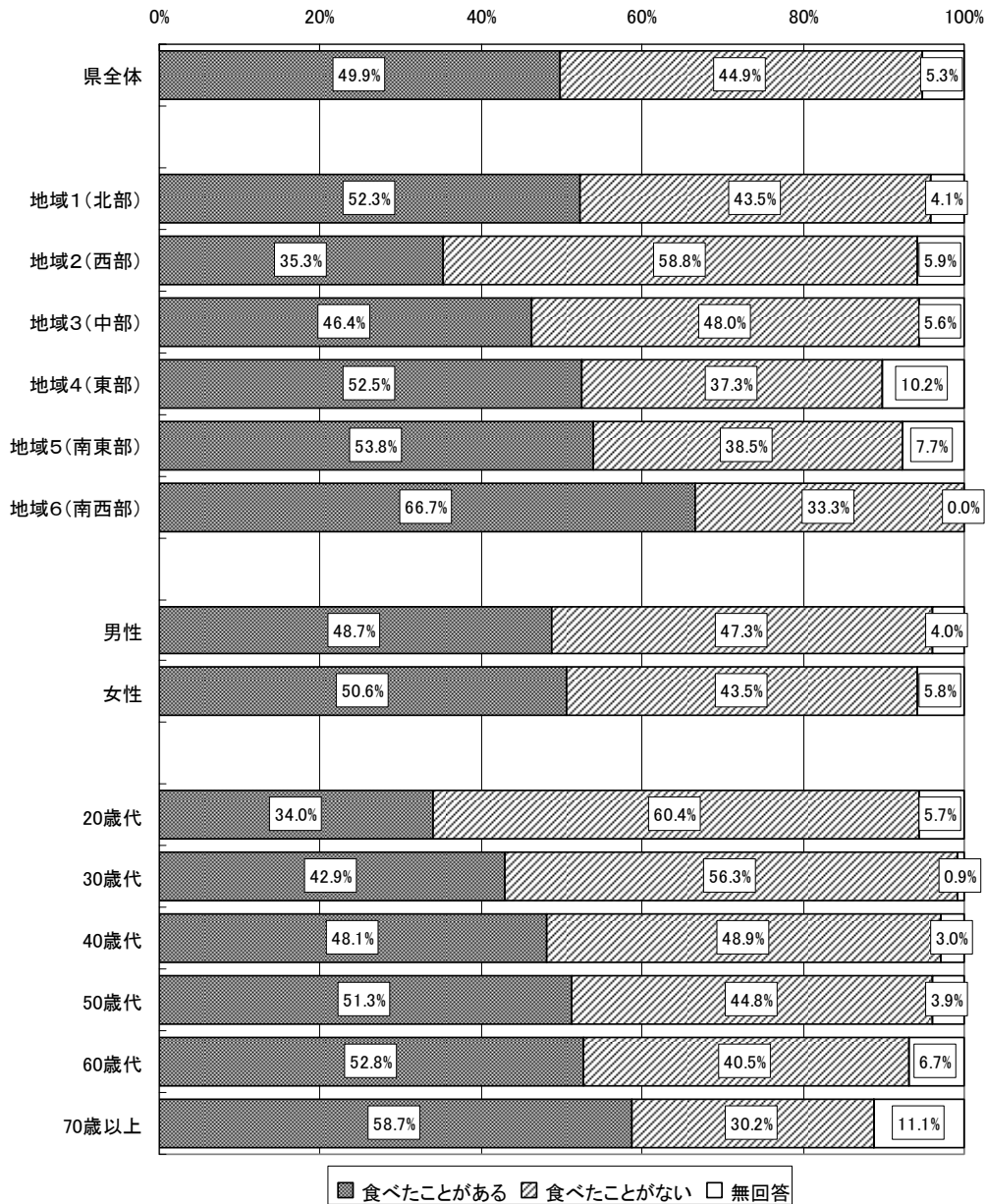
「食べたことがある」人は「男性」の方が「女性」より多くなっています。

### ■ 年齢別

「食べたことがある」人は「70歳以上」で最も多く、「20歳代」で最も少なくなっています。

(イ) ヤマトポーク（「知っている」と回答した人のみが対象）

図表 飲食経験：ヤマトポーク（単数回答／県全体、地域別、性別、年齢別）



(注) 母数は「知っている」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

■ 県全体

県全体では「食べたことがある」人（49.9%）が「食べたことがない」人（44.9%）を上回っています。

■ 地域別

「食べたことがある」人は「地域6（南西部）」で最も多く、「地域2（西部）」で最も少なくなっています。

■ 性別

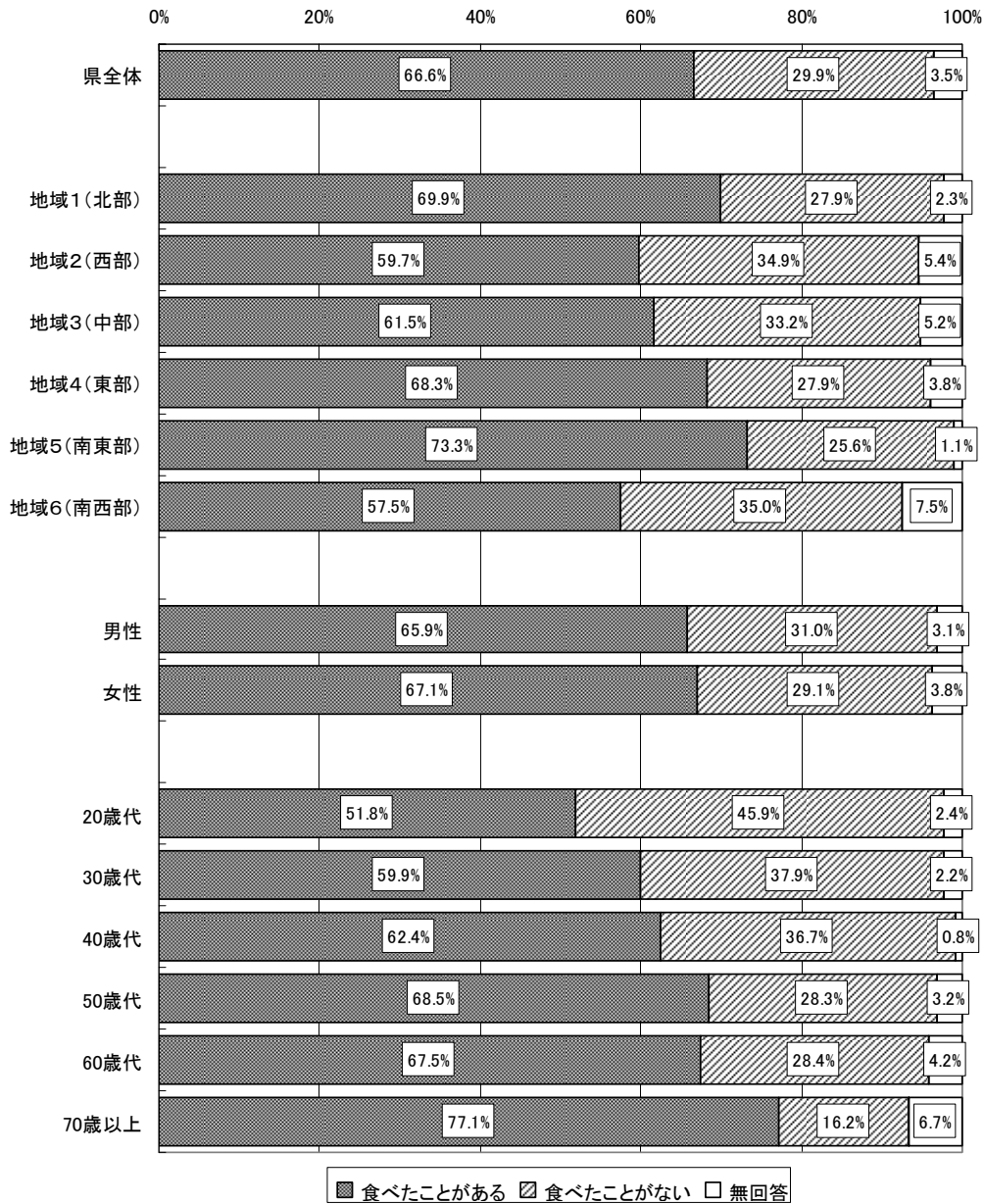
「食べたことがある」人は「女性」の方が「男性」より多くなっています。

■ 年齢別

「食べたことがある」人は「70歳以上」で最も多く、「20歳代」で最も少なくなっています。

(ウ) 大和肉鶏 (「知っている」と回答した人のみが対象)

図表 飲食経験：大和肉鶏 (単数回答／県全体、地域別、性別、年齢別)



(注) 母数は「知っている」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

■ 県全体

県全体では「食べたことがある」人 (66.6%) が「食べたことがない」人 (29.9%) を大きく上回っています。

■ 地域別

「食べたことがある」人は「地域5 (南東部)」で最も多く、「地域6 (南西部)」で最も少なくなっています。

■ 性別

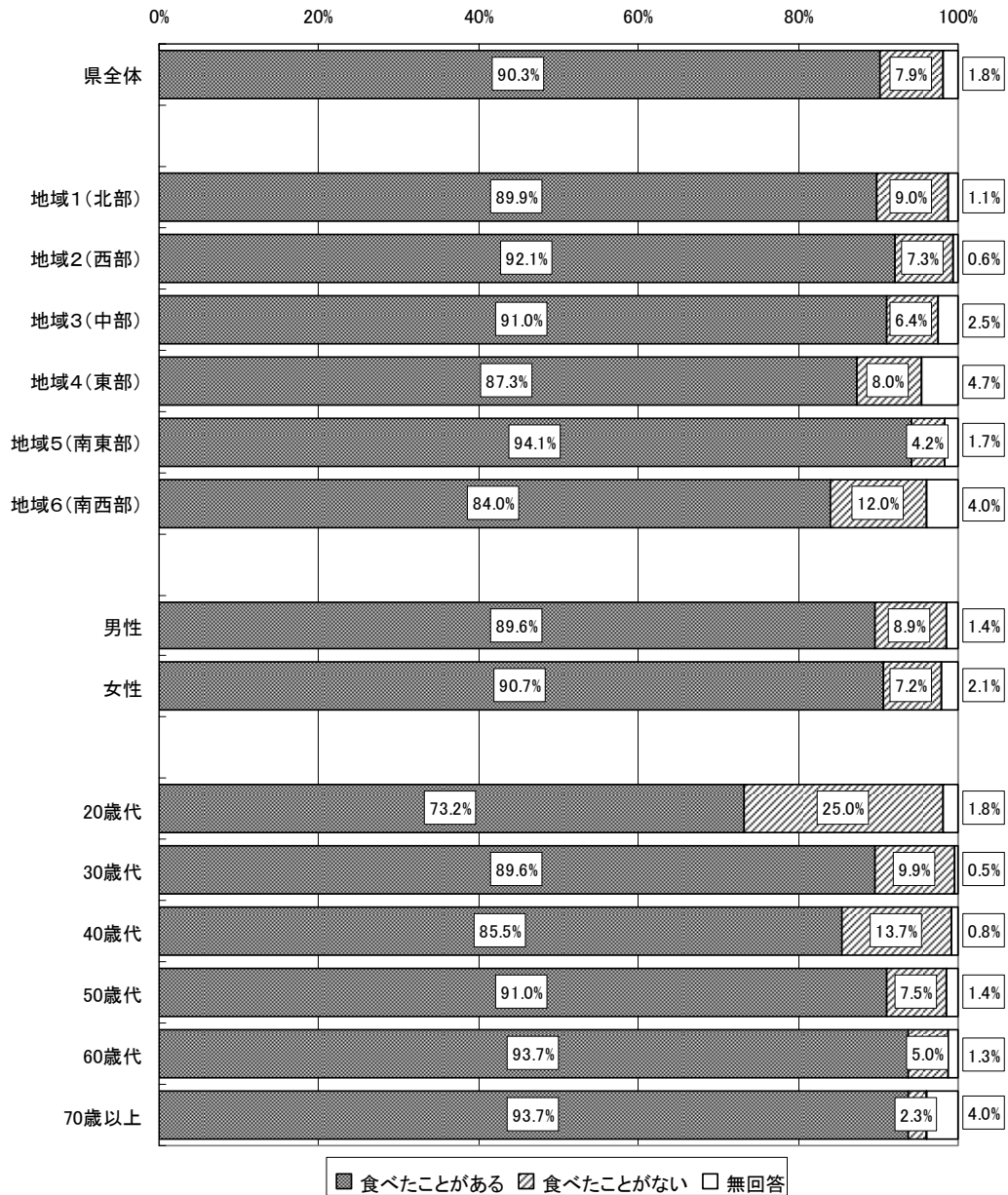
「食べたことがある」人は「女性」の方が「男性」より多くなっています。

■ 年齢別

「食べたことがある」人は「70歳以上」で最も多く、「20歳代」で最も少なくなっています。

(エ) 大和野菜 (「知っている」と回答した人のみが対象)

図表 飲食経験：大和野菜 (単数回答/県全体、地域別、性別、年齢別)



(注) 母数は「知っている」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

■ 県全体

県全体では「食べたことがある」人が90.3%と非常に多くなっています。

■ 地域別

「食べたことがある」人は「地域5(南東部)」で最も多く、「地域6(南西部)」で最も少なくなっていますが、いずれの地域も80%を超えています。

■ 性別

「食べたことがある」人は「女性」の方が「男性」より多くなっていますが、ともにおよそ90%が「食べたことがある」と回答しています。

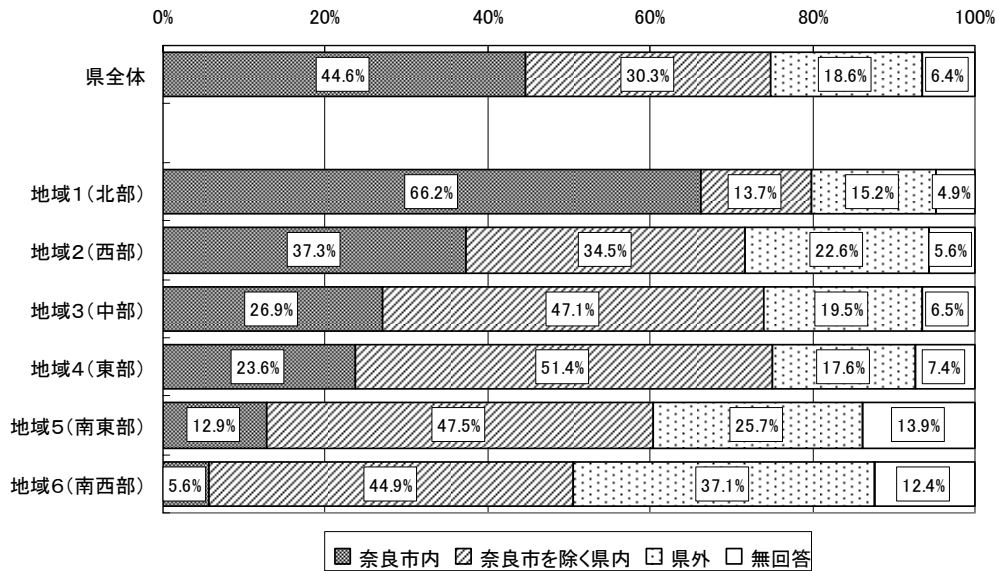
■ 年齢別

「食べたことがある」人は「60歳代」以上で多く、「20歳代」で最も少なくなっています。

### 3-4 県内の観光・レクリエーション

#### (1) 友人や知人をもてなす地域

図表 友人や知人をもてなす地域（単数回答／県全体、地域別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

#### ■ 県全体

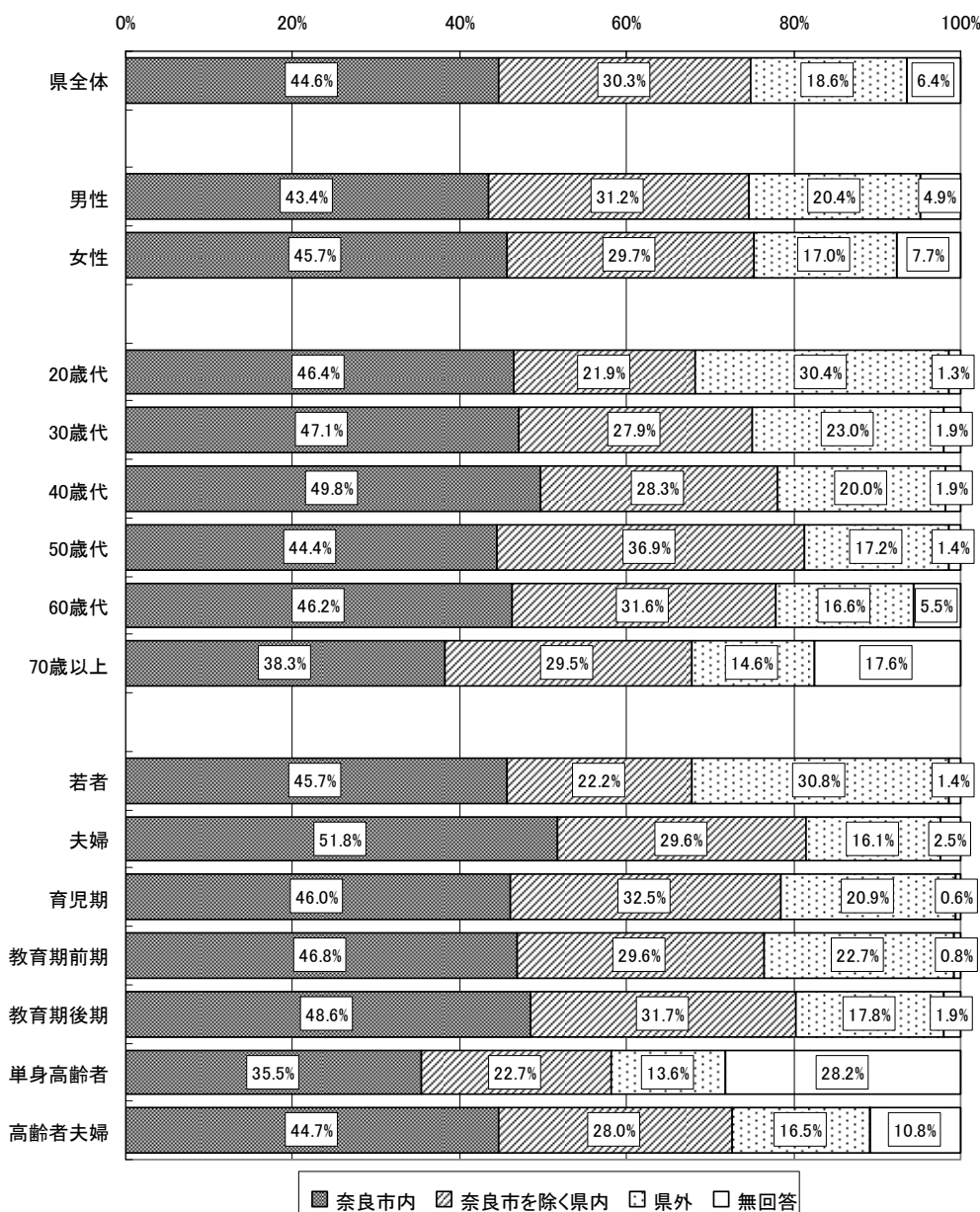
県全体では「奈良市内」(44.6%)が最も多く、次いで「奈良市を除く県内」(30.3%)、「県外」(18.6%)となっています。

#### ■ 地域別

「地域1(北部)」と「地域2(西部)」では「奈良市内」が最も多くなっていますが、その他の地域では「奈良市を除く県内」が最も多くなっています。また、「地域5(南東部)」と「地域6(南西部)」では「県外」も多くなっています。



図表 友人や知人をもてなす地域（単数回答／県全体、性別、年齢別、ライフステージ別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

県全体の傾向と大差ありませんが、「男性」では「県外」で友人・知人をもてなす人が多くなっています。

■年齢別

いずれの年齢層でも「奈良市内」が最も多くなっています。また、「20歳代」では「県外」が第2位となっているのに対して、それ以外の年齢層では「奈良市を除く県内」が第2位となっています。

■ライフステージ別

いずれのライフステージでも「奈良市内」が最も多くなっています。また、「若者」では「県外」が第2位となっているのに対して、それ以外のライフステージでは「奈良市を除く県内」が第2位となっています。

(2) 観光・レクリエーションの目的

①今年度調査結果

図表 観光・レクリエーションの目的

(複数回答/県全体、地域別、居住地域の状況別、性別、年齢別、ライフステージ別)

	歴史や文化財に触れる(寺社、世界遺産など)	美しい景色や風情のある景観	飲食	四季折々の花見	温泉	イベント・祭り	ショッピング	ドライブ	美術館・博物館等	山歩き、ハイキング	遊園地	演劇、コンサート鑑賞	都会見物	スポーツ観戦	その他	
県全体	<b>61.1%</b>	<b>46.1%</b>	<b>35.7%</b>	32.9%	26.1%	20.2%	15.9%	14.6%	14.2%	10.1%	5.5%	4.5%	2.5%	2.1%	0.9%	
地域別	地域1(北部)	<b>70.6%</b>	<b>47.3%</b>	<b>36.5%</b>	33.6%	17.3%	21.3%	13.4%	12.6%	20.6%	10.0%	5.4%	4.2%	1.9%	1.7%	0.7%
	地域2(西部)	<b>65.2%</b>	<b>47.7%</b>	<b>40.4%</b>	35.5%	24.4%	15.3%	15.0%	16.0%	12.5%	9.8%	5.9%	2.1%	4.5%	1.7%	1.7%
	地域3(中部)	<b>55.4%</b>	<b>45.8%</b>	<b>35.8%</b>	31.6%	30.3%	17.9%	18.8%	17.1%	9.4%	10.2%	6.3%	3.9%	2.7%	1.8%	0.8%
	地域4(東部)	<b>50.9%</b>	<b>47.7%</b>	31.5%	36.1%	<b>37.0%</b>	28.7%	20.4%	15.7%	6.5%	12.0%	3.7%	7.9%	1.9%	2.3%	0.5%
	地域5(南東部)	<b>36.6%</b>	<b>38.6%</b>	27.2%	30.2%	<b>50.5%</b>	17.3%	16.3%	15.8%	3.5%	10.9%	3.0%	7.4%	3.0%	4.5%	1.5%
	地域6(南西部)	29.2%	<b>37.1%</b>	<b>36.0%</b>	23.6%	<b>49.4%</b>	23.6%	21.3%	15.7%	2.2%	6.7%	7.9%	7.9%	2.2%	5.6%	1.1%
居住地域の状況別	商業地域	<b>68.1%</b>	<b>51.8%</b>	35.1%	<b>35.6%</b>	28.3%	19.4%	11.5%	11.5%	22.5%	9.9%	2.6%	3.7%	2.1%	2.1%	0.5%
	住宅地域	<b>67.4%</b>	<b>47.1%</b>	<b>36.1%</b>	33.7%	20.6%	19.4%	15.3%	14.0%	16.5%	10.5%	6.1%	4.0%	2.7%	1.8%	1.0%
	農村地域	<b>53.1%</b>	<b>45.5%</b>	<b>37.0%</b>	33.3%	29.7%	23.2%	18.2%	18.8%	9.7%	9.5%	5.9%	5.0%	1.4%	1.4%	0.8%
	山間地域	<b>41.5%</b>	<b>40.7%</b>	32.8%	29.0%	<b>43.9%</b>	21.7%	17.6%	13.6%	5.7%	9.8%	3.8%	7.0%	2.2%	4.3%	0.8%
	その他	<b>50.0%</b>	<b>44.1%</b>	35.3%	<b>38.2%</b>	<b>44.1%</b>	20.6%	14.7%	11.8%	14.7%	5.9%	8.8%	5.9%	5.9%	5.9%	0.0%
性別	男性	<b>62.4%</b>	<b>43.5%</b>	<b>34.9%</b>	26.9%	25.6%	21.0%	14.4%	17.1%	14.1%	11.2%	5.9%	4.1%	2.5%	3.8%	1.1%
	女性	<b>60.2%</b>	<b>48.3%</b>	36.3%	<b>37.9%</b>	26.4%	19.6%	16.9%	12.6%	14.2%	9.3%	5.1%	4.7%	2.4%	0.6%	0.8%
年齢別	20歳代	<b>53.6%</b>	<b>37.5%</b>	<b>42.0%</b>	16.5%	16.1%	33.0%	37.1%	26.3%	6.3%	6.3%	8.0%	3.6%	3.6%	3.1%	1.3%
	30歳代	<b>61.1%</b>	<b>41.4%</b>	<b>38.9%</b>	23.3%	19.2%	26.0%	20.5%	18.6%	7.9%	7.1%	12.3%	4.4%	1.9%	2.5%	1.9%
	40歳代	<b>61.4%</b>	<b>44.5%</b>	<b>39.8%</b>	23.3%	22.4%	26.0%	17.4%	16.4%	8.8%	9.5%	7.4%	3.3%	4.0%	3.8%	1.7%
	50歳代	<b>64.5%</b>	<b>53.1%</b>	36.5%	<b>37.9%</b>	26.8%	20.9%	17.4%	16.6%	15.4%	12.4%	2.0%	3.7%	1.2%	2.6%	0.2%
	60歳代	<b>65.0%</b>	<b>52.1%</b>	35.3%	<b>39.9%</b>	31.6%	16.5%	9.9%	10.9%	18.2%	12.9%	3.9%	5.1%	2.5%	1.1%	0.8%
	70歳以上	<b>57.2%</b>	<b>41.6%</b>	29.3%	<b>39.0%</b>	29.7%	12.5%	10.1%	9.5%	18.6%	9.1%	3.9%	5.6%	2.3%	1.2%	0.4%
ライフステージ別	若者	<b>52.9%</b>	<b>38.0%</b>	<b>42.1%</b>	16.7%	16.3%	33.0%	37.1%	26.2%	6.3%	6.3%	8.1%	3.6%	3.6%	3.2%	1.4%
	夫婦	<b>70.7%</b>	<b>49.3%</b>	<b>38.2%</b>	36.4%	26.8%	20.4%	14.3%	13.2%	18.6%	10.7%	3.6%	5.0%	2.5%	0.7%	0.7%
	育児期	<b>59.5%</b>	<b>39.9%</b>	<b>31.3%</b>	22.7%	23.3%	27.0%	20.9%	23.9%	2.5%	8.6%	13.5%	0.0%	1.8%	0.0%	4.3%
	教育期前期	<b>58.7%</b>	<b>43.8%</b>	<b>36.3%</b>	21.3%	21.1%	28.8%	19.9%	18.3%	10.2%	10.5%	12.7%	4.7%	3.6%	2.5%	1.1%
	教育期後期	<b>64.9%</b>	<b>48.6%</b>	<b>39.4%</b>	29.3%	23.6%	22.6%	17.3%	13.0%	10.6%	15.4%	2.9%	1.9%	1.4%	4.3%	1.0%
	単身高齢者	<b>50.9%</b>	<b>33.6%</b>	28.2%	<b>31.8%</b>	21.8%	4.5%	10.0%	6.4%	19.1%	8.2%	1.8%	3.6%	1.8%	1.8%	0.9%
	高齢者夫婦	<b>64.6%</b>	<b>50.0%</b>	32.5%	<b>39.2%</b>	27.3%	14.8%	9.8%	8.9%	18.7%	12.7%	5.3%	4.3%	3.1%	1.4%	0.2%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。  
 太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。  
 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

## ■県全体

県全体では「歴史や文化財に触れる（寺社、世界遺産など）」(61.1%)が最も多く、次いで「美しい景色や風情のある景観」(46.1%)、「飲食」(35.7%)、「四季折々の花見」(32.9%)、「温泉」(26.1%)などとなっています。

## ■地域別

「地域1（北部）」から「地域4（東部）」では県全体の傾向と大差はありませんが、「地域5（南東部）」と「地域6（南西部）」では「温泉」が最も多くなっています。

## ■居住地域の状況別

県全体の傾向と大差はありませんが、「山間地域」では「温泉」が最も多くなっています。

## ■性別

県全体の傾向と大差はありませんが、「女性」では「四季折々の花見」が第3位となっています。

## ■年齢別

県全体の傾向と大差はありませんが、「20歳代」では「飲食」が、「50歳代」以上では「四季折々の花見」が多くなっています。

## ■ライフステージ別

県全体の傾向と大差はありませんが、「若者」では「飲食」が、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」では「四季折々の花見」が多くなっています。

## ②知人等をもてなす地域と観光目的

図表 知人等をもてなす地域と観光目的（設問間クロス／県全体）

		問22 知人等をもてなす地域			
項目 番号	問23 目的とする観光・レクリエーション	計	奈良市内	奈良市内を 除く県内	県外
1	歴史や文化財に触れる	<b>1,710</b> 64.2%	<b>1,098</b> 86.5%	<b>524</b> 60.6%	88 16.6%
2	イベント・祭り	565 21.2%	294 23.1%	173 20.0%	98 18.5%
3	美しい景色や風情のある景観	<b>1,292</b> 48.5%	<b>680</b> 53.5%	<b>458</b> 53.0%	154 29.0%
4	飲食	<b>995</b> 37.3%	446 35.1%	310 35.9%	<b>239</b> 45.0%
5	温泉	729 27.4%	137 10.8%	312 36.1%	<b>280</b> 52.7%
6	ドライブ	407 15.3%	131 10.3%	157 18.2%	119 22.4%
7	美術館・博物館等	394 14.8%	275 21.7%	76 8.8%	43 8.1%
8	遊園地	152 5.7%	21 1.7%	20 2.3%	111 20.9%
9	都会見物	70 2.6%	14 1.1%	7 0.8%	49 9.2%
10	演劇、コンサート鑑賞	124 4.7%	25 2.0%	26 3.0%	73 13.7%
11	スポーツ観戦	60 2.3%	3 0.2%	9 1.0%	48 9.0%
12	ショッピング	440 16.5%	123 9.7%	128 14.8%	<b>189</b> 35.6%
13	四季折々の花見	916 34.4%	<b>462</b> 36.4%	<b>370</b> 42.8%	84 15.8%
14	山歩き、ハイキング	283 10.6%	122 9.6%	131 15.2%	30 5.6%
15	その他	26 1.0%	7 0.6%	10 1.2%	9 1.7%
対象者数		2,665 100.0%	1,270 100.0%	864 100.0%	531 100.0%

（注）上記図表は各地域への観光目的を把握するため、問22と問23のクロス集計を行った結果である。太字は「その他」を除いた各区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。なお、順位は少数第2位以下も考慮し決定している。

なお、対象者数は、問22で親せきや友人、知人等をもてなすために「奈良市内」、「奈良市内を除く県外」、「県外」に出かけると回答した人数である。

「奈良市内」もしくは「奈良市内を除く県内」で知人等をもてなす人の観光・レクリエーション目的の上位3項目は、「歴史や文化財に触れる」、「美しい景色や風情のある景観」、「四季折々の花見」となっています。一方、「県外」で知人等をもてなす人では、「温泉」、「飲食」、「ショッピング」となっています。

(3) 必要なおもてなし

図表 必要なおもてなし（複数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別、性別、年齢別、職業別）

	地域 の歴史や魅力について、 情報を提供する	飲食店・交通機関など来訪者に接 する人のマナーをよくする	笑顔であいさつする	花を植えたり、清掃活動をするな ど、きれいな街にする	困っている方に進んで声をかける	現地ガイド・インストラクターな どを充実する	その他	
県全体	37.2%	34.6%	31.7%	30.3%	24.0%	16.2%	2.0%	
地域別	地域1(北部)	36.7%	37.5%	30.0%	30.9%	22.8%	16.6%	2.8%
	地域2(西部)	43.6%	31.0%	29.3%	29.3%	24.7%	19.2%	1.4%
	地域3(中部)	37.8%	37.2%	30.2%	31.6%	22.6%	16.8%	1.3%
	地域4(東部)	38.9%	28.7%	37.5%	28.2%	28.2%	14.4%	0.9%
	地域5(南東部)	31.7%	22.3%	38.6%	26.7%	31.2%	12.4%	1.0%
	地域6(南西部)	28.1%	24.7%	49.4%	27.0%	25.8%	10.1%	1.1%
居住地域の状況別	商業地域	33.0%	36.1%	29.3%	30.9%	26.7%	18.3%	2.1%
	住宅地域	38.8%	37.2%	29.8%	31.0%	22.9%	17.2%	2.4%
	農村地域	38.0%	32.5%	32.1%	31.7%	23.6%	16.4%	1.2%
	山間地域	32.8%	26.0%	41.5%	26.0%	28.5%	10.3%	1.1%
	その他	38.2%	32.4%	29.4%	26.5%	26.5%	14.7%	0.0%
性別	男性	40.9%	35.5%	31.0%	27.9%	22.5%	15.5%	2.6%
	女性	34.3%	33.9%	32.4%	32.2%	25.1%	16.8%	1.5%
年齢別	20歳代	40.2%	39.3%	27.7%	31.3%	18.3%	20.1%	3.6%
	30歳代	40.0%	40.8%	26.0%	35.9%	17.0%	18.1%	1.6%
	40歳代	45.0%	41.4%	24.0%	32.4%	19.3%	17.6%	3.3%
	50歳代	39.4%	35.7%	31.4%	33.7%	20.9%	18.9%	2.0%
	60歳代	37.4%	34.2%	29.6%	29.9%	26.0%	16.9%	1.4%
	70歳以上	28.5%	25.4%	42.9%	23.6%	32.6%	10.5%	1.3%
職業別	農林漁業	38.1%	13.4%	48.5%	30.9%	27.8%	17.5%	1.0%
	自営業	41.8%	33.2%	29.4%	30.0%	22.9%	15.6%	3.2%
	正規社員等	42.6%	40.9%	26.5%	34.4%	19.0%	17.2%	1.8%
	非正規社員等	39.5%	39.0%	24.3%	30.8%	20.3%	20.8%	3.0%
	企業などの役員	28.9%	44.4%	26.7%	46.7%	22.2%	13.3%	2.2%
	家事専業・無職	33.4%	32.4%	35.7%	28.3%	28.1%	14.6%	1.3%
	学生・その他	43.7%	28.2%	38.0%	28.2%	19.7%	16.9%	5.6%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。  
 太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。  
 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

## ■県全体

県全体では「地域の歴史や魅力について、情報を提供する」(37.2%)が最も多く、次いで「飲食店・交通機関など来訪者に接する人のマナーをよくする」(34.6%)、「笑顔であいさつする」(31.7%)、「花を植えたり、清掃活動をするなど、きれいな街にする」(30.3%)、「困っている方に進んで声をかける」(24.0%)、「現地ガイド・インストラクターなどを充実する」(16.2%)となっています。

「その他」の意見としては、「普段どおりに接すること」、「英会話の習得」、「優しさの伝わる街づくり」などがありました。

## ■地域別

「地域1（北部）」では「飲食店・交通機関など来訪者に接する人のマナーをよくする」が、「地域2（西部）」、「地域3（中部）」、「地域4（東部）」では「地域の歴史や魅力について、情報を提供する」が、「地域5（南東部）」と「地域6（南西部）」では「笑顔であいさつする」が最も多くなっており、地域によって必要と考えるおもてなしに相違が見られます。

## ■居住地域の状況別

県全体の傾向と大差はありませんが、「商業地域」では「飲食店・交通機関など来訪者に接する人のマナーをよくする」が、「住宅地域」と「農村地域」では「地域の歴史や魅力について、情報を提供する」が、「山間地域」では「笑顔であいさつする」が最も多くなっています。

## ■性別

県全体と同様の傾向となっており、男女間で大きな差も見られません。

## ■年齢別

「60歳代」以下では「地域の歴史や魅力について、情報を提供する」と「飲食店・交通機関など来訪者に接する人のマナーをよくする」が第1位・第2位を占めていますが、「70歳以上」では「笑顔であいさつする」と「困っている方に進んで声をかける」が第1位・第2位となっています。

## ■職業別

「自営業」、「正規社員等」、「非正規社員等」では「地域の歴史や魅力について、情報を提供する」と「飲食店・交通機関など来訪者に接する人のマナーをよくする」が第1位・第2位を占めていますが、「農林漁業」、「家事専業・無職」、「学生・その他」では「地域の歴史や魅力について、情報を提供する」と「笑顔であいさつする」が、「企業などの役員」では「飲食店・交通機関など来訪者に接する人のマナーをよくする」と「花を植えたり、清掃活動をするなど、きれいな街にする」が第1位・第2位となっています。

(4) 県内の観光・レクリエーションに足りないもの

①今年度調査結果

図表 県内の観光・レクリエーションに足りないもの

(複数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別、性別、年齢別、ライフステージ別)

	宿泊施設の充実	おいしい食べ物	十分な駐車場の確保	夜遅くまで営業している飲食店	トイレや休憩所の整備	道路網の整備	公共交通機関の充実	テレビやマスコミを使った観光資源のPR	高齢者・障害者・外国人への対応	観光ルート・プランの提案	観光地や宿泊施設などの案内所	みやげ物	観光案内板等の充実	その他	
県全体	<b>48.6%</b>	<b>39.5%</b>	<b>35.8%</b>	29.0%	26.1%	25.1%	23.2%	21.1%	19.1%	19.0%	14.3%	14.0%	11.1%	3.2%	
地域別	地域1(北部)	<b>51.3%</b>	<b>43.2%</b>	38.7%	<b>39.0%</b>	23.5%	24.2%	21.7%	19.4%	17.4%	17.2%	12.6%	12.8%	10.9%	3.4%
	地域2(西部)	<b>48.1%</b>	<b>40.1%</b>	<b>28.9%</b>	25.4%	23.7%	24.4%	24.0%	22.0%	22.3%	27.2%	17.1%	15.7%	11.1%	4.5%
	地域3(中部)	<b>47.4%</b>	<b>38.2%</b>	<b>33.0%</b>	20.2%	28.5%	23.0%	23.3%	23.7%	18.5%	20.2%	15.0%	17.2%	11.1%	2.8%
	地域4(東部)	<b>52.3%</b>	<b>32.9%</b>	<b>38.9%</b>	18.1%	31.9%	21.3%	23.6%	25.0%	23.1%	20.8%	17.6%	10.6%	13.9%	2.3%
	地域5(南東部)	<b>40.6%</b>	29.7%	<b>34.7%</b>	15.3%	30.7%	<b>37.6%</b>	28.2%	16.8%	23.8%	15.3%	14.9%	14.4%	8.4%	2.5%
	地域6(南西部)	29.2%	<b>30.3%</b>	<b>31.5%</b>	18.0%	29.2%	<b>39.3%</b>	29.2%	22.5%	19.1%	14.6%	15.7%	10.1%	13.5%	3.4%
居住地域の状況別	商業地域	<b>51.3%</b>	<b>44.5%</b>	31.4%	<b>39.8%</b>	24.6%	20.4%	21.5%	19.4%	19.4%	18.3%	16.2%	15.2%	14.7%	2.6%
	住宅地域	<b>49.7%</b>	<b>41.4%</b>	<b>35.9%</b>	32.1%	23.9%	24.6%	22.0%	21.5%	17.9%	20.0%	13.2%	14.7%	11.2%	3.8%
	農村地域	<b>49.5%</b>	<b>39.0%</b>	<b>38.2%</b>	22.4%	30.1%	24.2%	26.3%	22.4%	19.4%	18.4%	16.0%	13.5%	10.5%	2.8%
	山間地域	<b>40.9%</b>	29.5%	<b>36.3%</b>	19.0%	32.5%	<b>32.8%</b>	26.0%	19.2%	24.1%	16.0%	14.9%	10.8%	10.8%	1.1%
	その他	<b>50.0%</b>	<b>38.2%</b>	<b>29.4%</b>	26.5%	26.5%	<b>29.4%</b>	26.5%	17.6%	20.6%	17.6%	23.5%	20.6%	0.0%	8.8%
性別	男性	<b>50.2%</b>	<b>37.4%</b>	<b>34.0%</b>	28.5%	23.3%	32.8%	21.3%	22.5%	19.0%	19.5%	14.1%	12.0%	11.2%	4.4%
	女性	<b>47.4%</b>	<b>41.2%</b>	<b>37.3%</b>	29.5%	28.4%	18.8%	24.6%	19.9%	19.2%	18.5%	14.3%	15.8%	11.0%	2.2%
年齢別	20歳代	<b>46.4%</b>	<b>40.6%</b>	25.4%	<b>46.0%</b>	21.4%	21.9%	32.1%	22.3%	20.1%	22.8%	8.9%	14.7%	12.9%	5.8%
	30歳代	<b>47.1%</b>	<b>41.6%</b>	31.0%	<b>34.8%</b>	21.1%	29.6%	26.8%	23.8%	12.6%	26.0%	8.5%	18.1%	7.7%	3.8%
	40歳代	<b>52.4%</b>	<b>46.7%</b>	<b>35.5%</b>	35.2%	14.8%	26.7%	22.4%	26.4%	14.3%	17.9%	11.2%	17.6%	8.8%	4.8%
	50歳代	<b>50.7%</b>	<b>44.2%</b>	<b>36.1%</b>	32.9%	25.8%	26.4%	23.7%	23.5%	16.0%	18.7%	14.8%	14.6%	12.4%	2.8%
	60歳代	<b>49.6%</b>	<b>36.7%</b>	<b>41.9%</b>	25.0%	27.6%	27.0%	23.6%	21.6%	21.7%	19.7%	17.3%	10.9%	10.9%	2.9%
	70歳以上	<b>45.5%</b>	<b>33.1%</b>	<b>35.9%</b>	18.0%	<b>35.9%</b>	20.5%	17.9%	13.8%	24.8%	14.1%	17.3%	12.1%	13.0%	1.7%
ライフステージ別	若者	<b>46.2%</b>	<b>41.2%</b>	25.3%	<b>45.2%</b>	21.7%	21.3%	32.6%	21.7%	20.4%	22.6%	9.0%	14.5%	13.1%	5.9%
	夫婦	<b>48.6%</b>	<b>39.6%</b>	<b>37.9%</b>	34.3%	27.9%	27.1%	27.1%	21.8%	16.1%	21.4%	12.9%	16.4%	8.9%	2.1%
	育児期	<b>49.7%</b>	<b>46.0%</b>	33.7%	30.1%	27.0%	<b>38.0%</b>	29.4%	22.1%	10.4%	22.1%	9.2%	18.4%	6.7%	4.9%
	教育期前期	<b>50.4%</b>	<b>43.5%</b>	<b>36.0%</b>	29.9%	18.3%	28.3%	22.7%	26.0%	15.2%	22.4%	8.6%	13.9%	10.0%	5.3%
	教育期後期	<b>52.4%</b>	<b>46.2%</b>	<b>37.0%</b>	35.6%	19.2%	24.0%	23.1%	28.4%	12.0%	21.2%	12.0%	17.3%	10.6%	3.8%
	単身高齢者	<b>40.0%</b>	<b>30.0%</b>	<b>31.8%</b>	13.6%	21.8%	12.7%	20.0%	13.6%	23.6%	10.0%	20.9%	13.6%	10.0%	1.8%
	高齢者夫婦	<b>48.1%</b>	<b>38.0%</b>	<b>38.5%</b>	21.8%	35.2%	24.2%	18.2%	14.6%	20.3%	16.7%	15.8%	11.2%	14.1%	2.2%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。  
 太字は「その他」「無回答」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。  
 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

## ■県全体

県全体では「宿泊施設の充実」(48.6%)が最も多く、次いで「おいしい食べ物」(39.5%)、「十分な駐車場の確保」(35.8%)、「夜遅くまで営業している飲食店」(29.0%)、「トイレや休憩所の整備」(26.1%)、「道路網の整備」(25.1%)などとなっています。

「その他」としては、「明るさや活気」、「景観阻害要因の排除」、「サインの統一」、「デザインされたゴミ箱の設置」、「文化財との調和」など雰囲気や景観に関するもの、「利益主義の改善」、「安価な駐車場の整備」、「外国語案内板の整備」、「観光業者のサービス心の向上」、「バス停への屋根やベンチの設置」など来訪者へのサービスに関するもの、「飲食店の充実」、「アウトレットモール等の商用施設の充実」など店舗の整備や改善に関するもの、「歴史以外の観光資源」、「若者や老人向けの施設」、「娯楽施設の整備」など新しい観光地や施設の整備に関するもの、「共通一日乗車券」、「共通一日駐車券」、「駐車場の立地改善」、「公共交通機関の連携」など観光をサポートする制度に関するものの他、「盛大なイベントの開催」など多様な意見がありました。

## ■地域別

県全体の傾向と大差はありませんが、「地域1（北部）」では「夜遅くまで営業している飲食店」が、「地域5（南東部）」、「地域6（南西部）」では「道路網の整備」が多くなっています。

## ■居住地域の状況別

県全体の傾向と大差はありませんが、「商業地域」では「夜遅くまで営業している飲食店」が、「山間地域」では「道路網の整備」が多くなっています。

## ■性別

県全体と同様の傾向となっており、男女間で大きな差も見られません。

## ■年齢別

県全体の傾向と大差はありませんが、「20歳代」、「30歳代」では「夜遅くまで営業している飲食店」が、「70歳以上」では「トイレや休憩所の整備」が多くなっています。

## ■ライフステージ別

県全体の傾向と大差はありませんが、「若者」では「夜遅くまで営業している飲食店」が、「育児期」では「道路網の整備」が多くなっています。



## ②県外で友人等をもてなす人が奈良県に足りないと感じるもの

図表 県外で友人等をもてなす人が奈良県に足りないと感じるもの（設問間クロス／県全体）

順位	項目番号	問25 観光・レクリエーションに足りないもの	度数・割合
1	1	宿泊施設の充実	281 52.9%
2	2	おいしい食べ物	229 43.1%
3	7	十分な駐車場の確保	172 32.4%
4	3	夜遅くまで営業している飲食店	170 32.0%
5	6	公共交通機関の充実	159 29.9%
6	8	道路網の整備	153 28.8%
7	10	トイレや休憩所の整備	127 23.9%
8	12	テレビやマスコミを使った観光資源のPR	115 21.7%
9	5	観光ルート・プランの提案	93 17.5%
10	13	高齢者・障害者・外国人への対応	87 16.4%
11	4	みやげ物	76 14.3%
12	11	観光地や宿泊施設などの案内所	74 13.9%
13	9	観光案内板等の充実	52 9.8%
14	14	その他	16 3.0%
対象者数			531 100.0%

（注）上記図表は問22で友人や知人をもてなすために県外に出かけると回答した人が奈良県の観光・レクリエーションに足りないと感じるものを把握するため、問25とのクロス集計を行った結果である。

なお、対象者数は、問22で親せきや友人、知人等をもてなすために「県外」に出かけると回答した人数である。

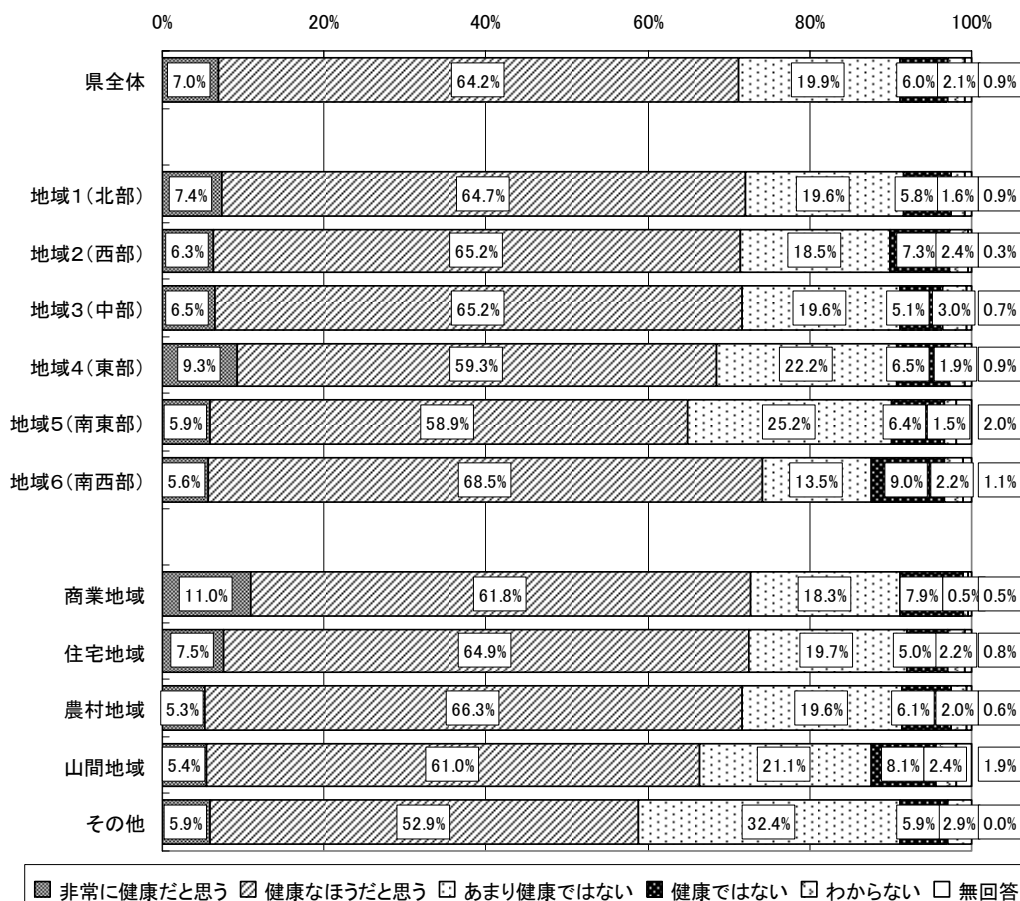
県外で知人等をもてなしたいと考えている人は、奈良県に足りないものとして「宿泊施設の充実」（52.9%）、「おいしい食べ物」（43.1%）、「十分な駐車場の確保」（32.4%）を上位3項目に挙げており、県全体の結果と同じとなっています。

その他の項目についても県全体と概ね同様の結果となっており、「奈良市内」や「奈良市を除く県内」で知人等をもてなしたいと考えている人と同様の意見を持っていることが分かりました。

## 4 健康づくりに関する意識やニーズについて

### 4-1 現在の健康状態

図表 現在の健康状態（単数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

#### ■県全体

県全体では「健康である」（「非常に健康だと思う」＋「健康なほうだと思う」）が71.2%、「健康でない」（「あまり健康ではない」＋「健康ではない」）が25.9%となっています。

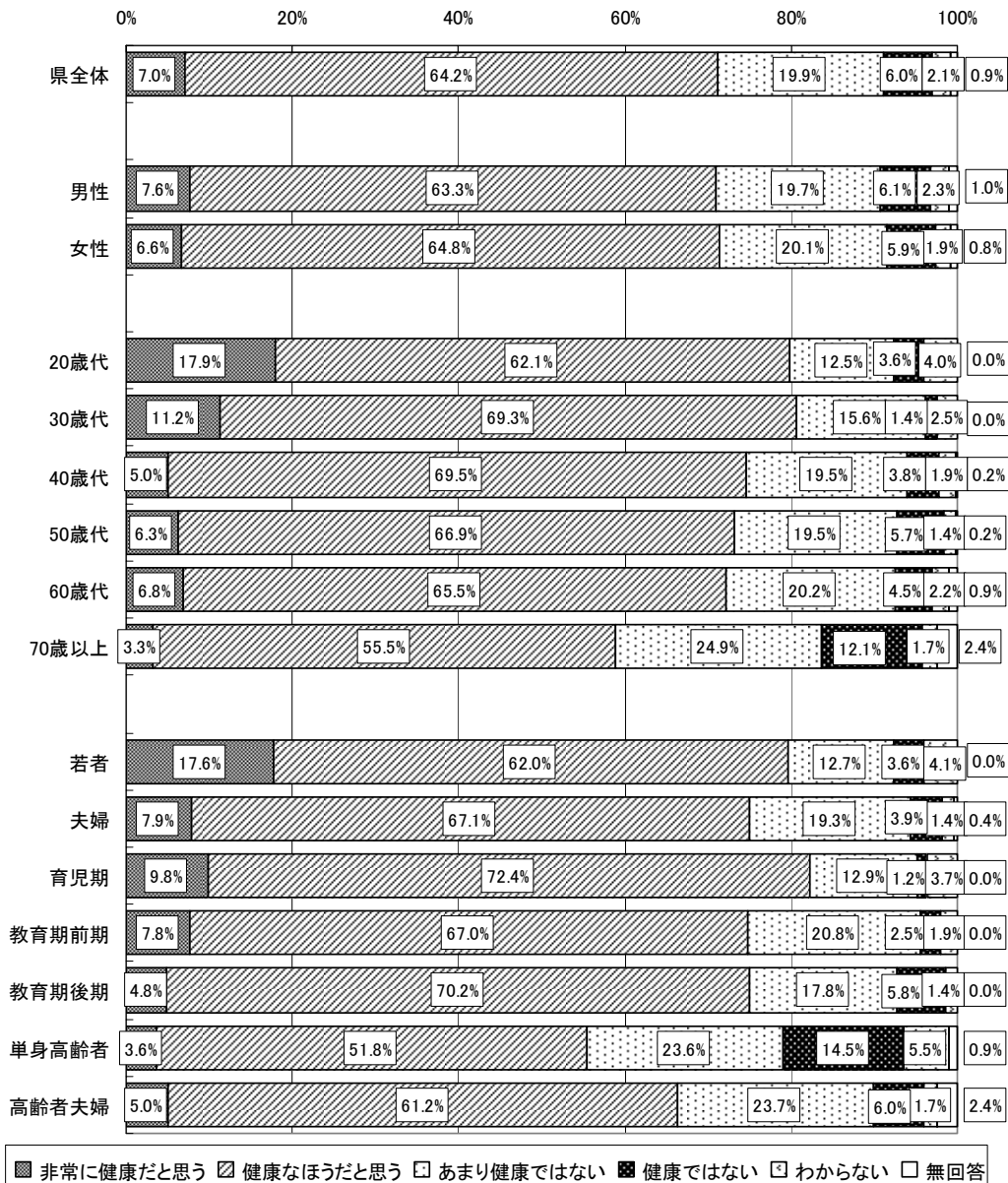
#### ■地域別

「健康である」人は「地域6（南西部）」（74.1%）で最も多く、「地域5（南東部）」（64.8%）で最も少なくなっています。

#### ■居住地域の状況別

「健康である」人は「山間地域」（66.4%）で少なくなっています。

図表 現在の健康状態（単数回答／県全体、性別、年齢別、ライフステージ別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

県全体と同様の傾向となっており、男女間で大きな差も見られません。

■年齢別

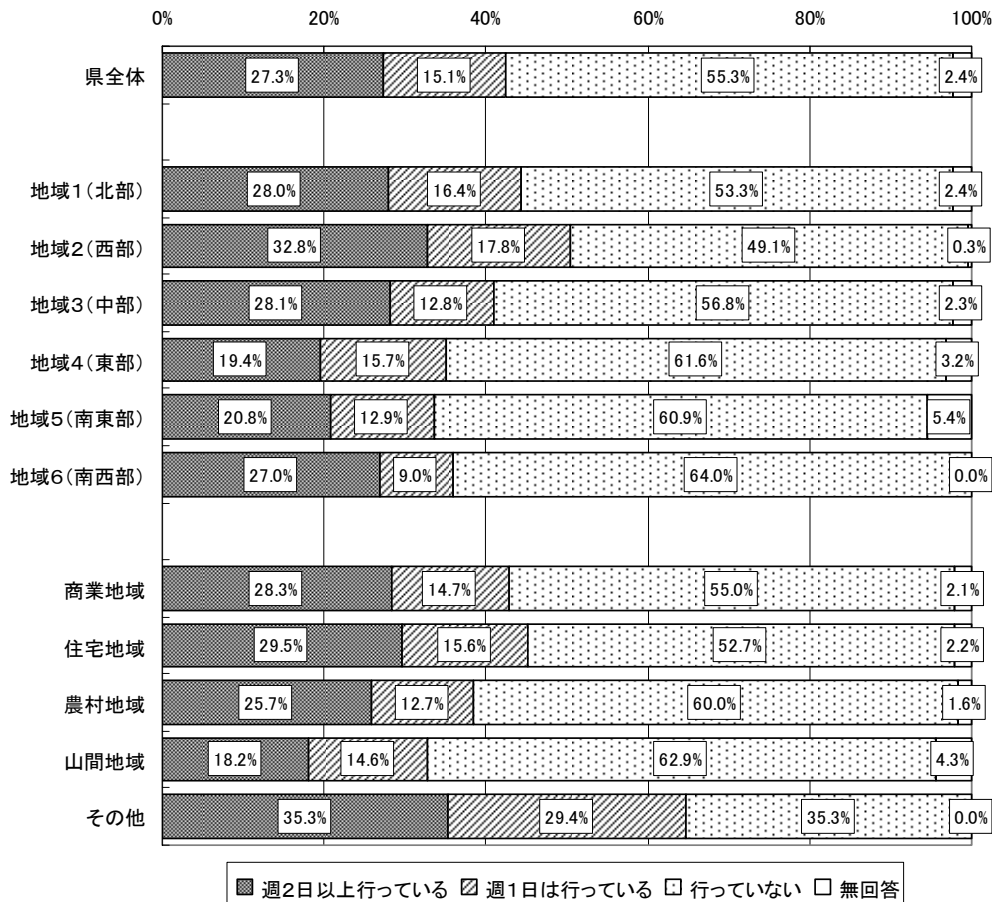
「健康である」人は「30歳代」（80.5％）で最も多く、「70歳以上」（58.8％）で最も少なくなっています。また、「非常に健康だと思う」人は「20歳代」、「30歳代」で多く、「健康ではない」人は「70歳以上」（37.0％）で多くなっています。

■ライフステージ別

「健康である」人は「育児期」（82.2％）で最も多く、「単身高齢者」（55.4％）で最も少なくなっています。また、「非常に健康だと思う」人は「若者」で多く、「健康ではない」人は「単身高齢者」（38.1％）で多くなっています。

## 4-2 健康のために実施している運動の頻度

図表 健康のために実施している運動の頻度（単数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

### ■県全体

県全体では「行っていない」(55.3%)の人が50%を超えています。一方、「週2日以上行っている」人は27.3%、「週1日は行っている」人は15.1%で、「運動を行っている」(「週2日以上行っている」+「週1日は行っている」)人は42.4%となっています。

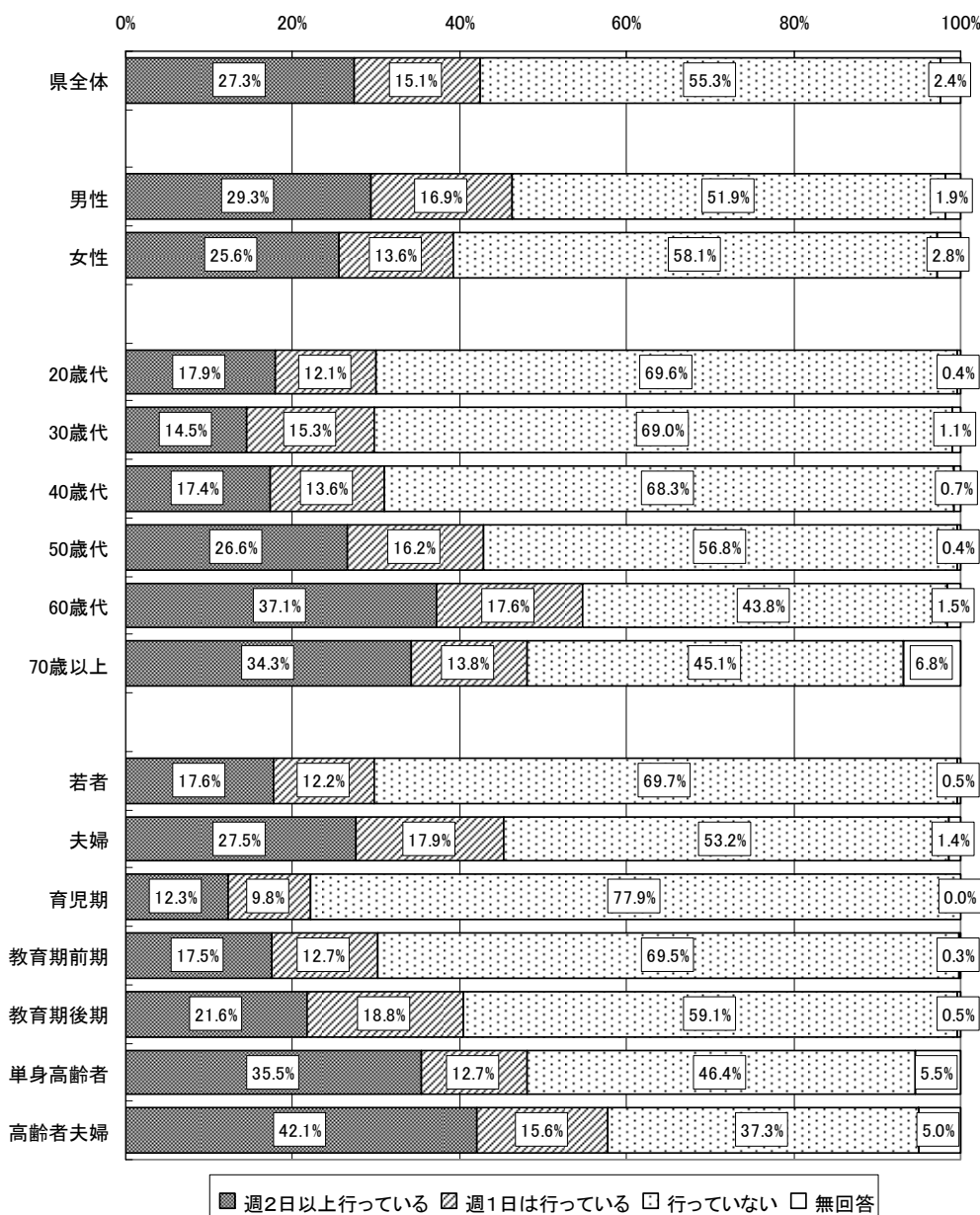
### ■地域別

「運動を行っている」人は「地域2(西部)」(50.6%)で最も多く、「地域5(南東部)」(33.7%)で最も少なくなっています。

### ■居住地域の状況別

「運動を行っている」人は「住宅地域」(45.1%)で最も多く、「山間地域」(32.8%)で最も少なくなっています。

図表 健康のために実施している運動の頻度（単数回答／県全体、性別、年齢別、ライフステージ別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

「女性」(39.2%)より「男性」(46.2%)の方が「運動を行っている」人が多くなっています。

■年齢別

「運動を行っている」人は「60歳代」(54.7%)で最も多く、「30歳代」(29.8%)で最も少なくなっています。

■ライフステージ別

「運動を行っている」人は「高齢者夫婦」(57.7%)で最も多く、「育児期」(22.1%)で最も少なくなっています。

### 4-3 運動の種類

#### (1) 今年度調査結果

図表 運動の種類（複数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別、性別、年齢別、ライフステージ別）

	ウォーキング（ハイキング、散歩、通勤時の徒歩など）	体操（ラジオ体操、ヨガ、エアロビクスなど）	室内運動器具を使ってする運動	ゴルフ（練習を含む）	球技（テニス、野球、サッカー、バレーボールなど）	サイクリング	ランニング（ジョギング）	水泳	ゲートボール、グラウンドゴルフ	ダンス（社交ダンス、フォークダンスなど）	その他	
県全体	<b>69.3%</b>	<b>22.6%</b>	<b>10.5%</b>	9.9%	8.7%	7.3%	7.0%	6.3%	3.9%	2.6%	6.5%	
地域別	地域1(北部)	<b>71.0%</b>	<b>23.8%</b>	10.6%	<b>11.9%</b>	9.1%	6.2%	7.2%	2.0%	2.0%	5.5%	
	地域2(西部)	<b>71.7%</b>	<b>17.9%</b>	<b>9.7%</b>	5.5%	8.3%	7.6%	3.4%	9.0%	2.8%	7.6%	
	地域3(中部)	<b>68.3%</b>	<b>21.4%</b>	<b>10.3%</b>	9.0%	8.6%	<b>10.3%</b>	8.3%	6.6%	3.1%	6.6%	
	地域4(東部)	<b>65.8%</b>	<b>21.1%</b>	<b>11.8%</b>	5.3%	10.5%	7.9%	6.6%	0.0%	<b>11.8%</b>	3.9%	6.6%
	地域5(南東部)	<b>58.8%</b>	<b>30.9%</b>	10.3%	13.2%	7.4%	5.9%	10.3%	0.0%	<b>16.2%</b>	1.5%	5.9%
	地域6(南西部)	<b>68.8%</b>	<b>18.8%</b>	<b>12.5%</b>	3.1%	3.1%	0.0%	3.1%	3.1%	6.3%	0.0%	18.8%
居住地域の状況別	商業地域	<b>76.8%</b>	<b>15.9%</b>	9.8%	8.5%	4.9%	<b>12.2%</b>	9.8%	8.5%	1.2%	4.9%	
	住宅地域	<b>69.5%</b>	<b>22.8%</b>	<b>11.1%</b>	11.0%	9.2%	7.9%	6.8%	7.7%	2.1%	5.8%	
	農村地域	<b>67.0%</b>	<b>27.8%</b>	<b>11.3%</b>	6.2%	10.3%	5.2%	6.2%	3.6%	4.6%	10.8%	
	山間地域	<b>65.3%</b>	<b>18.2%</b>	9.1%	9.9%	5.8%	4.1%	7.4%	0.8%	<b>16.5%</b>	0.8%	6.6%
	その他	<b>81.8%</b>	<b>22.7%</b>	0.0%	<b>13.6%</b>	9.1%	4.5%	4.5%	4.5%	0.0%	9.1%	0.0%
性別	男性	<b>70.5%</b>	<b>14.0%</b>	11.1%	<b>17.0%</b>	10.1%	8.9%	10.5%	5.4%	3.5%	7.1%	
	女性	<b>68.1%</b>	<b>31.1%</b>	<b>10.0%</b>	2.8%	7.4%	5.7%	3.6%	7.2%	4.3%	5.9%	
年齢別	20歳代	<b>55.2%</b>	10.4%	6.0%	6.0%	<b>26.9%</b>	14.9%	<b>25.4%</b>	0.0%	0.0%	1.5%	11.9%
	30歳代	<b>62.4%</b>	<b>17.4%</b>	11.9%	10.1%	<b>15.6%</b>	12.8%	12.8%	5.5%	0.0%	3.7%	2.8%
	40歳代	<b>63.8%</b>	<b>17.7%</b>	<b>14.6%</b>	6.9%	10.8%	10.0%	9.2%	3.8%	0.0%	3.8%	6.9%
	50歳代	<b>68.2%</b>	<b>22.7%</b>	8.1%	<b>13.7%</b>	7.6%	5.7%	7.1%	5.2%	0.9%	1.9%	3.3%
	60歳代	<b>75.2%</b>	<b>25.1%</b>	11.0%	<b>11.5%</b>	8.7%	6.5%	3.9%	8.7%	3.4%	2.0%	6.2%
	70歳以上	<b>71.0%</b>	<b>26.0%</b>	<b>10.5%</b>	7.5%	2.7%	4.8%	3.6%	6.9%	9.9%	3.0%	8.7%
	ライフステージ別	若者	<b>54.5%</b>	10.6%	6.1%	6.1%	<b>27.3%</b>	15.2%	<b>25.8%</b>	0.0%	0.0%	1.5%
夫婦		<b>71.7%</b>	<b>26.8%</b>	10.2%	6.3%	7.9%	8.7%	6.3%	<b>11.0%</b>	1.6%	1.6%	4.7%
育児期		<b>72.2%</b>	<b>13.9%</b>	<b>13.9%</b>	<b>16.7%</b>	11.1%	5.6%	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%
教育期前期		<b>56.9%</b>	<b>16.5%</b>	13.8%	9.2%	<b>18.3%</b>	10.1%	10.1%	6.4%	0.0%	3.7%	5.5%
教育期後期		<b>69.0%</b>	<b>17.9%</b>	6.0%	<b>15.5%</b>	13.1%	9.5%	9.5%	2.4%	2.4%	4.8%	1.2%
単身高齢者		<b>54.7%</b>	<b>28.3%</b>	9.4%	0.0%	3.8%	5.7%	0.0%	<b>15.1%</b>	11.3%	5.7%	5.7%
高齢者夫婦		<b>75.9%</b>	<b>25.3%</b>	12.0%	<b>12.4%</b>	5.8%	4.6%	3.7%	6.2%	7.1%	2.1%	7.5%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数は「運動を行っている」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

## ■県全体

県全体では「ウォーキング（ハイキング、散歩、通勤時の徒歩など）」（69.3%）が最も多く、次いで「体操（ラジオ体操、ヨガ、エアロビクスなど）」（22.6%）、「室内運動器具を使ってする運動」（10.5%）、「ゴルフ（練習を含む）」（9.9%）、「球技（テニス、野球、サッカー、バレーボールなど）」（8.7%）などとなっています。

「その他」としては、「仕事や家事が運動」という回答が最も多く、他に「武道」を挙げる人もありました。

## ■地域別

県全体の傾向と大差はありませんが、「地域3（中部）」では「サイクリング」が、「地域4（東部）」、「地域5（南東部）」では「ゲートボール、グラウンドゴルフ」が多くなっています。

## ■居住地域の状況別

県全体の傾向と大差はありませんが、「商業地域」では「サイクリング」が、「山間地域」では「ゲートボール、グラウンドゴルフ」が多くなっています。

## ■性別

県全体の傾向と大差はありませんが、「男性」では「ゴルフ（練習を含む）」が多くなっています。

## ■年齢別

県全体の傾向と大差はありませんが、「20歳代」では「球技（テニス、野球、サッカー、バレーボールなど）」や「ランニング（ジョギング）」が、「30歳代」では「球技（テニス、野球、サッカー、バレーボールなど）」が、「50歳代」、「60歳代」では「ゴルフ（練習を含む）」が多くなっています。

## ■ライフステージ別

県全体の傾向と大差はありませんが、「若者」では「球技（テニス、野球、サッカー、バレーボールなど）」や「ランニング（ジョギング）」が、「夫婦」では「水泳」が、「育児期」、「教育期後期」、「高齢者夫婦」では「ゴルフ（練習を含む）」が、「教育期前期」では「球技（テニス、野球、サッカー、バレーボールなど）」が、「単身高齢者」では「水泳」が多くなっています。

## (2) 健康な人が取り組む運動

図表 健康な人が取り組む運動（設問間クロス／県全体）

順位	項目番号	問28 行っている運動	度数・割合
1	1	ウォーキング	650 69.7%
2	3	体操	217 23.3%
3	7	ゴルフ	105 11.3%
4	6	室内運動器具を使ってする運動	102 10.9%
5	9	球技	95 10.2%
6	2	ランニング	69 7.4%
6	5	サイクリング	69 7.4%
8	4	水泳	61 6.5%
9	11	その他	56 6.0%
10	10	ゲートボール、グラウンドゴルフ	31 3.3%
11	8	ダンス	29 3.1%
対象者数			933 100.0%

(注) 上記図表は健康な人が行っている運動の種類を把握するため、問26で「健康である」（「非常に健康だと思う」＋「健康なほうだと思う」）、問27で「運動を行っている」（「週2日以上行っている」＋「週1日は行っている」）と回答した人について、問28とのクロス集計を行った結果である。  
なお、対象者数は問26で「健康である」（「非常に健康だと思う」＋「健康なほうだと思う」）と回答した人のうち、問27で「運動を行っている」（「週2日以上行っている」＋「週1日は行っている」）と回答した人数である。

健康な人が取り組んでいる運動内容は「ウォーキング（ハイキング、散歩、通勤時の徒歩など）」（69.7%）が最も多く、次いで「体操（ラジオ体操、ヨガ、エアロビクスなど）」（23.3%）、「ゴルフ（練習を含む）」（11.3%）となっています。

健康な人の場合でも、県全体と同様に、「ウォーキング」に取り組んでいる人が約70%を占めており、誰もが取り組みやすい運動であることがわかります。



#### 4-4 運動をしない理由

図表 運動をしない理由（複数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別、性別、年齢別、ライフステージ別）

	仕事 が忙し くて時 間がな いから	きつ かけが つかめ ないか ら	めん どうだ から	身近 なとこ ろに施 設や場 所がな い	家事 が忙し くて時 間がな いから	特に 理由は ない	病弱 あるい は体的 に無理 だから	費用 がかか るから	運動 が好き ではな いから	育児 や介護 がある から	一緒 に運動 する仲 間がい ないか ら	十分 健康で あり、 特に必 要がな い	
県全体	40.5%	22.6%	21.3%	21.2%	19.0%	17.0%	14.9%	12.5%	12.1%	11.2%	11.2%	6.9%	
地域別	地域1(北部)	40.2%	24.1%	20.9%	18.4%	19.5%	16.2%	14.2%	12.8%	13.1%	12.4%	6.8%	
	地域2(西部)	39.7%	18.4%	19.1%	19.9%	13.5%	19.9%	14.9%	13.5%	11.3%	12.8%	7.8%	
	地域3(中部)	43.9%	21.3%	25.1%	21.8%	21.8%	16.9%	13.4%	13.4%	12.7%	12.2%	5.5%	
	地域4(東部)	38.3%	23.3%	22.6%	23.3%	15.8%	14.3%	14.3%	12.0%	9.0%	9.0%	14.3%	6.8%
	地域5(南東部)	38.2%	21.1%	11.4%	30.1%	17.1%	19.5%	24.4%	6.5%	8.9%	4.1%	13.8%	11.4%
	地域6(南西部)	31.6%	22.8%	22.8%	29.8%	17.5%	22.8%	14.0%	12.3%	12.3%	7.0%	15.8%	5.3%
居住地域の状況別	商業地域	46.7%	23.8%	23.8%	19.0%	17.1%	13.3%	14.3%	9.5%	16.2%	8.6%	11.4%	6.7%
	住宅地域	38.7%	22.7%	22.7%	19.3%	18.9%	16.9%	14.0%	14.5%	12.9%	12.6%	10.6%	6.0%
	農村地域	45.2%	23.1%	18.2%	20.8%	22.8%	17.8%	15.5%	11.6%	11.6%	11.6%	9.9%	7.9%
	山間地域	38.4%	19.0%	19.0%	30.2%	15.5%	18.5%	16.8%	7.3%	9.1%	6.9%	13.4%	9.1%
	その他	41.7%	50.0%	25.0%	16.7%	25.0%	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	8.3%	33.3%	16.7%
性別	男性	49.9%	23.8%	26.6%	20.6%	7.5%	20.5%	12.5%	9.9%	8.7%	5.6%	13.4%	9.2%
	女性	33.5%	21.7%	17.3%	21.5%	27.3%	14.6%	16.6%	14.3%	14.7%	15.3%	9.5%	5.2%
年齢別	20歳代	50.0%	23.7%	29.5%	27.6%	9.6%	7.1%	3.2%	16.0%	16.0%	13.5%	11.5%	7.1%
	30歳代	52.4%	21.4%	20.6%	21.8%	27.8%	7.1%	4.0%	17.1%	14.3%	31.0%	10.7%	3.6%
	40歳代	56.1%	22.0%	26.1%	16.7%	25.8%	13.9%	8.4%	19.2%	12.5%	11.1%	10.1%	2.8%
	50歳代	47.5%	25.7%	22.5%	25.7%	19.3%	15.4%	8.2%	12.5%	12.5%	7.9%	11.8%	4.6%
	60歳代	31.7%	27.1%	21.8%	25.0%	15.5%	27.5%	15.1%	8.5%	12.0%	5.6%	13.0%	10.9%
	70歳以上	13.1%	16.6%	11.8%	14.1%	12.8%	24.9%	41.2%	4.2%	8.0%	2.2%	10.2%	11.5%
ライフステージ別	若者	49.4%	24.0%	29.9%	27.3%	9.1%	7.1%	3.2%	15.6%	16.2%	13.6%	11.7%	7.1%
	夫婦	44.3%	27.5%	24.2%	23.5%	10.7%	15.4%	10.7%	10.1%	16.1%	3.4%	16.8%	8.1%
	育児期	37.8%	16.5%	14.2%	21.3%	35.4%	5.5%	2.4%	22.8%	5.5%	62.2%	5.5%	3.9%
	教育期前期	56.2%	24.3%	24.3%	19.9%	30.7%	9.6%	6.4%	19.9%	12.0%	19.5%	8.0%	2.8%
	教育期後期	61.8%	18.7%	22.0%	19.5%	30.9%	12.2%	7.3%	17.9%	14.6%	6.5%	11.4%	3.3%
	単身高齢者	7.8%	17.6%	13.7%	21.6%	11.8%	17.6%	51.0%	3.9%	3.9%	2.0%	13.7%	13.7%
	高齢者夫婦	16.7%	21.8%	15.4%	17.9%	14.1%	30.8%	28.8%	4.5%	9.0%	3.2%	10.9%	12.8%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。

太字は各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数は「運動を行っていない」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

## ■県全体

県全体では「仕事が忙しくて時間がないから」(40.5%)が最も多く、次いで「きっかけがつかめないから」(22.6%)、「めんどうだから」(21.3%)、「身近なところに施設や場所がないから」(21.2%)、「家事が忙しくて時間がないから」(19.0%)、「特に理由はない」(17.0%)などとなっています。

## ■地域別

各地域とも「仕事が忙しくて時間がないから」が最も多くなっていますが、「地域2(西部)」、「地域4(東部)」、「地域5(南東部)」、「地域6(南西部)」では「身近なところに施設や場所がないから」が2番目に多くなっています。

## ■居住地域の状況別

県全体の傾向と大差はありませんが、「農村地域」では「家事が忙しくて時間がないから」が、「山間地域」では「身近なところに施設や場所がないから」が多くなっています。

## ■性別

県全体の傾向と大差はありませんが、「女性」では「家事が忙しくて時間がないから」が多くなっています。

## ■年齢別

「60歳代」以下では「仕事が忙しくて時間がないから」が最も多くなっていますが、「70歳以上」では「病弱あるいは体力的に無理だから」が最も多くなっています。また、「30歳代」では「育児や介護があるから」が2番目に多くなっています。

## ■ライフステージ別

「若者」、「夫婦」、「教育期前期」、「教育期後期」では「仕事が忙しくて時間がないから」が最も多くなっていますが、「育児期」では「育児や介護があるから」が、「単身高齢者」では「病弱あるいは体力的に無理だから」が、「高齢者夫婦」では「特に理由はない」が最も多くなっています。

#### 4-5 県民の健康づくりや病気の予防に関する重要度・満足度

##### (1) 県全体の重要度・満足度・ニーズ得点の順位

図表 県全体の重要度の順位

順位	項目番号	項目	重要度
1	8	十分な睡眠時間や休養がとれること	4.33
2	3	食事が規則正しくとれること	4.25
3	4	栄養バランス等に配慮した食事がとれること	4.23
4	10	「いきがい」や「生活のはり」があると感じられること	4.19
5	9	悩みやストレスを軽減、解消できる相談相手や趣味などがあること	4.10
6	7	駅や飲食店など人が集まる場所で禁煙や完全分煙が実施されていること	3.93
7	2	健康づくりや病気の予防に関する情報がいつでも入手できること	3.89
8	1	健康づくりや病気の予防に関する相談窓口が充実していること	3.79
9	5	運動やスポーツに親しめる時間があること	3.74
10	6	運動やスポーツに親しめる施設が身近にあること	3.65
項目全体の平均			4.01

重要度の上位3項目は「十分な睡眠時間や休養がとれること」、「食事が規則正しくとれること」、「栄養バランス等に配慮した食事がとれること」となっています。

図表 県全体の満足度の順位

順位	項目番号	項目	満足度
1	3	食事が規則正しくとれること	3.63
2	4	栄養バランス等に配慮した食事がとれること	3.49
3	8	十分な睡眠時間や休養がとれること	3.27
4	9	悩みやストレスを軽減、解消できる相談相手や趣味などがあること	3.22
5	10	「いきがい」や「生活のはり」があると感じられること	3.22
6	7	駅や飲食店など人が集まる場所で禁煙や完全分煙が実施されていること	2.97
7	2	健康づくりや病気の予防に関する情報がいつでも入手できること	2.89
8	1	健康づくりや病気の予防に関する相談窓口が充実していること	2.87
9	5	運動やスポーツに親しめる時間があること	2.84
10	6	運動やスポーツに親しめる施設が身近にあること	2.66
項目全体の平均			3.10

満足度の上位3項目は「食事が規則正しくとれること」、「栄養バランス等に配慮した食事がとれること」、「十分な睡眠時間や休養がとれること」となっており、順位は違いますが重要度の上位3項目と同じとなっています。

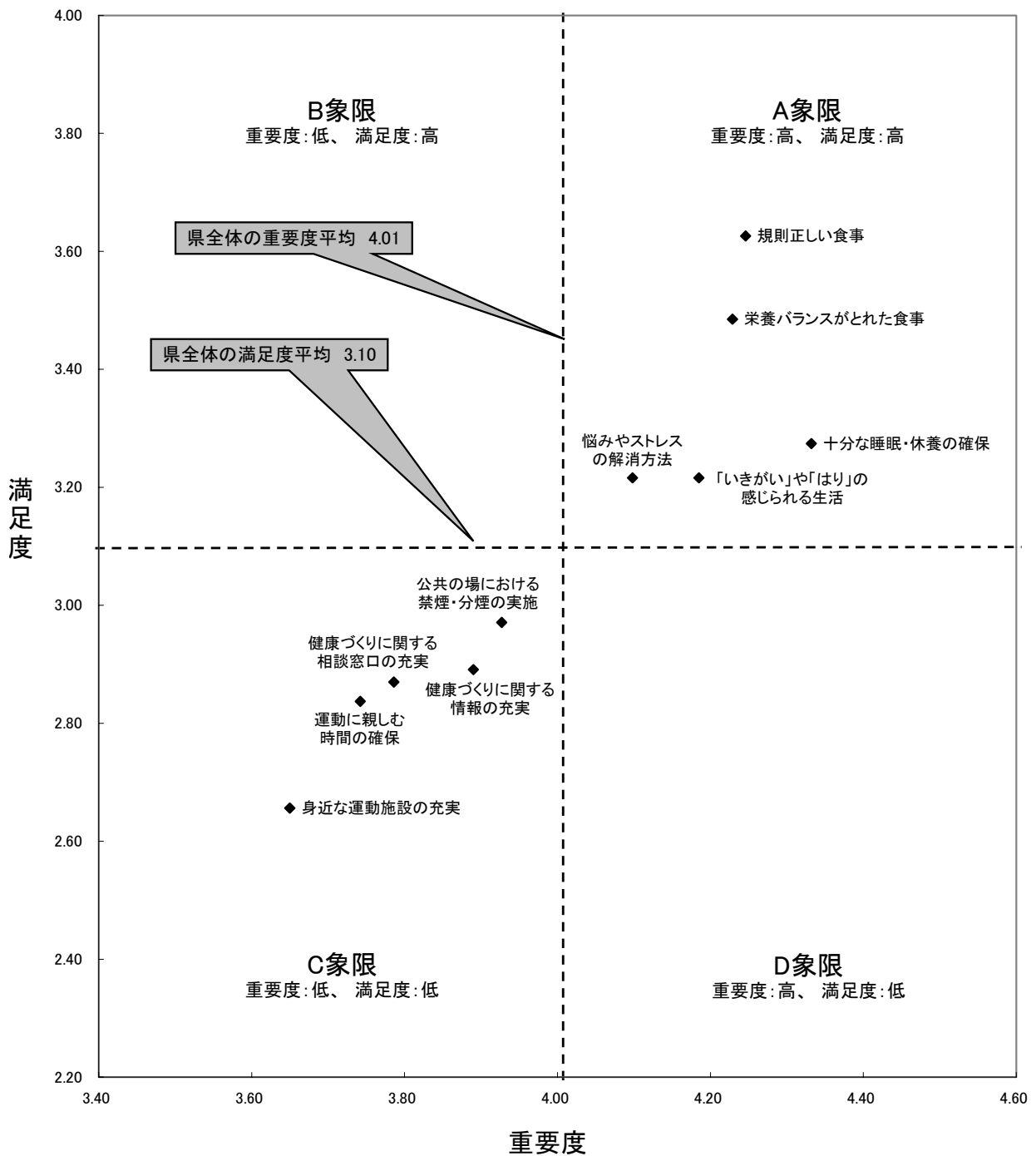
図表 県全体のニーズ得点の順位

順位	項目番号	項目	ニーズ得点
1	6	運動やスポーツに親しめる施設が身近にあること	12.21
2	2	健康づくりや病気の予防に関する情報がいつでも入手できること	12.09
3	7	駅や飲食店など人が集まる場所で禁煙や完全分煙が実施されていること	11.89
4	1	健康づくりや病気の予防に関する相談窓口が充実していること	11.85
5	5	運動やスポーツに親しめる時間があること	11.84
6	8	十分な睡眠時間や休養がとれること	11.81
7	10	「いきがい」や「生活のはり」があると感じられること	11.65
8	9	悩みやストレスを軽減、解消できる相談相手や趣味などがあること	11.41
9	4	栄養バランス等に配慮した食事がとれること	10.64
10	3	食事が規則正しくとれること	10.08

ニーズ得点の上位3項目は「運動やスポーツに親しめる施設が身近にあること」、「健康づくりや病気の予防に関する情報がいつでも入手できること」、「駅や飲食店など人が集まる場所で禁煙や完全分煙が実施されていること」となっています。

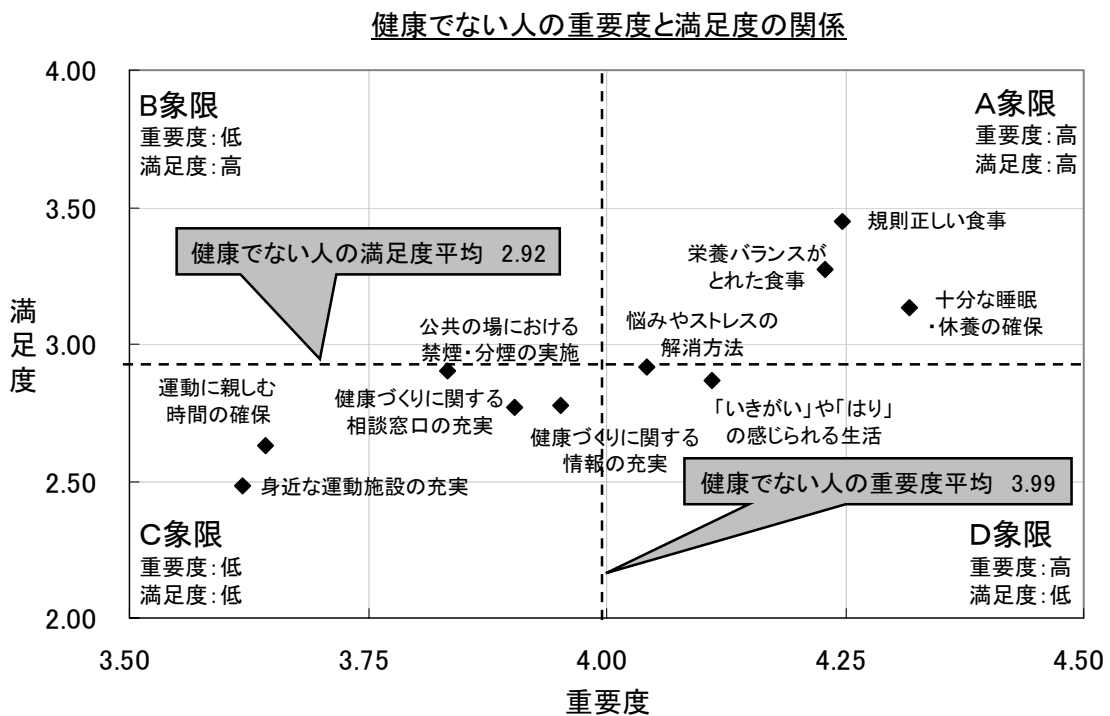
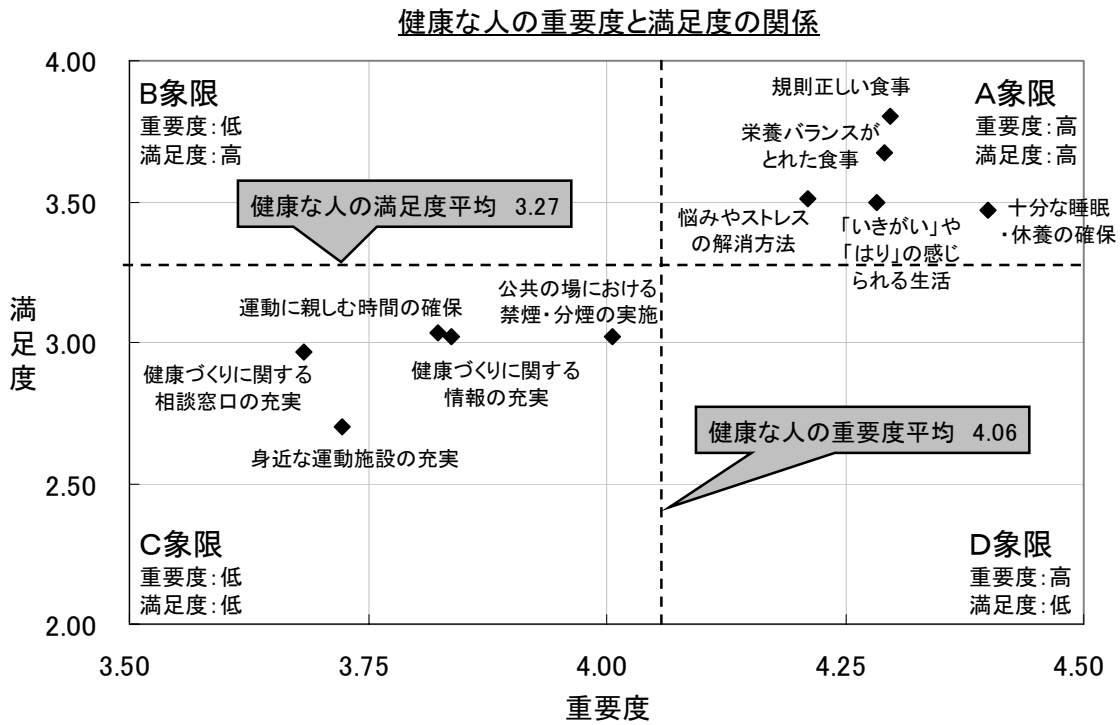
(2) 県全体の重要度・満足度の関係

重要度と満足度の関係図



D象限（重要度が高いにもかかわらず満足度が低い）に属する項目はありませんが、C象限（重要度は低い満足度も低い）に半数にあたる5項目が分布しています。

(3) 健康状態による重要度・満足度の比較



「健康な人」では県全体の傾向と大差ありませんが、「健康でない人」では「悩みやストレスを軽減、解消できる相談相手や趣味などがあること」と「いきがい」や「生活のはり」があると感じられることがD象限（重要度が高いにもかかわらず満足度が低い）に位置しています。

## 4-6 内科的な健康診断やがん検診の受診状況

### (1) 今年度調査結果

図表 内科的な健康診断やがん検診の受診状況

(複数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別、性別、年齢別)

	検査を含むもの 内科的な健康診断 (血液検査、尿 検査など)	胃がん検診 (バリウム検査など)	肺がん検診 (胸のレントゲン撮影 など)	大腸がん検診 (便潜血反応検査 (検便)など)	子宮がん検診 (細胞診検査など)	乳がん検診 (触診やマンモグラ フィ撮影など)	その他	わからない	受診していない	
県全体	71.5%	28.5%	28.2%	27.2%	14.1%	12.5%	3.3%	0.5%	20.9%	
地域別	地域1(北部)	74.1%	28.2%	28.3%	29.7%	13.6%	12.0%	2.9%	0.3%	18.8%
	地域2(西部)	71.8%	30.7%	27.2%	25.1%	17.1%	15.3%	4.2%	1.0%	19.5%
	地域3(中部)	68.5%	27.5%	26.7%	22.8%	15.7%	12.4%	3.7%	0.1%	23.1%
	地域4(東部)	67.1%	31.5%	31.9%	28.7%	13.9%	14.8%	2.8%	1.4%	25.9%
	地域5(南東部)	70.8%	26.2%	30.7%	26.7%	9.9%	8.9%	5.0%	0.0%	19.8%
	地域6(南西部)	66.3%	31.5%	29.2%	27.0%	10.1%	13.5%	2.2%	3.4%	28.1%
居住地域の状況別	商業地域	73.8%	25.1%	22.5%	27.7%	10.5%	9.9%	3.7%	0.5%	19.9%
	住宅地域	72.1%	28.2%	28.9%	28.0%	15.1%	13.2%	3.5%	0.3%	20.4%
	農村地域	71.3%	30.1%	25.7%	24.0%	13.5%	10.7%	2.4%	0.4%	20.8%
	山間地域	68.6%	29.3%	33.9%	29.5%	13.0%	12.7%	3.5%	0.8%	23.8%
	その他	61.8%	26.5%	11.8%	14.7%	5.9%	11.8%	8.8%	2.9%	20.6%
性別	男性	77.9%	35.0%	35.6%	32.2%	1.0%	1.2%	4.2%	0.7%	17.2%
	女性	66.2%	23.1%	22.2%	23.1%	24.9%	21.7%	2.6%	0.3%	23.8%
年齢別	20歳代	52.7%	0.9%	4.0%	2.7%	12.9%	1.8%	1.8%	2.2%	39.7%
	30歳代	54.5%	14.8%	14.5%	11.8%	20.3%	11.2%	0.5%	0.3%	32.9%
	40歳代	69.3%	32.9%	29.8%	28.1%	21.9%	19.0%	2.1%	0.2%	22.1%
	50歳代	71.0%	33.1%	33.3%	27.0%	16.8%	17.0%	2.2%	0.4%	22.1%
	60歳代	76.0%	34.2%	35.1%	33.4%	12.5%	14.8%	4.9%	0.2%	18.5%
	70歳以上	83.9%	33.1%	32.1%	36.7%	5.9%	7.1%	5.3%	0.6%	9.1%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。

太字は「その他」、「わからない」、「受診していない」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。「受診していない」人については「県全体」を超えるものを網掛け・白抜きとしている。

母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

## ■県全体

県全体では「内科的な健康診断（血液検査・尿検査を含むもの）」については71.5%の人が受診していますが、その他では「胃がん検診（バリウム検査など）」が28.5%、「肺がん検診（胸のレントゲン撮影など）」が28.2%、「大腸がん検診（便潜血反応検査（検便）など）」が27.2%、「子宮がん検診（細胞診検査など）」が14.1%、「乳がん検診（触診やマンモグラフィ撮影など）」が12.5%、「その他」が3.3%となっています。

「その他」としては、「MRI」、「人間ドック」、「エコー」、「CT」、「内視鏡」、「PET」などがありました。

## ■地域別

受診状況については県全体の傾向と大差はありませんが、「受診していない」人は「地域3（中部）」、「地域4（東部）」、「地域6（南西部）」で県全体より多くなっています。

## ■居住地域の状況別

受診状況については県全体の傾向と大差はありませんが、「受診していない」人は「山間地域」で県全体より多くなっています。

## ■性別

受診状況については県全体の傾向と大差はありませんが、「男性」では「肺がん検診（胸のレントゲン撮影など）」が、「女性」では「子宮がん検診（細胞診検査など）」の受診率が2番目に多くなっています。また、「受診していない」人は「女性」の方が多くなっています。

## ■年齢別

受診状況については県全体の傾向と大差はありませんが、「20歳代」と「30歳代」では「子宮がん検診（細胞診検査など）」の受診率が2番目に多くなっています。また、「受診していない」人は「50歳代」以下で県全体より多くなっており、若いほど多い傾向が見られます。



## (2) 健康状態による受診率の違い

図表 健康状態による受診率の違い（設問間クロス／県全体）

項目 番号	問31 検診の受診状況	問26 現在の健康状態		
		計	健康である	健康でない
1	内科的な健康診断	1,987 71.9%	1,410 69.6%	577 78.3%
2	胃がん検診	790 28.6%	575 28.4%	215 29.2%
3	肺がん検診	788 28.5%	559 27.6%	229 31.1%
4	大腸がん検診	754 27.3%	548 27.0%	206 28.0%
5	子宮がん検診	394 14.3%	298 14.7%	96 13.0%
6	乳がん検診	345 12.5%	263 13.0%	82 11.1%
7	その他	92 3.3%	47 2.3%	45 6.1%
8	受診していない	567 20.5%	453 22.3%	114 15.5%
9	わからない	13 0.5%	9 0.4%	4 0.5%
対象者数		2,764 100.0%	2,027 100.0%	737 100.0%

(注) 上記図表は問26で「健康である」（「非常に健康だと思う」＋「健康なほうだと思う」と「健康でない」（「あまり健康ではない」＋「健康ではない」と回答した人について、検診受診率を比較するために問31とのクロス集計を行った結果である。

なお、対象者数は問26で「健康である」（「非常に健康だと思う」＋「健康なほうだと思う」と「健康でない」（「あまり健康ではない」＋「健康ではない」と回答した人数である。

「健康である」人の受診率上位4項目は「内科的な健康診断」（69.6%）、「胃がん検診」（28.4%）、「肺がん検診」（27.6%）、「大腸がん検診」（27.0%）となっています。一方、「健康でない」人では「内科的な健康診断」（78.3%）、「肺がん検診」（31.1%）、「胃がん検診」（29.2%）、「大腸がん検診」（28.0%）となっており、上位4項目で、「健康でない」人の受診率の方が高くなっています。また、「受診していない」人も「健康でない」人の方が少なくなっています。

特に「内科的な健康診断」では「健康でない」人の受診率は78.3%と高く、「健康である」人を8.7ポイント上回っています。

## 4-7 受診しなかった理由

### (1) 今年度調査結果

図表 受診しなかった理由（複数回答／県全体、地域別、性別、年齢別）

	時間的な余裕がないから	費用がかかるから	心配なときはいつでも受診できるから	健康なので必要はないと思うから	めんどうだから	検査に伴う苦痛などがいやだから	結果が不安なため受けたくないから	まだ健康診断やがん検診を受ける年齢ではないから	健康診断やがん検診があることを知らなかったから	特に理由はない	
県全体	32.0%	29.5%	26.4%	20.2%	19.5%	12.6%	12.0%	9.4%	2.9%	16.8%	
地域別	地域1(北部)	30.0%	32.0%	27.3%	19.0%	21.7%	12.6%	12.6%	7.9%	3.2%	16.6%
	地域2(西部)	33.9%	33.9%	23.2%	16.1%	12.5%	8.9%	8.9%	12.5%	0.0%	16.1%
	地域3(中部)	36.0%	31.7%	23.8%	22.0%	25.0%	14.6%	12.2%	12.2%	4.3%	12.8%
	地域4(東部)	32.1%	21.4%	33.9%	25.0%	7.1%	12.5%	14.3%	10.7%	3.6%	12.5%
	地域5(南東部)	30.0%	20.0%	27.5%	17.5%	12.5%	15.0%	15.0%	7.5%	0.0%	30.0%
	地域6(南西部)	24.0%	12.0%	24.0%	24.0%	16.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	36.0%
性別	男性	30.8%	29.4%	20.8%	22.2%	23.1%	5.0%	11.3%	10.4%	4.1%	16.7%
	女性	32.8%	29.6%	29.6%	19.1%	17.5%	17.2%	12.4%	8.9%	2.2%	16.9%
年齢別	20歳代	32.6%	32.6%	12.4%	23.6%	13.5%	7.9%	6.7%	34.8%	5.6%	14.6%
	30歳代	45.8%	42.5%	18.3%	13.3%	18.3%	6.7%	5.0%	20.0%	5.0%	10.8%
	40歳代	51.6%	30.1%	20.4%	10.8%	19.4%	16.1%	15.1%	1.1%	1.1%	14.0%
	50歳代	31.2%	28.4%	32.1%	20.2%	24.8%	22.0%	20.2%	0.0%	0.9%	13.8%
	60歳代	16.7%	24.2%	34.2%	29.2%	23.3%	11.7%	12.5%	0.0%	2.5%	23.3%
	70歳以上	6.3%	11.1%	46.0%	25.4%	14.3%	11.1%	12.7%	0.0%	1.6%	28.6%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。

太字は「特に理由はない」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。「特に理由はない」人については「県全体」を超えるものを網掛け・白抜きとしている。

母数は「受診していない」と回答した人数であり、4～7ページの「5 回答者の状況」とは異なる。

#### ■ 県全体

県全体では「時間的な余裕がないから」(32.0%)が最も多く、次いで「費用がかかるから」(29.5%)、「心配なときはいつでも受診できるから」(26.4%)、「健康なので必要はないと思うから」(20.2%)、「めんどうだから」(19.5%) などとなっています。

#### ■ 地域別

県全体の傾向と大差はありませんが、「地域5(南東部)」、「地域6(南西部)」で「特に理由はない」人が県全体より多くなっています。

#### ■ 性別

県全体の傾向と大差はなく、男女間の違いもほとんど見られません。

#### ■ 年齢別

「20歳代」では「まだ健康診断やがん検診を受ける年齢ではないから」が、「30歳代」と「40歳代」では「時間的な余裕がないから」が、「50歳代」以上では「心配なときはいつでも受診できるから」が最も多くなっています。また、「60歳代」以上で「特に理由はない」人が県全体より多くなっています。

(2) 健康状態別にみた受診しなかった理由

図表 健康状態別にみた受診しなかった理由（設問間クロス／県全体）

項目 番号	問32 検診を受けなかった理由	問26 現在の健康状態		
		計	健康である	健康でない
1	健康診断やがん検診があることを知らなかったから	15 2.6%	11 2.4%	4 3.5%
2	まだ健康診断やがん検診を受ける年齢ではないから	56 9.9%	48 10.6%	8 7.0%
3	健康なので必要はないと思うから	119 21.0%	112 24.7%	7 6.1%
4	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	149 26.3%	<b>117</b> 25.8%	<b>32</b> 28.1%
5	検査に伴う苦痛などがいやだから	75 13.2%	53 11.7%	22 19.3%
6	結果が不安なため受けたくないから	66 11.6%	48 10.6%	18 15.8%
7	費用がかかるから	170 30.0%	<b>122</b> 26.9%	<b>48</b> 42.1%
8	時間的な余裕がないから	180 31.7%	<b>148</b> 32.7%	<b>32</b> 28.1%
9	めんどうだから	111 19.6%	87 19.2%	24 21.1%
10	特に理由はない	98 17.3%	78 17.2%	20 17.5%
対象者数		567 100.0%	453 100.0%	114 100.0%

(注) 上記図表は「健康である」（「非常に健康だと思う」＋「健康なほうだと思う」）と「健康でない」（「あまり健康ではない」＋「健康ではない」）と回答した人について、受診しなかった理由を比較するために問32とのクロス集計を行った結果である。太字は各区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。  
なお、対象者数は問26で「健康である」（「非常に健康だと思う」＋「健康なほうだと思う」）と「健康でない」（「あまり健康ではない」＋「健康ではない」）と回答した人のうち、問31で内科的な健康診断やがん検診を「受診していない」と回答した人数である。

受診しなかった理由の上位3項目は、「健康である」人と「健康でない」人で一致しています。最多項目は、「健康である」人では「時間的な余裕がないから」（32.7%）、「健康でない」人では「費用がかかるから」（42.1%）であり、「健康でない」人では経済的理由が最も多くなっています。

## 4-8 高齢期等への不安

図表 高齢期等への不安（複数回答／県全体、地域別、性別、年齢別、ライフステージ別）

	医療や介護などの費用のこと	家族に肉体的・精神的負担をかけること	収入減などによる生活費のこと	買い物や通院などが困難になること	介護や面倒をみてくれる家族がいないこと	家族の世話・介護ができなくなる	地域の医療や福祉施設・設備が充実していないこと	住まいの設備・構造が適していないこと	住みなれた自宅で生活できないこと	近所とのつきあいがあまりないこと、近所から支援してもらえないこと	わからない	
県全体	<b>65.0%</b>	<b>52.6%</b>	<b>46.2%</b>	20.9%	16.5%	16.0%	15.7%	12.4%	12.1%	2.7%	1.5%	
地域別	地域1(北部)	<b>66.5%</b>	<b>52.0%</b>	<b>46.5%</b>	19.1%	18.4%	16.7%	14.6%	12.7%	11.2%	3.3%	1.8%
	地域2(西部)	<b>65.9%</b>	<b>55.7%</b>	<b>46.3%</b>	26.1%	17.1%	12.9%	19.2%	11.5%	10.1%	3.1%	1.4%
	地域3(中部)	<b>68.0%</b>	<b>55.3%</b>	<b>48.5%</b>	18.9%	14.4%	16.8%	13.3%	11.1%	10.2%	2.3%	1.1%
	地域4(東部)	<b>61.1%</b>	<b>49.5%</b>	<b>46.8%</b>	24.1%	18.5%	17.6%	16.2%	12.5%	13.4%	1.4%	0.5%
	地域5(南東部)	<b>53.0%</b>	<b>49.0%</b>	<b>41.1%</b>	28.7%	11.9%	14.4%	20.8%	12.4%	21.8%	1.0%	2.5%
	地域6(南西部)	<b>52.8%</b>	<b>44.9%</b>	<b>33.7%</b>	22.5%	10.1%	10.1%	28.1%	21.3%	21.3%	1.1%	2.2%
性別	男性	<b>66.0%</b>	<b>54.4%</b>	<b>48.2%</b>	18.6%	16.0%	15.1%	17.6%	11.2%	11.7%	2.8%	1.6%
	女性	<b>64.3%</b>	<b>51.2%</b>	<b>44.6%</b>	22.8%	16.9%	16.8%	14.2%	13.4%	12.4%	2.6%	1.4%
年齢別	20歳代	<b>69.2%</b>	<b>46.4%</b>	<b>61.6%</b>	17.9%	14.3%	7.6%	17.4%	15.6%	7.6%	1.3%	2.2%
	30歳代	<b>78.6%</b>	<b>57.5%</b>	<b>69.9%</b>	12.9%	12.9%	13.4%	10.1%	9.3%	3.6%	2.5%	0.8%
	40歳代	<b>74.3%</b>	<b>51.2%</b>	<b>69.0%</b>	13.6%	19.0%	14.5%	15.2%	10.5%	4.0%	3.3%	1.0%
	50歳代	<b>68.6%</b>	<b>52.5%</b>	<b>52.1%</b>	17.4%	15.4%	16.4%	19.3%	18.1%	8.3%	2.4%	1.0%
	60歳代	<b>65.2%</b>	<b>55.8%</b>	<b>35.0%</b>	22.5%	16.5%	16.3%	19.9%	12.2%	15.7%	2.9%	1.1%
	70歳以上	<b>48.1%</b>	<b>50.0%</b>	21.3%	<b>31.7%</b>	18.4%	20.5%	12.0%	10.5%	22.2%	2.7%	2.7%
ライフステージ別	若者	<b>69.2%</b>	<b>45.7%</b>	<b>61.1%</b>	18.1%	14.5%	7.7%	17.6%	15.4%	7.7%	1.4%	2.3%
	夫婦	<b>67.5%</b>	<b>49.3%</b>	<b>46.8%</b>	24.6%	18.9%	11.8%	21.1%	10.4%	12.1%	3.2%	0.7%
	育児期	<b>74.8%</b>	<b>55.8%</b>	<b>79.8%</b>	16.0%	12.9%	15.3%	8.6%	6.7%	2.5%	1.8%	1.2%
	教育期前期	<b>78.9%</b>	<b>58.2%</b>	<b>69.5%</b>	9.7%	9.1%	16.3%	14.1%	11.4%	5.5%	2.5%	0.8%
	教育期後期	<b>67.3%</b>	<b>56.3%</b>	<b>53.4%</b>	15.9%	16.3%	16.8%	20.7%	15.4%	2.9%	1.9%	1.4%
	単身高齢者	<b>37.3%</b>	<b>44.5%</b>	15.5%	32.7%	<b>33.6%</b>	3.6%	10.9%	8.2%	<b>33.6%</b>	4.5%	5.5%
	高齢者夫婦	<b>52.9%</b>	<b>49.5%</b>	22.5%	<b>32.5%</b>	19.6%	23.4%	14.1%	10.0%	21.1%	3.6%	1.4%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。

太字は各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

## ■県全体

県全体では「医療や介護などの費用のこと」(65.0%)が最も多く、これに「家族に肉体的・精神的負担をかけること」(52.6%)、「収入減などによる生活費のこと」(46.2%)を加えた上位3項目の選択率が高くなっています。

## ■地域別

上位3項目は県全体と同じ傾向ですが、「地域5(南東部)」、「地域6(南西部)」では「地域の医療や福祉施設・設備が充実していないこと」が県全体を5ポイント以上上回っています。

## ■性別

県全体の傾向と大差はなく、男女間での相違もほとんど見られません。

## ■年齢別

「20歳代」から「40歳代」にかけては「収入減などによる生活費のこと」が多くなっています。また、「70歳以上」では「家族に肉体的・精神的負担をかけること」が最も多く、「買い物や通院などが困難になること」が第3位となっています。顕著な傾向ではありませんが、「家族の世話・介護ができなくなること」は、年齢層が高いほど多い傾向がうかがえます。

## ■ライフステージ別

「育児期」では「収入減などによる生活費のこと」が最も多くなっています。また、「単身高齢者」では「介護や面倒をみてくれる家族がいないこと」と「住みなれた自宅で生活できなくなること」が同率で、「高齢者夫婦」では「買い物や通院などが困難になること」が第3位となっています。

## 5 生涯にわたる学びに関する意識やニーズについて

### 5-1 学習活動の実施状況

#### (1) 今年度調査結果

図表 学習活動の実施状況（複数回答／県全体、地域別、性別、年齢別）

	会 道 趣 味 ・ 書 道 ・ 文 学 ・ 歴 史 ・ 語 学 ・ 華 社 問 題 な ど	ス ポ ー ツ ・ 健 康 ・ シ ョ ウ キ ン グ ・ 水 泳 ・ ヨ ガ ・ ダ ン ス ・ 球 技 な ど	職 業 上 必 要 な 知 識 ・ 技 能 に 関 する 習 得 や 資 格 の 取 得 な ど	職 業 上 必 要 な 知 識 ・ 技 能 に 関 する 習 得 や 資 格 の 取 得 な ど	パ ソ コ ン ・ イ ン タ ー ネ ッ ト に 関 する もの	家 庭 生 活 に 役 立 つ もの （ 料 理 ・ 洋 裁 ・ 和 裁 ・ 編 み 物 な ど ）	ポ ラ ン テ ィ ア 活 動 や そ の た め に 必 要 な 知 識 ・ 技 能 に 関 する もの	地 域 づ く り や 地 域 の 文 化 の 振 興 に 関 する もの	学 校 （ 専 修 ・ 各 種 学 校 ・ 大 学 ・ 大 学 院 な ど ） の 正 規 課 程 で の 学 習	そ の 他	（ こ の 1 年 間 ） し て い な い
県全体	29.8%	22.7%	16.3%	13.3%	12.1%	6.8%	5.7%	2.6%	1.3%	35.7%	
地域別											
地域1(北部)	32.8%	24.5%	16.5%	14.3%	11.4%	6.6%	4.6%	2.5%	1.0%	33.0%	
地域2(西部)	34.1%	26.8%	15.7%	14.3%	13.2%	9.4%	5.2%	3.1%	0.7%	34.5%	
地域3(中部)	26.9%	22.6%	16.8%	13.7%	12.3%	5.4%	6.3%	2.5%	1.7%	38.4%	
地域4(東部)	24.1%	17.1%	17.6%	7.9%	13.4%	6.5%	7.4%	4.2%	1.9%	39.4%	
地域5(南東部)	25.2%	17.8%	11.9%	11.9%	12.4%	7.9%	8.9%	1.5%	1.0%	38.0%	
地域6(南西部)	16.9%	7.9%	18.0%	6.7%	14.6%	10.1%	7.9%	1.1%	4.5%	44.9%	
性別											
男性	26.4%	23.2%	21.4%	18.8%	5.5%	6.9%	7.0%	2.4%	1.6%	34.9%	
女性	32.7%	22.2%	12.2%	8.8%	17.6%	6.7%	4.7%	2.8%	1.0%	36.5%	
年齢別											
20歳代	34.4%	21.4%	36.2%	19.2%	13.8%	5.4%	1.8%	25.9%	1.3%	23.7%	
30歳代	22.5%	23.8%	25.2%	12.6%	16.4%	3.0%	2.2%	0.8%	0.5%	37.5%	
40歳代	24.0%	17.9%	23.8%	14.5%	7.4%	4.8%	3.8%	0.2%	0.2%	42.1%	
50歳代	30.4%	22.5%	20.1%	13.6%	8.3%	7.7%	5.1%	1.0%	1.2%	38.1%	
60歳代	34.2%	28.0%	9.4%	15.4%	13.9%	10.2%	7.6%	0.3%	1.2%	32.4%	
70歳以上	31.1%	20.5%	4.5%	8.8%	13.3%	6.5%	8.8%	0.7%	2.4%	36.5%	

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。

太字は「その他」、「(この1年間)していない」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。「(この1年間)していない」人については「県全体」を超えるものを網掛け・白抜きとしている。

母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

## ■県全体

県全体では「趣味・教養的なもの（音楽、華道、書道、文学、歴史、語学、社会問題など）」（29.8%）が最も多く、次いで「健康・スポーツに関するもの（ジョギング、水泳、ヨガ、ダンス、球技など）」（22.7%）、「職業上必要な知識・技能に関するもの（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」（16.3%）、「パソコン・インターネットに関するもの」（13.3%）、「家庭生活に役立つもの（料理、洋裁、和裁、編み物など）」（12.1%）などとなっています。また、「（この1年間）していない」人は35.7%となっています。

「その他」の学習活動としては、「囲碁や将棋などの趣味や娯楽」、「園芸」、「公開講座」、「通信講座」などがありました。

## ■地域別

県全体の傾向と大差はありませんが、「地域6（南西部）」では「職業上必要な知識・技能に関するもの（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」が最も多くなっており、「地域5（南東部）」、「地域6（南西部）」では「家庭生活に役立つもの（料理、洋裁、和裁、編み物など）」が第3位となっています。また、「（この1年間）していない」人は「地域6（南西部）」で最も多くなっています。

## ■性別

県全体の傾向と大差はありませんが、「女性」では「家庭生活に役立つもの（料理、洋裁、和裁、編み物など）」が第3位となっています。

## ■年齢別

県全体の傾向と大差はありませんが、「20歳代」、「30歳代」では「職業上必要な知識・技能に関するもの（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」が最も多くなっています。また、「20歳代」では「学校（専修・各種学校・大学・大学院など）の正規課程での学習」が、「60歳代」では「パソコン・インターネットに関するもの」が、「70歳以上」では「家庭生活に役立つもの（料理、洋裁、和裁、編み物など）」が第3位となっています。

「（この1年間）していない」人は「40歳代」で最も多くなっています。

(2) 健康・スポーツに関する学習活動を行う人のニーズ

図表 健康・スポーツに関する学習活動を行う人のニーズ（設問間クロス／県全体）

項目番号	問30		問34 項目番号2
		県平均値	健康・スポーツに関するもの
5	運動やスポーツに親しめる時間があること	重要度	4.09
		満足度	3.39
		ニーズ得点	10.65
6	運動やスポーツに親しめる施設が身近にあること	重要度	3.98
		満足度	2.96
		ニーズ得点	12.07

(注) 上記図表は「健康・スポーツに関するもの（ジョギング、水泳、ヨガ、ダンス、球技など）」の学習活動を行った人が、時間や施設についてどの程度満足しているかを把握するために、問30の項目番号5および6とのクロス集計を行った結果である。

健康・スポーツに関する学習活動を行っている人について、運動やスポーツに親しめる時間や施設の重要度、満足度、ニーズ得点を見ると、県全体の平均値に比べて重要度、満足度は高く、ニーズ得点は低くなっています。

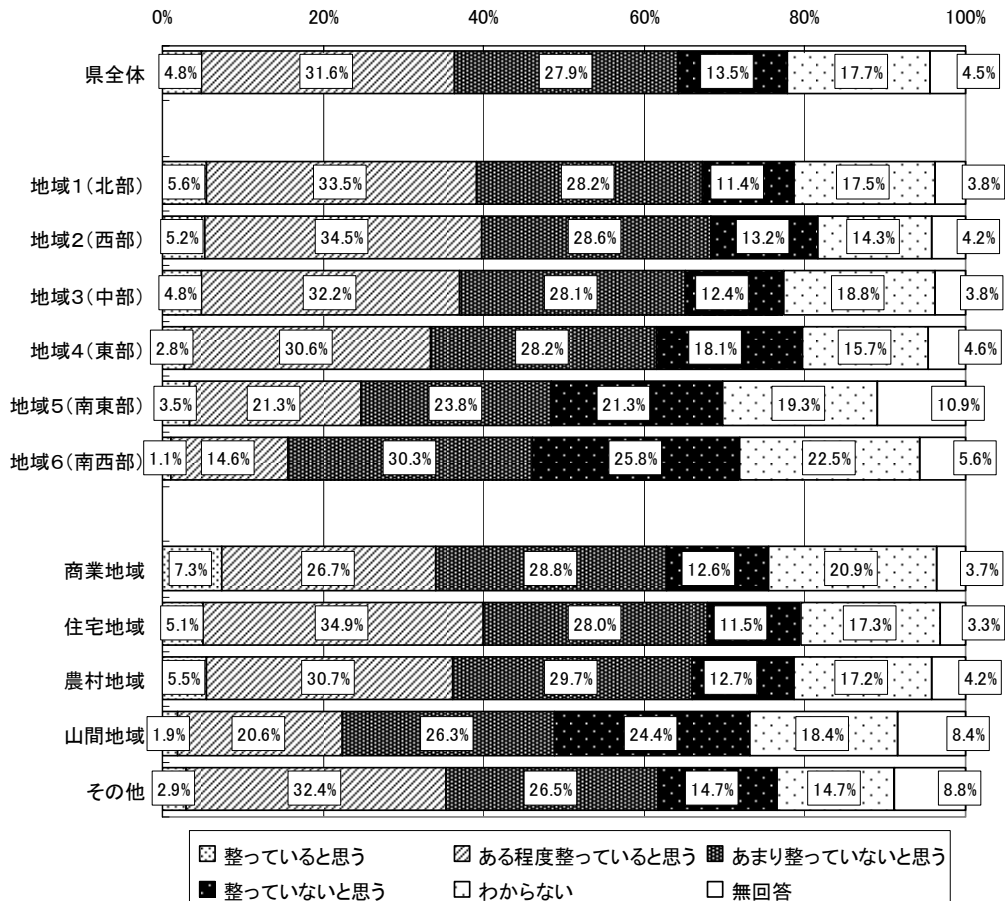
このことから、健康・スポーツに関する学習活動を行っている人は、運動やスポーツに親しめる時間や施設があることを重要と考えているだけでなく、そのような時間や施設にも満足していると考えられます。



## 5-2 学習環境の充実状況

### (1) 今年度調査結果

図表 学習環境の充実状況（単数回答／県全体、地域別、居住地域の状況別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

#### ■県全体

県全体では「整っている」（「整っていると思う」＋「ある程度整っていると思う」）が36.4%、「整っていない」（「あまり整っていないと思う」＋「整っていないと思う」）が41.4%で、「整っていない」と感じている人の方が多くなっています。

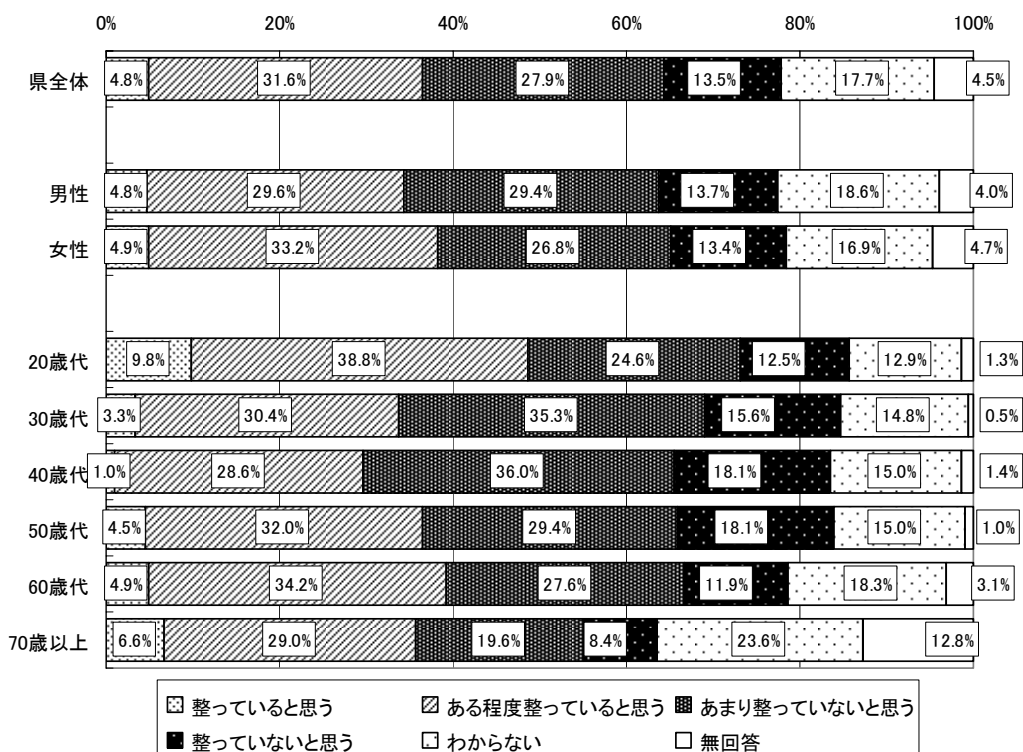
#### ■地域別

「地域1（北部）」（39.1%）、「地域2（西部）」（39.7%）、「地域3（中部）」（37.0%）では「整っている」と回答した人が県全体より多くなっていますが、「地域4（東部）」（33.4%）、「地域5（南東部）」（24.8%）、「地域6（南西部）」（15.7%）では県全体より少なく、特に「地域6（南西部）」は県全体の半分以下となっています。

#### ■居住地域の状況別

「整っている」と回答した人は「住宅地域」（40.0%）を除いて県全体より少なく、特に「山間地域」（22.5%）で少なくなっています。

図表 学習環境の充実状況（単数回答／県全体、性別、年齢別）



(注) 母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

■性別

県全体の傾向と大差はありませんが、「男性」(34.4%)より「女性」(38.1%)の方が「整っている」と回答した人が多くなっています。

■年齢別

「整っている」と回答した人は「20歳代」(48.6%)、「50歳代」(36.5%)、「60歳代」(39.1%)で県全体より多くなっていますが、その他の年齢層では少なく、特に「40歳代」(29.6%)で少なくなっています。

## (2) 学習活動による学習環境整備状況

図表 学習活動による学習環境整備状況（設問間クロス／県全体）

項目 番号	問34 学習活動の実施状況	問35 学習環境		
		計	整っている	整っていない
1	趣味・教養的なもの	783 100.0%	468 59.8%	315 40.2%
2	健康・スポーツに関するもの	588 100.0%	325 55.3%	263 44.7%
3	家庭生活に役立つもの	306 100.0%	171 55.9%	135 44.1%
4	職業上必要な知識・技能に関するもの	412 100.0%	210 51.0%	202 49.0%
5	パソコン・インターネットに関するもの	348 100.0%	173 49.7%	175 50.3%
6	ボランティア活動やそのために必要な知識・技能に関するもの	181 100.0%	108 59.7%	73 40.3%
7	地域づくりや地域の文化の振興に関するもの	150 100.0%	93 62.0%	57 38.0%
8	学校の正規課程での学習	69 100.0%	49 71.0%	20 29.0%
9	その他	29 100.0%	16 55.2%	13 44.8%
10	していない	665 100.0%	221 33.2%	444 66.8%
対象者数		2,218 100.0%	1,037 46.8%	1,181 53.2%

(注) 上記図表は学習活動による学習環境の整備状況を把握するために、問34と問35とのクロス集計を行った結果である。  
 なお、対象者数は問35で「整っている」（「整っていると思う」＋「ある程度整っていると思う」と「整っていない」（「あまり整っていないと思う」＋「整っていないと思う」）と回答した人数である。

学習活動を行っている人については、「パソコン・インターネットに関するもの」を除き、「整っている」が「整っていない」を上回っていますが、学習活動を行っていない人については、「整っていない」と回答した人が「整っている」と回答した人の2倍以上となっています。

このことから、学習環境の整備状況が学習活動を行うかどうかに影響を与えていると考えられます。

### 5-3 学習活動について行政に求めること

#### (1) 今年度調査結果

図表 学習活動について行政に求めること（複数回答／県全体、地域別、性別、年齢別、ライフステージ別）

	開催されている講座などに関する情報を収集し、提供する	多様な学習、講座などを多く開催し、学習の機会を増やす	開催してほしい講座や、開催場所など希望を把握するよう努める	生涯学習に関係する団体やグループ活動などを支援する	地域の中に指導者を養成する	生涯学習の重要性・必要性等の意識啓発を行う	学習成果の発表や表彰の機会をもつ	その他	
県全体	<b>47.4%</b>	<b>45.0%</b>	<b>32.0%</b>	22.2%	19.4%	19.2%	4.4%	4.3%	
地域別	地域1(北部)	<b>50.9%</b>	<b>46.0%</b>	<b>32.6%</b>	23.6%	18.4%	4.7%	4.0%	
	地域2(西部)	<b>48.1%</b>	<b>53.0%</b>	<b>30.0%</b>	22.6%	19.2%	2.1%	4.9%	
	地域3(中部)	<b>48.1%</b>	<b>47.0%</b>	<b>34.1%</b>	18.8%	16.8%	5.8%	4.9%	
	地域4(東部)	<b>42.1%</b>	<b>38.9%</b>	<b>31.0%</b>	24.5%	25.9%	4.2%	3.7%	
	地域5(南東部)	<b>33.7%</b>	<b>34.7%</b>	<b>27.2%</b>	24.8%	23.3%	24.8%	2.5%	4.0%
	地域6(南西部)	<b>30.3%</b>	<b>27.0%</b>	<b>23.6%</b>	14.6%	<b>30.3%</b>	<b>23.6%</b>	2.2%	4.5%
性別	男性	<b>48.8%</b>	<b>43.4%</b>	<b>30.7%</b>	24.0%	20.4%	21.5%	5.3%	5.1%
	女性	<b>46.4%</b>	<b>46.4%</b>	<b>33.1%</b>	<b>20.6%</b>	18.6%	17.2%	3.7%	3.7%
年齢別	20歳代	<b>54.9%</b>	<b>51.8%</b>	<b>37.9%</b>	21.0%	19.6%	13.4%	8.9%	3.6%
	30歳代	<b>60.5%</b>	<b>50.1%</b>	<b>39.5%</b>	18.4%	12.6%	14.8%	5.2%	4.4%
	40歳代	<b>49.0%</b>	<b>53.1%</b>	<b>35.5%</b>	16.9%	17.6%	13.1%	6.0%	6.9%
	50歳代	<b>55.4%</b>	<b>46.0%</b>	<b>33.9%</b>	25.4%	20.5%	23.3%	4.1%	3.4%
	60歳代	<b>50.1%</b>	<b>41.4%</b>	<b>31.4%</b>	26.7%	22.8%	21.1%	2.9%	3.5%
	70歳以上	<b>29.1%</b>	<b>37.9%</b>	<b>23.1%</b>	21.3%	20.0%	22.2%	3.3%	4.3%
ライフステージ別	若者	<b>54.3%</b>	<b>51.1%</b>	<b>37.6%</b>	21.3%	19.9%	13.6%	9.0%	3.6%
	夫婦	<b>56.1%</b>	<b>46.1%</b>	<b>36.4%</b>	24.6%	18.2%	20.4%	3.6%	4.6%
	育児期	<b>57.1%</b>	<b>48.5%</b>	<b>33.1%</b>	22.7%	16.0%	14.7%	5.5%	4.9%
	教育期前期	<b>49.0%</b>	<b>52.6%</b>	<b>35.5%</b>	18.8%	16.9%	14.7%	5.5%	5.0%
	教育期後期	<b>56.3%</b>	<b>46.2%</b>	<b>34.1%</b>	22.6%	22.6%	16.8%	4.3%	3.8%
	単身高齢者	20.0%	<b>28.2%</b>	<b>21.8%</b>	17.3%	<b>20.9%</b>	17.3%	2.7%	6.4%
	高齢者夫婦	<b>36.6%</b>	<b>42.6%</b>	<b>26.6%</b>	24.6%	17.9%	21.5%	4.1%	3.3%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、濃い網掛けおよび下線を付した数値は最多項目を、薄い網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

母数については4～7ページの「5 回答者の状況」参照。

## ■県全体

県全体では「開催されている講座などに関する情報を収集し、提供する」(47.4%)が最も多く、次いで「多様な学習、講座などを多く開催し、学習の機会を増やす」(45.0%)、「開催してほしい講座や、開催場所など希望を把握するよう努める」(32.0%)、「生涯学習に関係する団体やグループ活動などを支援する」(22.2%)、「地域の中に指導者を養成する」(19.4%)などとなっています。

「その他」の要望としては、「図書館などの施設の整備」、「公共交通の拡充や託児施設の設置、費用の補助などのサポート」、「開催曜日や時間などの配慮」、「開催場所や回数の拡充」などの意見がありました。

## ■地域別

県全体の傾向と大差はありませんが、「地域6（南西部）」では「地域の中に指導者を養成する」が同率1位となっています。

## ■性別

県全体の傾向と大差はなく、男女間にもほとんど差は見られませんでした。

## ■年齢別

上位3項目は県全体と同じですが、「40歳代」と「70歳以上」では第1位と第2位が逆転しています。

## ■ライフステージ別

県全体の傾向と大差はありませんが、「単身高齢者」では「地域の中に指導者を養成する」が第3位となっています。

## (2) 学習環境の整備状況による行政へのニーズ

図表 学習環境の整備状況による行政へのニーズ（設問間クロス／県全体）

項目 番号	問36 学習活動について行政に求めること	問35 学習環境		
		計	整っている	整っていない
1	多様な学習、講座などを多く開催し、学習の機会を増やす	1,122 50.6%	<b>493</b> 47.5%	<b>629</b> 53.3%
2	開催されている講座などに関する情報を収集し、提供する	1,155 52.1%	<b>520</b> 50.1%	<b>635</b> 53.8%
3	開催してほしい講座や、開催場所など希望を把握するよう努める	799 36.0%	<b>358</b> 34.5%	<b>441</b> 37.3%
4	生涯学習に関係する団体やグループ活動などを支援する	552 24.9%	277 26.7%	275 23.3%
5	地域の中に指導者を養成する	461 20.8%	213 20.5%	248 21.0%
6	学習成果の発表や表彰の機会をもうける	109 4.9%	73 7.0%	36 3.0%
7	生涯学習の重要性・必要性等の意識啓発を行う	461 20.8%	229 22.1%	232 19.6%
8	その他	92 4.1%	37 3.6%	55 4.7%
対象者数		2,218 100.0%	1,037 100.0%	1,181 100.0%

(注) 上記図表は学習環境の整備状況による行政への要望を把握するために、問35と問36とのクロス集計を行った結果である。太字は「その他」を除いた各区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。なお、対象者数は問35で「整っている」（「整っていると思う」＋「ある程度整っていると思う」と「整っていない」（「あまり整っていないと思う」＋「整っていないと思う」と回答した人数である。

学習環境の整備状況について「整っている」と回答した人と「整っていない」と回答した人の行政へのニーズ上位3項目は一致しており、多い順に「開催されている講座などに関する情報を収集し、提供する」、「多様な学習、講座などを多く開催し、学習の機会を増やす」、「開催してほしい講座や、開催場所など希望を把握するよう努める」となっています。

中でも、上位2項目は「整っている」と回答した人、「整っていない」と回答した人の両方でおおよそ50%の人が要望しており、特に重要な項目であるといえます。

資料 使用した調査票

---





## 県民アンケート調査 ご協力をお願い

日頃は、県政に対し、格別のご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

このたび、奈良県では、県民の皆さまが現在の暮らしをどのように感じておられるか、また、「買物やサービスの利用」や「健康づくり」「生涯にわたる学び」をテーマとして、それらについてどのような意識をお持ちかを把握し、今後の県政を進めていくうえでの大切な基礎資料とするため、アンケート調査を実施することといたしました。

このアンケート調査は、県内全市町村から5,000人の方を無作為に抽出し、実施するものです。

ご回答は無記名でお願いするとともに、ご回答いただいた内容は統計的に処理いたしますので、あなた個人のお名前やご意見が特定されることはありません。また、ご回答いただいた内容は、調査の目的以外には使用いたしません。

お忙しいところ、お手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成22年5月

奈良県知事 荒井 正吾



### ご回答にあたってのお願い

- 封筒の宛名のご本人がご回答くださいますようお願いいたします。
- それぞれの問で、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
- 「その他」に○印をつけられた場合には、( ) 内に内容をご記入ください。
- ご記入は、黒や青のボールペンまたは鉛筆ではっきりとわかりやすくお願いいたします。
- ご回答が済みましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒に調査票を入れて、平成22年6月9日(水)までにお近くの郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

本調査についてご不明な点などがございましたら、下記へお問い合わせください。

奈良県総務部知事公室統計課 企画分析係  
電話 0742-27-8439(直通) 担当：神殿、北森

## I. 皆さまの生活全般に関することについてお聞きします。

問1 あなたは、現在のご自身の暮らし向きをどのように感じていますか。あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| 1. 満足している    | 2. 十分とはいえないが一応満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. やや不満である           |
| 5. 不満である     |                      |

問2 あなたの現在の暮らし向きは、昨年の今頃に比べて楽になっていますか。それとも苦しくなっていますか。あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1. とても楽になった -----  | → 問4へお進みください |
| 2. 少し楽になった -----   |              |
| 3. 変わらない -----     |              |
| 4. 少し苦しくなった -----  | → 問3にお答えください |
| 5. とても苦しくなった ----- |              |

問3 問2で、「4. 少し苦しくなった」または「5. とても苦しくなった」に○をつけられた方にお聞きします。それはどのような理由からでしょうか。あてはまるものに5つまで○をつけてください。

- |                               |
|-------------------------------|
| 1. 給料や収益が増えない、または減少したから       |
| 2. 失業、退職、病気などで働き手が減ったから       |
| 3. 利率の低下などにより預貯金が目減りしたから      |
| 4. 家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから |
| 5. 結婚、出産、病気など特別な出費があったから      |
| 6. 教育にかかる費用が増えたから             |
| 7. 家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから     |
| 8. 税金や保険料の支払いが増えたから           |
| 9. 家業や商売などにかかる営業経費が増えたから      |
| 10. その他 ( )                   |

問4 あなたは、日頃の生活の中で悩みや不安を感じていますか。どちらかあてはまるものに○をつけてください。

- |                       |              |
|-----------------------|--------------|
| 1. 悩みや不安を感じている -----  | → 問5にお答えください |
| 2. 悩みや不安を感じていない ----- | → 問6へお進みください |

問5 問4で、「1. 悩みや不安を感じている」に○をつけられた方にお聞きします。それはどのようなことについてですか。あてはまるものに5つまで○をつけてください。

1. 自分の健康について
2. 家族の健康について
3. 自分の生活上（進学、就職、結婚など）の問題について
4. 家族の生活上（進学、就職、結婚など）の問題について
5. 現在の収入や資産について
6. 今後の収入や資産の見通しについて
7. 老後の生活設計について
8. 家族・親族間の人間関係について
9. 近隣・地域との関係について
10. 勤務先での仕事や人間関係について
11. 事業や家業の経営上の問題について
12. その他（ )

問6 あなたは、奈良県は全体的に見て住みやすい県だと思いますか。あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1. とても住みやすい  | 2. どちらかといえば住みやすい |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば住みにくい |
| 5. とても住みにくい  |                  |

問7 あなたは、将来も奈良県に住みたいと思いますか。あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- |                                 |            |
|---------------------------------|------------|
| 1. ずっと住みたい ----->               | 問9へお進みください |
| 2. 一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい -----> |            |
| 3. 住みたくない ----->                | 問8にお答えください |
| 4. わからない ----->                 |            |

問8 問7で、「3. 住みたくない」または「4. わからない」に○をつけられた方にお聞きします。  
そう思うのはどのような理由からでしょうか。あてはまるものに5つまで○をつけてください。

1. 買物など日常の生活環境が整っていないから
2. 奈良県や身近な地域に愛着を感じないから
3. 通勤・通学に不便だから
4. 家賃など住居費が高いから
5. 教育環境が充実していないから
6. 身近に文化やスポーツに親しめる場が少ないから
7. 災害を防ぐための対策が不十分だから
8. 治安を守るための対策が不十分だから
9. 医療が充実していないから
10. 福祉サービスが充実していないから
11. 騒音・振動・大気汚染など周辺環境がよくないから
12. 緑などの自然環境がよくないから
13. その他 ( )

## II. 皆さまの生活に関する重要度・満足度についてお聞きします。

問9-① 次の各項目は、あなたの今の、あるいは、これからの生活にとって、どのくらい重要なことですか。以下の1～31の各項目について、

「5 きわめて重要」 「4 かなり重要」 「3 どちらともいえない」

「2 さほど重要ではない」 「1 まったく重要ではない」

の5つの区分の中で、あなたのお気持ちに最も近いものにそれぞれ1つだけ○をつけてください。

問9-② 次に、各項目について、それぞれがどの程度満たされているかをお答えください。

問9-①と同様に、以下の1～31の各項目について、

「5 十分満たされている」 「4 かなり満たされている」 「3 どちらともいえない」

「2 あまり満たされていない」 「1 ほとんど満たされていない」

の5つの区分の中で、あなたのお気持ちに最も近いものにそれぞれ1つだけ○をつけてください。

以下に示す項目それぞれについて、  
「問9-① 重要度」から1つ、  
「問9-② 満足度」から1つ、  
あなたのお気持ちに最も近いものを選び、○をつけてください。

問9-① 重要度					問9-② 満足度				
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
きわめて重要	かなり重要	どちらともいえない	さほど重要ではない	まったく重要ではない	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない

【記入例】 ○○について	5	4	3	2	1	5	④	3	2	1
1 品揃えの豊富な店が近くにあること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2 電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3 休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4 平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5 小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6 高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7 子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8 文化遺産や史跡が大事にされること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
9 生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
10 公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
11 地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

以下に示す項目それぞれについて、  
「問9-① 重要度」から1つ、  
「問9-② 満足度」から1つ、  
あなたのお気持ちに最も近いものを選び、○をつけてください。

問9-① 重要度					問9-② 満足度				
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
きわめて重要	かなり重要	どちらともいえない	さほど重要ではない	まったく重要ではない	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない

12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
27	一人ひとりが普段の生活においてCO <sub>2</sub> 削減に取り組むこと	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
29	失業の不安がなく働けること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
30	県内で買いたいものが販売されていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1



問15 あなたは、過去1年間に通信販売（店舗販売ではなく、通信手段により注文を受けて販売するものを利用したことがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |                   |        |                 |
|-------------------|--------|-----------------|
| 1. 通信販売をよく利用する    | -----> | 問16、問17にお答えください |
| 2. 通信販売を時々利用する    | -----> |                 |
| 3. 通信販売を利用したことがない | -----> | 問18へお進みください     |

問16 問15で、「1. 通信販売をよく利用する」または「2. 通信販売を時々利用する」に○をつけられた方にお聞きします。利用された通信販売の種類は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1. インターネットのオンラインショッピング | 2. カタログ                |
| 3. 新聞や雑誌の広告・折り込みチラシ    | 4. テレビショッピング・ラジオショッピング |
| 5. ダイレクトメール            | 6. その他（ ）              |

問17 問15で、「1. 通信販売をよく利用する」または「2. 通信販売を時々利用する」に○をつけられた方にお聞きします。どのような商品を購入されましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1. 食料品（生鮮食品）      | 2. 食料品（生鮮食品以外）     |
| 3. 日用雑貨品（台所用品等）   | 4. 衣料品（外出着・おしゃれ着）  |
| 5. 衣料品（普段着・下着・肌着） | 6. 服飾雑貨品（靴・かばん等）   |
| 7. 医薬品・化粧品        | 8. 家電製品（パソコン・テレビ等） |
| 9. 家具・インテリア       | 10. スポーツ・レジャー用品    |
| 11. 本・ビデオ・CD・DVD  | 12. 贈答品            |

問18 あなたは、通信販売についてどのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものに3つまで○をつけてください。

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1. どこに住んでいても、自分の希望商品を手に入れる        |
| 2. 買い物にでかける時間や手間が省ける              |
| 3. 24時間いつでも購入注文ができる               |
| 4. ポイントや割引など特典がある                 |
| 5. 商品の値段など比較購入しやすい                |
| 6. 商品を直接見たり、触れたりして確かめられない         |
| 7. 注文通りの商品が届くか不安である               |
| 8. 商品の代金以外に送料がかかる                 |
| 9. いろいろな商品を見て歩く楽しみがない             |
| 10. 通信販売を利用しなくても、必要なものは購入することができる |
| 11. わからない                         |



問19 あなたは、過去1年間に奈良県産の農畜産物（野菜、果物、肉類等）を購入しましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 奈良県産の農畜産物をよく購入する ----->	問20にお答えください
2. 奈良県産の農畜産物を購入したことがある ----->	
3. 奈良県産の農畜産物を購入したことがない ----->	問21へお進みください
4. 意識しないので、わからない ----->	

問20 問19で、「1. 奈良県産の農畜産物をよく購入する」または「2. 奈良県産の農畜産物を購入したことがある」に○をつけられた方にお聞きします。あなたが、過去1年間に奈良県産の農畜産物の購入先として最もよく利用したのはどこですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 一般小売店	2. 総合・食品スーパー	3. 百貨店
4. 道の駅	5. 農産物直売所	6. 通信販売
7. その他 ( )		

問21-① あなたは、奈良県産の農畜産物の中でブランド化がすすめられている「大和牛」「ヤマトポーク」「大和肉鶏」「大和野菜」を知っていますか。それぞれの食材について、(知らない、知っている)のどちらかあてはまるものに○をつけてください。

問21-② 次に、「知っている」に○をつけられた方にお聞きします。それぞれの食材を食べたことがありますか。それぞれあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

	問 21-①		問 21-②	
	知らない	知っている	1 食べたことがある	2 食べたことがない
			1. 大和牛	1
2. ヤマトポーク	1	2	1	2
3. 大和肉鶏	1	2	1	2
4. 大和野菜※	1	2	1	2

※「大和野菜」とは、奈良県の特産品として特徴をアピールできる大和の伝統野菜と大和のこだわり野菜です。

大和まな、千筋みずな、宇陀金ごぼう、ひもとうがらし、軟白ずいき、大和いも、祝だいこん、結崎ネブカ、小しょうが、花みょうが、大和きくな、紫とうがらし、黄金まくわ、片平あかね、大和三尺きゅうり、大和丸なす、下北春まな、大和ふとねぎ、香りごぼう、半白きゅうり、大和寒熟ほうれん草、朝取り野菜（レタス、なす、きゅうり、スイートコーン）

問22 あなたは、親せきや友人、知人等をもてなすために観光・レクリエーションに出かける場合、どこに行きますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |         |             |       |
|---------|-------------|-------|
| 1. 奈良市内 | 2. 奈良市を除く県内 | 3. 県外 |
|---------|-------------|-------|

問23 問22で選んだ場所へ、どのような観光・レクリエーションを目的として出かけますか。あてはまるものに4つまで○をつけてください。

- |                          |                |
|--------------------------|----------------|
| 1. 歴史や文化財に触れる（寺社、世界遺産など） | 2. イベント・祭り     |
| 3. 美しい景色や風情のある景観         | 4. 飲食          |
| 5. 温泉                    | 6. ドライブ        |
| 7. 美術館・博物館等              | 8. 遊園地         |
| 9. 都会見物                  | 10. 演劇、コンサート鑑賞 |
| 11. スポーツ観戦               | 12. ショッピング     |
| 13. 四季折々の花見              | 14. 山歩き、ハイキング  |
| 15. その他（                 | ）              |

問24 奈良県への来訪者に対し、どのようなおもてなしをすることが大切だと思いますか。あてはまるものに2つまで○をつけてください。

- |                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1. 笑顔であいさつする                   |   |
| 2. 困っている方に進んで声をかける             |   |
| 3. 飲食店・交通機関など来訪者に接する人のマナーをよくする |   |
| 4. 地域の歴史や魅力について、情報を提供する        |   |
| 5. 花を植えたり、清掃活動をするなど、きれいな街にする   |   |
| 6. 現地ガイド・インストラクターなどを充実する       |   |
| 7. その他（                        | ） |

問25 あなたが、奈良県の観光・レクリエーションに足りないと感じるものは何ですか。あてはまるものに4つまで○をつけてください。

- |                     |                         |   |
|---------------------|-------------------------|---|
| 1. 宿泊施設の充実          | 2. おいしい食べ物              |   |
| 3. 夜遅くまで営業している飲食店   | 4. みやげ物                 |   |
| 5. 観光ルート・プランの提案     | 6. 公共交通機関の充実            |   |
| 7. 十分な駐車場の確保        | 8. 道路網の整備               |   |
| 9. 観光案内板等の充実        | 10. トイレや休憩所の整備          |   |
| 11. 観光地や宿泊施設などの案内所  | 12. テレビやマスコミを使った観光資源のPR |   |
| 13. 高齢者・障害者・外国人への対応 | 14. その他（                | ） |

#### IV. 皆さまの健康づくりを推進するためにお聞きします。

問26 あなたの現在の健康状態はどうでしょうか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 非常に健康だと思う | 2. 健康なほうだと思う |
| 3. あまり健康ではない | 4. 健康ではない    |
| 5. わからない     |              |

問27 あなたは健康のため、過去1年以上継続して30分以上の運動を週1～2日以上行っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |               |        |             |
|---------------|--------|-------------|
| 1. 週2日以上行っている | -----> | 問28にお答えください |
| 2. 週1日は行っている  | -----  |             |
| 3. 行っていない     | -----> | 問29へお進みください |

問28 問27で、「1. 週2日以上行っている」または「2. 週1日は行っている」に○をつけられた方にお聞きします。この中にあなたが行っている運動はありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |                              |
|------------------------------|
| 1. ウォーキング（ハイキング、散歩、通勤時の徒歩など） |
| 2. ランニング（ジョギング）              |
| 3. 体操（ラジオ体操、ヨガ、エアロビクスなど）     |
| 4. 水泳                        |
| 5. サイクリング                    |
| 6. 室内運動器具を使ってする運動            |
| 7. ゴルフ（練習を含む）                |
| 8. ダンス（社交ダンス、フォークダンスなど）      |
| 9. 球技（テニス、野球、サッカー、バレーボールなど）  |
| 10. ゲートボール、グラウンドゴルフ          |
| 11. その他（ )                   |

問29 問27で、「3. 行っていない」に○をつけられた方にお聞きします。それはどのような理由からでしょうか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 仕事が忙しくて時間がないから   | 2. 家事が忙しくて時間がないから     |
| 3. 育児や介護があるから       | 4. 費用がかかるから           |
| 5. 一緒に運動する仲間がないから   | 6. 身近なところに施設や場所がないから  |
| 7. きっかけがつかめないから     | 8. 運動が好きではないから        |
| 9. めんどうだから          | 10. 十分健康であり、特に必要がないから |
| 11. 病弱あるいは体力的に無理だから | 12. 特に理由はない           |

問30-① 次の各項目は、あなたの健康づくりや病気の予防にとって、どのくらい重要なことですか。  
以下の1～10の各項目について、  
「5 きわめて重要」 「4 かなり重要」 「3 どちらともいえない」  
「2 さほど重要ではない」 「1 まったく重要ではない」  
の5つの区分の中で、あなたのお気持ちに最も近いものにそれぞれ1つだけ○をつけてください。

問30-② 次に、各項目について、それぞれがどの程度満たされているかをお答えください。  
問30-①と同様に、以下の1～10の各項目について、  
「5 十分満たされている」 「4 かなり満たされている」 「3 どちらともいえない」  
「2 あまり満たされていない」 「1 ほとんど満たされていない」  
の5つの区分の中で、あなたのお気持ちに最も近いものにそれぞれ1つだけ○をつけてください。

以下に示す項目それぞれについて、  
「問30-① 重要度」から1つ、  
「問30-② 満足度」から1つ、  
あなたのお気持ちに最も近いものを選び、○をつけてください。

	問30-① 重要度					問30-② 満足度				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	5 きわめて重要	4 かなり重要	3 どちらともいえない	2 さほど重要ではない	1 まったく重要ではない	5 十分満たされている	4 かなり満たされている	3 どちらともいえない	2 あまり満たされていない	1 ほとんど満たされていない

1	健康づくりや病気の予防に関する相談窓口が充実していること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2	健康づくりや病気の予防に関する情報がいつでも入手できること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3	食事が規則正しくとれること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4	栄養バランス等に配慮した食事がとれること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5	運動やスポーツに親しめる時間があること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6	運動やスポーツに親しめる施設が身近にあること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7	駅や飲食店など人が集まる場所で禁煙や完全分煙が実施されていること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8	十分な睡眠時間や休養がとれること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
9	悩みやストレスを軽減、解消できる相談相手や趣味などがあること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
10	「いきがい」や「生活のはり」があると感じられること	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

問31 あなたは、過去1年間に内科的な健康診断やがん検診を受診しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください（医療機関で検査する場合を含みます。）。

1. 内科的な健康診断（血液検査、尿検査を含むもの）
2. 胃がん検診（バリウム検査など）
3. 肺がん検診（胸のレントゲン撮影など）
4. 大腸がん検診（便潜血反応検査(検便)など）
5. 子宮がん検診（細胞診検査など）
6. 乳がん検診（触診やマンモグラフィ撮影など）
7. その他（）
8. 受診していない -----> 問32にお答えください
9. わからない

問32 問31で、「8. 受診していない」に○をつけられた方にお聞きします。それはどのような理由からでしょうか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

1. 健康診断やがん検診があることを知らなかったから
2. まだ健康診断やがん検診を受ける年齢ではないから
3. 健康なので必要はないと思うから
4. 心配なときはいつでも医療機関を受診できるから
5. 検査に伴う苦痛などがいやだから
6. 結果が不安なため受けたくないから
7. 費用がかかるから
8. 時間的な余裕がないから
9. めんどうだから
10. 特に理由はない

問33 もしあなたご自身やあなたのご家族が、高齢や病気、障害等で日常生活を送るうえで支援が必要となったとき、困るのはどのようなことですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

1. 収入減などによる生活費のこと
2. 医療や介護などの費用のこと
3. 介護や面倒をみってくれる家族がないこと
4. 家族の世話・介護ができなくなること
5. 家族に肉体的・精神的負担をかけること
6. 買い物や通院などが困難になること
7. 住みなれた自宅で生活できなくなること
8. 住まいの設備・構造が適していないこと
9. 地域の医療や福祉施設・設備が充実していないこと
10. 近所とのつきあいがあまりないため、近所から支援してもらえないこと
11. わからない

V. 皆さまが生涯学び続けることができる地域社会をつくるためにお聞きします。

問34 あなたは、この1年間にご自身から進んで行う学習活動をしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 趣味・教養的なもの（音楽、華道、書道、文学、歴史、語学、社会問題など）
2. 健康・スポーツに関するもの（ジョギング、水泳、ヨガ、ダンス、球技など）
3. 家庭生活に役立つもの（料理、洋裁、和裁、編み物など）
4. 職業上必要な知識・技能に関するもの（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）
5. パソコン・インターネットに関するもの
6. ボランティア活動やそのために必要な知識・技能に関するもの
7. 地域づくりや地域の文化の振興に関するもの
8. 学校（専修・各種学校・大学・大学院など）の正規課程での学習
9. その他（ )
10. （この1年間）していない

問35 あなたは現在、ご自身から進んで学習活動を行う場合、学習環境（学習場所や学習に関する情報など）は整っていると思いますか。あなたのお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

1. 整っていると思う
2. ある程度整っていると思う
3. あまり整っていないと思う
4. 整っていないと思う
5. わからない

問36 あなたが、ご自身で学習活動を行うためには行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

1. 多様な学習、講座などを多く開催し、学習の機会を増やす
2. 開催されている講座などに関する情報を収集し、提供する
3. 開催してほしい講座や、開催場所など希望を把握するよう努める
4. 生涯学習に関係する団体やグループ活動などを支援する
5. 地域の中に指導者を養成する
6. 学習成果の発表や表彰の機会をもうける
7. 生涯学習の重要性・必要性等の意識啓発を行う
8. その他（ )

## VI. 最後に、あなたご自身のことやご家族のことについてお聞きします。

これまでお聞きしたこととあわせて、統計としてまとめるために必要な項目ですので、ぜひお答えいただきますようお願いいたします。

問37 あなたの性別に○をつけてください。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問38 あなたは何歳ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |           |            |           |           |
|-----------|------------|-----------|-----------|
| 1. 20～24歳 | 2. 25～29歳  | 3. 30～34歳 | 4. 35～39歳 |
| 5. 40～44歳 | 6. 45～49歳  | 7. 50～54歳 | 8. 55～59歳 |
| 9. 60～64歳 | 10. 65～69歳 | 11. 70歳以上 |           |

問39 あなたはご結婚されていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |       |       |          |
|-------|-------|----------|
| 1. 未婚 | 2. 既婚 | 3. 離婚・死別 |
|-------|-------|----------|

問40 あなたがお住まいの市町村はどこですか。( ) 内に市町村名をご記入ください。

( ) 市・町・村

問41 あなたがお住まいの地域を次のように分けるとどれに近いですか。最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |            |         |
|------------|---------|
| 1. 商業地域    | 2. 住宅地域 |
| 3. 農村地域    | 4. 山間地域 |
| 5. その他 ( ) |         |

問42 あなたの世帯構成はどれにあたりますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1. 単身 (あなた1人)   | 2. 夫婦のみ          |
| 3. 2世代家族 (親子家庭) | 4. 3世代家族 (親子孫家庭) |
| 5. その他 ( )      |                  |

問43 あなたに就学前あるいは就学している子どもさんがいらっしゃる場合、子どもさんの成長段階についてあてはまるものすべてに○をつけてください。

- |         |                      |
|---------|----------------------|
| 1. 3歳以下 | 2. 4歳以上で小学校入学前       |
| 3. 小学生  | 4. 中学生               |
| 5. 高校生  | 6. 専門学校生・短大生・大学生（院生） |
| 7. その他（ | ）                    |

問44 あなたのご職業は何ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |  |   |
|--|---|
| 1. 農林漁業の自営業・家族従業員                          |   |
| 2. 商工・サービス業の自営業・家族従業員（卸売業・飲食業・製造加工業・建設業など） |   |
| 3. その他自営業（開業医・弁護士・宗教家・芸術家・茶華道師匠など）         |   |
| 4. 企業などの役員                                 |   |
| 5. 正規の職員・従業員                               |   |
| 6. 契約社員・嘱託                                 |   |
| 7. 派遣社員                                    |   |
| 8. パート・アルバイト（学生を除く）                        |   |
| 9. 家事専業・家事手伝い                              |   |
| 10. 無職                                     |   |
| 11. 学生                                     |   |
| 12. その他（                                   | ） |

問45 問44で、1～8に○をつけられた方にお聞きします。あなたの働いておられる場所はどこですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |               |             |       |
|---------------|-------------|-------|
| 1. 現在お住まいの市町村 | 2. 県内の他の市町村 | 3. 県外 |
|---------------|-------------|-------|

問46 あなたは、パソコンや携帯電話などで、日常、仕事・私的利用を問わずホームページ（Web（ウェブ））の閲覧や電子メール送受信など、インターネットを利用しますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |                |              |
|----------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日利用している  | 2. たまに利用している |
| 3. ほとんど利用していない | 4. 全く利用していない |

**質問は以上で終わりです。**

お忙しいところ、ご協力いただき、ありがとうございました。

ご回答が済みましたら、この調査票を同封の返信用封筒に入れて、平成22年6月9日（水）までにお近くの郵便ポストに投函していただきますようよろしくお願ひします（切手は不要です）。



---

---

平成22年度  
県民アンケート調査  
報告書

平成22年11月

奈良県総務部知事公室統計課  
〒630-8501 奈良市登大路町30番地  
電話 0742-27-8439

---

---



